令和4年度

学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

公表用

西九州大学
短期大学部
NISHIKYUSHU UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

目　次

1.　「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて　…　1

2.　実施方法/令和４年度学生による授業評価アンケートの調査用紙等　…　2

3.　授業担当教員による授業評価アンケート結果の考察　…　6

4. 学生による授業評価アンケート調査結果報告（学科別集計結果）　…　200

5. 令和 4 年度 授業評価アンケートに関する自己評価報告書　…　214

6.　分析に基づく検証評価・改善について　…　217

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて

全ての授業は、学生の実態やニーズを踏まえた質の高いものでなければならない。「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みの目的は、各授業に対する受講学生の意見や要望、自己評価等の情報を収集することで、集約したデータを各々の教員が分析を行い、指導方法の工夫・改善に具体的に生かすということである。
本学における「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みは、平成 13 年度より実施されている。

また、平成 21 年度からは、西九州大学と同一内容の授業評価アンケート調査を実施し、大学との教育内容の共有を図りながら授業の質の向上を目指してきた。

平成 29 年度からは相互授業参観がスタートしたが、平成 31 年度に各教科の専門性のみならず、汎用的な授業力を振り返る質問項目や、大学教育に求められている「深い学習」「深い理解」「深い関与」に着目したディープ・アクティブラーニング的な授業を展開するための質問項目を加える等、評価内容を改善した。

本年度も、学生による授業改善のための授業評価を実施し考察を行った。以下、学内用報告書としてとりまとめる。なお、報告書の公表においては、授業担当者を伏せてとりまとめる。

分析、考察と合わせ、本学の授業改善に生かされることを期待する。

令和5年度　西九州大学短期大学部 FD 委員会

令和４年７月

授業担当教員　各位

西九州大学短期大学部ＦＤ委員会
委員長　　武富　和美

学生による授業改善のためのアンケートの実施について

平素より本学ＦＤ活動につきまして、先生方におかれましては、多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度も学生による授業改善のためのアンケートを実施いたします。前期につきましては、下記のとおり実施したいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

なお、ＷＥＢアンケートの質問項目には、先生方が自由に質問できる項目を設けております。質問したい事項（４段階評価で集計されます。）があれば実施日までにご検討ください。特になければ、ご検討いただく必要はございません。

また、本アンケート実施結果については、集計後、各先生方へ周知するとともに学生も閲覧（自由記述除く）できるよう本学図書館でも公開し、授業評価実施報告書作成のため集計結果の分析と次年度に向けての取り組みについて報告書作成のご依頼をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願いいたします。取りまとめた報告書は、学内外に公表いたします。

記

１．アンケート項目　：　別紙「学期末調査　評価項目」参照

２．授業評価実施期間：　**令和４年７月１１日（月）～令和４年７月２８日（木）**
令和５年１月１２日（木）～令和５年１月２５日（水）

３．授業評価実施方法：　別紙「学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について」参照
※学生ポータルサイトでの Web 調査になりますが、**回答率向上のため、授業時間内に実施**をお願いいたします。
なお、学生には掲示板及び学生ポータルサイトで回答要領を周知します。

４．授業評価対象科目 ：　前期開講の全科目（通年開講科目を除く）

以上

令和４年７月

（学生用）

令和4年度
学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について
【西九州大学短期大学部】

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。学生の皆さんは、今年度前期に履修している科目で、担当教員から指示された科目の授業評価をしてください。授業評価は全て学生ポータルサイト上での回答となります。

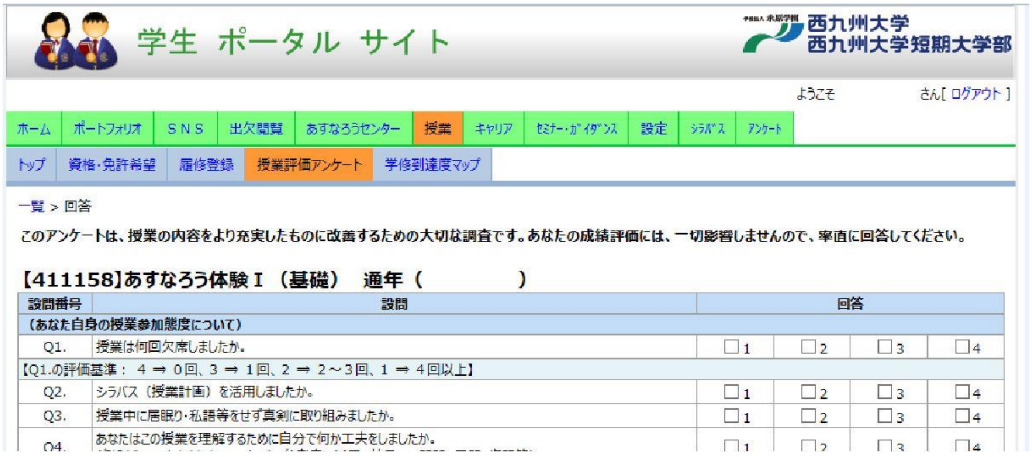
≪操作手順≫

1．学生ポータルサイトを利用しますので、各自のログイン ID とパスワードを準備しておいてください。忘れた場合は、事前に学生支援課窓口に問い合わせてください。

2．学生ポータルサイト上の**〈授業〉⇒〈授業評価アンケート〉**にある履修科目の**［回答する］**ボタン（※1）を押すと授業評価シートがでてきます。

③「回答する」ボタンを押すことにより、「授業評価アンケート」が表示されます。

3．授業評価シートの質問 1～18 は共通です。 該当番号のチェックと自由記入をしてください。
質問 19～25 は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。



※履修中の科目全てが表示されますが、担当教員から指示された科目のみ回答してください。

④「授業評価アンケート」回答終了後、「登録」してください。

4．回答終了後は、授業評価シートの下にある**［登録］**ボタンを押すことで提出となります。
※授業評価回答は、回答期間中であれば、変更して再提出することが可能です（「登録」ボタンを押すことにより更新されます。）。

前期回答期間：令和4年7月11日（金）～令和4年7月28日（水）
後期回答期間：令和5年1月12日（水）～令和5年1月25日（火）

授業評価アンケート（学期末調査）　評価項目

（学生ポータルサイトでの質問項目）

（あなた自身の授業参加態度について）

□Q1.　授業は何回欠席しましたか。

【Q1 の評価基準：４⇒０回、３⇒1 回、２⇒2～3 回、１⇒4 回以上】

□Q2.　シラバス（授業計画）を活用しましたか。

□Q3.　授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。

□Q4.　あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
（例えば、ノートをまとめる。テキスト・参考書の活用。教員への質問。予習・復習等）

【Q2～4 の評価基準：４⇒そう思う、３⇒だいたいそう思う、２⇒あまりそう思わない、１⇒そう思わない】

□Q5.　あなた自身の総合自己評価

【Q5 の評価基準：４⇒良い、３⇒やや良い、２⇒やや悪い、１⇒悪い】

（授業内容・方法について）

□Q6.　シラバス（授業計画）について説明がありましたか。

□Q7.　教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。

□Q8.　授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。

□Q9.　授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。

□Q10.　視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。

□Q11.　教科書・配布資料等は役に立ちましたか。

□Q12.　声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。

□Q13.　授業の進む速さは適切でしたか。

【Q6～13 の評価基準：４⇒十分、３⇒だいたい十分、２⇒やや不十分、１⇒不十分】

（教員の対応について）

□Q14.　学生の質問等に誠実に対応しましたか。

□Q15.　公平に学生に対応しましたか。

□Q16.　教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。（コメントを付したレポートの返却、学生からの質問を授業で取り上げるなど）

□Q17.　教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。

【Q14～17 の評価基準：４⇒そう思う、３⇒だいたいそう思う、２⇒あまりそう思わない、１⇒そう思わない】

（総合評価）

□Q18.　この授業を総合評価してください。

【Q18 の評価基準：４⇒良い、３⇒やや良い、２⇒やや悪い、１⇒悪い】

（教員による自由項目）※授業担当教員からの指示に従ってください。（指示があれば記入すること。）

□Q19.

□Q20.

□Q21

□Q22

□Q23

□Q24

□Q25

【Q19～25 の評価基準：４⇒良い、３⇒やや良い、２⇒やや悪い、１⇒悪い】

（自由記述）

令和５年４月

教員各位

西九州大学短期大学部ＦＤ委員会

令和３年度「学生による授業評価アンケート」集計結果の分析及び評価の報告について

本学では、例年、学生による授業評価アンケートを実施しており、コンピュータによる統計処理後の集計表を実施された各先生方に返却し、その結果をもとに分析・検討及び評価を行い各授業に反映してきました。

この度、各教員の分析・検討および評価などの内容について、教員間で共有するとともに、学生および対外的に公表するため、教員のコメントを掲載した報告書を作成することにいたしました。

つきましては、下記の要領にて報告書冊子原稿のコメント文の提出をお願いいたします。

１．分析及び評価の対象：令和４年度に実施した授業評価結果

２．報告書の内容：学部名、学科名、科目担当者名、科目名、履修者数及び以下の（１）～（３）

（１）学生による授業評価結果
- ＷＥＢ（ポータルサイト）入力画面に自動表示されます。

（２）結果の分析と評価（300～500 字程度）
- 学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
- 特に低（高）い項目についての考察
- 自由記述についての分析と評価
- 本授業の目標、ねらいと照らし合わせた分析と評価
- 授業全般に対する反省点
- 回答率が低かった理由　　など

（３）次年度に向けての取り組み（300～500 字程度）
- （１）の授業評価結果で特に低かった項目に対する改善方法
- （２）の授業全般の反省点に対する取り組み方法
- 令和４年度に新たに導入したいと思っている授業方法　など
- 授業評価そのものに対する意見を含んでも可

３．報告科目数

授業評価結果がある全科目（※オムニバス開講など複数教員で担当する科目は代表１名の報告で可）

４．提出方法

ＷＥＢ（ポータルサイト）で提出

５．提出期限　　令和５年７月２１日（金）

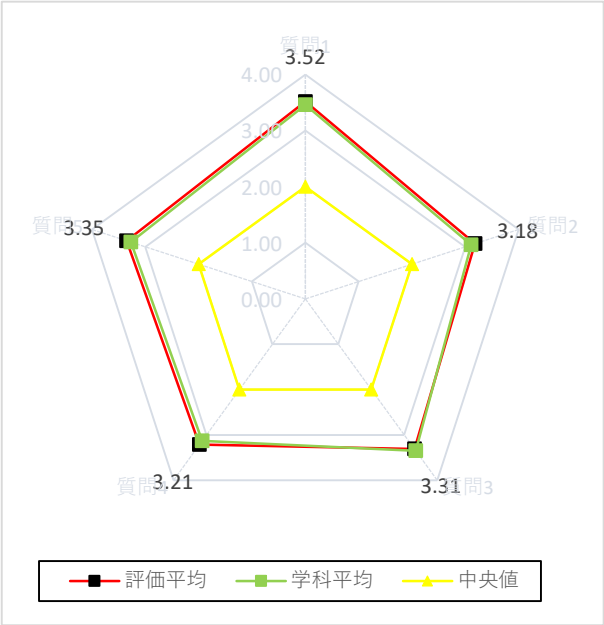
６．その他　　ＷＥＢマニュアル及び参考資料（授業評価アンケート評価項目、学科別平均値）は、以下の共通フォルダに格納しています。

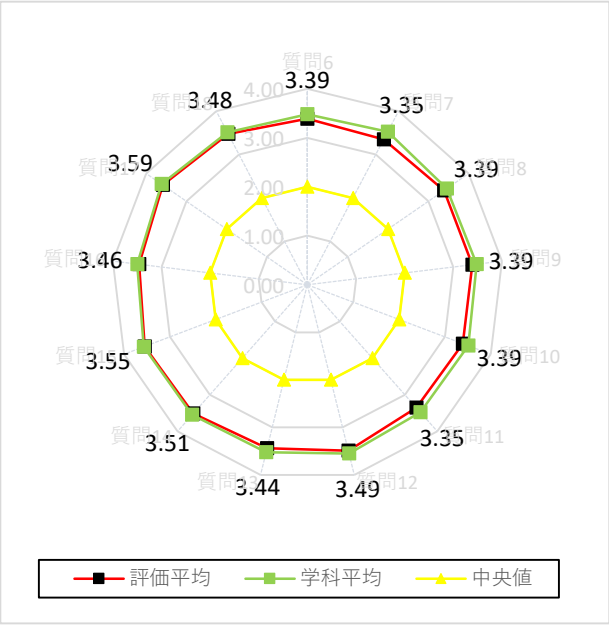
全学教職員（¥¥nobita（x:））　⇒　●●●【短大部】授業評価に関する報告書●●●
⇒　報告書様式＆記入マニュアル等

授業担当教員による授業評価
アンケート結果の考察

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう（大学生活のデザイン）	75名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

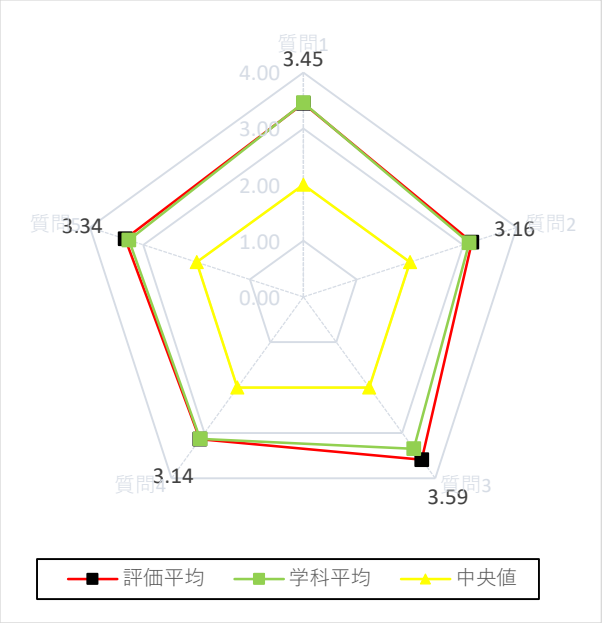
概ね平均的な結果となった。本授業では本学における学び方や社会人基礎力のベースとなる技能を諸活動によって体験的に学んでいる。１・２年生が合同で行う縦割り授業となっている。２年生が中心となり授業を進める場面もあり、適切なスピードで関心が持てる内容であった。

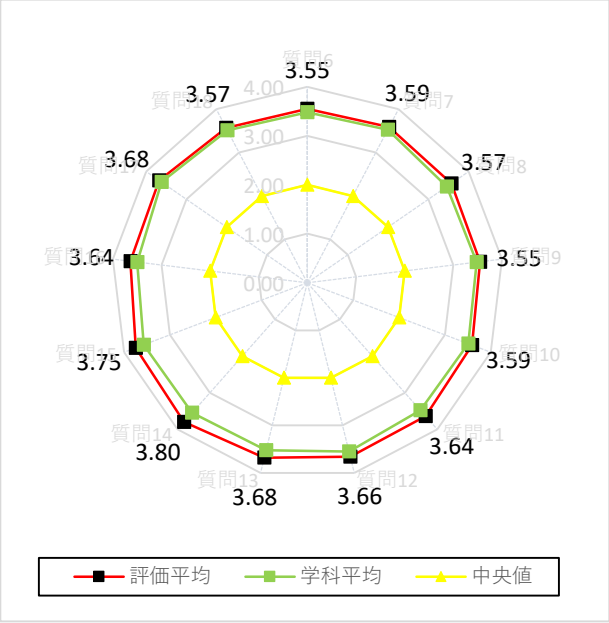
（３）次年度に向けての取り組み

１・２年生が合同で行う数少ない授業の一つであるため、コース内の交流を深め、双方にとって充実した授業となるよう、継続して工夫を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう（大学生活のデザイン）	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生自身の評価としては、ほとんどが学科平均値をわずかに上回っており、特に質問３「真剣に取り組んだか」、については「十分」と答えた学生が多かった。この科目は講義形式のみならず、グループワークなども取り入れているため、より主体的に学べた実感があることが伺える。

教員への評価としても、概ね平均値と同等か上回っていることがわかる。

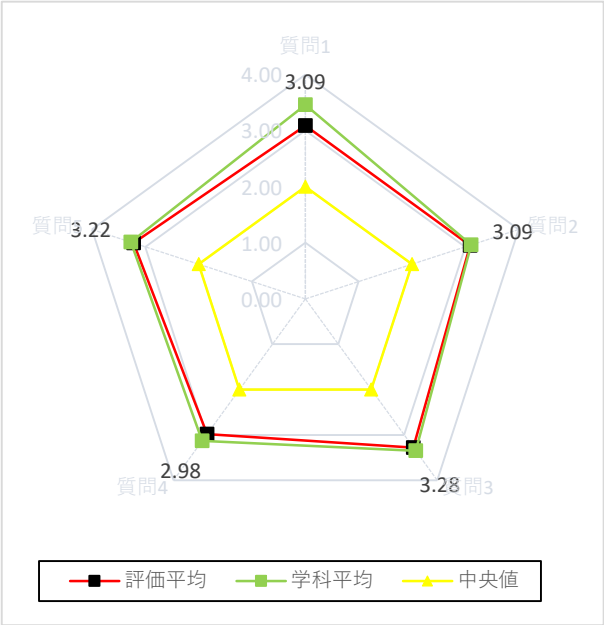
ただ、この科目は様々な形態が特徴でもあると同時に、大勢でかかわる授業であるだけに、適切なタイミングで適切なグループワークができているかどうかが、心配されていた。自由記述欄にはほとんど記入がなかったが、模擬面接の回に関して、実施のタイミングに検討を要望するものが見られ、学生の声が拾うことができてよかったと感じている。

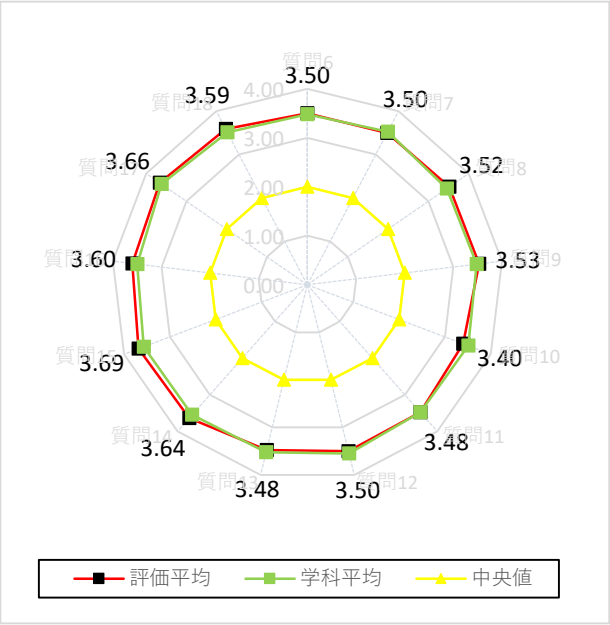
（３）次年度に向けての取り組み

模擬面接については、現在１２月に実施しており、就職が決まった２年生が面接官役を担い、１年生が受験者としてロールプレイングする。１年生の声として「まだ就職先も考えていないのに、想像で考えて練習をするのはあまりためにならない」というものがあり、そのあたりについては了承を得たつもりではあったが、納得させられていなかったことがわかる。学生自身が「ためになる」と思ってくれるような仕組みを考える必要があるので、来年度については、後期の最初に再度学科に問題提起し、当該担当者と検討していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう（大学生活とキャリア）	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生自身の評価としては、概ね学科平均値と同等であるが、質問１「出席状況」、質問４「工夫したこと」においては、若干下回っていることがわかる。

対して、教員に対する評価としては、ほぼ学科平均値と同等である。この科目はオムニバス形式であり、講義やグループワークなどがバランスよく配置されているため、学生の満足度としては平均的だったようである。

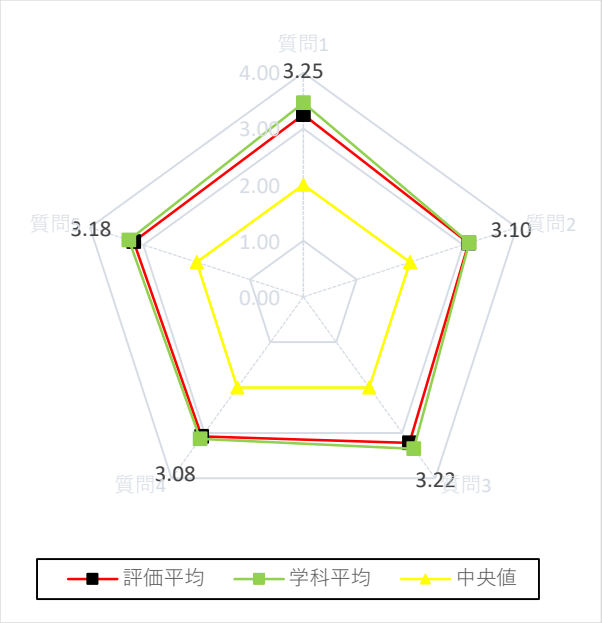
（３）次年度に向けての取り組み

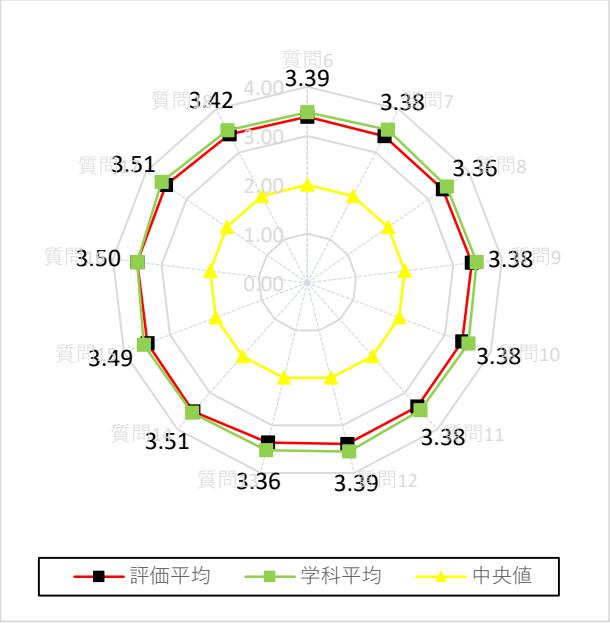
学生の自由記述によると、学年を越えたグループワークから学ぶことも多いようだった。この縦割り学習は本学科の特徴として今後も続け、内容を精査していきたいと考えている。

反省としては、年度冒頭に通年の計画を立てたとしても、様々な形態が混在していたり、他との兼ね合いもあることから、やむを得ず途中で度々の変更が生じることである。その時々の最善を尽くしているつもりではあるが、最初に年間を通した体系的な計画を立て、学生に示す必要性も感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう（大学生活とキャリア）	78名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

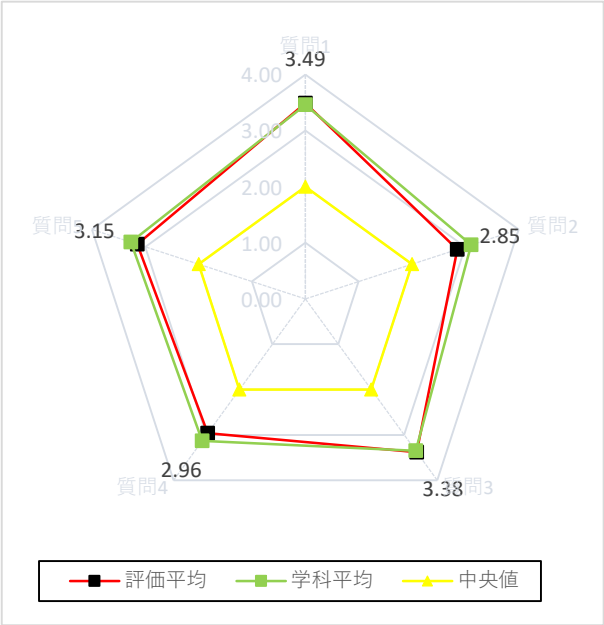
この科目は、「共に学ぶあすなろう（キャリア）Ⅱ」から改編されたものであり、今年から始まっている。授業計画は、改編前の計画とほぼ同じであったが、授業評価は昨年度と比較して低くなっていた。何が原因となっているのか、恐らくは地域生活支援の実践的な課外活動等をこの授業で取り扱ってきたことについて、学生の理解が進んでいないことが考えられる。このことは、学生自身の自己評価が比較的低い傾向からうかがい知れる。

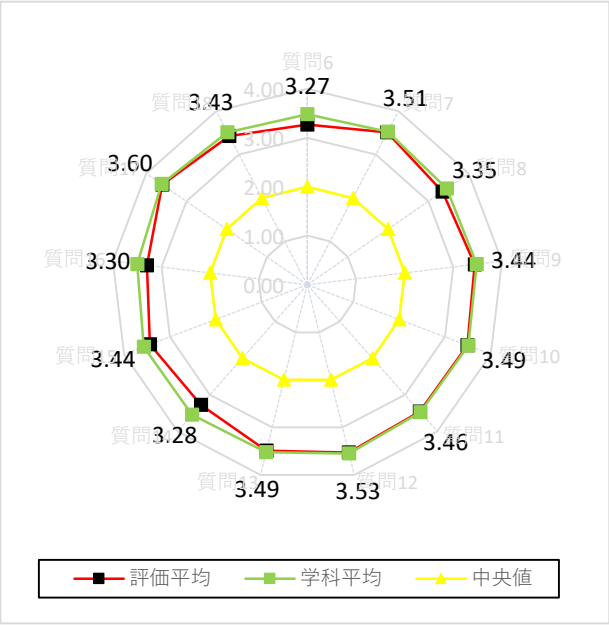
（３）次年度に向けての取り組み

学習内容や計画について、学生の理解の徹底を図り、細やかな対応をしていく必要がある。授業計画は、通年の１単位の計画によって、学習が断続的（オムニバス的）な計画となっていることから、この点を十分に学生に理解する機会を設けて、学習意欲の喚起につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGｓ入門	155名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

評価としてはやや共通教育科目の平均値を下回る結果となった。本科目はオンデマンドでの実施であり、オリエンテーションで細やかな説明をおこなったつもりであったが、学生一人ひとりの理解の把握、質問への対応については課題が残る結果となった。

特に留学生への対応については担当教員で検討を重ねたが、自由記述からは学生によるオンデマンド資料の理解の差、毎週出される課題への対応など、一部の学生にとっては負担が大きくなっていたことがうかがえた。

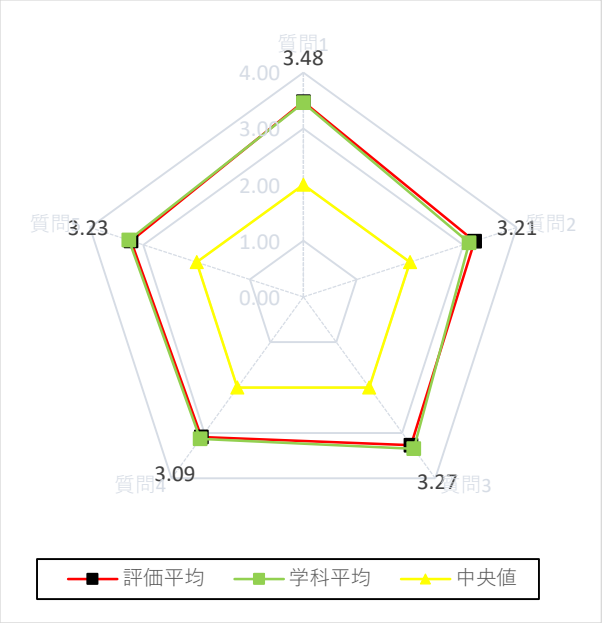
その他自由記述からは、一部厳しい意見もみられたが、SDGsへの理解、学びの機会になったとの声が多く、概ね授業内容は学生に伝わったものと評価する。

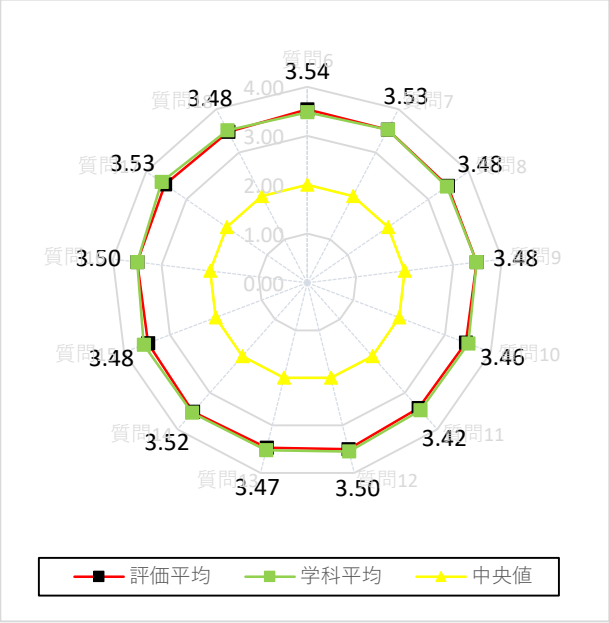
（３）次年度に向けての取り組み

次年度もオムニバスによるオンデマンド事業を実施する。今年度は課題未提出者への対応が課題となった。そのため、次年度は課題提出のチェック体制を強化し、提出状況を担当者間で共有できる工夫を検討したい。また、今年度の反省を踏まえ、担当者間で事前の打ち合わせを丁寧に行い、次年度に繋げていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		SDGｓの実践	144名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

本科目は2学科共通科目である。その為、授業評価者は多数で、評価得点について一定度の信頼性はあると思われる。その前提で授業評価を分析すると、すべての項目について全体平均とさほど変わらない。また、多くの項目で3.5以上のスコアとなっており、高得点で推移していることから授業としての満足度は高いと考えられる。

自由記述を見るとレポート提出後の教員からのレスポンスの悪さを指摘する回答があった。留学生も多く受講しておりPCを通したやり取りについてはもう少し検討する必要があると思われた。

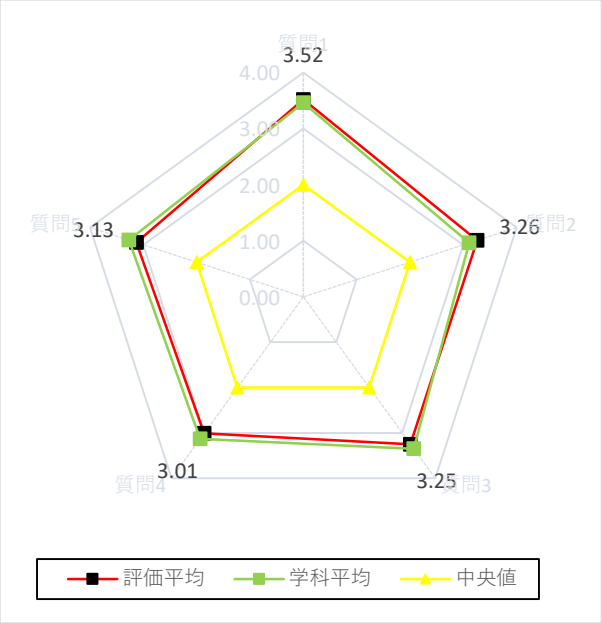
一方で、「資料を見ながらゆっくりと講義を受けることができた」「分からないことがあると自身で調べた」「世界中の情報を見聞きすることができよかった」「グループ発表が楽しかった」という意見があった。このことから、オンライン授業であるにも関わらず積極的に受講している様子がうかがえた。

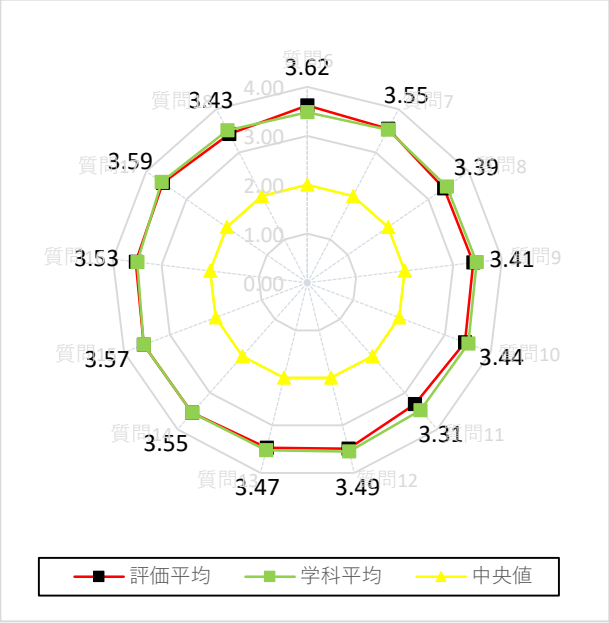
（３）次年度に向けての取り組み

昨年度まで、留学生をすべてのグループに分散するといったグループ編成を試したが、なかなかスムーズなコミュニケーションにつながらなかった。そこで今回は留学生グループにファシリテートできる日本人学生を配置することにより、グループ内のコミュニケーションを促進することができた。このことを踏まえ、次年度も同様のグループ編成を基本とした上で、グループ間の交流についても検討していくことでより深いグループワークとスムーズな情報交換を促進していきたい。
また、学生の中にはこの講義を通してSDGsの実践に取り組んだという声も多かった為、次年度にはもう少し演習的な内容を組み込んでみるのもよいのではと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		データサイエンスの基礎	145名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

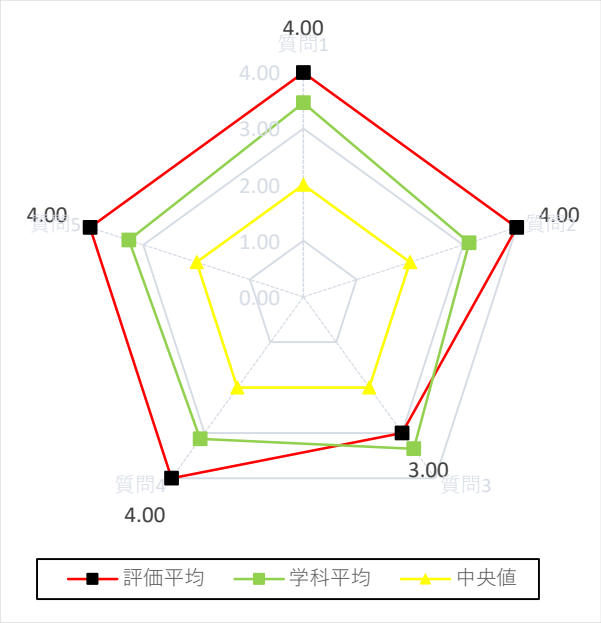
この科目は、昨年度からの科目であり、各専門分野の先生方にオムニバス形式で講義を実施頂いた。また外部からも講師をお招きし、講義を実施頂いた。
高評価としては、質問2、質問6などが挙げらえる。
これらの項目は、「シラバスの活用」に関わる項目である。この科目はオムニバスで講義を実施しているため、次の講義予定をシラバスで確認していることが、高評価につながったと考える。
低評価としては、質問4、質問11などが挙げられる。
この科目は、すべての講義をオンラインで実施したため、対面の講義と比較して緊張感がないため、授業中の居眠り等が増加したことが考えられる。質問11については、オンラインでの配布資料が講義終了後に実施するなど、学生が資料を見たいときに提示できなかったなどの要因が考えられる。
このような状況は、昨年度と同様であり、今後改善が必要と考える。

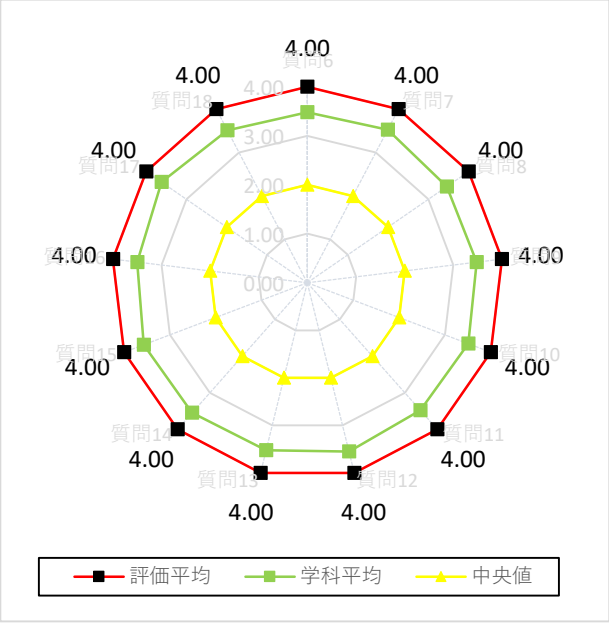
（３）次年度に向けての取り組み

この科目は、来年度も同様の形態で実施する予定である。
それを踏まえ、学生に演習をやってもらうような工夫をすることで、講義中の緊張感を維持できるようにやっていきたい。
また、資料の提示についても可能な限り早めにアップロードですることを心がけたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう体験	2名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

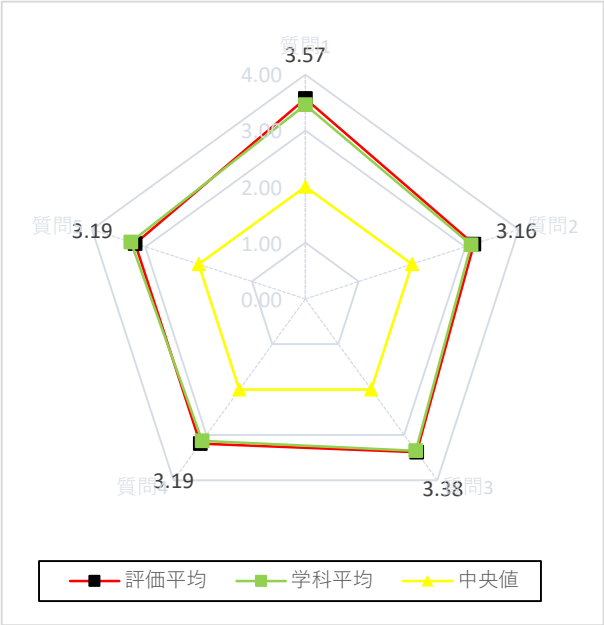
幼児保育学科学生３名（男子学生１名・女子学生２名）が希望した。どのような活動をしていくのか学生主体で話し合わせた結果、自然体験を主体とした活動に決まった。具体的な活動内容として、身近な河川である嘉瀬川に住む魚類について調べ、実際に釣り体験につなぐというものであった。男子学生は玄海町に実家があるために、これまで海釣りの体験があり釣りの道具については彼が全て準備してくれた。ただし３名共に川釣りについての知識や体験がなかったため、佐賀市内にある釣具店にアドバイスを受けに行った。その後、嘉瀬川沿いで実際に釣りをしている人たちの様子を自転車を使って見学に行くなど前準備を行った後に、数回釣りに出掛けたが、思うように魚は釣れず、場所やえさの変更等を行っていた。幼児保育において、自然体験は子どもたちにとって不可欠なものである。幼児に関わる学生が、釣りを通して正規の授業の中では体験できない自然体験を、選択授業を通して仲間と共に行ったことは意義深いものであったと捉えている。「質問3：授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」の回答結果はフリートーク（私語）を大事にしたためである。

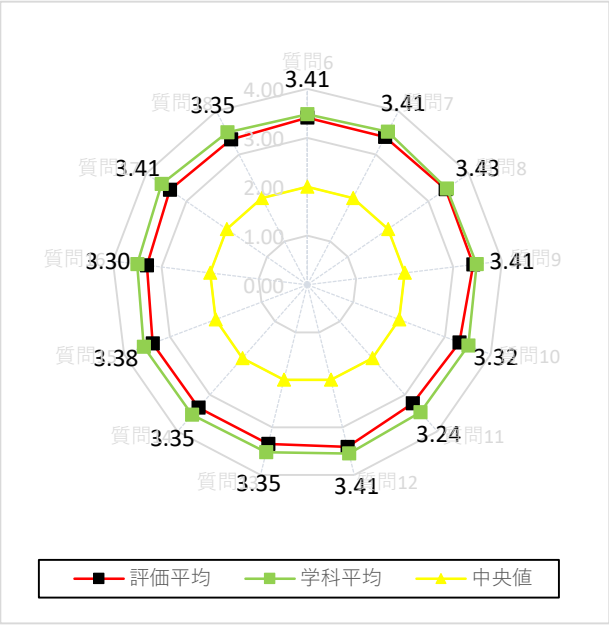
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が多様な人々との関わりながら、学生が自分を見つめ直し、体験を卒業後どう生かすかを考える機会にする。多種多様なプログラムに参加し、体験・交流をとおして、自分の特性や課題を理解しつつ将来のキャリアに生かすことを目的としている。希望者があれば、学生主体の活動にするために希望者の興味・関心があることを尊重しながら内容を検討した上で、サポートしていきたい。活動の流れは次の通りである。①事前指導（各種体験に向けた事前調査活動、目標の設定、求められるマナーなどについて学ぶ）⇒　②以下の活動の中から選択する（■インターンシップ体験【夏休み期間中に3日間、企業や教育・保育現場でインターンシップを行う】■歴史・自然・芸術体験【補講など授業のない土日に実施】■歴史体験【例：吉野ヶ里歴史公園で歴史を学んだり、勾玉作りなどを体験したりする】■自然体験【例：21世紀県民の森を散策したり、クラフト体験をしたりする】■芸術体験【例：志田焼の里博物館で焼き物について学んだり、絵付け体験をしたりする】⇒③事後指導（各種体験の振り返り目標の達成度の確認、ミニ・レポートの作成）⇒体験報告

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		心理学入門	48名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

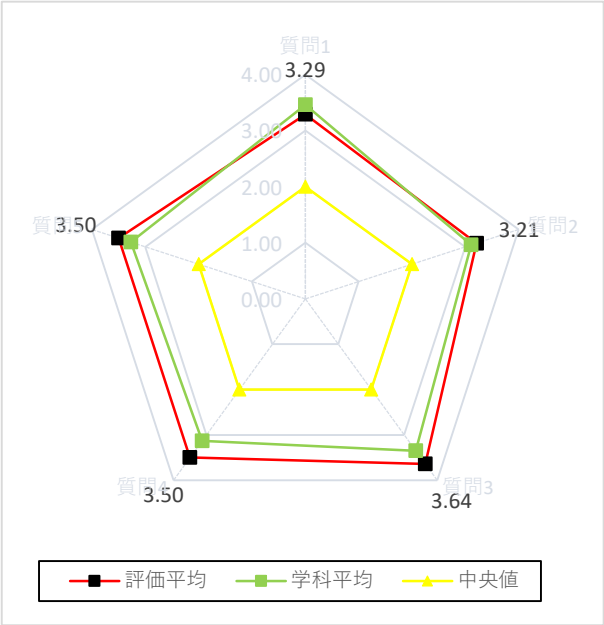
・学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
全体的な評価は低くなっている。授業の資料を準備して、映像配信も行っている。また数回にわたる課題についてはすべての学生に還元している。しかし、この結果となったことは、映像の質が悪い、あるいはオンデマンドだからという理由が考えられる。自身の他の科目については学科平均を上回っている為に、おそらくオンデマンドが影響しているのではないかと思われる。また、自由記述はなく、回答率も高い（37/48（77%））為、やはりオンデマンドが影響したものと思われる。

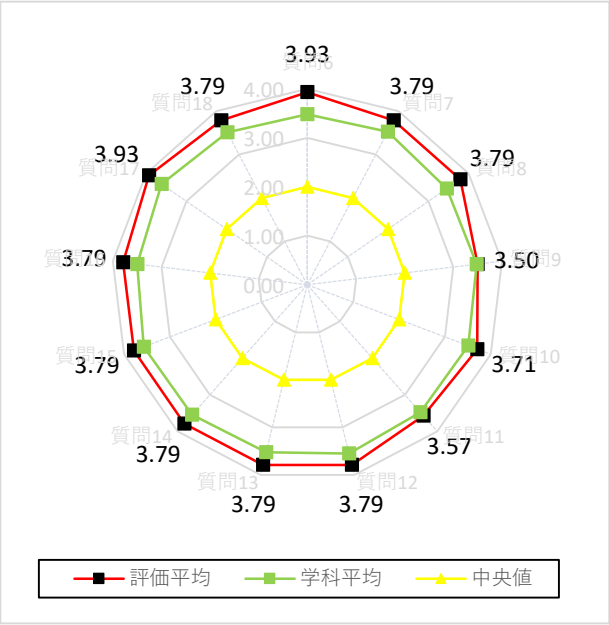
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けてオンデマンドでも充実するような映像。双方向的なやり取りをしている大学教員がいると聞いている。Web等の資料等も用いながら学生が集中して受講できるような工夫をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		異文化理解	17名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

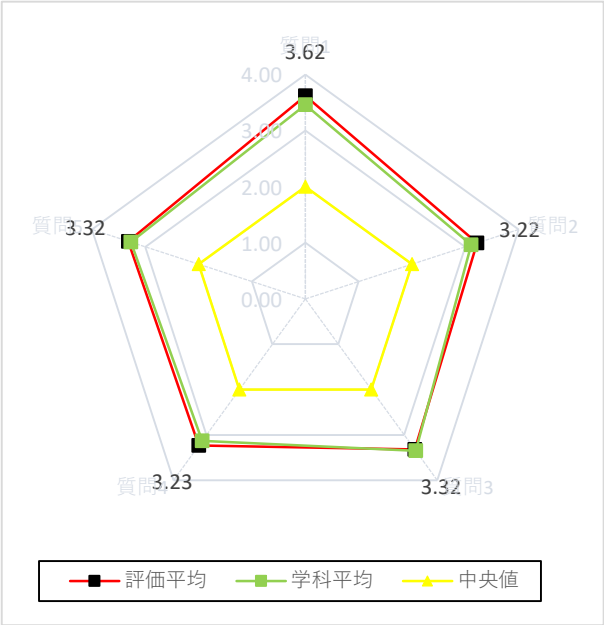
昨年度の結果を踏まえて、授業ではペア学習からグループ学習に切り替え、ファシリテーターとしての働きかけの強化改善を図った。自由記述からは、「異文化理解について国際文化習慣の違いを友達を通してグループ分けして学ぶことができ、課題を提出するたびに先生がフィードバックしてくれた内容も詳しく理解できました。先生から教えていただいたことをこれからも守っていきたいと思います。」や、「オンライン授業だったので、直接対面して日本人や留学生同士で、またクラス関係なく関わることができ、意見が言いあえてもっといいと思った。」といった好評を多く得た。一方では、「課題が難しい」やグループワークで意見を出し合うために、事前に課題を示してほしい（次回資料は、授業の前に配付はしている）といった記述もあった。

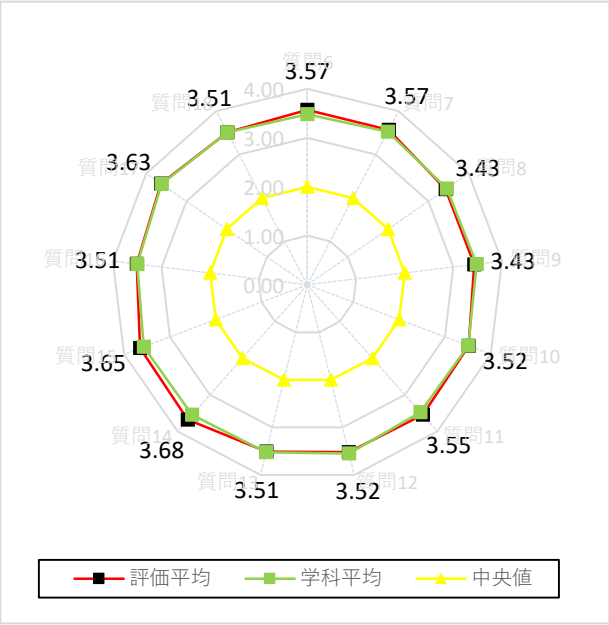
（３）次年度に向けての取り組み

学習内容は、各回に関連するものの、基本的にはオムニバス形式をとっている。各回の授業の際には、次回のテーマについて触れて、予習を進めるように勧奨していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		英会話Ⅰ	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

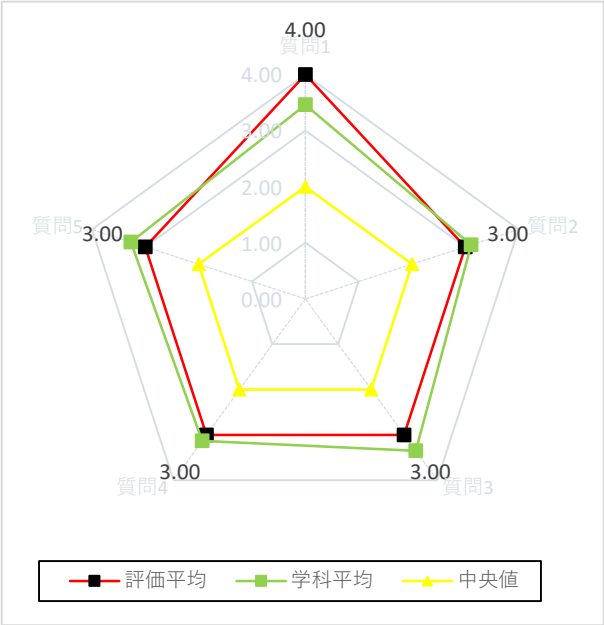
概ね平均的な結果となっている。本授業ではテキストを用いて基礎を学び、毎回ペアワークを実施して英語でのコミュニケーション能力の向上に努めている。受講生は熱心に授業に取り組んでおり、適切なスピードで授業を進めることができた。

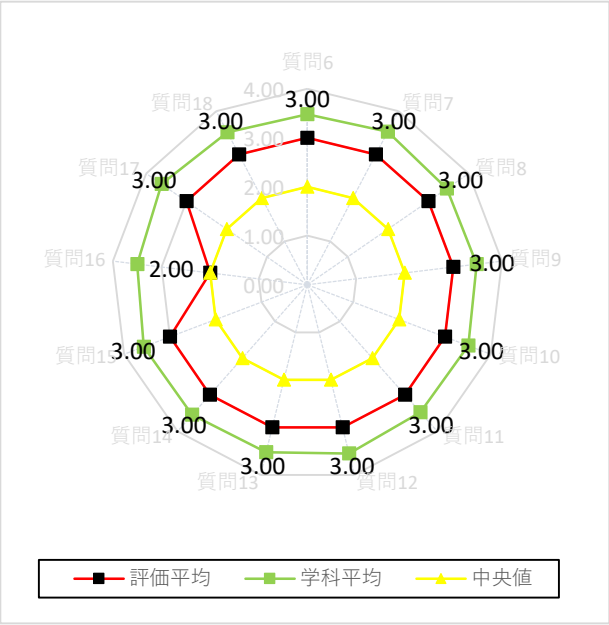
（３）次年度に向けての取り組み

英語に対して苦手意識を持っている学生が増えているように感じるため、英語を覚えないといけないというのではなく、単語を組み合わせてコミュニケーションを図ることの面白さに気付かせるような工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会学	2名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

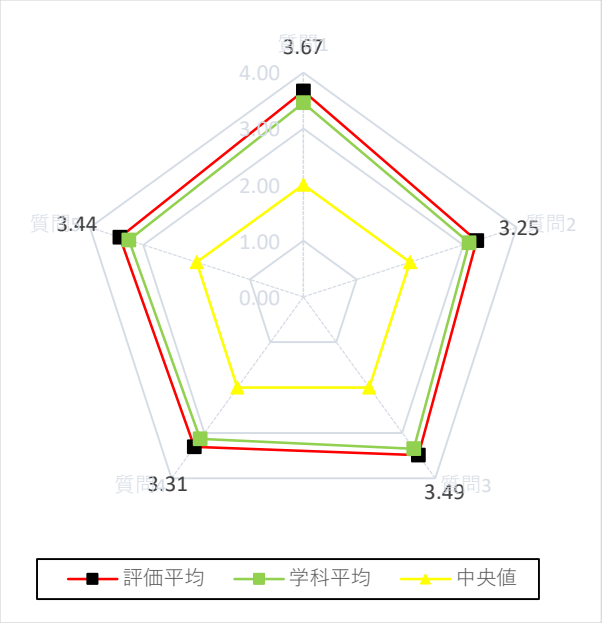
2022年度の本授業は受講者が少ない中実施したため、授業の進め方や方法を変更して実施した。グループディスカッションを取り入れることができず、アウトプットの機会が少なくなってしまった。効果的な学びを促進するために、開講の在り方を検討する必要がある。

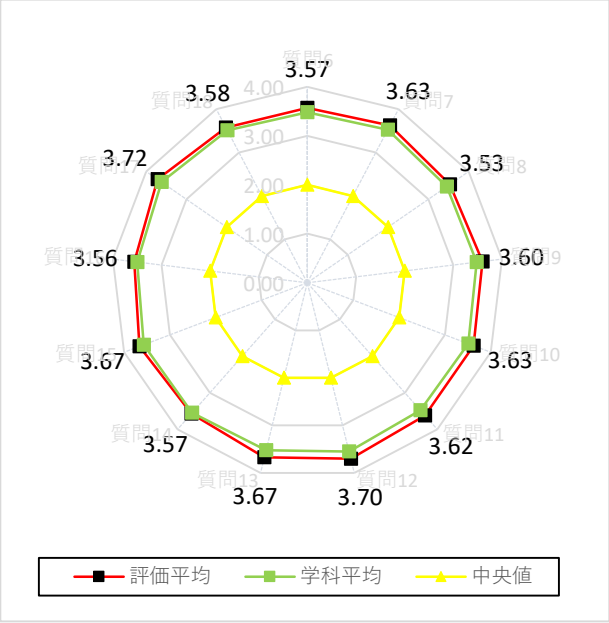
（３）次年度に向けての取り組み

使用するテキストは難易度が高いが、繰り返し読むことで、学びの深化に繋がると考えられる。課題としてテキストの理解を深め、発表を組み込んだ授業としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ理論	114名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

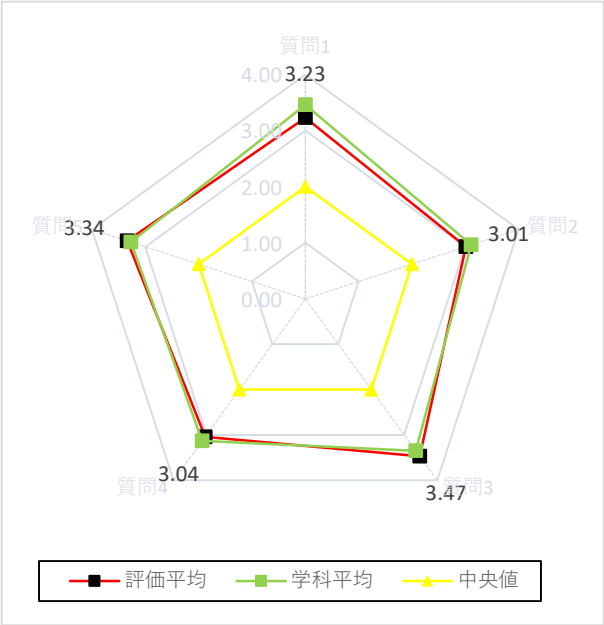
全体的に平均よりも高い評価を得ることができた。この科目は、幼児保育学科と地域生活支援学科が隔週で行う授業のため、初回授業で各学科の授業日を設定し、学生が迷わないように配慮した。授業内容においても、パワーポイントを使用し、文字ばかりにならないよう図、写真、動画などを活用しながら、スライドを作成し部分が評価されたと考えられる。しかしながら、留学生に対して、ほとんどがオンラインでの対応で対面とオンラインのハイブリット型での授業は難しさも感じた。

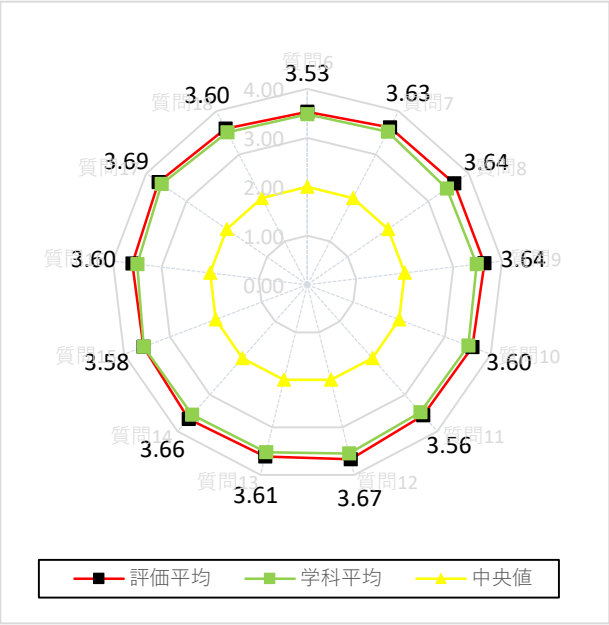
（３）次年度に向けての取り組み

授業で使用するスライドもより分かりやすさを求め、工夫していきたい。また、教員の一方通行の授業にならないよう配慮しながら授業を展開していき、授業をとおして学生たちに運動やスポーツに興味・関心を持ってもらい、日常生活の中に少しでも取り入れようとするきっかけになるよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	124名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

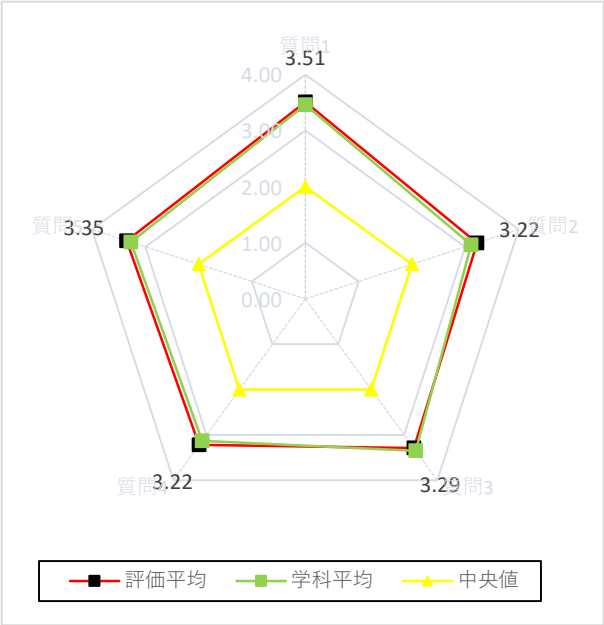
全体的に平均値をやや上回る結果となった。この授業はスポーツ種目をとおした実技であり、学生が主体的に取り組めるように授業を展開してきたが、その部分が評価されたのではないかと考えられる。様々なスポーツに関わる中で、結果だけにこだわらず、多様なかかわり方がある中で、学生がスポーツに対して前向きに取り組め、スポーツの意義を実感してもらえるように可能な範囲で私自身も学生と共に実戦することを心掛けている。しかしながら、質問４は平均を下回り、学生自身が授業に対する工夫がみられていない結果となった。ただ授業を受けているだけになっており、教員自身が学生に対して、実施種目に対する事前準備や授業に向けての準備を意識させることができていなかったことが要因と考えられる。

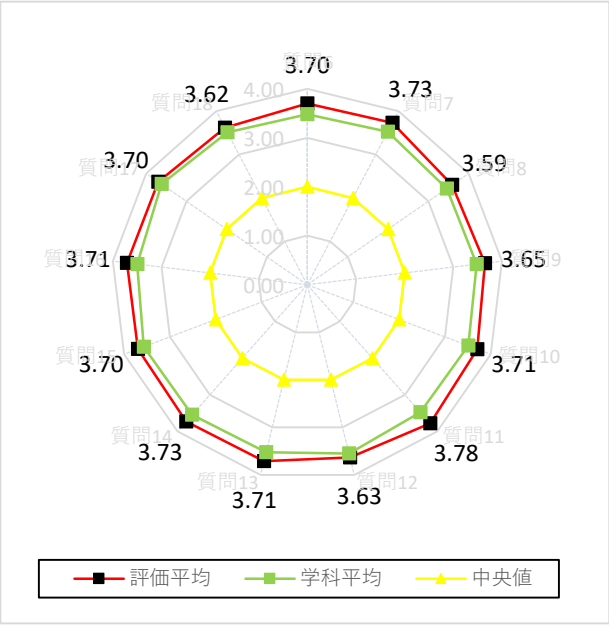
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、学生が主体的に取り組めるような授業を展開していきたい。同時に、なぜ運動をすることが必要なのかといった、学生自身の意識の向上につながる部分もしっかりと授業の中で伝えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	73名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

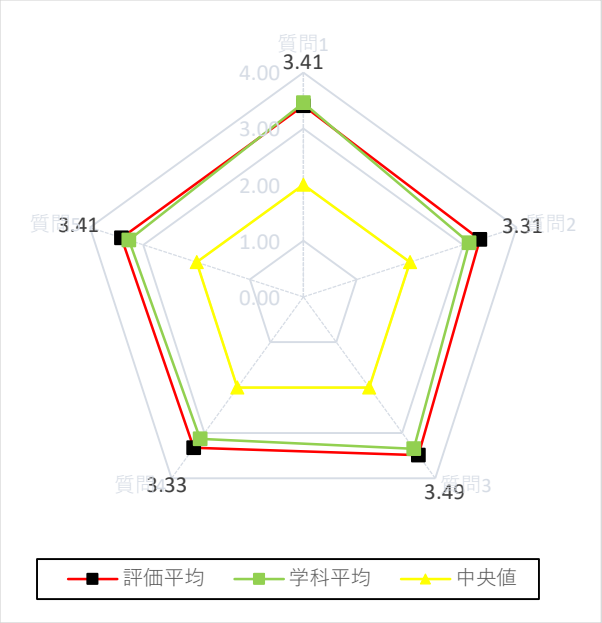
全体的に学科平均と同程度の評価となった。
毎年少しずつではあるが、授業内容・方法の改善を行っているため、
肯定的な評価が増えてきているようだ。
学生の取り組みは、授業内での取り組みや課題の評価のウエイトを大きくしているため、
欠席数は少ない傾向にある。

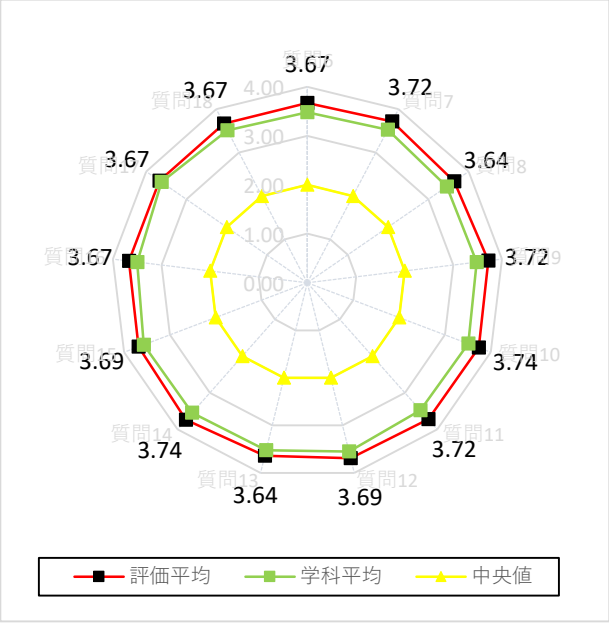
（３）次年度に向けての取り組み

授業一回あたりに扱う内容を精選し講義部分をなるべく少なくし、
その分協同学習の要素を取り入れ、学生間に共に学び合い、教え合う関係を築いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

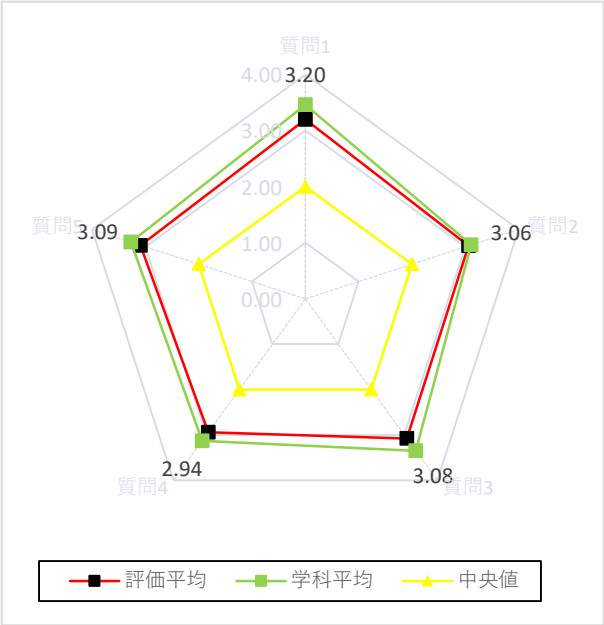
学生の取り組みも教員の授業方法も、
おおむね学科平均と同程度の評価を得ている。
授業を分かりやすくする工夫、視聴覚機器の用い方、配布資料等、
学生の理解を助ける工夫が評価されている。

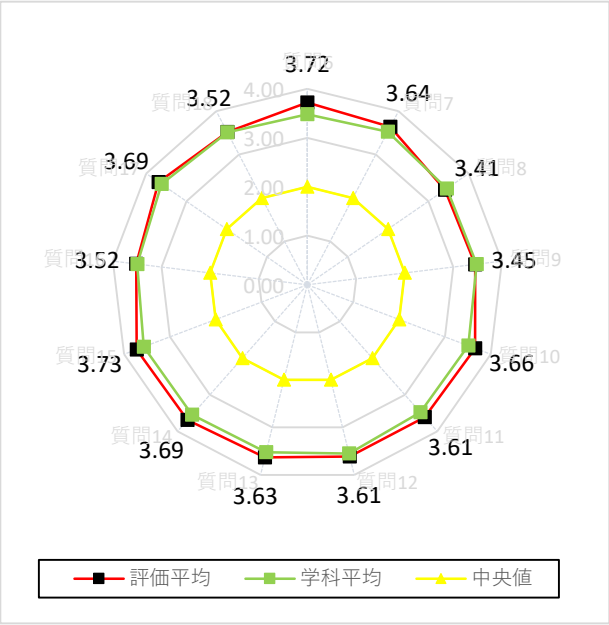
（３）次年度に向けての取り組み

講義型の授業に協同学習の要素を取り入れた結果、
授業評価は改善の傾向がみられる。
一方で、授業で扱う内容が多く、教員による講義部分が長くなる時もある。
授業内容を精選したうえで、協同学習の技法をさらに洗練させ、
学生間に共に学び合い、教え合う関係を築いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭福祉	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

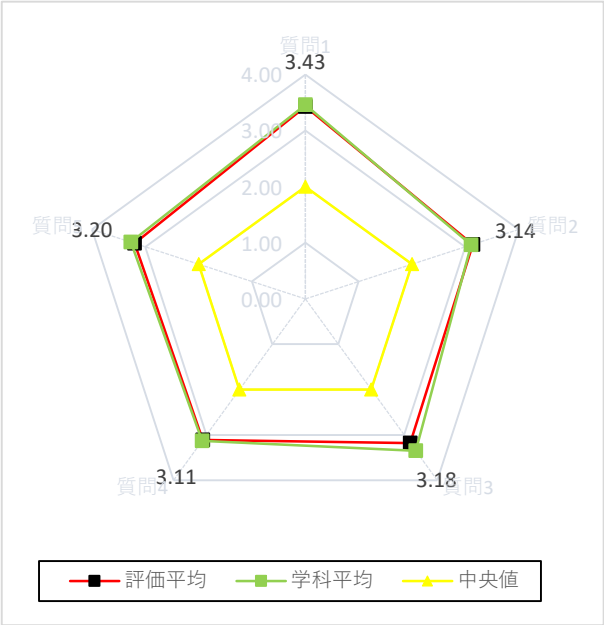
授業評価の各質問項目においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。
しかし、質問３と質問４については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えらえる。
また、本科目は講義系となるが、熱心に取り組むことができたとの評価もあった。

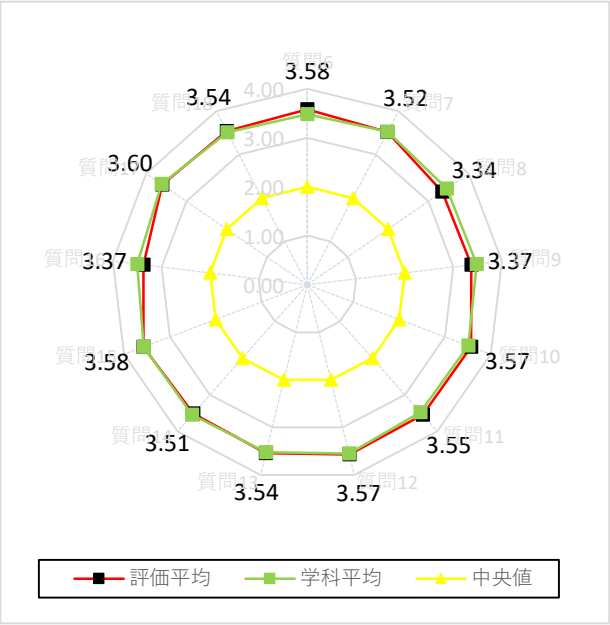
（３）次年度に向けての取り組み

「子ども家庭支援」においては、自由記述にて、学生よりレジュメが毎回配布されていることが評価されていた。テキストのみでは重要なポイントが明確にならないと思われるので、次年度においても引き続きレジュメ配布を継続していきたい。
また、面接技術などにおいては映像を使用した授業展開も良かったと評価されていたため、これらの教材を上手く活用しながら、より保護者支援などの実践に役立つ授業になるように工夫を図っていくようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	73名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

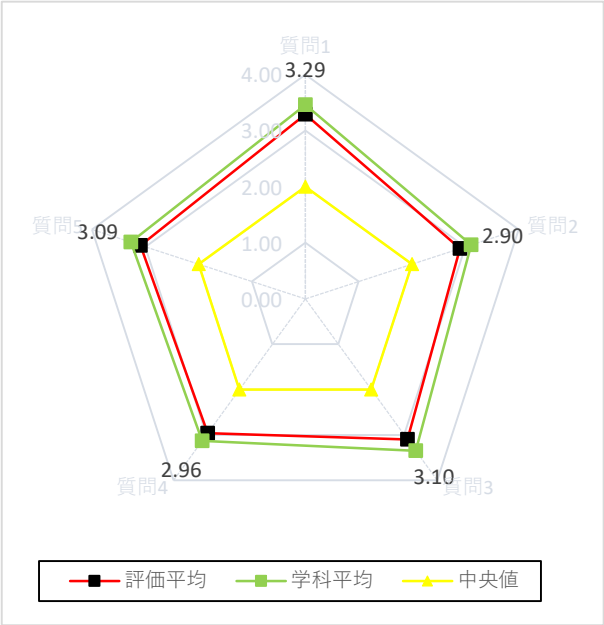
授業評価の各質問項目においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。
しかし、質問１と質問３、質問４については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えらえる。また、講義系科目であるため、知識や概念の説明を中心とする講義になってしまう傾向がある。
また、本科目は講義系となるが、社会保障や制度などを知れて良かったという評価もあった。

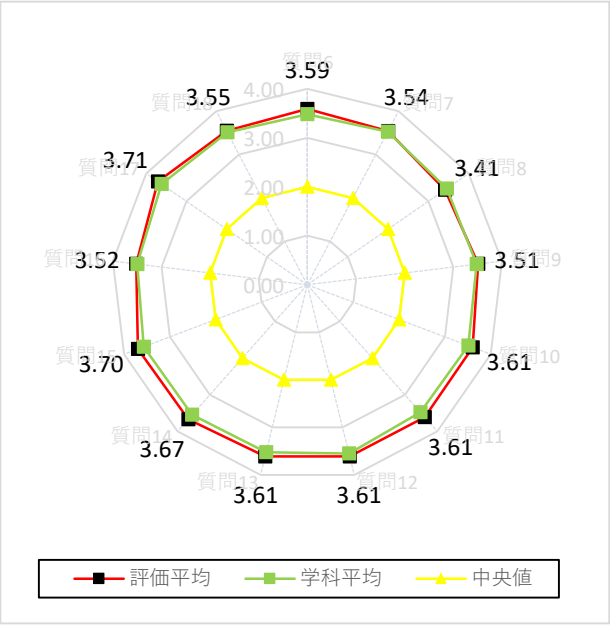
（３）次年度に向けての取り組み

受講者からの自由記述においては、「難しい内容だった」という評価があった。講義系かつ基礎知識を学ぶ科目であるため、どうしても概念や制度の理解を図る科目となる性質があるが、可能な限り学生が興味関心をもって取り組んでいけるようにしたい。具体的には、映像を用いた授業展開や小テストを活用するなど、授業のなかでメリハリをもって学生が退屈しないように工夫を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援論	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

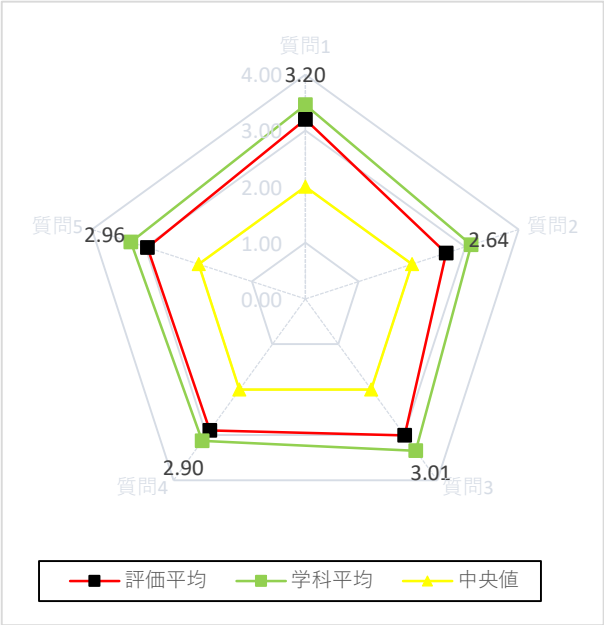
本年度においては、グループワークや演習などを実施し、より実践的な授業となるように工夫を図った。
授業評価の質問６～質問１８においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。しかし、質問２、質問３、質問４、質問５については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、一人ひとりへの関わりが少なく傾向があるあるかと考える。
また、面接技術や保護者支援については、とても勉強になったという感想もみられた。

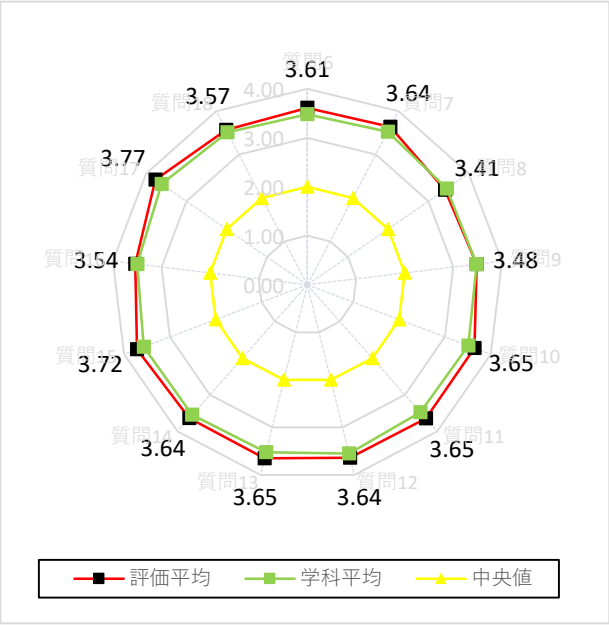
（３）次年度に向けての取り組み

授業の自由記述においては、保護者支援の基礎となる面接や信頼関係の取り方、連携などを学べて良かったという評価があった。しかし、反面、大人数の講義ということもあり、学生の主体的な参加が発揮されなかったという反省点が残った。
次年度は、講義のみではなく、演習、映像学習を取り入れ、学生が発言や意見が言いやすいような機会やケーススステディができるようにすることが課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護Ⅰ	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

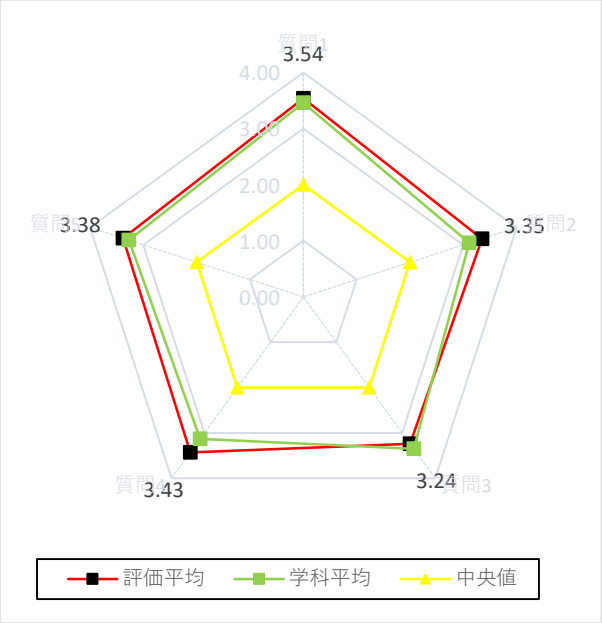
授業評価の各質問項目においては、ほぼ学科平均と変わらなかった。
しかし、質問２、質問３と質問４、質問５については、やや学科平均より点数が低かった。その理由として、本科目は学年全体を対象として、どうしても大人数での講義となるため、グループワーク等の学生交流が実施しにくいことが考えらえる。
また、本科目は講義系となるが、施設実習などにつながる科目であるため、事例分析などを取りいえるような工夫を図ったが、学生の主体的な学びには課題が残った。

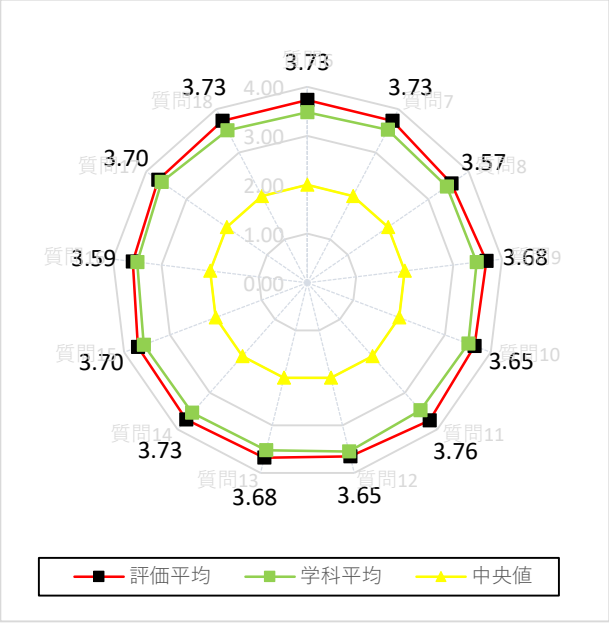
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述においては、「施設実習のときに役立った。後で読み返したときに、再度理解が深まった」などの肯定的な評価があり、前年度からの反省が生かされたと考えている。しかしながら、先の分析と評価で述べたとおり、学生の主体的な学びには課題が残ったため、次年度においては学生が発言し、積極的に取り組めるようなグループワークなどの実施も行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		発達心理学	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

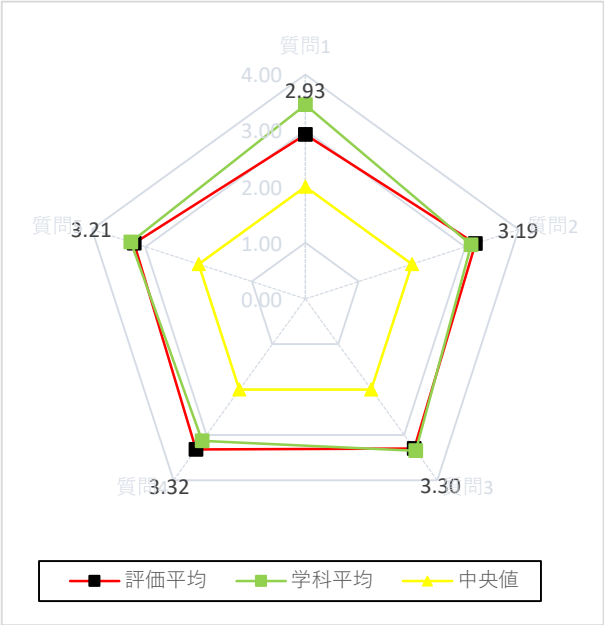
・学科平均と比べて特に大きな差はない。高い評価としてQ11があるが、これは事前の資料配布を自由にダウンロードできることからこのような結果になったと思われる。また、やや低い評価としてQ16の双方向的なやりとりがある。これは講義形式で多人数の為、質疑や応答、グループワークが難しかったことが理由として考えられる。
・1つだけ自由記述があり、「教室が明るくスライドが見づらいため、電気を消してほしい。」とあった。実は教室前側はカーテンを閉めて、黒板等も消している為、これ以上暗くすると他の学生の学習に支障をきたすことが考えられる。見えやすさについては確認しているが、自主的に申し出ることはなかった。
・居眠りする学生が多かった。朝一の大講義室の授業ということで致し方ない部分がありつつも、自身の授業進行にさらに工夫が必要だろう。
・回答率は37/70（52%）に留まっている。理由は明確ではないが、Q3にあるように居眠りが多かった為に授業を聞いておらず、授業への関心の少なさ等も考えられる

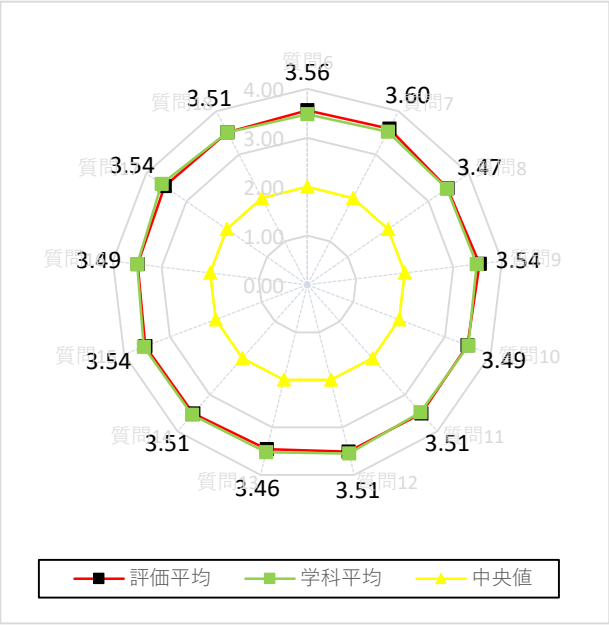
（３）次年度に向けての取り組み

朝一で講義形式の為、居眠りが多かった。また、回答率も低く、多くは居眠りしている学生が授業を評価していなかった。授業評価としては信頼性に乏しい。その為、次年度は評価回答率を高める為に学生が能動的に考える機会を設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

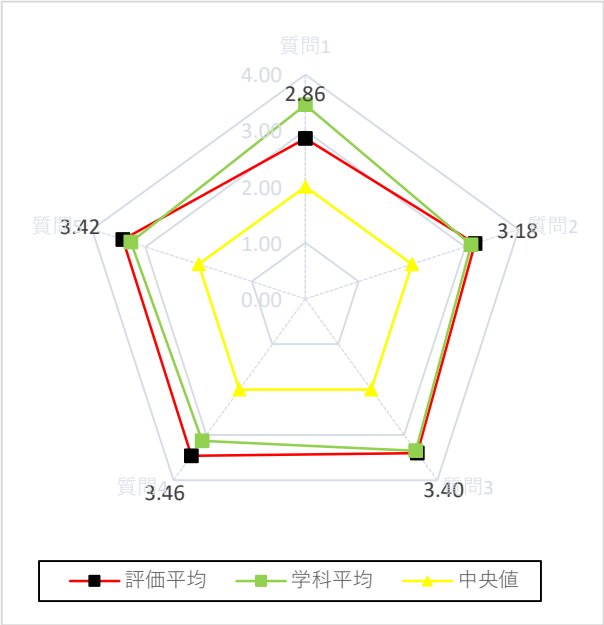
学生の取り組みと教授方法・教員の対応は、
全体的に学科平均をわずかに下回る結果となっているが、
前年の15回オンデマンドの授業よりは改善がされている。
学生の取り組みに関しては、欠席が多い傾向が気になる。
一方、教授方法・教員の対応は、全体的にバランスがとれている。

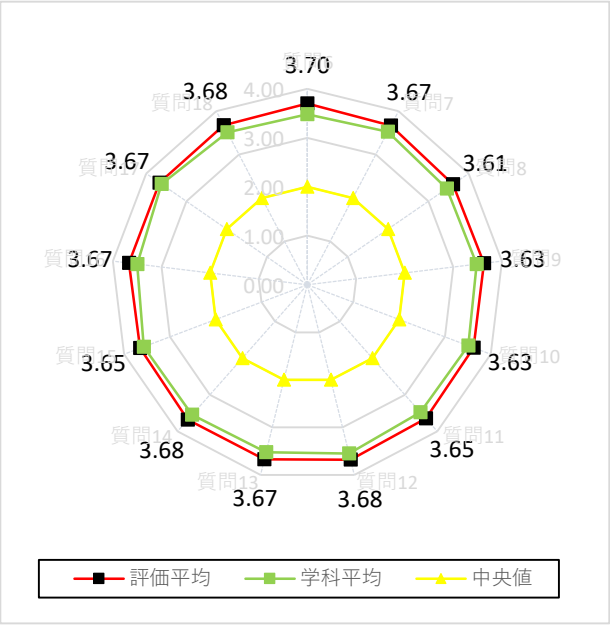
（３）次年度に向けての取り組み

入門的な授業ではあるが、2年次後期開講となっている。
これまでの学びを振り返るとともに、教師・保育者として現場に立った際に直面する
さまざまな困難や問題を扱い、就職後の成長に役立つ内容を検討していきたい。
そのため。事例検討など学生とともに考えるディスカッションや
ロールプレイなどをおこなう機会を用意したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども家庭支援の心理学	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

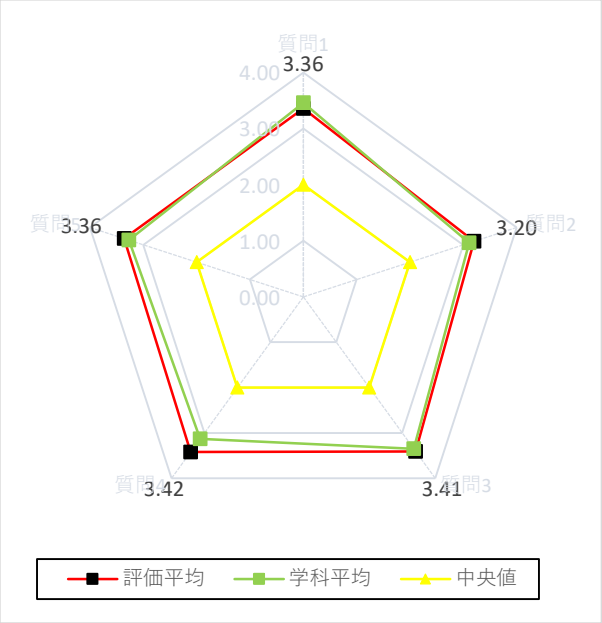
授業内容自体に関する評価は平均程度であった。学生の自己評価は学科平均よりやや低い結果となった。特に欠席回数が多く、学科平均を大きく下回っていた。この点について科目担当者としての考察は困難だが、学生にとって本科目の内容が出席する意欲を高めるために十分でなかった可能性は考えられる。本科目は資格必修科目であるため、保育者として持つべき基礎的な知識を学ぶ科目であることを学生により強調して伝える必要があるかもしれない。
自由記述では「分かりやすかった」「問いかけが多く、意見を言えて楽しかったし、学ぶことが多かった」といった肯定的なコメントがあり、出席した学生にとっては関心を持って取り組むことができた科目であったと思われる。

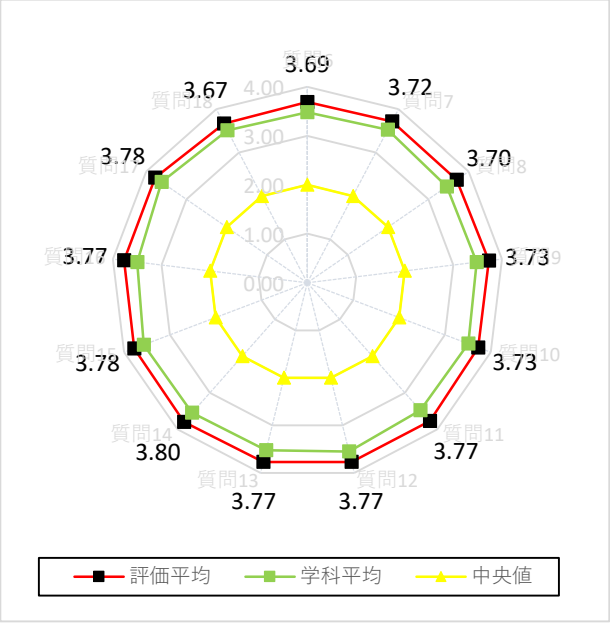
（３）次年度に向けての取り組み

授業内容自体を大きく変える必要はないと思われるが、科目の重要性を学生に明確に伝えることや、より学生にとって現場で生かせると感じられるような授業方法を考えることで、欠席回数を少なくすることを目指す。
また回答率が低くなっている点については、授業内で評価を実施する時間を取ることが改善につながると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子ども理解と教育相談	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

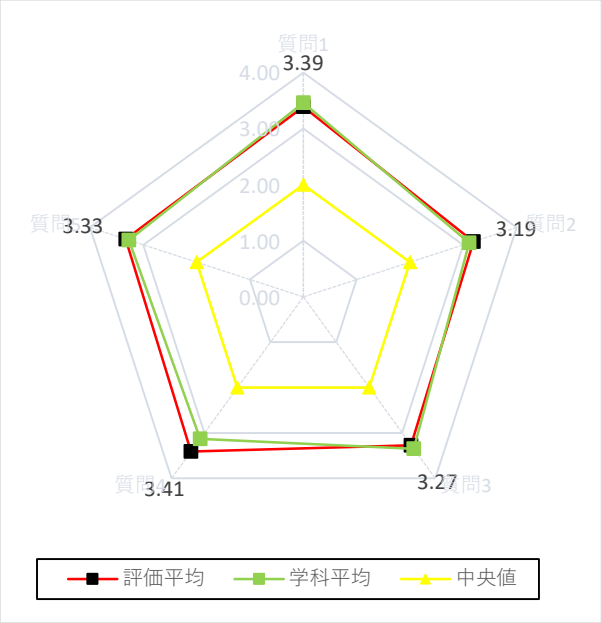
全体として学科平均と同程度からやや高い結果であった。特に授業の分かりやすさや進度、学生への対応について高い評価を得た。2021年度に引き続き、理論や概念の説明だけでなく、事例を多用し学生間でのディスカッションの時間を多くとったことや、毎回コメントシートの提出を求め、翌週の授業で教員からのリプライをしていたことなどが、双方向的なやりとりや興味・関心を持てる工夫として評価されたのではないかと考えられる。
一方で授業計画の活用については低い評価となった。初回の授業でシラバスの内容に触れるのみで、その後授業の到達目標等を取り扱う機会がなかったため、この点の評価が低くなったと思われる。
自由記述では「分かりやすくためになった」「楽しかった」「意見を共有できた」等の肯定的なコメントが複数あったが、「話が難しかった」との記述もあった。できるだけ多くの学生にとって理解しやすく、意欲を持って参加できる授業になるようなさらなる工夫が必要である。

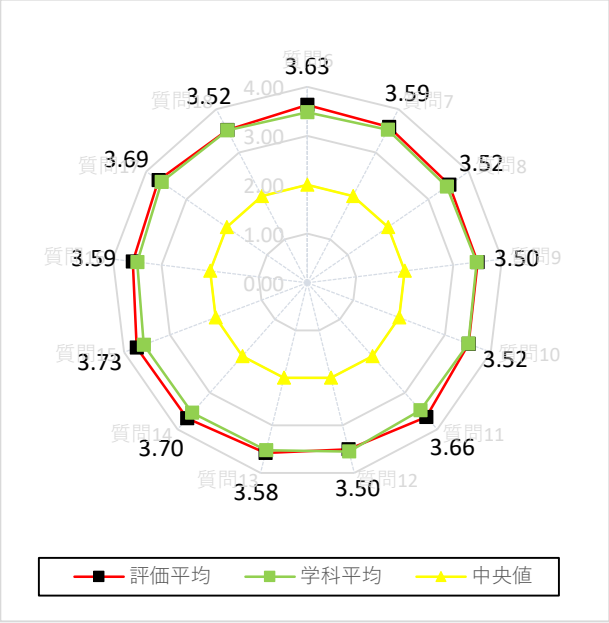
（３）次年度に向けての取り組み

2022年度に課題となった授業計画の活用について、各回の到達目標を提示するなど、何を目指す授業であるかを学生に繰り返し知らせる取り組みが必要であると思われる。
分かりやすいと評価された点については2023年度も継続しつつ、より学生にとって実践的に感じられるような授業方法を考案し、就職後に現場で活用できる知識を身につける機会となるよう努めていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの食と栄養Ⅰ	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

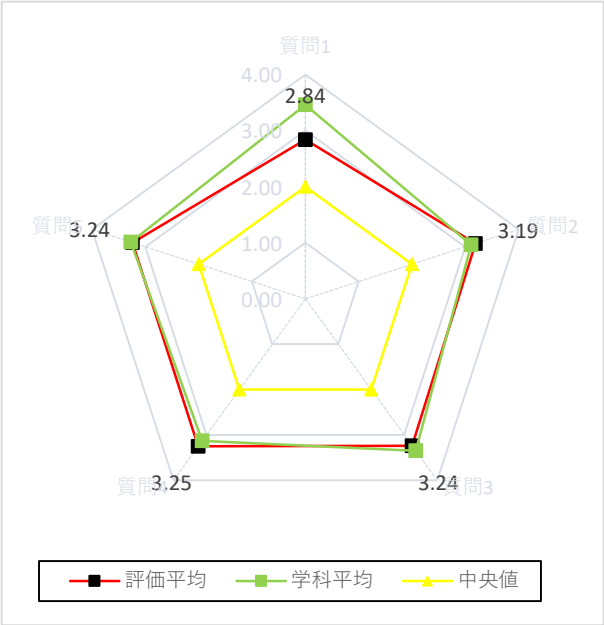
受講者71名中64名から回答をえた。授業時に授業評価の回答時間を設けたものの、回答率は90.1%であった。
ほとんどの項目について学科平均とほぼ同じか若干低いスコアであったが、総合評価は3.52であり、授業としての満足度は低くはないと考えられる。自由記述のなかに「周りがとてもうるさいなかでの授業で、聞きたくても全く聞こえなかった」とのコメントがあった。マイクを使い、教室全体を確認しながら話していたつもりであったが、配慮が足りなかったようである。また、「まとめ問題で覚えることができた」、「テスト勉強がしやすかった」とのコメントがあり、単元ごとに実施していたFormsでのまとめテストは知識の定着に有効であったと考える。

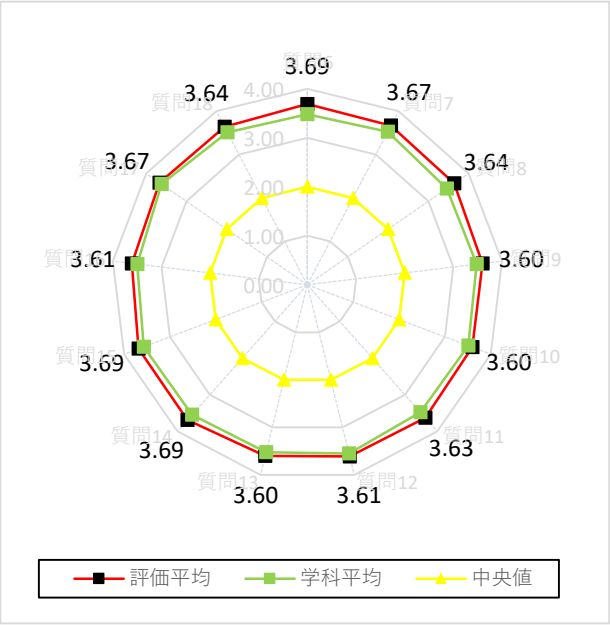
（３）次年度に向けての取り組み

Aクラス、Bクラスに分け、全体に注意を払いながら講義する。
Formsを用いたまとめテストは継続して実施し、知識の定着を図るとともに、学生の理解度の把握に努め、授業内でのフィードバックができればと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの食と栄養Ⅱ	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

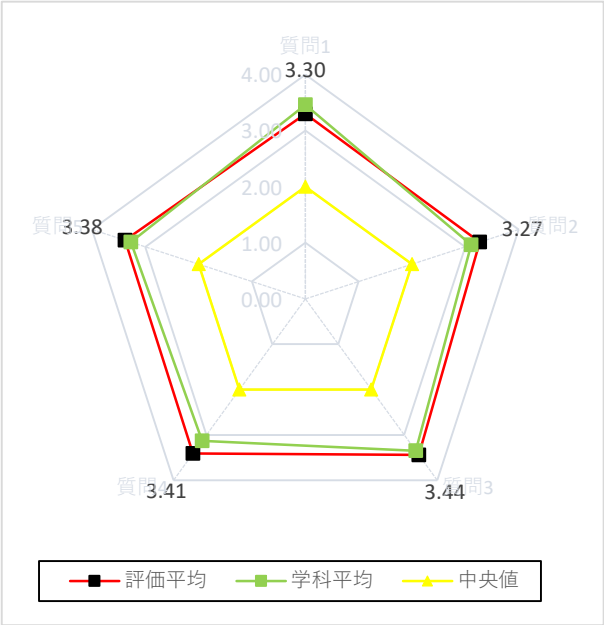
本授業は、前期の「子どもの食と栄養Ⅰ」に引き続き展開される科目である。Aクラス40名中38名（回答率95.0%）、Bクラス30名中29名（回答率96.7%）より回答をえた。
ほとんどの項目について学科平均とほぼ同じか若干低いスコアであったが、総合評価は両クラスとも3.51であり、授業としての満足度は低くはないと考えられる。前期はA・Ｂクラス合同であったため座学のみの講義であったが、後期はクラスごとに展開することができたため調理実習を２回取り入れた。自由記述のなかに「調理実習をして子どもの食事が工夫しながら調理されていることに気づいた」とのコメントがあり、座学のみでは得られなかった気づきがあったようである。

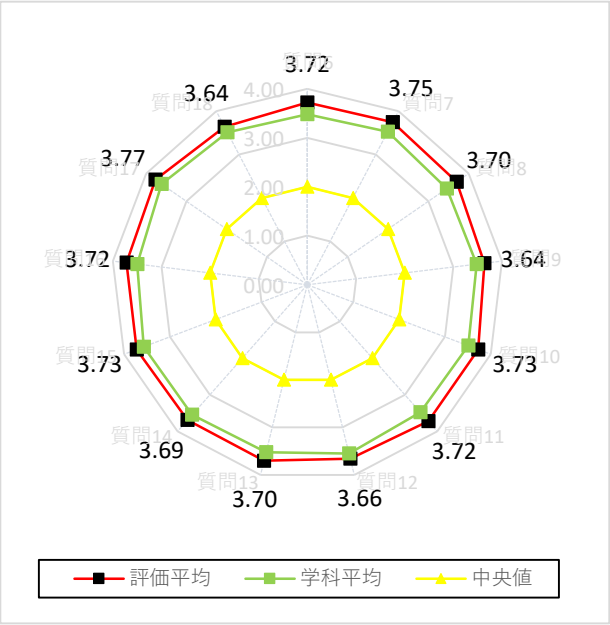
（３）次年度に向けての取り組み

本年度までは前期に「子どもの食と栄養Ⅰ」、後期に「子どもの食と栄養Ⅱ」と通年展開であったものが、次年度より「子どもの食と栄養」の１科目となる。時間数が減ってしまうので、座学と調理実習、演習を組み合わせながら、大切な内容がきちんと学生に伝わるように工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育課程・方法論	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

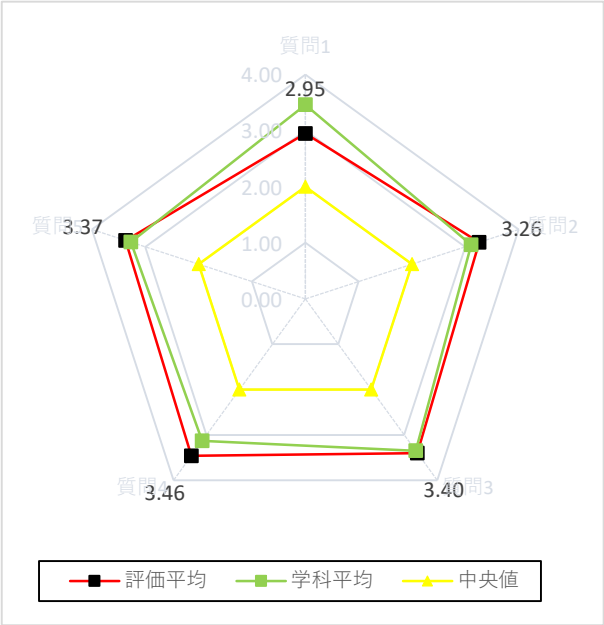
今年度から新たに担当した授業である。
学生の取り組みも教員の授業方法も、
おおむね学科平均と同程度の評価を得ている。
データサイエンス教育プログラムの指定科目であることから、
保育におけるICTの活用について取り上げ、
PCをを用いた教材制作を取り入れた。

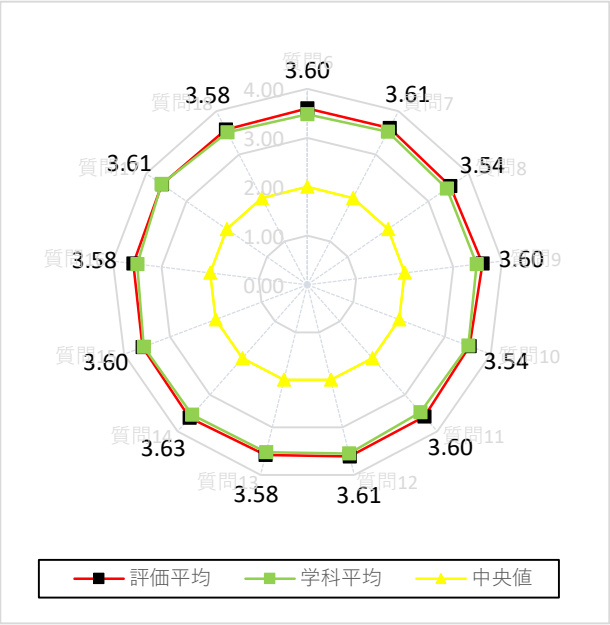
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の授業内容をベースに、授業内容、
提示スライド、配布資料などを洗練させていく。
特に、保育の計画について扱うことから、ICTの活用した教材制作に加えて
指導計画の立案まで取り扱うようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

殆どの項目で若干ではあるが学科平均に評価が届いていないものの、特に悪い評価項目があるということもなく、及第点だと考える。

この授業は事例に対して自分が保育者だったらどのように子どもや保護者を理解するのか、どのような行動をとるのか等、学生が自身の保育観を見つめるためのグループワークを中心に展開していた。学生の自由記述を見ると、「自分の立場になって考え情報共有できた」「自分の意見だけではなく人の意見も知ることが出来てとても楽しかった」「いい勉強になった」という肯定的なコメントが多くみられた。このことからも、学生は授業の目標を十分に達成することが出来たと考えている。

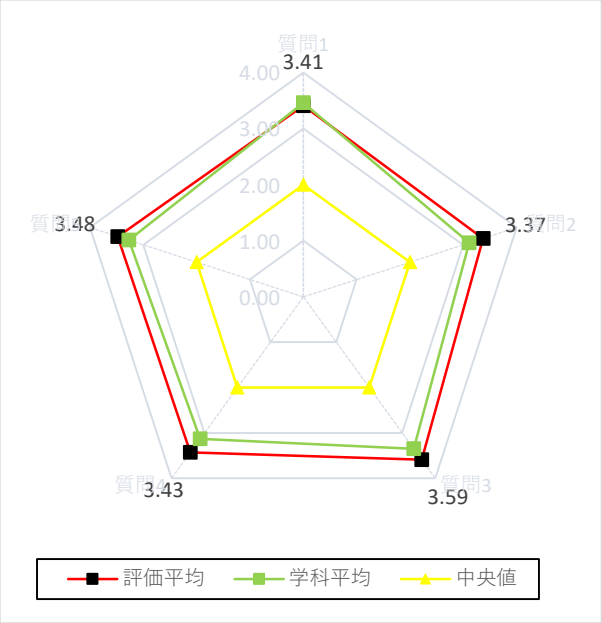
（３）次年度に向けての取り組み

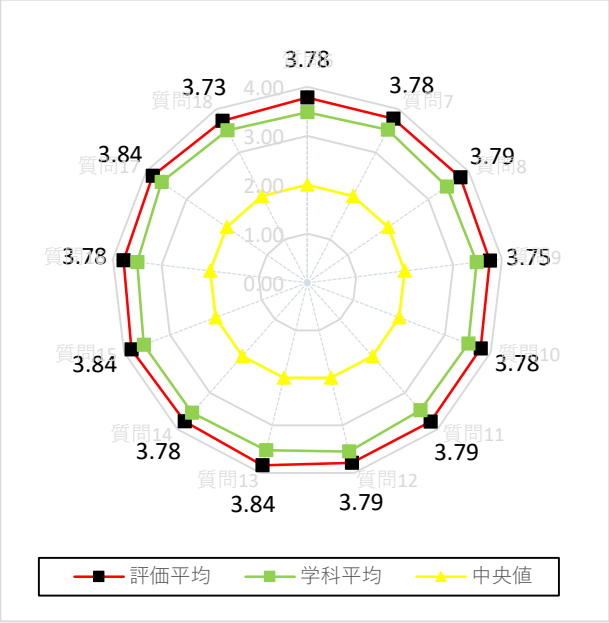
グループワークや意見の共有（教員が指名しての発表）に関しては、概ね肯定的な意見が多くみられたものの、「各回の授業で毎回のように当たる人もいればほとんど当たったことがない人もいて、当てるなら平等にしてほしい」というコメントが1件あった。このことに関しては、自主的に手を挙げて発表する人は別として、教員が指名した学生は毎回名簿に記録し、全員が平等に発言できるよう配慮していた。そのため、このコメントは思い込みの部分が大きいと思われるが、学生は「公平性」というものを強く求めているのだという気づきになった。

次年度以降も、公平な対応を心掛けつつ多くの学生が意見を発表できるよう授業を進めていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（言葉）の理論と方法	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

表現・音楽コース、心理・環境コースともに同じペース、内容で進めていった科目であるが、全ての項目で心理・環境コースの学生評価が高い結果となった。

学生自身の評価については、学科平均とほぼ同等の結果となった。また、教員への評価については学科平均値をやや上回る結果となった。

アンケートの自由記述からは「今後につながる授業だった」、「教室の環境のつくり方から学ぶことがあった」などの意見があり、講義形式やグループワークの授業など、授業方法に変化を持たせたことが学生の学びにもつながったと考察する。

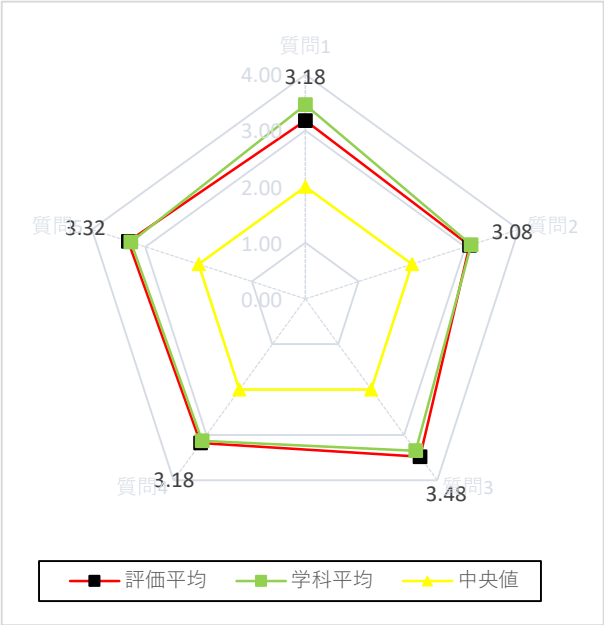
（３）次年度に向けての取り組み

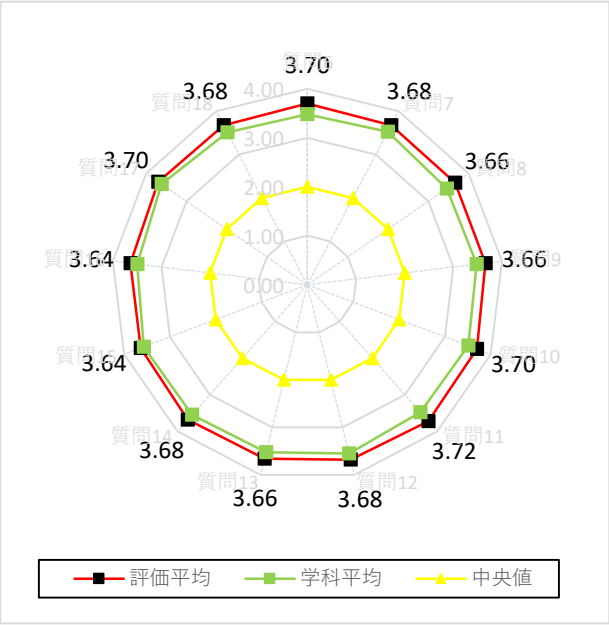
学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。

また、引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫しながら、保育所保育指針や幼稚園教育要領の言葉の領域との関連を十分に説明し、学生の理解度を高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と健康	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

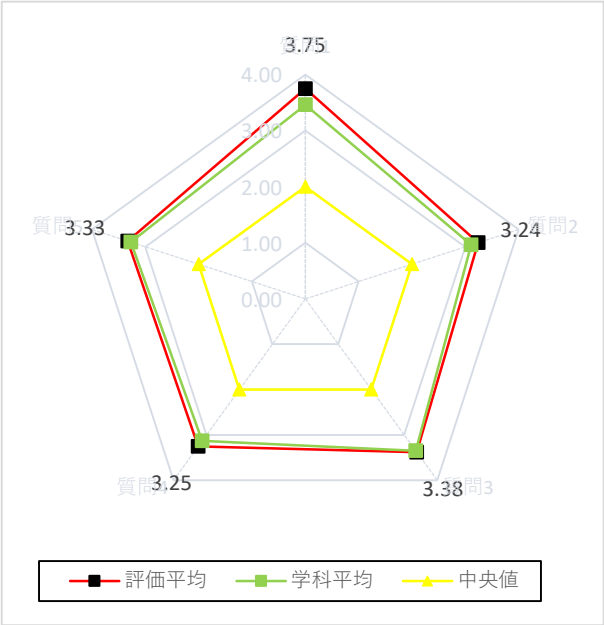
概ね平均値と同等であったが、質問１，２、４、５は平均値よりも０．１以上下回った。下回った根拠は不明だが、この科目に対して学生自身の受講姿勢が低かったと言える。しかしながら、そのような状況になった要因は教員自身の授業方法に問題があったのではないかと考えられる。この科目は前半は講義、後半は実技演習の授業であるが、授業計画や授業の流れ、また配布資料やスライドなど学生にもっとわかりやすい工夫ができたのではないかと思われる。

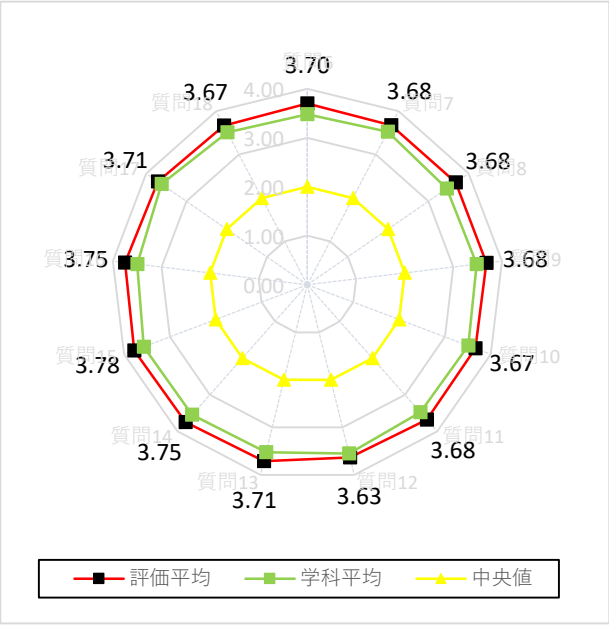
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、学生自身の授業に対する意識を高めていけるよう、授業計画や授業の流れをしっかりと考えていきたい。併せて、授業スライドや配布資料なども工夫しながらより分かりやすい授業を目指していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と人間関係	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

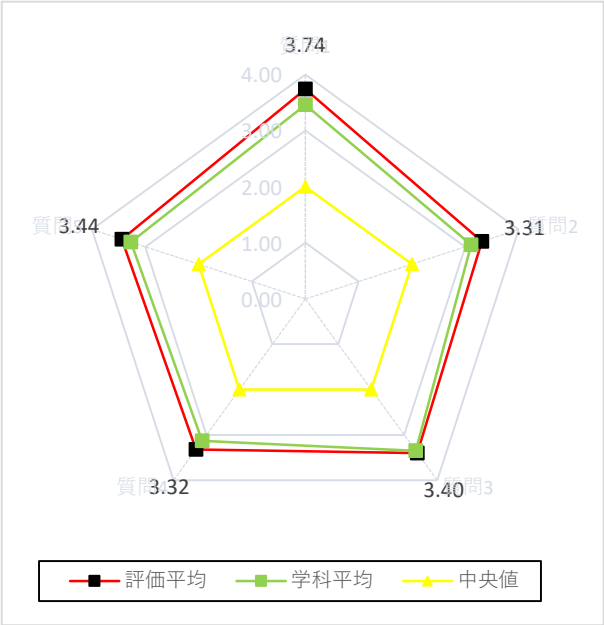
学生の自己評価については、欠席回数を除き学科平均よりやや低い結果であった。科目に対する評価としては、平均と同程度であった。
居眠りや私語に関する評価の低さや、総合自己評価の低さから、関心を持って授業に取り組めた学生が少なかったことが推察される。この点について、自由記述の中で「もっと現場の話を聞きたい」「書き写すことが多く話を聞く余裕がなかった」「話し合いや質疑応答の時間をもっと増やしてほしかった」といったコメントが見られた。科目そのものが領域の専門的事項を取り扱うものであり、また8回で終了する科目であったため、理論や概念の説明が多かったことは事実である。授業方法については大きな改善が必要だと考えられる。

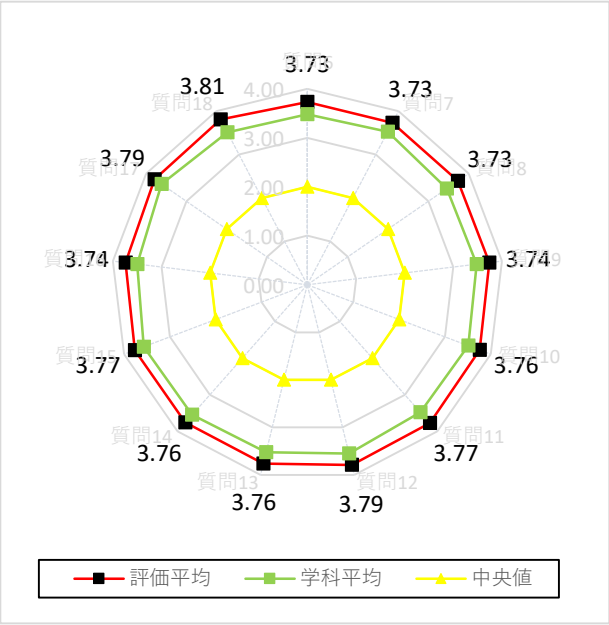
（３）次年度に向けての取り組み

事例の活用や学生間のディスカッションをより増やし、学生が主体的に考え、その考えを他者と共有しながら学びを深めていく授業方法に変えていく必要がある。
学生が実習で経験したことを発表したり、それらを授業内で扱った概念と結びつけ、学びと実践を繋げて理解する経験ができるような授業方法を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と言葉	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

Ａクラス、Ｂクラスともに同じペース、内容で進めていった科目であるが、全ての項目でＢクラスの評価が高い結果となった。

学生自身の評価については、学科平均値とほぼ同等の結果となった。また、教員への評価については全ての項目で学科平均値を上回る結果となった。

アンケートの自由記述からは「絵本読みは真似をしたいと思いました」、「授業中の動画もすごく考えさせられるものばかりで楽しかった」、「どのような絵本があるのか紹介していただき、いろいろな絵本の発見ができた」、「年齢に応じて適切な絵本を選び、子どもも保育者も楽しく過ごせるよう意識したい」などの意見があり、学生の理解度、習熟度としては一定の効果があったと考察する。

（３）次年度に向けての取り組み

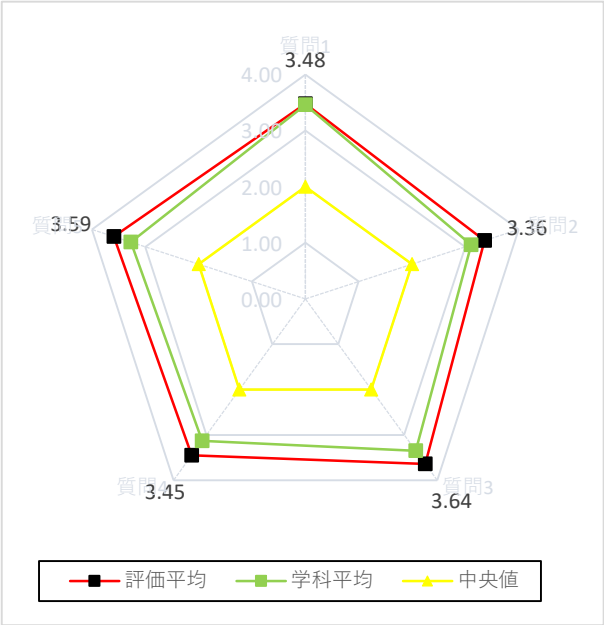
学生の授業への意欲や理解度を確認しながら授業を行う。

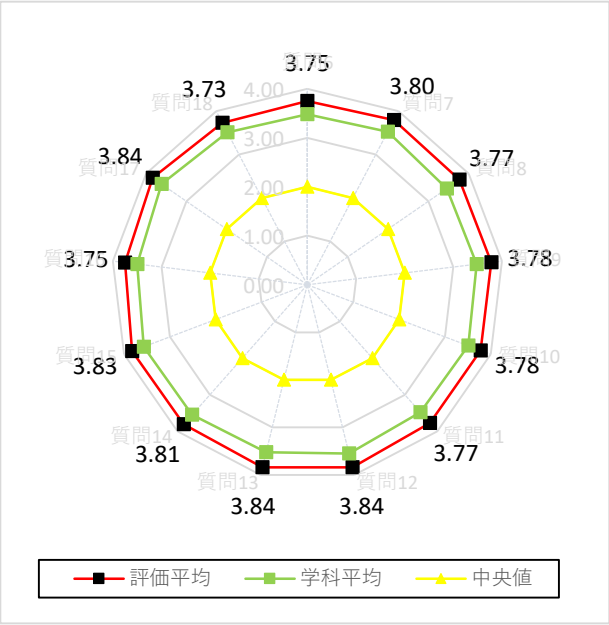
また、引き続き学生の実習や実践に繋がる授業内容を工夫し、実践的な学びを取り入れながら幼児の言葉の理論的理解が深めていけるようにする。

さらに、２年次の「保育内容（言葉）の理論と方法」に繋がる科目として、保育内容「言葉」の領域について、理解を深めていけるよう授業構成を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児体育	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

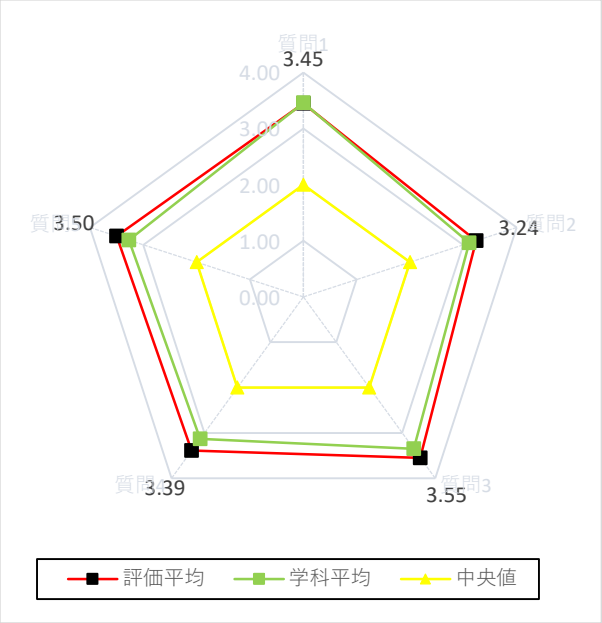
全体的に高い評価を得ることができた。この科目は実技・演習系の科目であり、学生も積極的に受講しており、授業としては展開しやすかったことも高い評価につながった要因として挙げられる。授業をする上では、幼児教育の視点から運動遊びを実施するため、遊び感覚になりやすいが、将来、保育者としてなぜ、運動遊びの知識・技能が必要なのかについても解説し、遊びのねらいや特性などについて理解できるよう努めた。

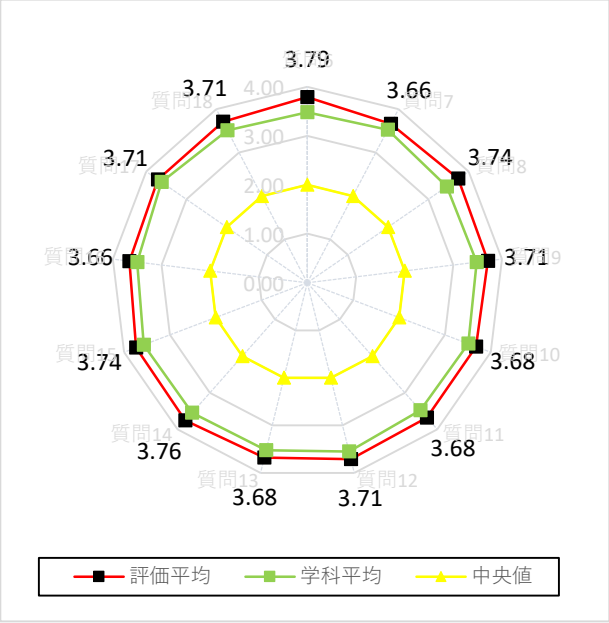
（３）次年度に向けての取り組み

今年度よりこの科目は廃止されます。
今後は「幼児と健康」の内容の一部に引き継がれることから、これまでの評価を振り返り、活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と音楽表現	69名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

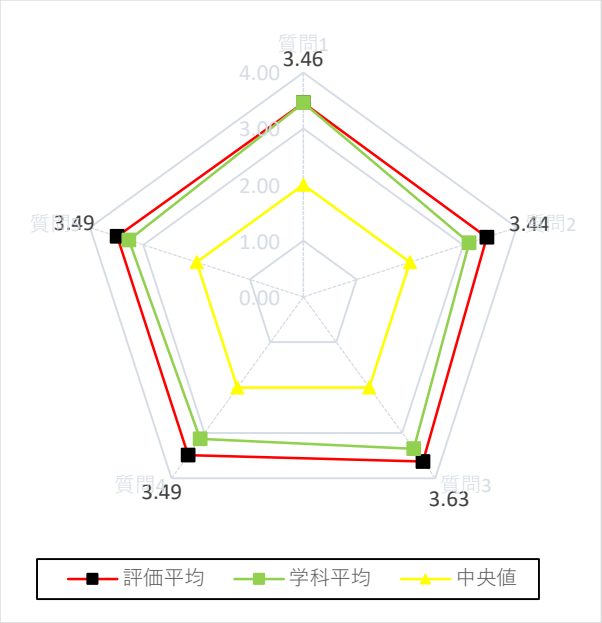
本授業は文科省の再過程認定に伴って今年度から開講となった科目であり、全15回を４つの単元で構成し、単元ごとのテーマに沿って、幼児の音楽表現に関するグループワークを中心に授業を進めている。学生の評価は学科平均よりやや高い数値で一定している。グループワークの課題を達成する過程では、学生同士が協力しながらも試行錯誤が繰り返し、苦労する様子が見られるが、発表では音楽を楽しみ、保育に繋げることができた達成感を感じるとともに、他のグループの発表に刺激を受ける様子もあり、将来の自身の保育に生かせるというイメージが持ちやすいと考えられる。
唯一学科平均より低い数値であったのが質問７の「到達目標の明確化」であった。４つの単元で何を目標とするかは明示していたが、授業毎の目標を解り易く示すことができていなかった。

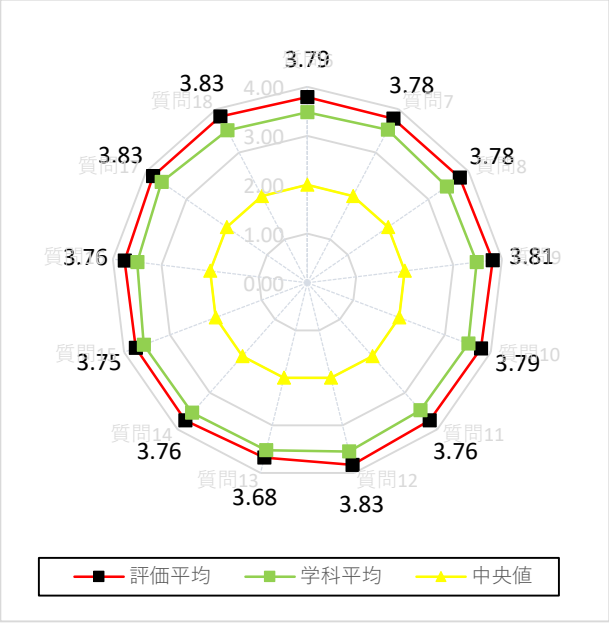
（３）次年度に向けての取り組み

毎回の授業開始時に、その時限の目標を明確に示し、学生の授業に対する意欲を引き出せるよう工夫したい。また、各単元の課題提出において、ICTの活用として動画での提出を試み、授業者側、学習者側それぞれのメリット、デメリットについて考察する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児と造形表現	71名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

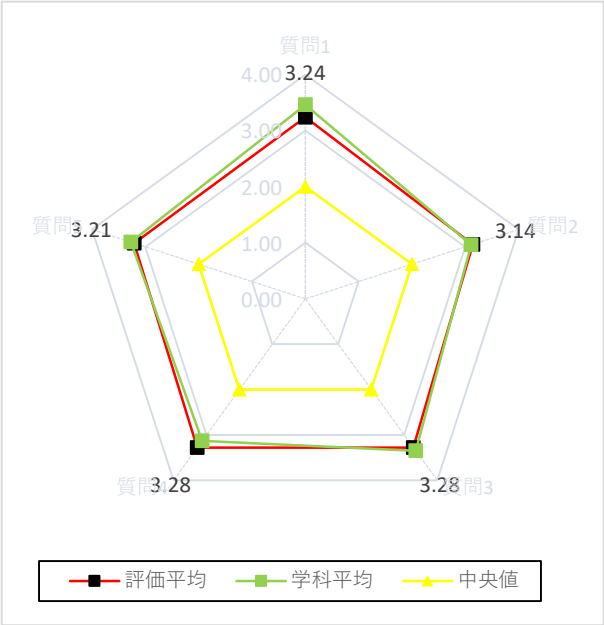
授業のスタートに当たっては、まずはシラバス（講義の計画と内容）と、それぞれの授業は予習と復習を合わせた３つがセットになっていることへの周知徹底を行うと共に、毎回授業始めにシラバスの確認を行った。シラバスでは幼児の造形表現の指導・支援に必要な表現技術を体験を通して身に就けさせると共に、子どもたちの自尊感情を高めるような関わり方・言葉かけを重視した「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を大切にしながら理論学習と実習をセット化した授業を展開した。そこでは、幼児の造形表現に生かす「モダンテクニック」を体験させたり、クリニカルアートを体験させたり、模擬授業を設定したりしながら現場に生かせる力を身に就けさせる工夫をした。また、保育実習や教育実習の際に造形遊びの設定授業をする場合に備えて「保育指導案」の書き方の指導と、その際の見本（サンプル）づくりにも取り組ませた。模擬授業においては、学生を園児に見立てて導入までの発表をさせ、そこでは自己評価・学生同士の相互評価もさせた。学生の授業評価から、これまでの反省を踏まえたシラバスの工夫は授業方法の改善に成果があったと捉えている。

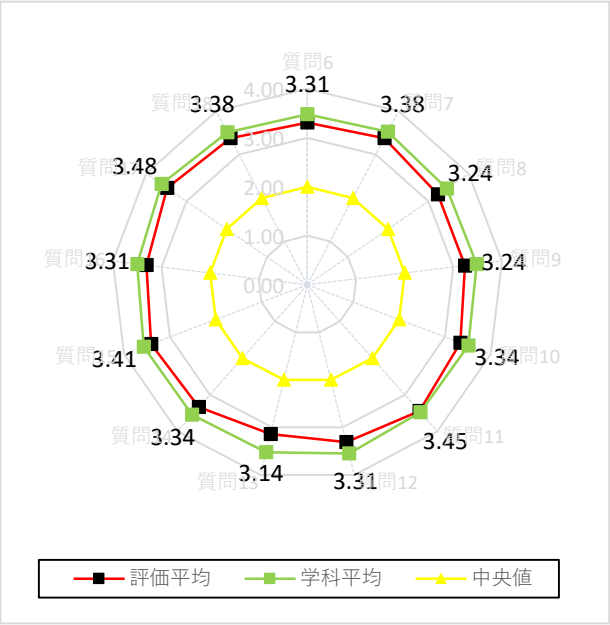
（３）次年度に向けての取り組み

基本的には本年度のスタイルを継続していきたいと考えているが、毎年入学してくる学生の実態は同じではない。シラバス通りに授業を展開することは大原則ではあるが、まずは計画ありきという「手段の目的化」に陥ることなく、新入生の状況を踏まえながら臨機応変に対応していくことを心がけたい。本年度の学生たちの授業評価は高評価ではあった。このことを踏まえた上で次年度は、造形表現を子どもたちの遊びに繋げるためのスキルを身に就けさせたいという思いがある。そのため、本年度のシラバスを踏まえながらも、次年度は子どもに体験させたい造形遊びの中に「作って遊べる造形表現」を取り入れ、【うごく虫づくり】や【ビニール凧づくり】などを取り入れていきたいと考えている。また、数年継続している「クリニカルアート（臨床美術）」的なアプローチを大切にした演習を通して、子どもたちの発達段階に応じて感性を刺激するような技法体験を設定するスキルや、子どもの自尊感情を高めるような言葉かけのスキルを高めていきたいと考えている。また、障がいを持つ学生への合理的な配慮が求められる中、当該学生のニーズを踏まえながら、可能な限り支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

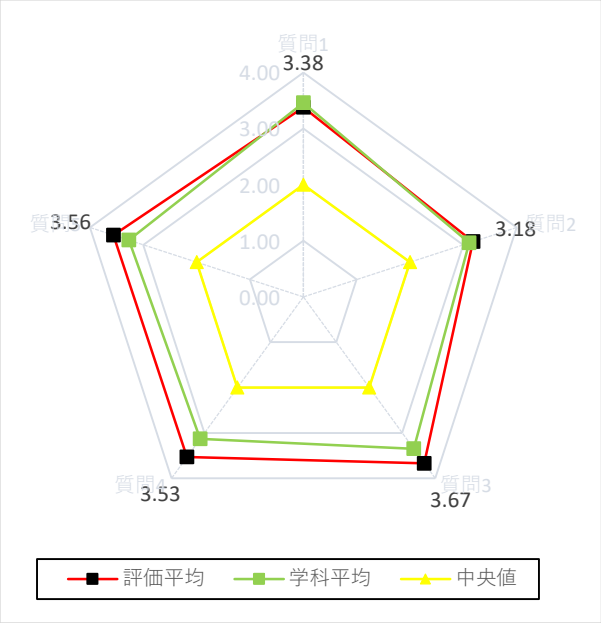
授業での興味関心を与えるよう、日常や他の科目に関わる話題に触れることで、興味関心を与えるようにした。また、効果的な学習を進めていくため、ワークシート資料を作り、各回で活用した。昨年度と比較して、総合評価が若干高くなっていたが、平均と比較して評価は引くい。例年、評価は、総じて評価平均を下回っていることろであり、自由記述はないが、内容が難しいとの声も少なからずあって、そのことから授業評価を下げていることも考えられる。

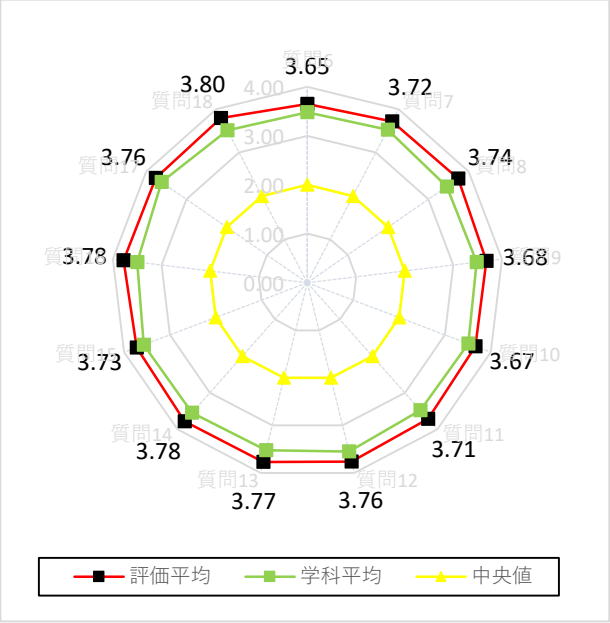
（３）次年度に向けての取り組み

学習内容の解説については、ワークシート資料を取り入れたり、図を取り入れるなどして分かりやすい工夫をしてきたが、学習内容を可能な限り絞り込んで、簡素化を図ってみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ	127名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

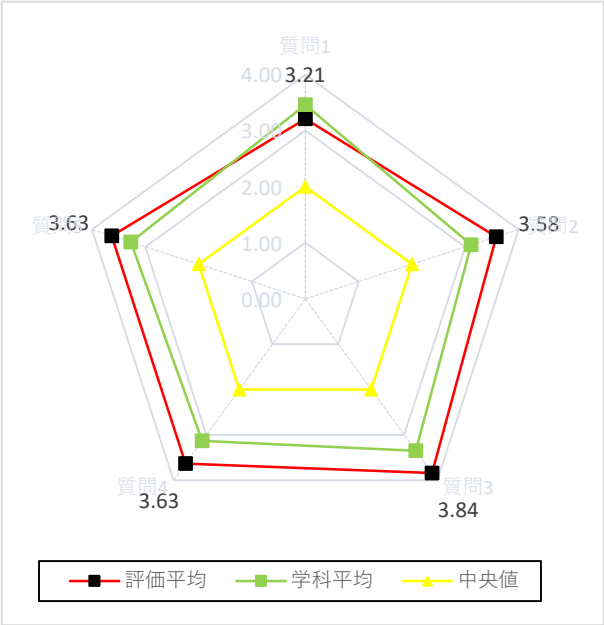
この科目は複数教員で担当しており、指導する学生グループが固定されている。
学生自身の評価としては、ほぼ学科平均と同等であるが、数名は質問１「出席状況」、質問３「真剣に取り組んだか」の項目で「不十分」と回答した者も見られた。
教員に対する評価としては、概ね学科平均値と同等だったが、数名が「不十分」で回答していた部分が気になった。例えば質問１３「授業の進む速さ」、質問１５「公平に学生対応したか」等である。
これらについては、自由記述にもその背景が伺えたので取り上げるが、一部の教員の指導において、言葉の選び方に配慮に欠けるものがあったようである。また小テストの際の教員の対応（打ち合わせ等をする声）にも指摘があった。

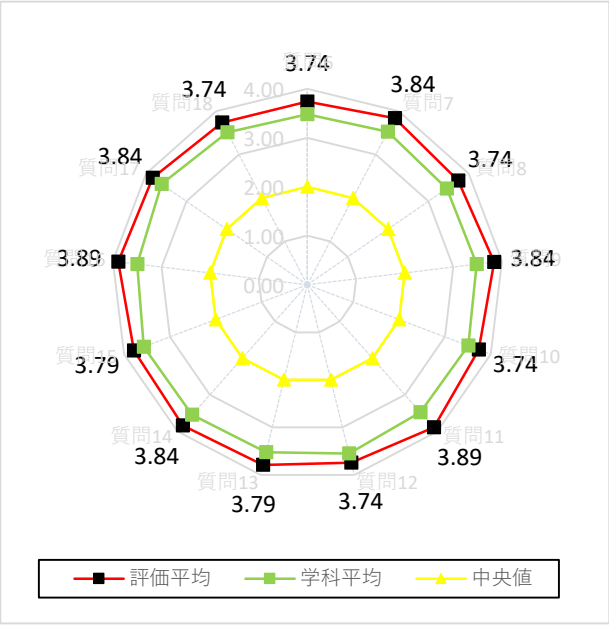
（３）次年度に向けての取り組み

ほとんどの学生からは満足度の高い結果が得られているが、少数意見について耳を傾け、次年度には必ず改善したことが学生にわかるよう示していきたいと思う。そのためにもこのアンケート結果の早い段階での開示を求めたい。
本科目は複数教員で進めているため、教員間の認識の違いが生じやすい科目である。日頃から情報共有を密に行い、素早い連絡を心がけてはいるが、どうしても専任教員対個人、というやりとりになってしまいがちである。今回の結果を全教員に開示し、改善策を出し合い、足並みをそろえたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノⅠ	26名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

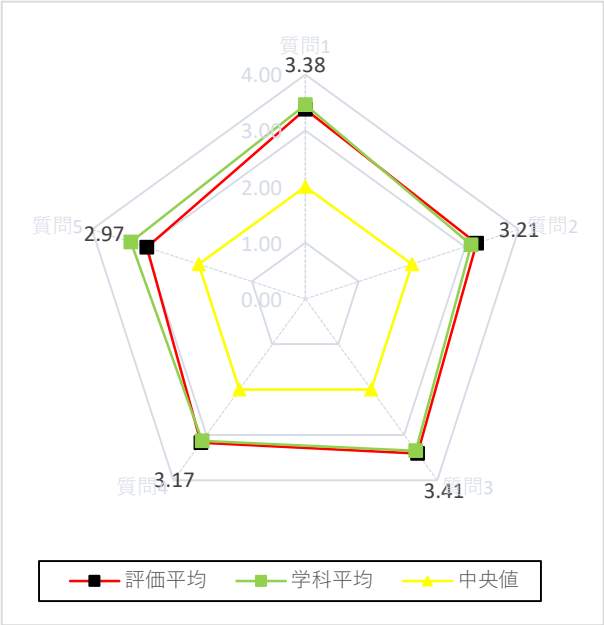
この回答は、１年次に単位取得できなかった再履修者のみの結果である。
学生自身の評価としては、特に質問３「真剣に取り組んだか」の値がかなり高く、最後のチャンスということを意識して取り組んだことが伺える。とはいえ質問１「出席状況」については、必ずしも全てが出席できたわけではないようである。
教員への評価としては、概ね学科平均と同等であり、ある程度の満足度はあることがわかる。

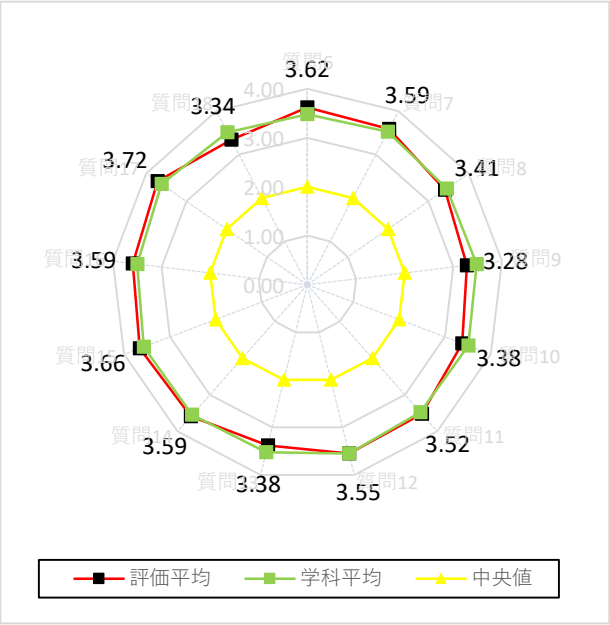
（３）次年度に向けての取り組み

当該科目は、入学前の経験度が影響するため、毎年再履修となる学生が多数生じてしまう。コロナ禍ということもあり、学内で十分な練習環境が用意できなかったことも考えられると思うが、自宅学習のアドバイスや、細かい目標設定などを学生と共に頻回に確認しながら進める必要があると感じた。
課題の見直しのみならず、学生が練習を進めるための計画を可視化したり、教員が授業時間以外に補講レッスン対応したりするなど、具体策を検討している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学実験	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

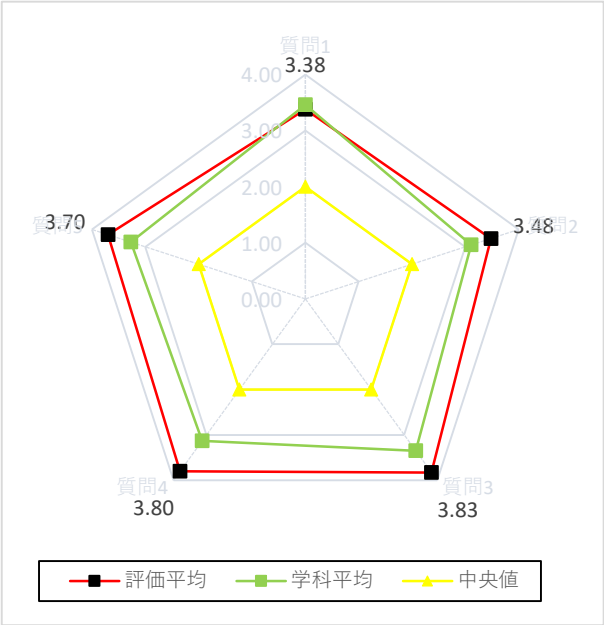
昨年度の授業では、コロナ感染症対策のために、可能な範囲で遠隔授業を取り入れた。そのため、一部の学習内容について、実験と学習内容の回が前後することがあった。本授業では、概ね昨年同様の評価であった。可能な限り対面での学習を計画し、実験レポートの資料をつくりなおしていｒる。実験では「実験の工程が何のために行うものなのか分からずにやっていた部分があったので、何を導きだす為の実験なのかを強調した説明を始めにして欲しいと思いました。」とのコメントがあった。

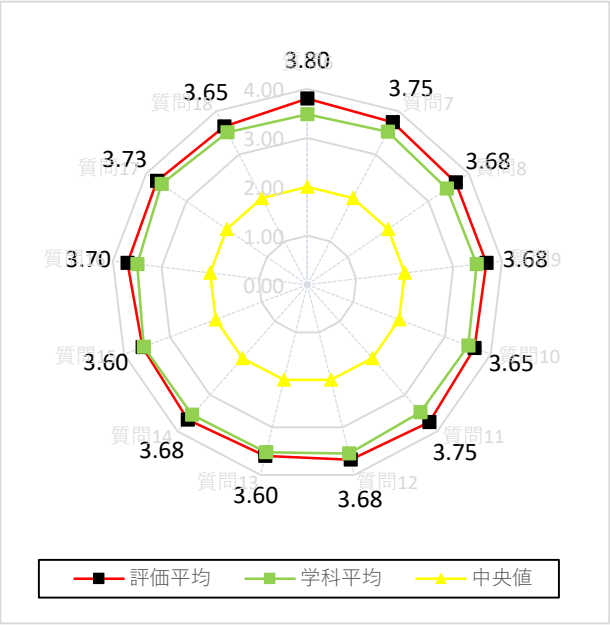
（３）次年度に向けての取り組み

可能な限り対面での実施を行い、また作成資料の改善を図り、学習の効果を高めていくようにしたい。また、実験に際しては、実験の工程が何のために行うものかを理解することが学習のねらいにあるため、導入時に生化学の内容（成分の化学的性質等）の振返りを十分にさせていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノⅡ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

この科目は、１年次に「ピアノⅠ」の単位取得が済んだ者が履修している。また、複数教員によって、固定されたグループ学生にマンツーマン指導を行っている。

学生自身の評価としては、学科平均値よりも高い項目が見られた。特に、質問３「真剣に取り組んだか」、質問４「工夫できたか」、質問５「総合評価」において数値が高く、学生自身が非常に高い意識をもって授業に臨み、取り組んだことがわかる。

教員への評価としては、概ね学科平均値と同等ではあるが、１～２名程度は不十分と回答する項目も見られた。また、自由記述に注目すると、「教員間の指導の差」を指摘するものが２件見られた。

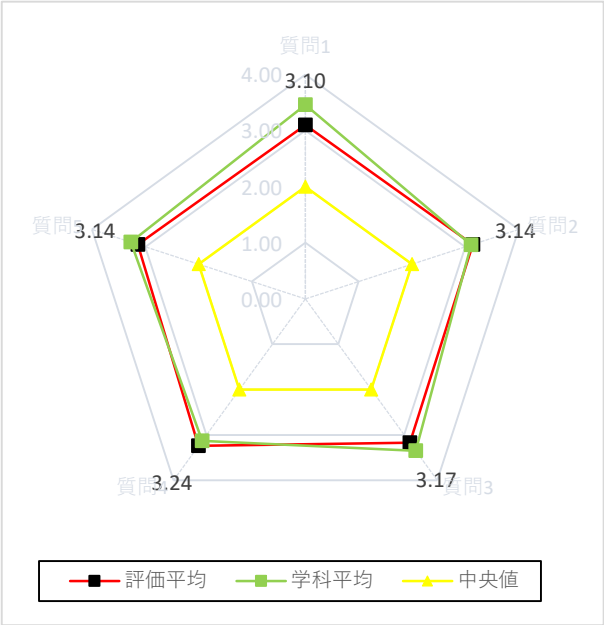
（３）次年度に向けての取り組み

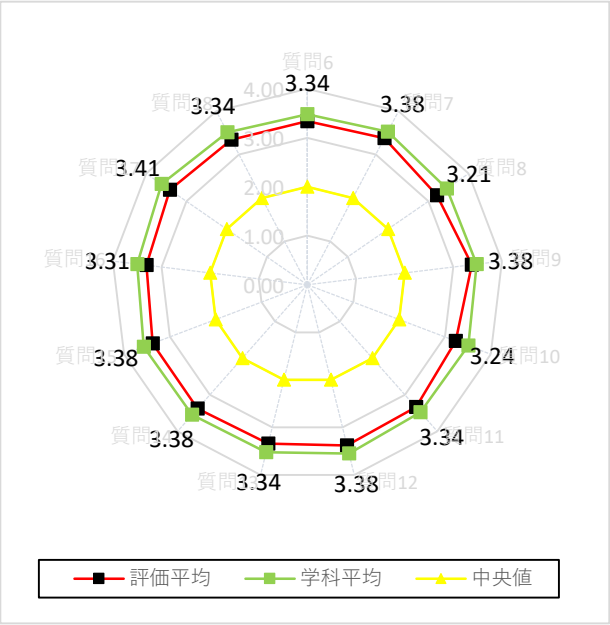
課題曲合格の基準について、教員間において再度明確化する必要があると感じた。確かに教員によっても、仕上げのタイミングや学生の能力（伸びしろ）、意欲などに応じて、臨機応変に評価していることは否めない。しかし、そこを学生全員にわかるように明示しているわけではないので、今後の課題である。

また、こちらの考えとして、同じ教員ができるだけ同じ学生を綿密に面倒をみていくことを優先させていた（１人の教員が責任をもって指導していく意味でも）が、学生の言葉を引用すると「他の先生のレッスンも受けたかった」という場合もあることに気づかされた。あくまでも一部の意見であり、授業編成上全ての希望が通るわけではないが、学生の声をできるだけ拾うことも必要である。今後、教員間で協議していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態生理学	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

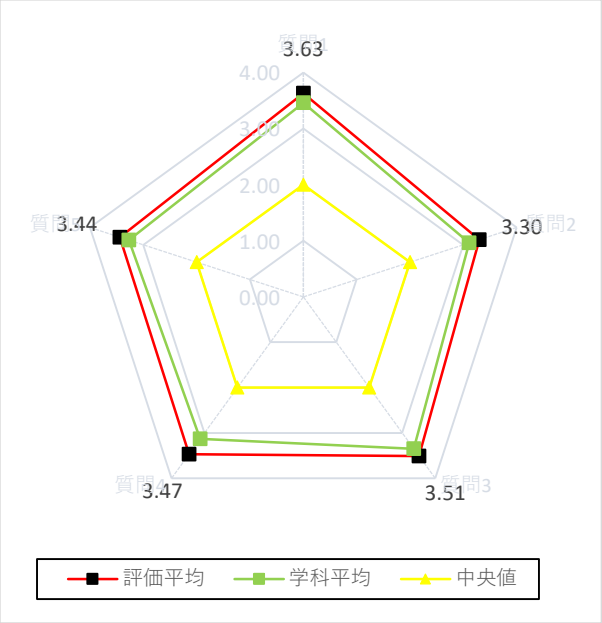
全ての質問に関して、学科平均より低い評価であった。
講義初日に、授業計画表を配布して、一通り講義内容についての説明を行っており、また、時折、口頭での確認も行ってきたつもりであった。学生が自ら、講義内容を理解する工夫をするよう、興味を抱くよう、もっと改善する必要性があると感じた。
視聴覚機器や板書の使い方の評価に関して、ほとんどスライドでの講義であるが、文字の大きさ、イラストなどの見やすさという点で、見直しを行いたい。
マスク着用のため、学生との距離も縮まらないなか、非常勤講師という立場上、学生に接する時間も短く、双方向的なやりとりができなかったことは残念であった。

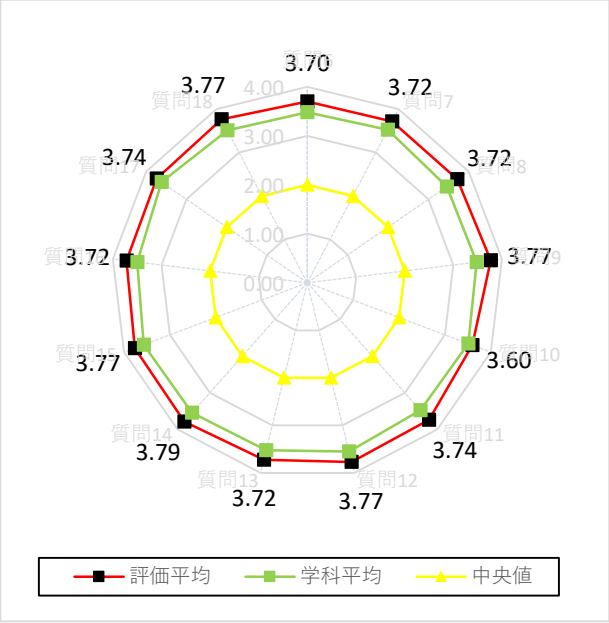
（３）次年度に向けての取り組み

この数年、コロナ禍ということもあり、講義中の学生への質問を極力控えていたため、次年度からは、また、以前のように、学生の反応を見ながら、表情をみながら、声を聴きながら、講義を進めたいと思う。
数字による評価だけでなく、どういう理由で、そのような評価をしたのかを知るために、自由記述で、質問する機会を設けてみようと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		音楽の基礎	50名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

本授業は、ピアノ等の音楽経験や音楽の予備知識を問うアンケートに基づいて習熟度別に「未経験者クラス」「初級者クラス」「経験者クラス」の3クラス編成で行っている。今年度は「未経験者クラス」と「初級者クラス」を担当した。授業名は「音楽の基礎」であるが、内容は、音楽理論が大半であり、楽器経験のない学生にとっては難解な部分もある。しかし初心者の学生たちにも解りやすく、なるべく楽しみながら授業を受けられるよう工夫することが本授業の私自身の目標であり、授業を行う上で常に意識している点である。

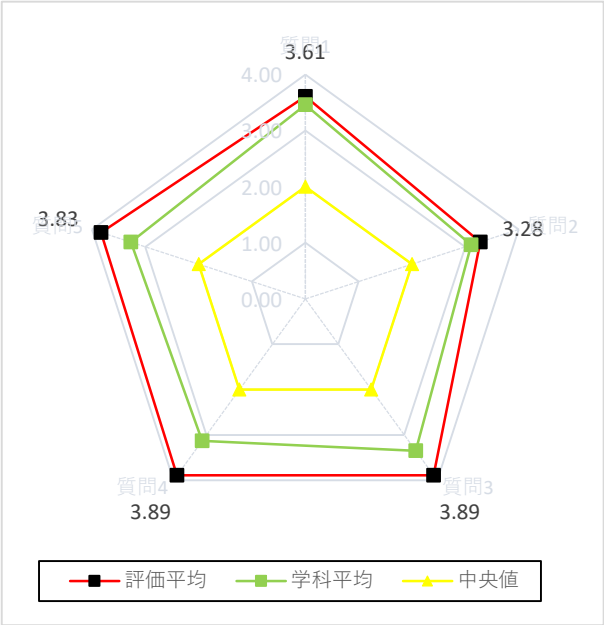
授業を評価する質問6から質問18の13項目について、質問10以外は評価点が学科平均を上回り高評価である。質問10は「視聴覚教材や板書の用い方」に関する問となっている。本授業では楽譜を扱う関係上、視聴覚教材はほとんど用いず、板書によって進めている点で、自由記述に「ホワイトボードが光って見えにくい時があった」という指摘があり、工夫が必要と感じた。また学生が自身を振り返る質問1から質問5の5項目についてもすべてが学科平均を上回りっており、学生が本授業に意欲的に取り組んだことが窺える。

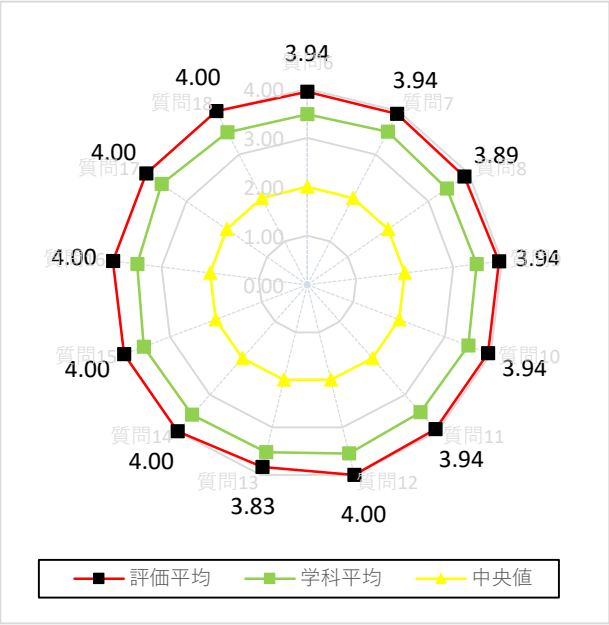
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述には「初心者と経験者を分けたクラス編成が良かった」「音楽初心者にも積み木を使うなどして解り易く授業をしてもらってとても良かった」「楽しく解り易い授業」という担当者としての目標が学生に評価されたことを嬉しく思う。
今年度は概ね高評価を得られたので、次年度もリトミックの手法も用い、楽しみながら理論を学べるよう授業を組み立てたいと考えている。
今年度から3クラス全てで実施した、PCを使用した授業「楽譜作成ソフトの活用」は次年度以降も少しずつ内容を深め、学生がPC上で楽譜を書くスキルを身に付けられるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

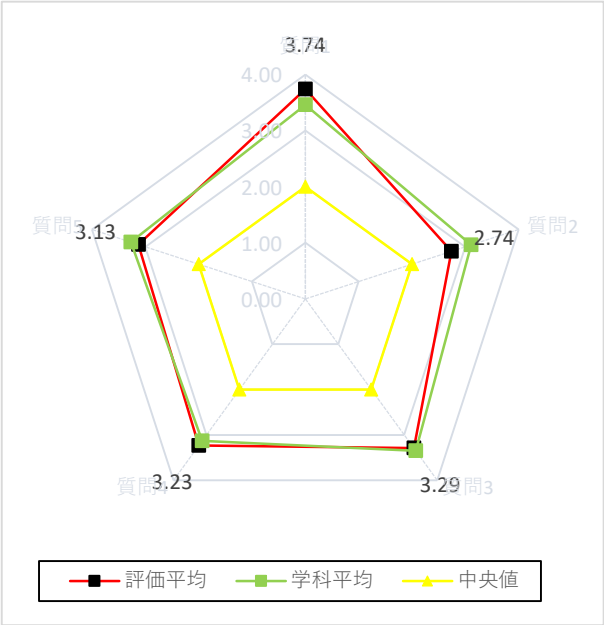
「リトミック」は多くの園で保育の一環として採用されている音楽活動であり、本学では「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の資格取得ができる科目として開講されている。内容は幼児保育の音楽的学びの中でも、特に保育現場での実践に特化した内容であるため、学生の評価は概ね高いものであった。授業内のグループ活動の中では、常に学生自身の発想や工夫が求められることから、学生も毎回達成感が持てるのではないかと思う。また本授業評価において、他の担当科目と比較して、学生の自由記述が大変多いことからも学生の満足度の高さが窺える。毎回の授業での演習後にノート記入の時間を確保し、活動を振り返りつつ、学生自身の言葉で文字に置き換える作業を大切にした点も、学生の満足につながったと考える。学生のコメントは「今後の保育に役立つ」「楽しく学べた」「毎回の先生役の経験で身に付いた」「体で覚えることの大切さが理解できた」といった意見があった。

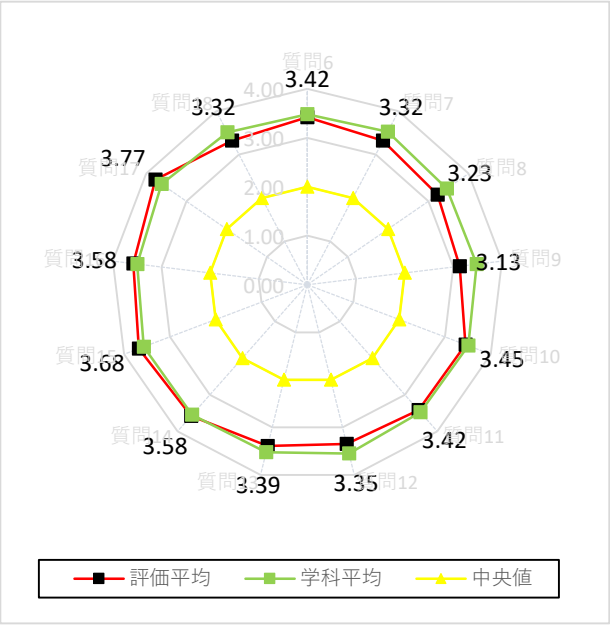
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の履修者は19名と少なかったことは残念であったが、最終的には18名が試験に合格し「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」を取得した。次年度も授業内の小さな工夫を積み重ね、履修者増と全員の資格取得を目指したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅰ	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

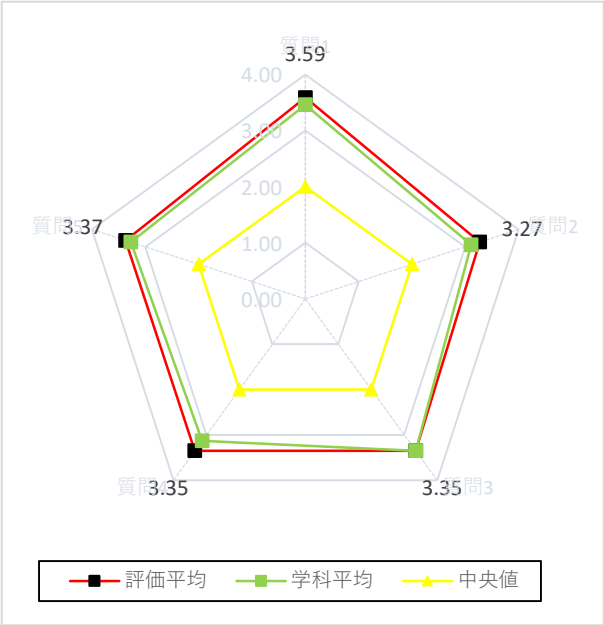
学生による自己評価は、質問１が質問２が学科平均より低かった。このことから学生の出席状況はよいが、シラバスの活用がなされず毎回の予習復習など事前事後の学習が意識的になされていない状況が伺えた。授業評価について学科平均と比べ特に低かったものとして考察すると、質問７では、学生は授業の到達目標を明確に理解しておらず、各章ごとに学生に示している到達目標と授業の展開が学生の理解にしっかりと伝わっていない状況となっている。質問８の興味・関心が持てる工夫、質問９の授業をわかりやすくする工夫とあわせて、学生の理解につながる授業展開の工夫が必要であり、次年度の授業改善に努めたい。

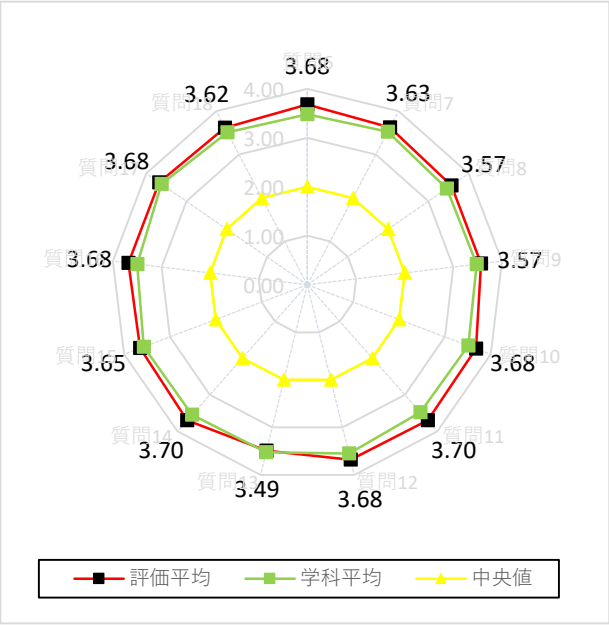
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。コロナ禍も落ち着きつつあり、何らかの学内外活動の企画したい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅰ	73名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

全体的に高評価が並んでおり、学生の満足度が高かったと言える。学生の自由記述を見ても、「分かりやすかった」というコメントが多いのは嬉しい限りである。「分かりやすかった」理由として、「授業の最初に前回の振り返りを実施していた点」や、「配布プリントが分かりやすくまとめてあった」などが自由記述に書かれており、学生に授業のポイントを端的に提示することの大切さを改めて感じた。

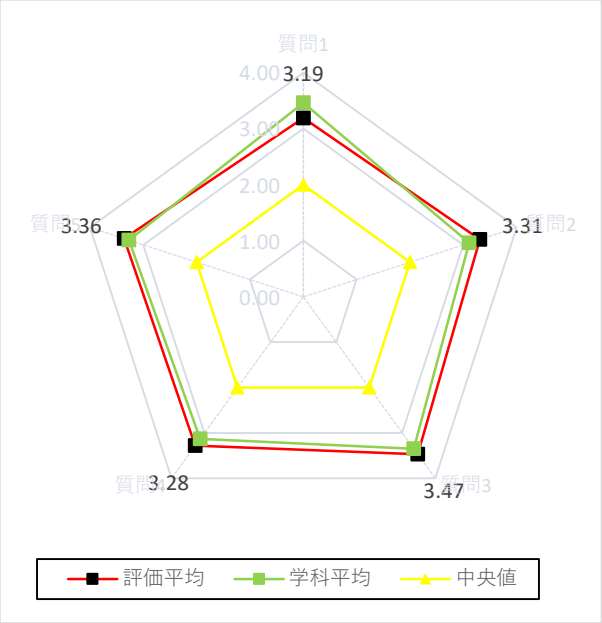
授業の総合評価も学科平均を上回るポイントとなっており、特に問題なく授業ができていたのだと思う。

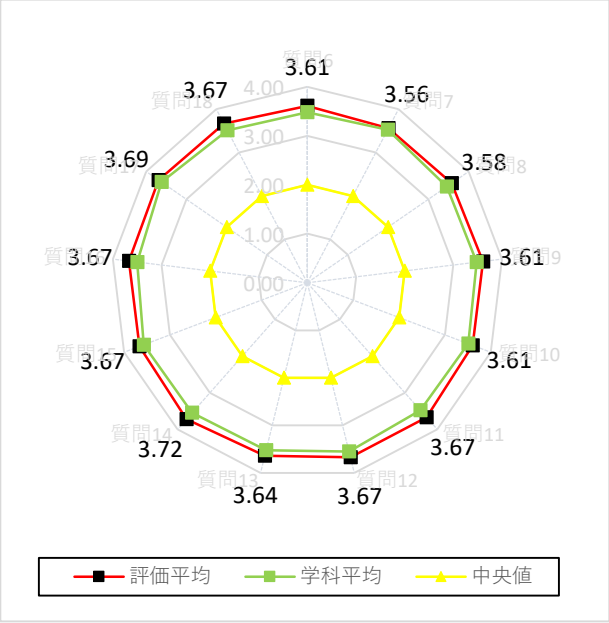
（３）次年度に向けての取り組み

学生の自由記述の中に、「90分という時間は長時間なので、もっと話し合いの時間を作った方が飽きずに授業を受けることができる」という意見があり、ぜひ今後の授業に生かしていきたいと思った。現在は講義科目ということもあり、ともすれば一方的に教員が長時間喋ることも多い。しかし、例えば、「子どもの危険予測」などをグループで出し合って発表するなど、すぐに取り組めそうなテーマもある為、次年度以降はグループワークも取り入れながら学生の理解を促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		乳児保育Ⅱ	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

各項目、学科平均と大差無く高水準での評価となっている。また、授業の総合評価も「3.67」と悪くないことから、学生は概ねこの授業に対して満足していると言える。

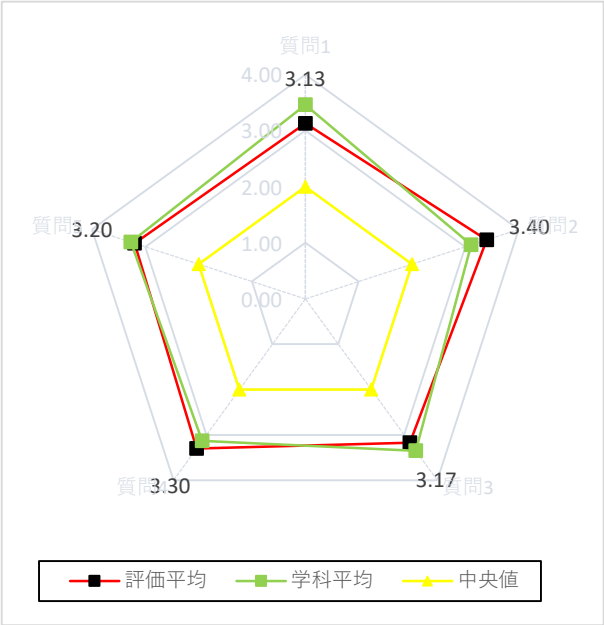
演習科目ということもあり、学生が体験を通して乳児の理解を深める時間が多いため、オンデマンド形式を組み合わせて少人数での授業展開になるよう工夫している。そのことが満足度に繋がっているのではないかと思われる。一方で、質問１「授業は何回欠席しましたか」の得点が学科平均より若干下回っており、授業形態がその都度変わることの難しさも一因として考えられる。

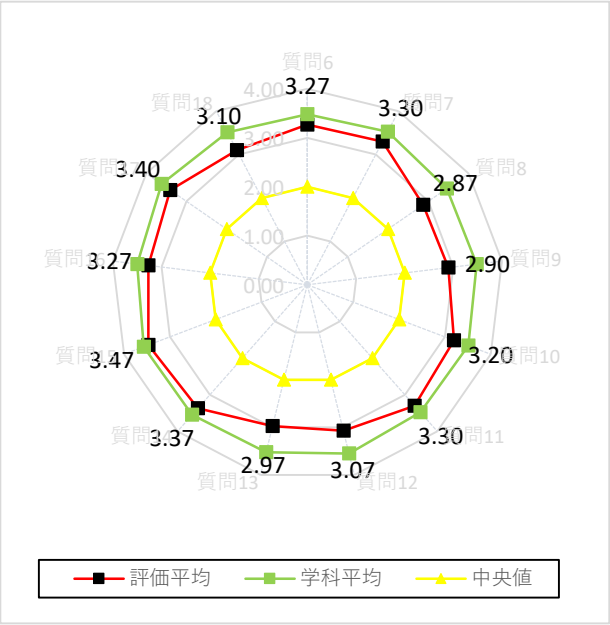
（３）次年度に向けての取り組み

学生からの自由記述が無かったため、具体的な改善策を提示することは難しい。しかし、少人数での取り組みは学生の満足度に繋がっていると授業を通して感じているため、次年度以降も続けたいと思う。また、それに伴う授業形態の組み合わせ（対面、オンデマンド）に関しては初回の授業に丁寧に説明し学生の理解を得るだけでなく、授業終了時に次回予告を入れるなど、丁寧なアナウンスを心掛けていきたいと思う。そのことにより、授業の出席意欲を高めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学実験	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

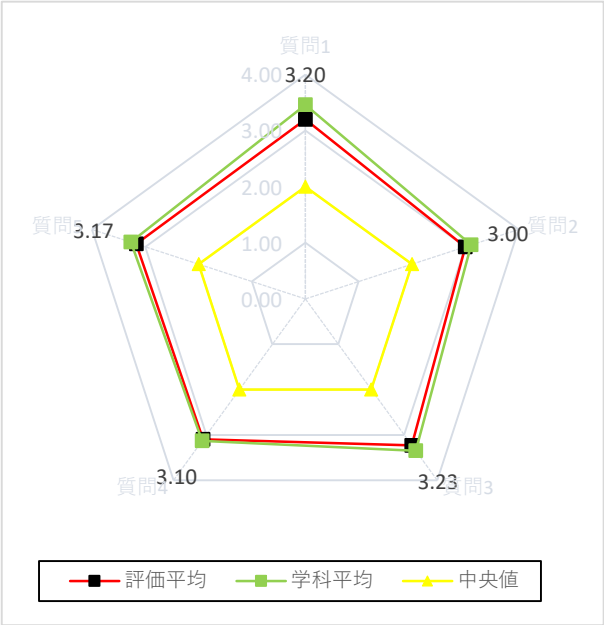
学生の自己評価は、全般的に若干低めであり、授業の出席状況や取り組む姿勢に問題が見られた。
授業全般の評価については、全体的に学科平均より低い結果となった。これは学生の自己評価とも関連していると考えられる。また、今年度より授業時間も1回に3コマ（2回分の授業）に変更したため、実質の授業項目は減となり、このことも影響していると考える。

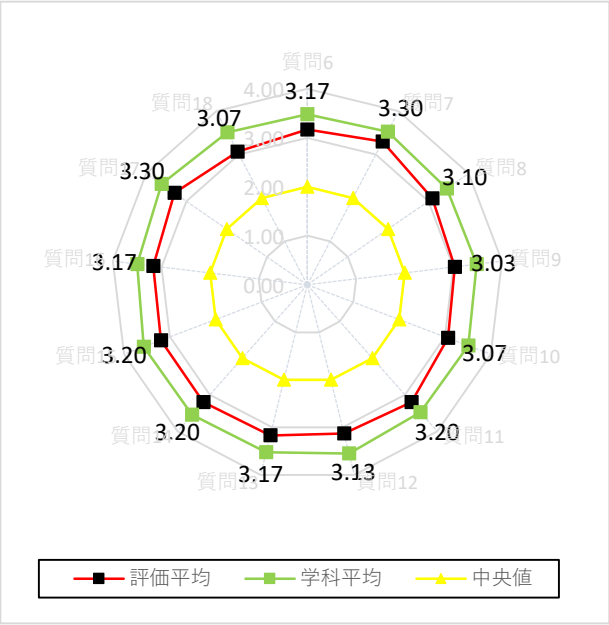
（３）次年度に向けての取り組み

授業時間の変更と共に時間を有効に活用した実習内容に改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅱ（食品加工学を含む）	32名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

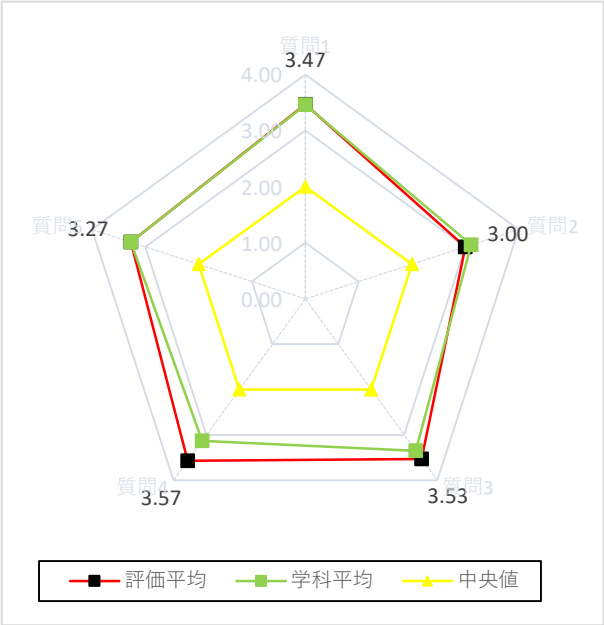
学生による自己評価は、全体的に学科平均より低かった。このことから学生自身の学びに対する意欲の低下が見られる。
学生の授業に対する全般に対する評価は、学科平均と比べ全て低かった。このことは重く受け止め次年度の授業改善につなげたい。

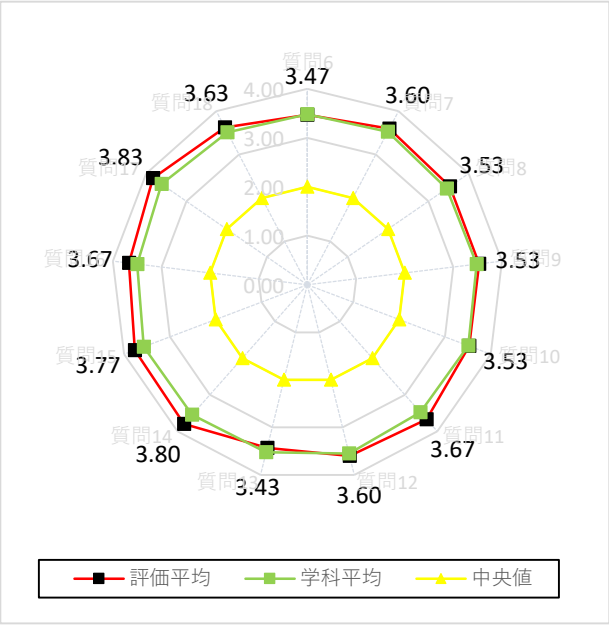
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

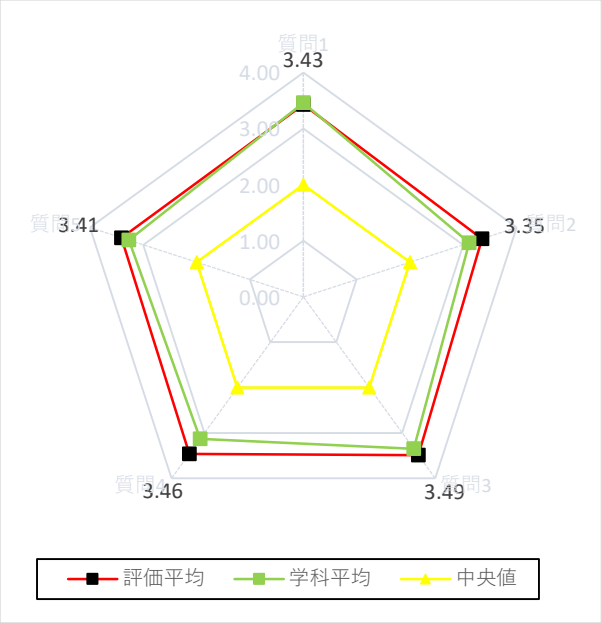
テキストに沿って、オンライン教材を準備して、これに沿って授業を展開している。教材は、授業中の書き込みによってポイントがまとめられるように配慮している。各学習内容に対しては、小テスト課題（オンライン）を適宜配信して、復習が進められるようにした。評価からは、概ね平均点以上の結果が示されていることから、これまでの改善に効果があったものと推測する。一方では、学習内容が専門基礎の知識習得が中心となるものであることから、内容自体が難しいとの声もある。これはおよそ学生の学習に取組む姿勢や予習等にかける時間が少ないことが考えられる。

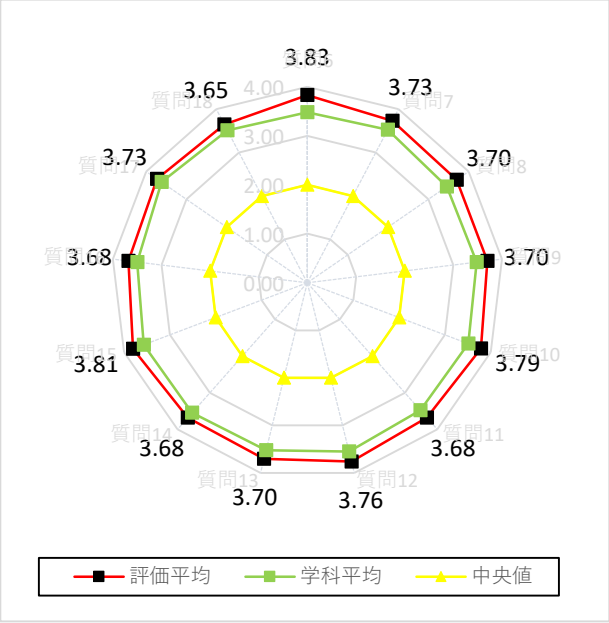
（３）次年度に向けての取り組み

授業自体の改善はおよそ効果を与えてきているので、今後は学習の取組みと内容に対する抵抗感をなくしていくために、個々に応じて声掛けや、難しいと感じている点を聞きとり、直ぐに対応するようにして、疑問をできるだけ持ち帰らないようにして、復習につなげていく工夫をしてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		特別な教育的ニーズの理解とその支援（障害児保育）	72名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

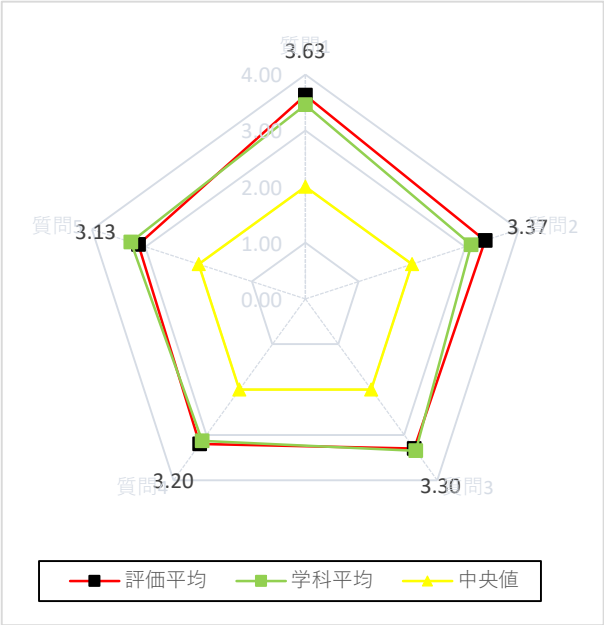
・学科平均との比較（共通教育科目については共通教育科目全体平均との比較）
　概ね学科平均と同様の評価点となっている。
・特に低（高）い項目についての考察
　平均的であるが、シラバスの確認については学科平均よりもわずかに高得点となっている。これは毎回の授業で進度と授業の流れをスライドに表示していることが影響した結果と思われる。また、Q12、Q15についても意識して講義しており、その結果が反映されたものと思われる。
・自由記述についての分析と評価
　自由記述には「分かりやすかったです」「楽しかったです」の2つのコメントのみだった。積極的な意見が見受けられた。
・授業全般に対する反省点
　コロナ禍ということもあり、座学が中心となっていた。もう少し演習形式を導入したいが、カリキュラムの内容からすべての領域を説明するのに時間がかかってしまう。もう少し授業方法に工夫が必要と思われる。

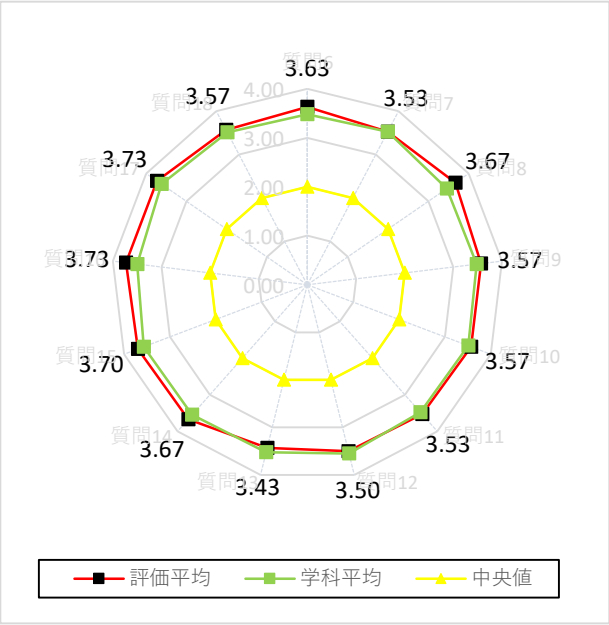
（３）次年度に向けての取り組み

全体的に高得点ではあるが、学科平均と比べて同等程度である。前もって授業準備や資料配布を行っていることが功を奏したと言える。次年度は、これを継続しつつ、恒常的に教材研究等に努めていく。
また、この科目は障害をテーマとしている為、最近の幼児教育・保育における重要性や必要性についても講義していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		病態栄養学	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

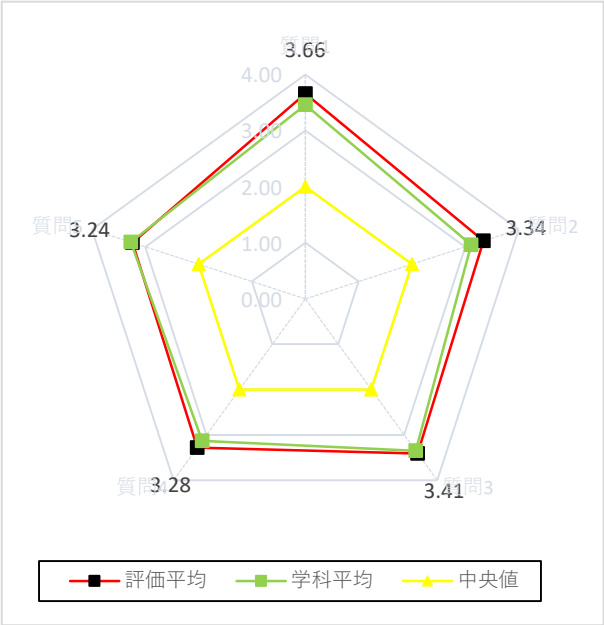
対象学生は、1年次履修教科の病態生理学と同じである。病態生理学→病態栄養学と、講義内容に深く関連性があり、また、2年目の受講ということで、学生の慣れもあるのか、病態生理学の学生評価よりか、若干高かった。少しでも、記憶に残るよう、学生の知識の定着につながるよう、1年次に使用した教材やスライドの一部を繰り返し活用した。講義中は、相変わらずﾏｽｸ着用であったが、お昼休みの黙食が解除され、また、短い時間内ではあったが、学生からの質問にも答えることができ、学生との距離が少し縮まった。

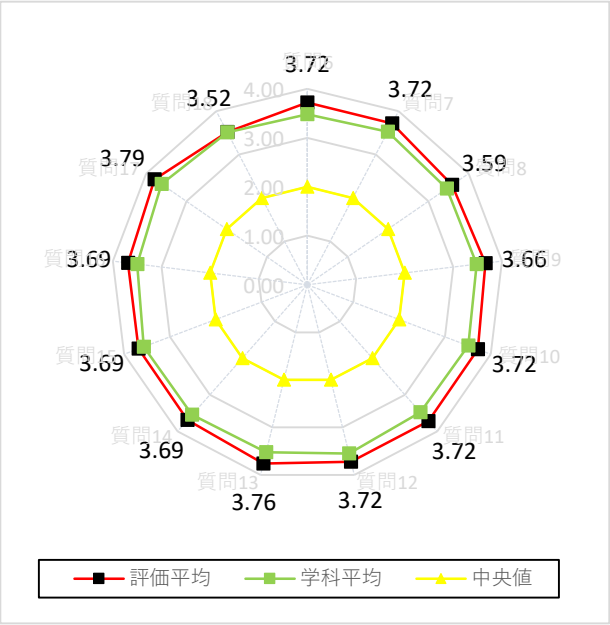
（３）次年度に向けての取り組み

この数年、コロナ禍ということもあり、講義中の学生への質問を極力控えていたため、また、以前のように、学生の反応を見ながら、表情をみながら、声を聴きながら、講義を進めたいと思う。
数字による評価だけでなく、どういう理由で、そのような評価をしたのかを知るために、自由記述で、質問する機会を設けてみようと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

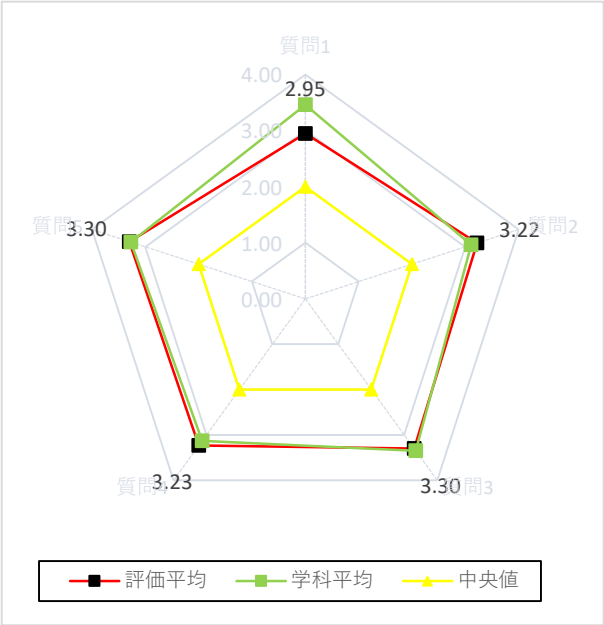
総合評価は3.61であった。質問6～18について学科平均を上回っており、ほとんどの質問項目で7割以上が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。

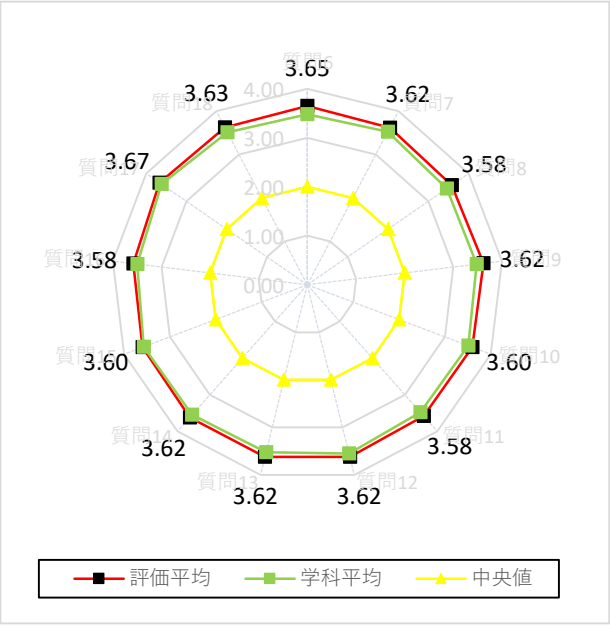
（３）次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。自由記述には、「難しい内容だがスライドが細かくて分かりやすい」、「一つ一つの疾患についての説明が分かりやすかった」、「テストは難しかったがいつも分かりやすい授業をしていただいた」と書かれていた。本授業は学生が苦手とする基礎系の分野が含まれるため、いかにして学生に分かりやすい内容にするかが授業展開を考える上での課題である。ここ数年少しずつパワーポイントの作り替えを進めた結果、まだ十分なものとは言えないが、少しは分かりやすいものになってきたのではないかと思われる。今後も教材の作り替えを進めながら、より理解度がアップするように、パワーポイントだけではなく適宜動画なども活用して授業展開を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子育て支援	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

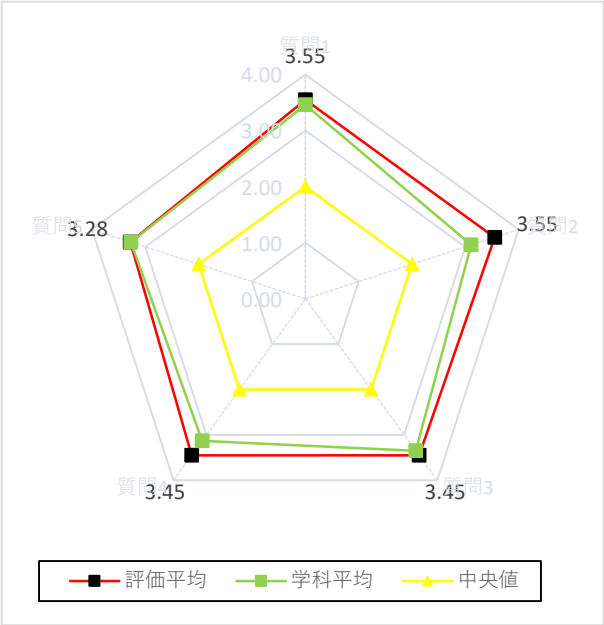
学科の平均とほぼ同程度の評価である。項目によっては若干下回る項目もあるが有意ではないと思われる。自由記述については、特にAクラスから「先生方の授業では1番私が知りたい虐待のことについて学ぶことができたので興味津々で話しを聞きました。」「先生方の話や例えが分かりやすく想像することができましたが、実際に虐待などの現場に自分が居たらどう対応できるのか不安もあります」「学んだことを現場の先生方を見ながらもっと深く学んで行きたいです。」「とても授業が分かりやすかったです。」といったコメントがあった。このことからスコアとしての評価はそれほどではないものの学生の習熟度としては一定の効果があったと考えられる。

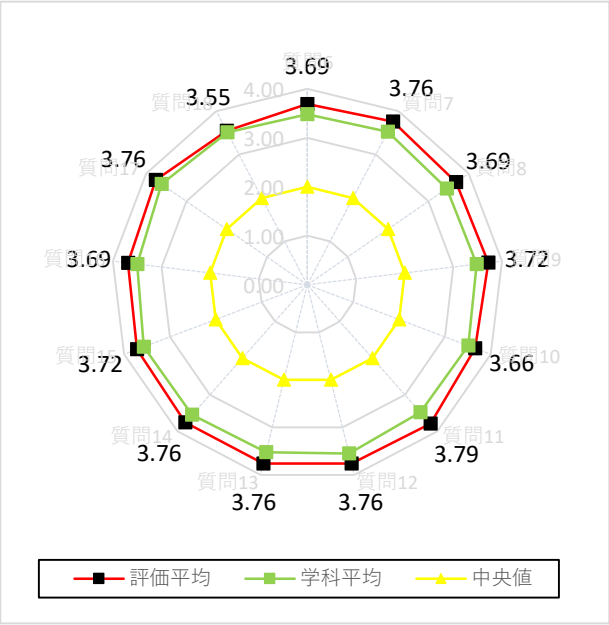
（３）次年度に向けての取り組み

今回の評価で気になったのがスコアは平均を若干下回っているが、いくつかのコメントについては評価が高かった。このことから学生間で授業に対する感受性が異なる（理解度も異なる）ことが予想される。次年度に向けて、全体の学生の理解度が高まるような工夫（言葉の使い方等）に配慮していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		臨床栄養学実習	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

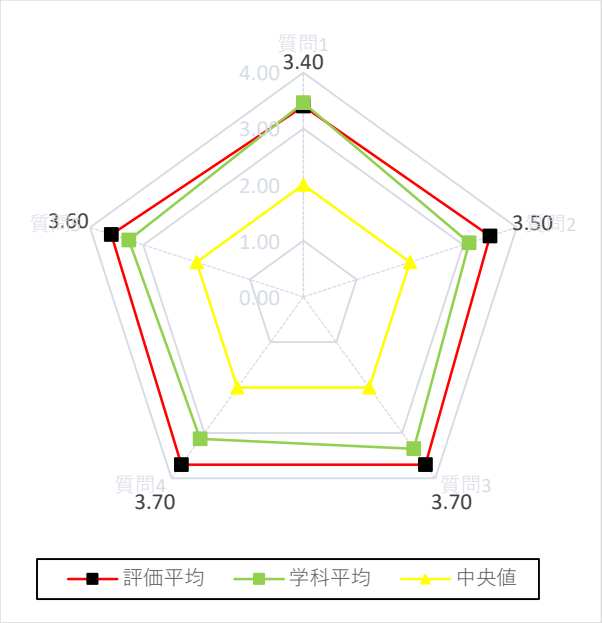
総合評価は3.64であった。質問6～18について学科平均を上回っており、ほとんどの質問項目で7割以上が評価4.0であった。概ね高評であったと思われる。

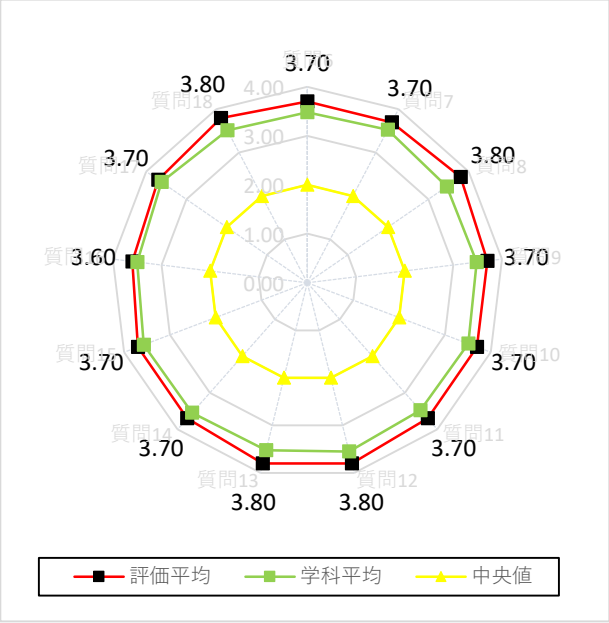
（３）次年度に向けての取り組み

概ね高評であったと思われる。本授業は、1，2回目に調理の基礎の振り返りを、その後、常食の献立作成や常食から治療食への展開法、特別食の調理実習を柱として構成している。授業に対する学生の自由記述には、「色んな病状にあった食事をまなぶことができた」、「お米の炊き水や乾物の戻し率などこれまではよく分からなかったけど、実習で実際にやって理解できました」、「実習を通して学ぶことができてよかった」、「テストがすごく難しかったけど実習はとても楽しかった」と書かれていた。実習では講義で学んだことをベースに実際に体験をして理解するということが大事だと思われるため、学生が良かったと評価した事については継続して実施していきたい。また、献立作成や常食から特別食への展開については、提出させた課題をしっかりチェックをして良い部分、改善した方がいい部分を具体的に伝え、学生の学習意欲を高め理解に繋げていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		総合表現	23名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

この科目は、表現・音楽コースの卒業研究「実技発表会」への出演準備のための時間という位置づけである。受講者は、２年生と共に活動し、発表会に向けての技術・意欲を向上させていくのが目的である。質問項目としては、実際の授業に相応しないものもあったと考えられるが、学生自身の評価としては、概ね学科平均値を上回っているのがわかる。

教員への評価としてもすべての項目において平均的あるいは平均値を上回っており、特に質問８「興味・関心が持てる工夫」、質問１２「声の大きさ」、質問１３「授業の進む速さ」、質問１８「総合評価」において高い値を得られていた。

自由記述は特に見られなかった。

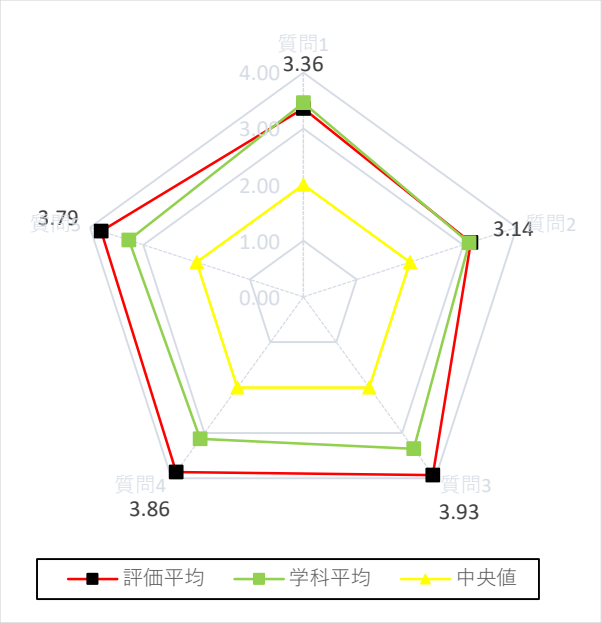
（３）次年度に向けての取り組み

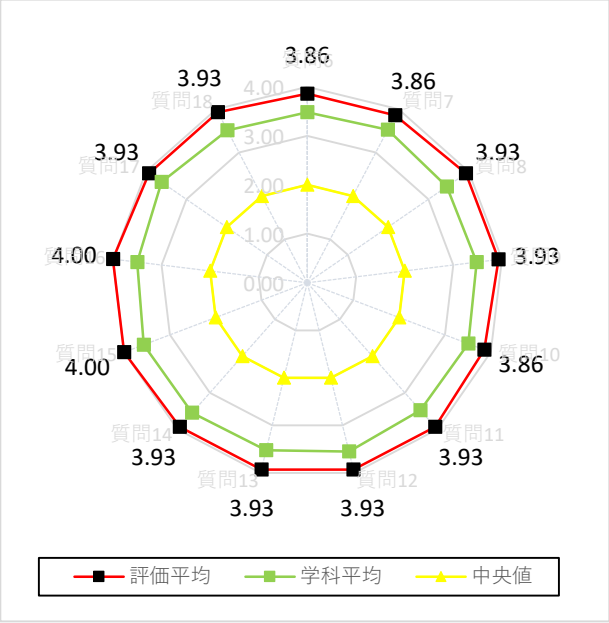
回答は全受講者から得られなかったが、大半の学生がこの科目に意欲的に取り組み、授業のやり方としてもある程度満足のいくものだったと考えられる。次年度は、新たな１年生が受講し、今回の学生たちが主導していく立場となる。ここで上級生から受けたアドバイスや練習の方法を元に、次代へと受け継がれていくため、教員はそれらの軌道修正をしつつ、学生を主体とした学びが深まるよう見守っていく必要がある。

専任教員と非常勤講師とで成立している授業であるため、今後も教員間の連携も深めながら、指導にあたりたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		歌唱表現	20名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

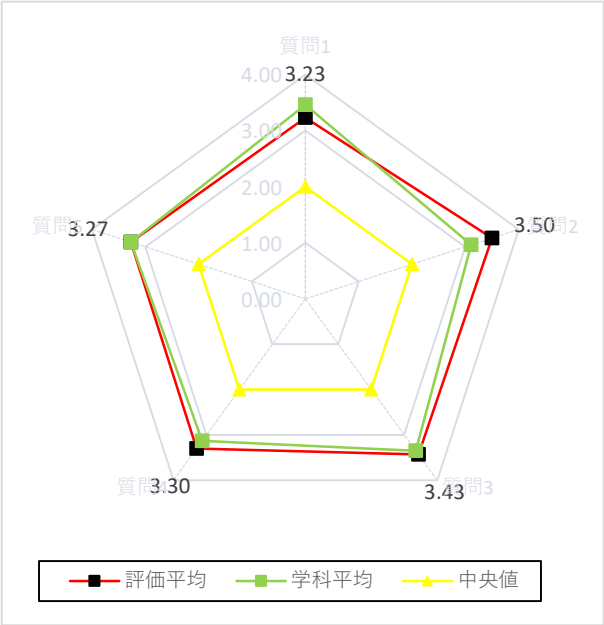
本授業は「歌唱」を通して、表現することについて考える内容であるが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、マスクを着用して歌唱するという点で「歌うことを心から楽しむ」ことができなかったことが悔やまれる。本授業の目的である「表現力の向上」（顔の表情も含め）についてもマスク着用により、難しさを感じながら授業を進めることとなった。しかし学生の評価は概ね高いものとなっている。
自由記述には「とても楽しく取り組むことができた」「ミュージカルでも生かすことができる内容もあり、真剣に取り組めた」「歌う時の基礎知識をイメージしやすく学ぶことができた、以前より歌うことに自信を持ち楽しく取り組めている」などの記述がみられ、本授業を通して、歌うこと、表現することに対して受講以前に感じていた苦手感や恥ずかしさを払拭し、歌唱に対する印象が好転したと感じた学生がいることには嬉しく思った。

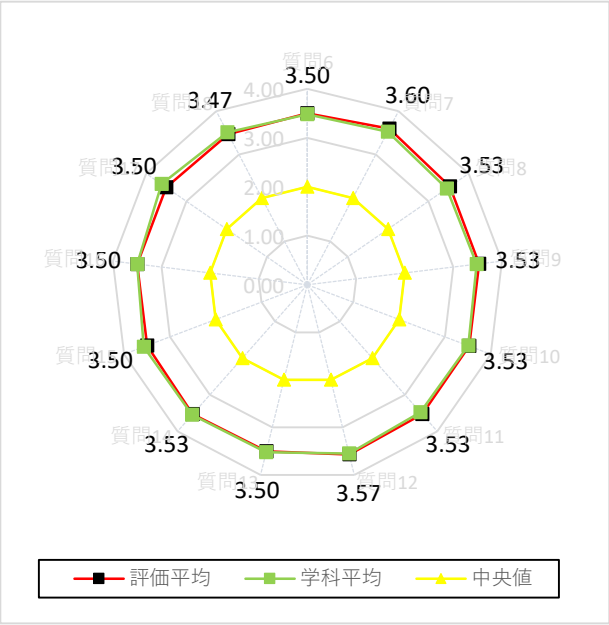
（３）次年度に向けての取り組み

歌唱は目に見えず成果が判り難いが、学生が自身の歌唱力が向上したことを実感できるような声掛けを多くしたい。教材として過去に取組んだミュージカルの楽曲を用い、個人やグループで取り組む。発表後に実際の実技発表会のミュージカルの歌唱部分を視聴し、自己課題や求められる表現を見出し、実技発表会に向け学生一人ひとりが具体的な目標を設定できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養学実習	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

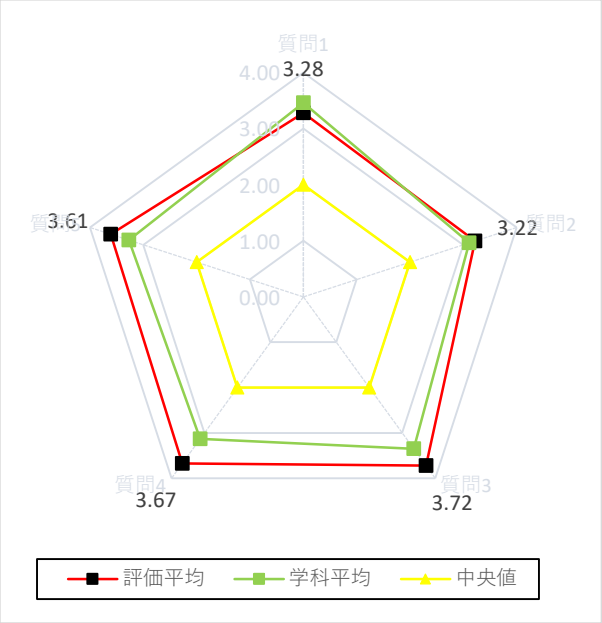
総合評価は3.49であった。質問6～18については学科平均並みであった。

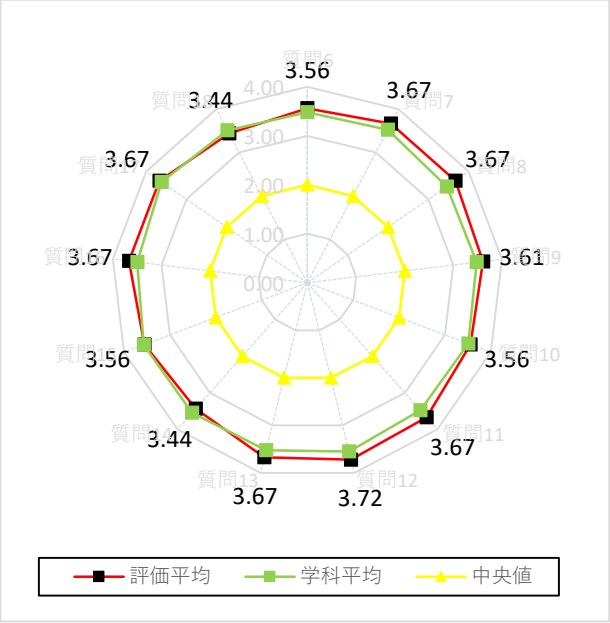
（３）次年度に向けての取り組み

学科平均並みの評価であった。本授業は、複数科目間の垣根を越えた広義の実習を開講している。授業内容は主に食事摂取基準（2020年版）とその活用について、栄養ケアマネジメントについて、ＰＯＳについて等他の授業内で教えることが出来なかった内容を組み合わせて構成している。授業内容が栄養士というよりも管理栄養士が実務で行うようなものであるため学生には難しかったのかもしれないが、栄養士として理解しておかなければいけない内容であるためこれからも実践に則した授業内容を心がけたい。自由記述には「先生の説明がすごく分かりやすかったです」と書かれていた。説明は分かりやすくても理解できたというところまでには至っていないと思われる。使用教材等の改善を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		器楽表現	20名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生自身の評価については概ね学科平均値に近い数値を示しているが、質問３「真剣に取り組んだか」、質問４「自分で工夫したか」、質問５「総合評価」の３項目においては、上回っている。本科目は主に実技活動を行い、学生それぞれが発表会に向けて試行錯誤してきたため、その達成感が表れていると言える。

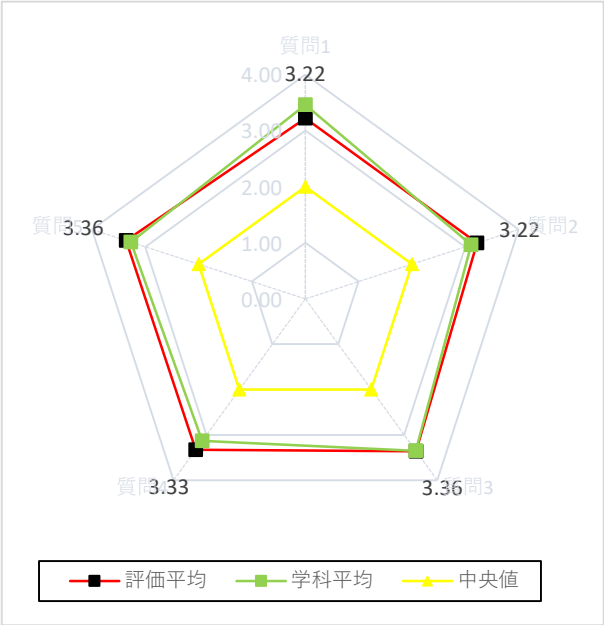
教員の評価についても、概ね学科平均と同様であるが、質問１４「学生の質問に誠実に対応したか」、質問１５「公平に学生に対応したか」、質問１８「総合評価」の項目において、若干下回っているのがわかる。これらについては、学生間の交友関係が多少影響しているように考えられ、実際に受講態度がグループ間によって差があることを、担当者は当時から感じていた。両者の言い分をバランスよく反映させることに難しさを感じる場面が多々あったことは事実である。

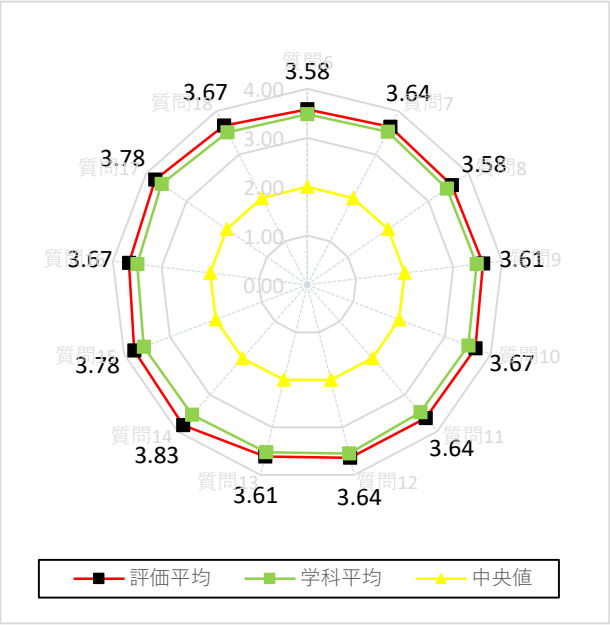
（３）次年度に向けての取り組み

この科目は教員２名で行っているが、うち１名は１５コマ中５コマのみの担当であり、大半は専任が指導している。２名で担当しているメリットを生かし、学生の能力が十分に発揮できるように情報共有をより密にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解Ⅱ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

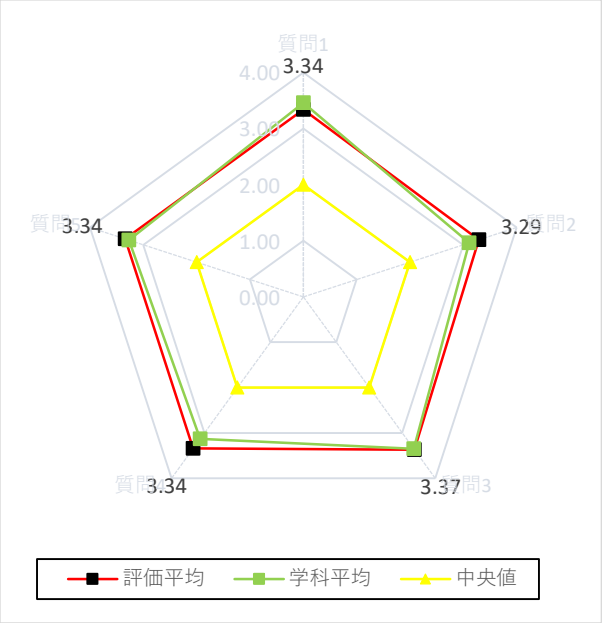
sシラバスの活用、学生側の工夫、自己評価が低い。シラバスの説明は最初にしているが、何となく聞いているのか認識が少ない。一番高かった質問１４の学生からの質問に誠実に対応していることでそう思うと答えたのが８６％であった。質問１９からは１０人が質問ないところに答えている。評価が低いのは質問８興味が持てる工夫、わかりやすい工夫であった。次に声の大きさ速さであった。コメントにはわかりやすかった、一番楽しかった、眠くなかった、毎回のテストも楽しい、難しいがいい勉強になった、わかりやすい工夫と説明があったと書いてくれていた。全員がそう思えるようにさらに工夫をしていきたい。

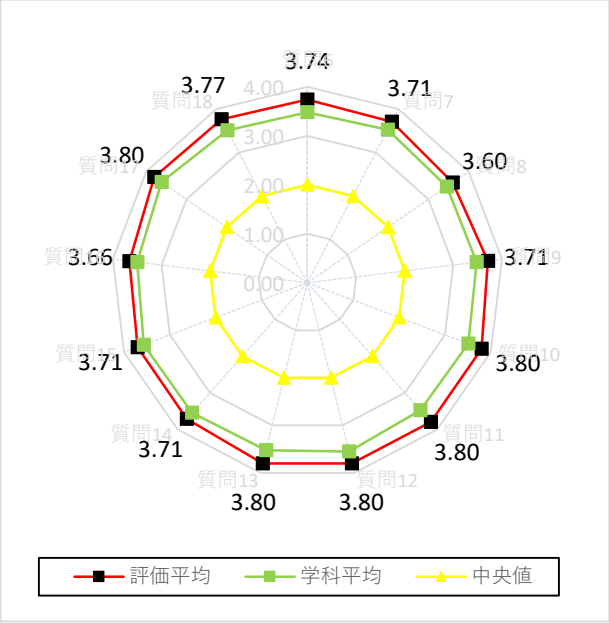
（３）次年度に向けての取り組み

教科書に沿って、また必要な知識も加え、視覚的に分かりやすく、また、国試に向けて、覚えるべきところは覚えることができる工夫をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅰ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

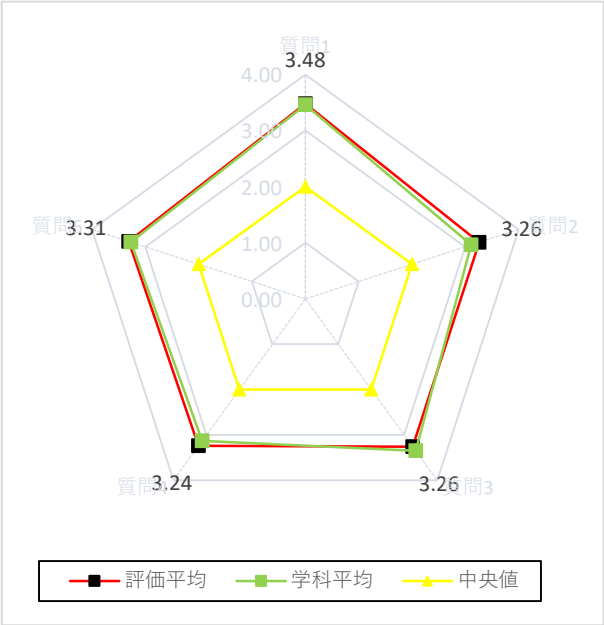
この科目は、認知症の基礎を学ぶ科目である。おおむね平均を上回る結果となった。
認知症について学ぶ学生も多く、また留学生も多いことから、出来るだけ簡潔な説明をこころがけた。
また、学生の理解度を確認しながら、授業スピードの調整や説明の仕方などを工夫した。
結果、質問11～13、17で特に高い結果となった.

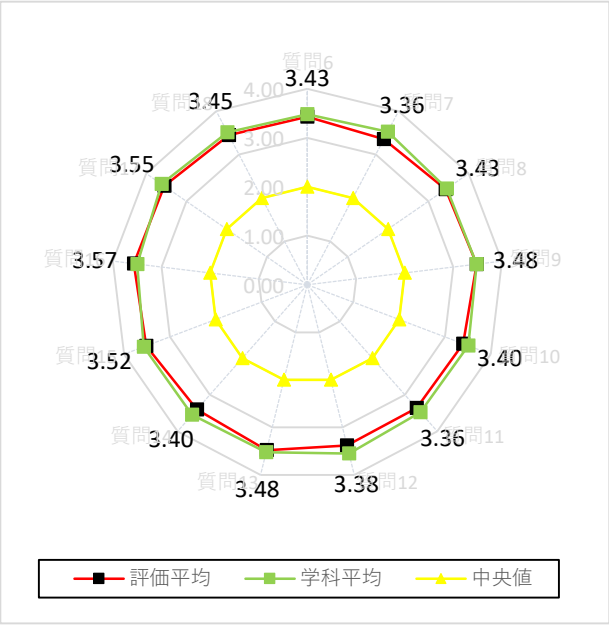
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様に、学生の理解度を確認しながら授業スピードの調整や配布資料、説明方法の工夫等を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅱ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

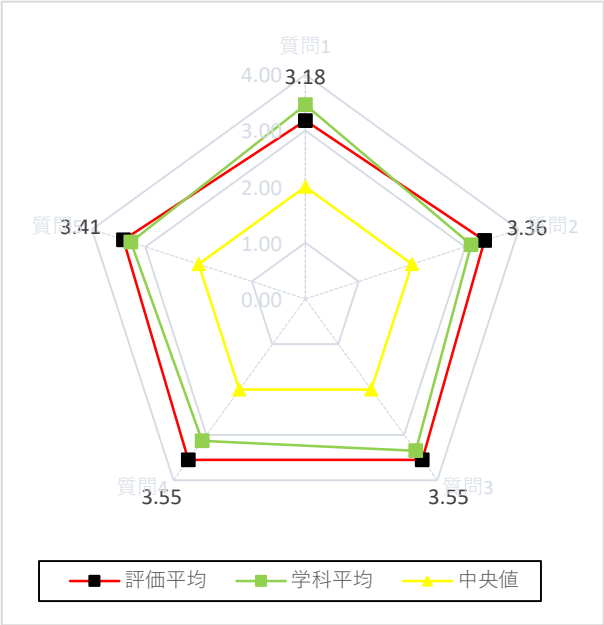
質問1～質4の結果から、学生自身は、シラバスを活用しながらある程度積極的に授業に取り組んだと感じていることがうかがえる。一方、教員については、質問7「授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか」の評価は、学科平均よりやや低い値となっている。留学生が多いクラスで、特に日本語の理解度を確認しながら授業を進めるなど教員なりに配慮したつもりではあったが、十分ではなかったことがうかがえる結果である。同時に、留学生への対応に時間を取られるあまり日本人学生への質問等への対応が不十分であったことも考えられる。

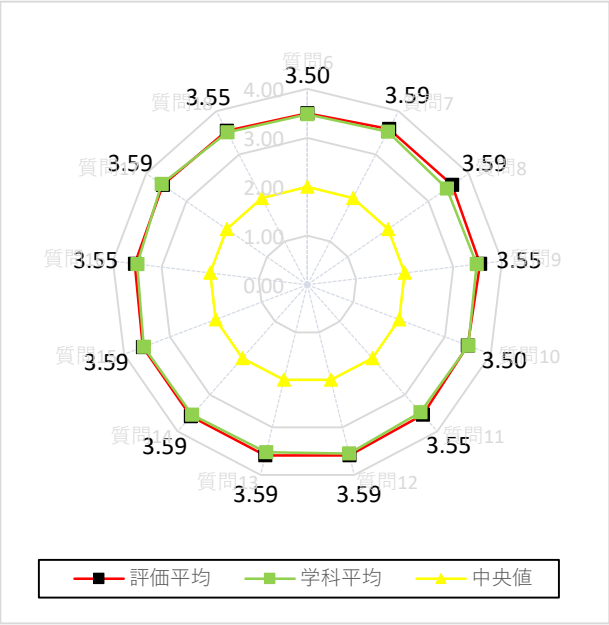
（３）次年度に向けての取り組み

当該授業は留学生が大半を占めるクラスであるため、どうしても留学生への配慮に重きを置きがちであったが、授業中に話す際の声の明瞭さや話すスピードは、留学生にとって十分といえるのか、本人たちへの確認をさらに増やす必要があるだろう。また、配布資料もフリガナをつけるだけではなく、言葉の意味なども付け足すなどの工夫をしていきたい。同時に、日本人学生への授業中の声掛けやフォローも忘れず行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		こどもの遊び	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

回答率は73%と、前年度と比較して低い結果となった。授業中の声掛けの徹底が必要だった。

学生自身の評価については、項目によっては学科平均値をわずかに下回るものもあったが、ほぼ学科平均値と同等の結果となった。特に質問３「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」、質問４「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」の項目については、高く評価をしている学生が多く、親子いきいき広場を開催するにあたり、毎時間自身の課題を持ちながら、各自がアイデアを出し合い、工夫を凝らしながら活動していたことがうかがえる。

教員への評価については、一部学科平均値を下回るものもあったが、概ね学科平均値と同等の結果となった。

（３）次年度に向けての取り組み

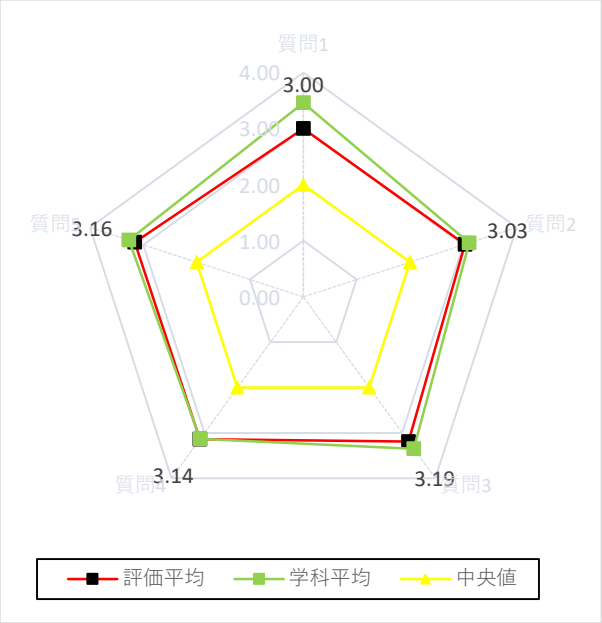
本科目は複数教員で担当する科目であるが、引き続き教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。

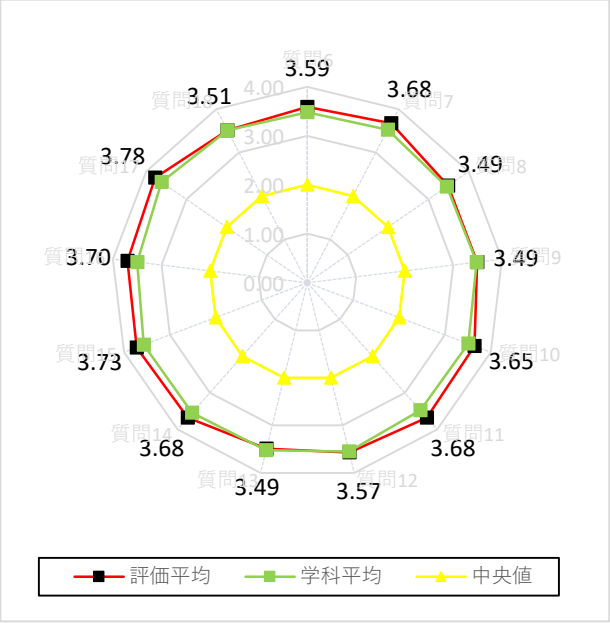
基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。

本科目は「親子いきいき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅰ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

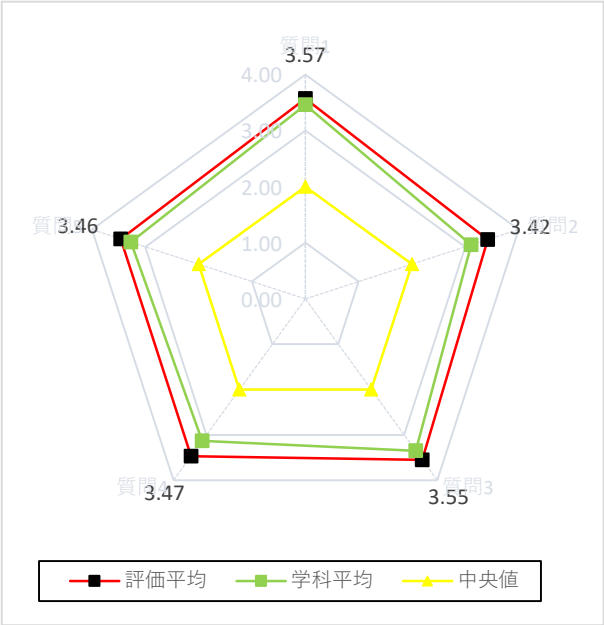
学生による授業評価結果は、概ね学科平均と変わらなかったが、質問１については平均を下回っていた。それは、本科目の担当教員が他学科ということもあり、履修意識について差が出ていたと思われる。
また、逆に質問１１、質問１７については、学科平均を上回っていた。電子教科書のみでは使いずらく、毎回レジュメを作成し配布していためだと考えられる。テキストのみではなく、オリジナルの資料を作成し配布することを心掛けた。

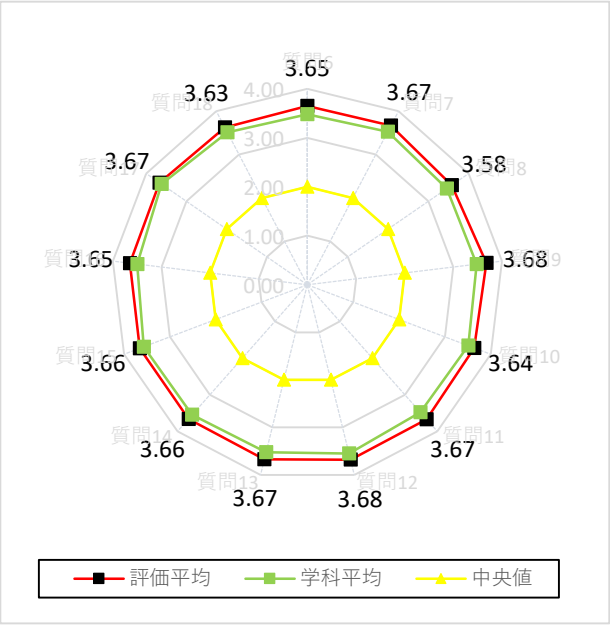
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述においては、「難しかったが、興味をもてた」等の記載も見られた。本科目は、留学生が半数以上を占めるため、日本語表記や話すスピードなどがわかりやすく伝わるように工夫した。
しかしながら、留学生においても、よく分かったという学生とそうでなかったという学生の両方がみられたようである。一概に留学生といっても、日本語能力に開きがあるため、この点に関してグループワークを設けたり、ディスカッションを通じて、なるべく学生の個別性にそった授業ができればと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅰ	142名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

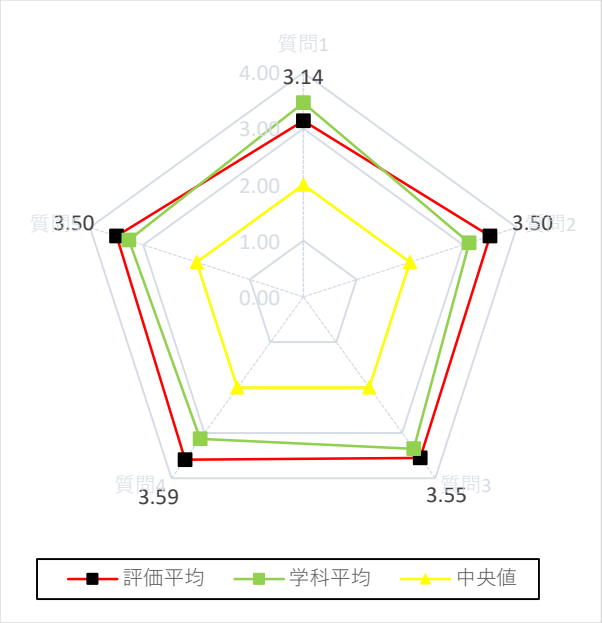
全体的な評価としては高い水準で学科平均となっている。今年度も昨年度より引き続きコロナ対応を実施して、早くからの指導に取り掛かっていた。資料等未提出の学生も散見されたものの大きな問題なく授業は進行した。自由記述には「ありがとうございました」というコメントが散見され、実習の準備と振り返りとして学生が本授業の意図をある程度は理解していることがうかがえ知ることができた。

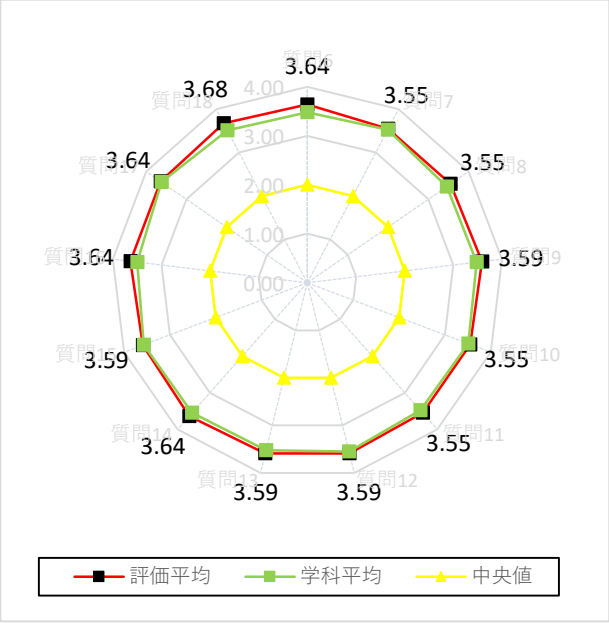
（３）次年度に向けての取り組み

学生の自由記述は「特にありません」「楽しかったです」など、概ね満足している回答が多かったが、その中に「スライドがあったので分かりやすかった」という記述があった。学生にとっては「教員の説明を聞く」という聴覚のみではなく、視覚的にも提示するということが必要なのだと気づかされるコメントである。次年度以降もスライドを活用し、多くの学生にとって「分かりやすい」、「理解を深めることのできる」授業づくりを心掛けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育カウンセリング	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

回答率が前年度と比較して低い結果となった。授業中の声掛けの徹底が必要だった。

学生自身の評価については、項目によっては学科平均値をわずかに下回るものもあったが、ほぼ学科平均値と同等の結果となった。特に質問４「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」の項目については、高く評価をしている学生が多く、親子いきいき広場を開催するにあたり、各自がアイデアを出し合いながら工夫を凝らしながら活動していたことがうかがえる。

教員への評価についても、概ね学科平均値と同等の結果となった。本科目は３名の学科教員が空き時間も含め細やかに関わりながら、また学生の声を拾いながら進めていくことで、学生の理解度や満足度に繋がるよう取り組んだ。複数教員がいることでの指導の差がでないような工夫をしてきたが、その点については学生の声がなかったため拾うことができなかった。

（３）次年度に向けての取り組み

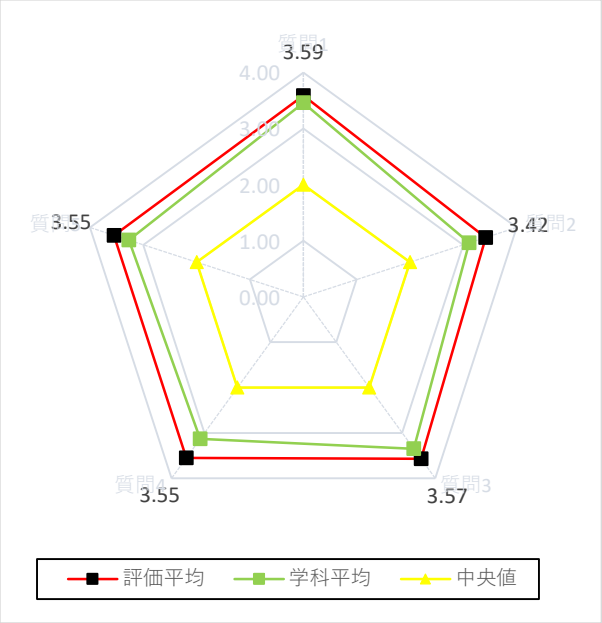
本科目は複数教員で担当する科目であるが、引き続き教員間での分担や役割を明確にしながら、グループの話し合い等に細やかに入り込み、学生一人ひとりがやりがいを感じられる取り組みにしていくよう工夫する。

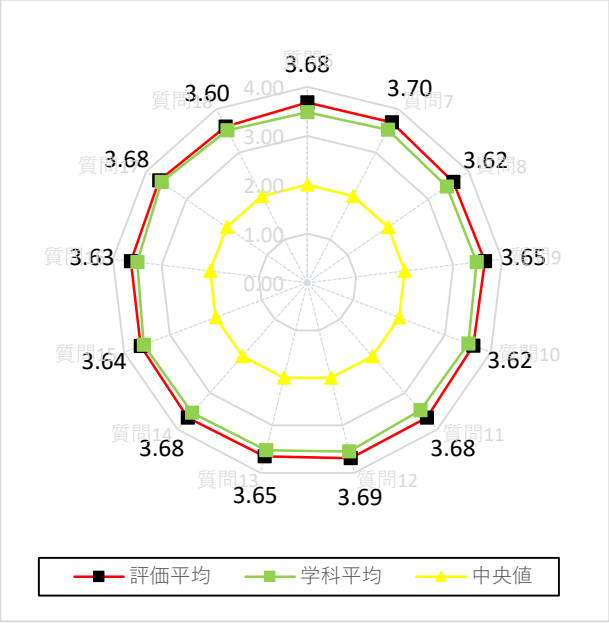
基本的に学生による主体的な活動ではあるが、より良い取り組みになるよう適切に指導を行う。その際、学生に指導する内容の意図、意味、背景を具体的に示し、学生が納得しながら取り組めるようにする。

本科目は「親子いきいき広場」に係る科目である。適宜、シラバスに記している到達目標や、本科目を学ぶ意義について確認する時間を設けながら、学生の理解につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅰ（保育所・施設）	140名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

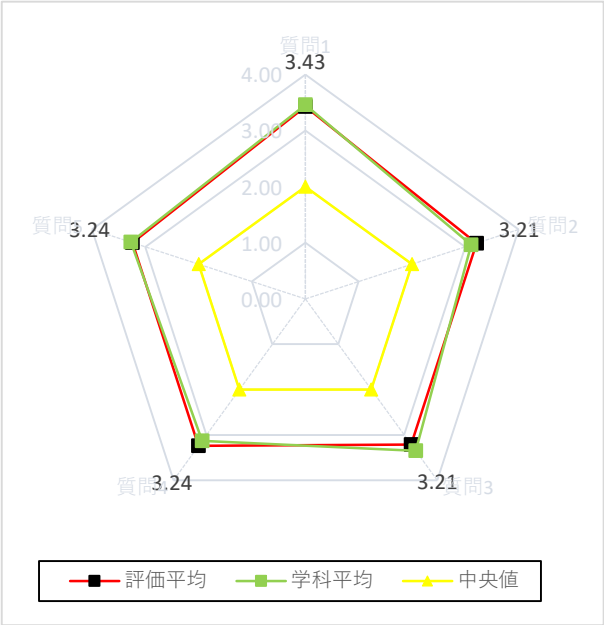
全体的な評価は平均よりも高くなっている。本科目は学外実習の為、評価項目と一致していない。
自由記述には「保育実習が経験になった」「施設実習で学ぶことがあった」と少ないながらもコメントがあった。それぞれに充実した実習であったことがうかがえる。

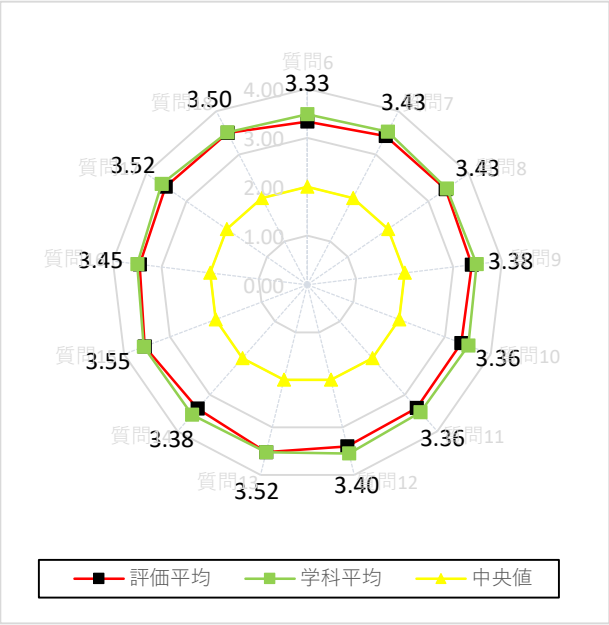
（３）次年度に向けての取り組み

本年度に引き続き、実習園や実習施設との連携を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解Ⅱ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

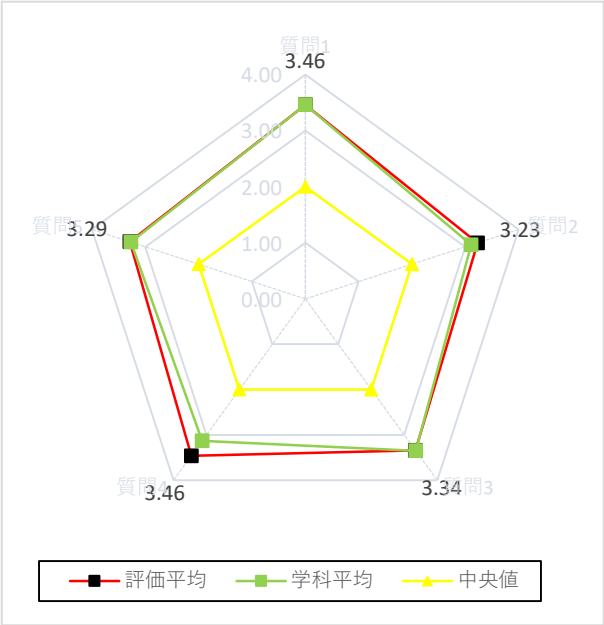
全体的に、平均を下回る結果となった。
この科目は、各種障害についての特徴や症状、支援方法について学ぶ科目である。
授業で取り上げる障害数も多く、資料等視覚的にわかりやすくするために工夫を行ったが、講義スピードもやや速い傾向であった。
これらの事から、全体的に、平均を下回る結果となったと考える。

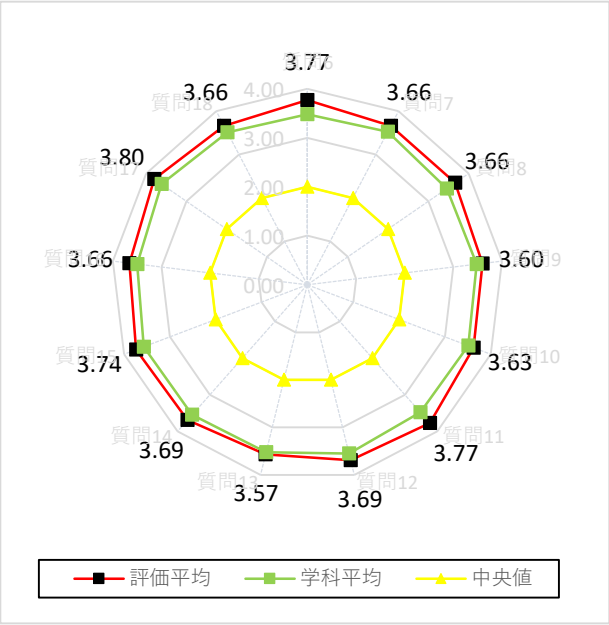
（３）次年度に向けての取り組み

学生の理解度を確認しながら授業スピードの調整や配布資料、説明方法の工夫等を行っていく。
また、学生に対し、わからないところや質問がないかなど、こまめに声かけを行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅠ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

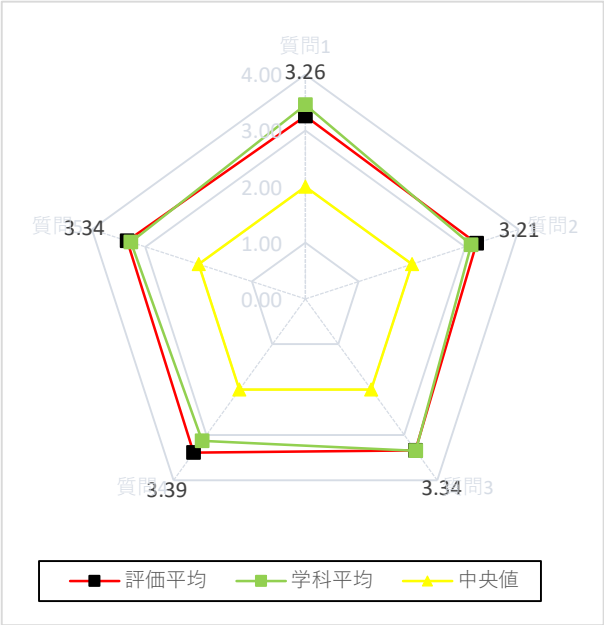
留学生のほとんどが海外で遠隔授業を受け、いつもより画像を増やして説明をしていますが、対面でないことが影響しているのか、今までより、難しい、もっとわかりやすくとのコメントもありました。毎回の小テストについてはいい評価があります。遠隔授業でオンデマンドでも見れたためか出席についてはよかった。質問１９以降質問がないのに答えた人は１３名。評価が高かったのは質問１７の教員の熱心さ、低かったのは質問９のわかりやすくする工夫であった。ほとんどの項目に１の評価が１名いた。

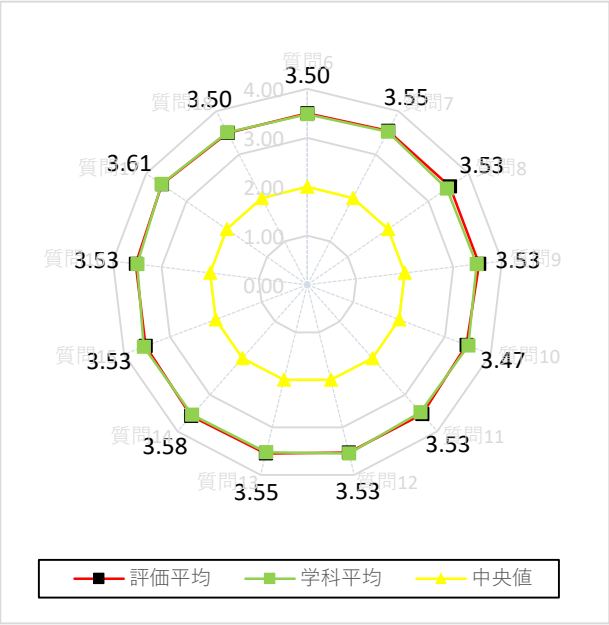
（３）次年度に向けての取り組み

今後遠隔で行うことが再度あれば、さらにわかりやすい説明、わかりやすい日本語での授業を行っていく。学生が授業評価を行うときにきちんと質問を読んで答えるように声をかける。途中で授業に関する意見を聞くことに努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	54名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

各項目、学科平均を若干下回っているものの、概ねポイント3.5以上であり、大きな問題は無いと思われる。1番点数が低かった項目は「視聴覚機器や板書の使い方」に関するものである。この授業に関しては学生の実習に向けての教材作成が多くの時間を占めているため、あまり板書をする機会や、視聴覚機器を用いての授業の機会が無かった。このことが質問10の得点が低い原因だと思われる。

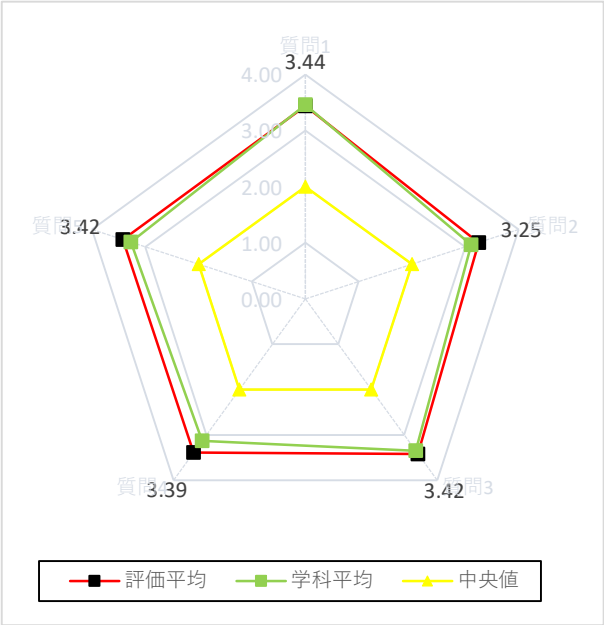
自由記述を見ても特に問題だと思われる記述は無かった。「実習の振り返りのグループワークが楽しかった」という意見があり、実習の事前事後指導を担うこの科目の目的は達成されたものと思われる。

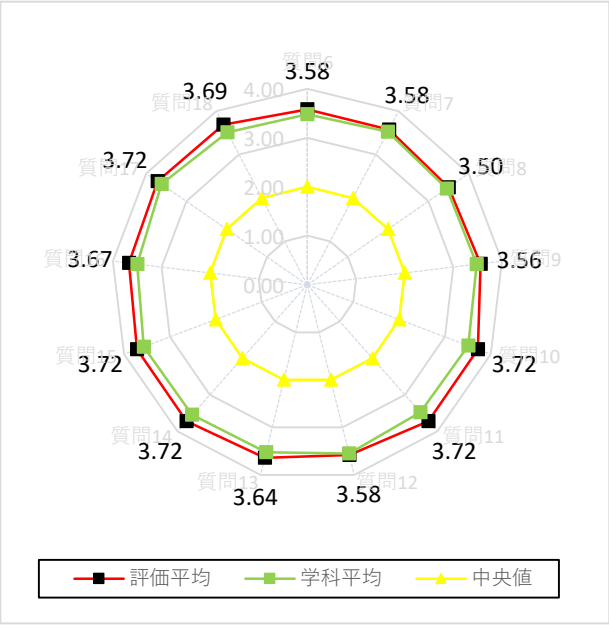
（３）次年度に向けての取り組み

前述したが、「実習の振り返りのグループワークが楽しかった」という意見が自由記述に書かれており、学生にとって自身の体験を振り返るだけでなく、互いの実習体験を共有するという「学び合い」の時間も大切であることを改めて感じることができた。次年度以降も、実習に向けての教材作成や、事後の振り返りを通して、学生同士が切磋琢磨しながら学び合える環境を提供していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅡ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

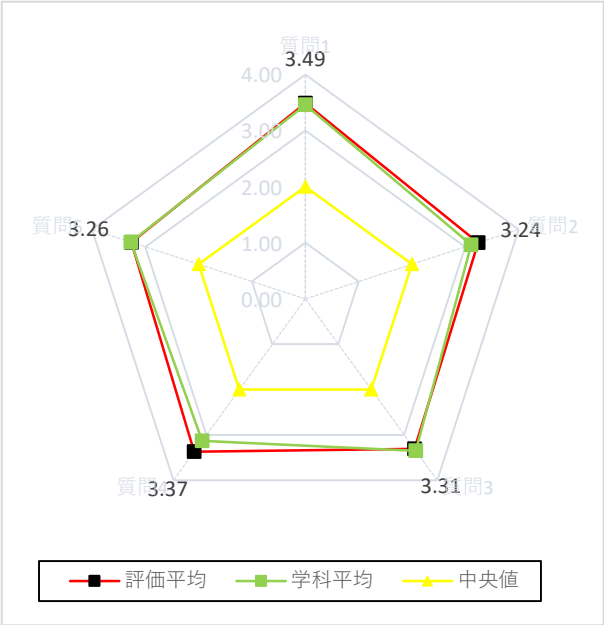
自由記述には、小テストがよかった、簡単な言葉での説明についての記述があった。シラバスの活用は少なく、質問がないところにも回答している学生が１０名いた。評価が高かったのは質問１７の教員の熱心な取り組みであった。低かったのは関心が持てる工夫であった。教える量が多く、一つの事項に長く時間がかけられないことも有り、図等は使って、プリントの空欄を埋めるタイプにはしていたが、その知識がどう生かされるかがわかることで知っておくべき知識であるという認識をもって積極的に参加できる工夫が必要と思われた。

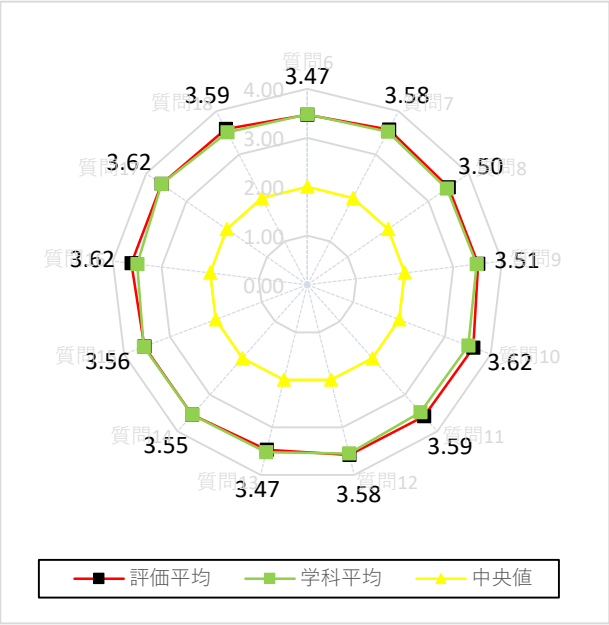
（３）次年度に向けての取り組み

国試や現場での知識の必要性を加え、質問時間を少しとるか、小テストのときに記述してもらう。図や絵だけでなく、ホワイトボードを使っての説明等も加えていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅢ	80名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

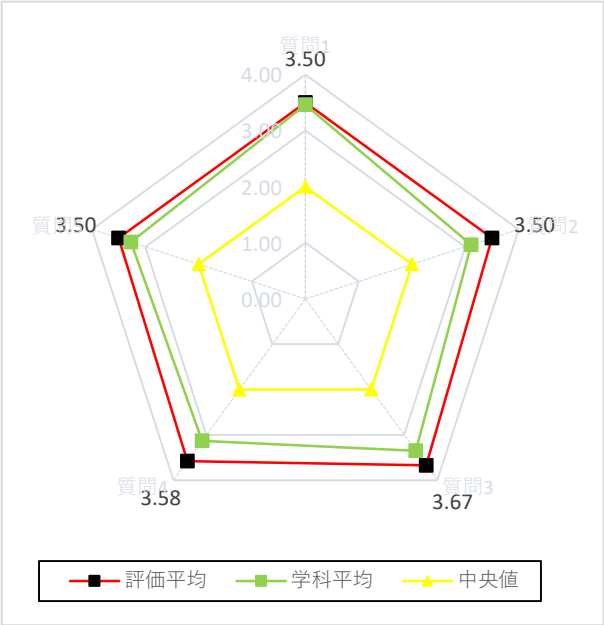
自由記述では、テストで緊張した、一杯知識を得られた、理解できた、大変だったが勉強になった、よかったとの記述があった。同じ教科の３つ目であり、シラバスの活用は大変少なかった。全体的に評価は低く、良いは半数ほどであった。質問１９以降、質問がないのに答えていた学生が２０名も見られた。

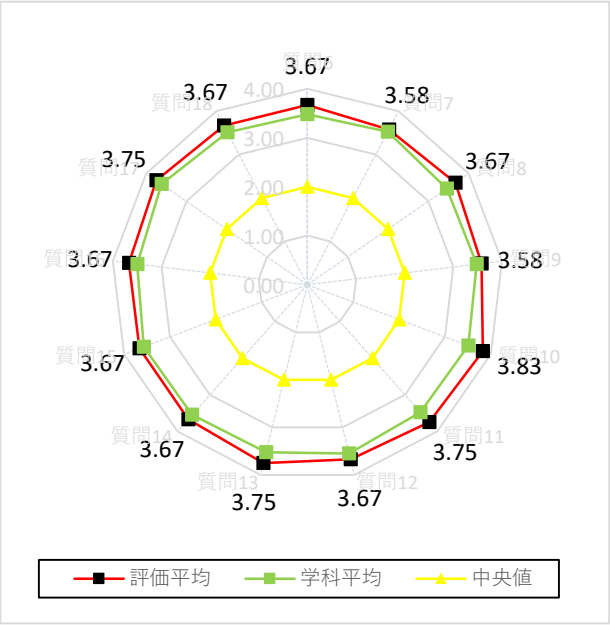
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスをしっかり活用できるように書き換えていく。シラバスの確認をする。アンケートに答える時期に、しっかり質問を読んで答えるように声をかける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	16名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

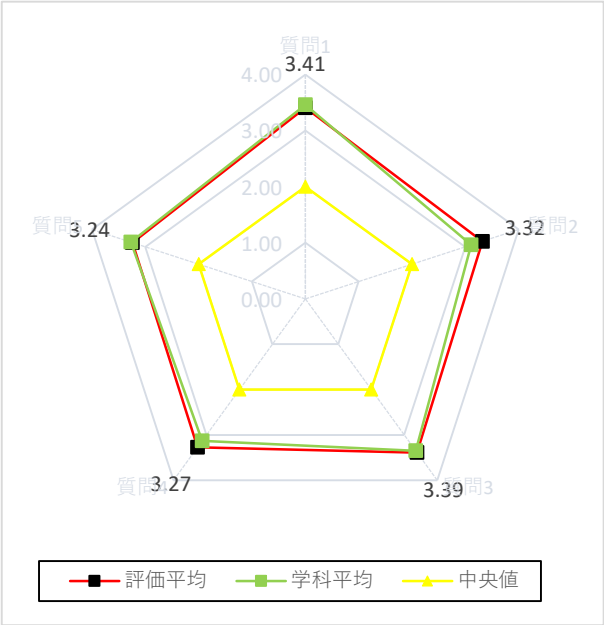
全体的な評価は学科の平均とほぼ同様である。質問1～5について評価が高いことから、学生自身が実習に向けて積極的に準備を進めてきたことがうかがえる。本科目はグループワークがメインとなり、最終的にはプレゼンも行っている。そのことが要因となり、一人ひとりに動機付けが出来てきたと予想される。

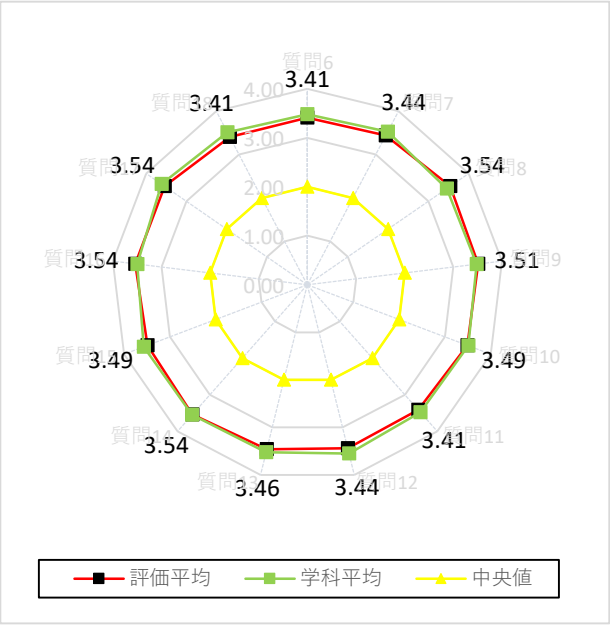
（３）次年度に向けての取り組み

今後もコロナ対応をしつつ、事前の準備、情報の整理などを能動的学習の中で実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみⅣ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

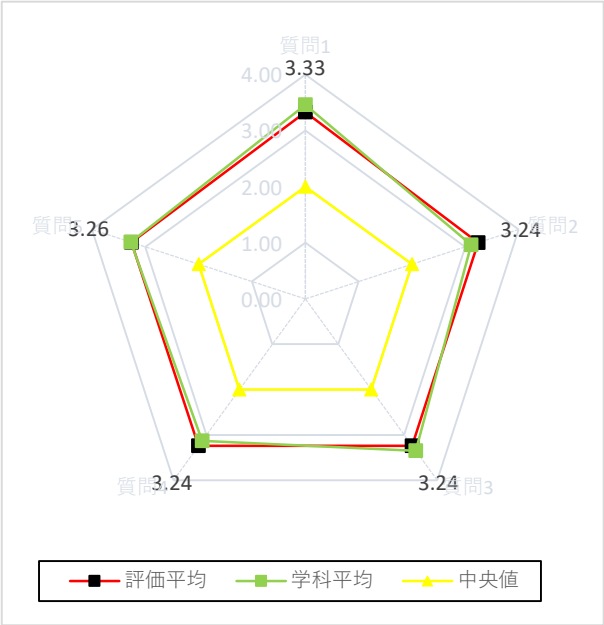
自由記述には、難しかった、国試勉強をしたい、良かった等があった。毎回の小テストについての疑問もあったが、その日に学んだ知識を記憶に残すためのものであることの説明が不足していたとみられる。質問１９以降質問がないのに答えた人が１８名と多かった。良いの評価は少なく、一番高かったのは質問１４の学生の質問に対する誠実な対応であった。配布資料話すスピード、到達目標の明確化を検討する必要がある。

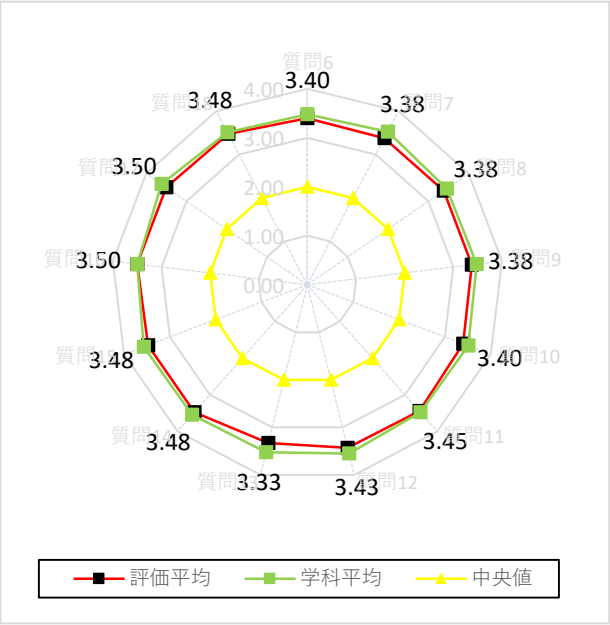
（３）次年度に向けての取り組み

全体的にもう少し教科書に沿って進めていく。国試の内容との関係も伝えていく。わかりやすい説明に心がける。学生のアンケート時に、質問をきちんと読んで解答するように声掛けを行う。途中で評価をしてもらい修正する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅠ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

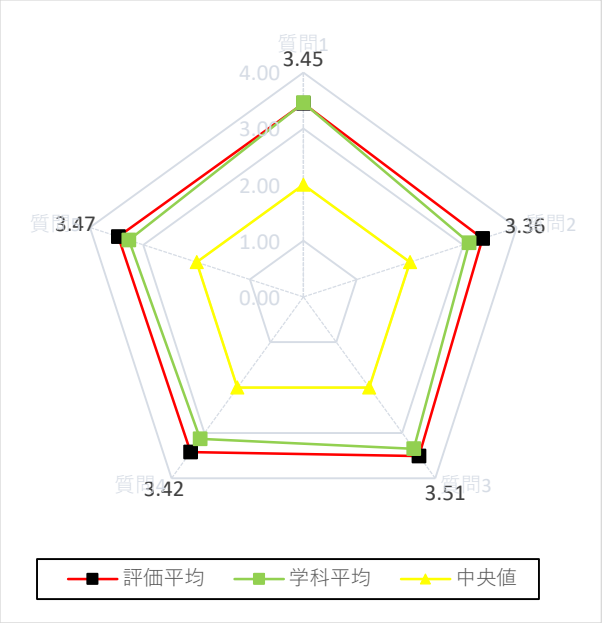
自由記述にはよかった、理解できたとの記述があった。質問１９以降、質問がないに答えている学生が１８名。他の教科ともほぼ一緒であった。良いは全体的に低く、特に授業の進む速さが速いとの質問１４が低かった。２のやや悪いと答えた学生が３名いたマイナスの理由の記述がなかったので理由を深く知ることはできなかった。

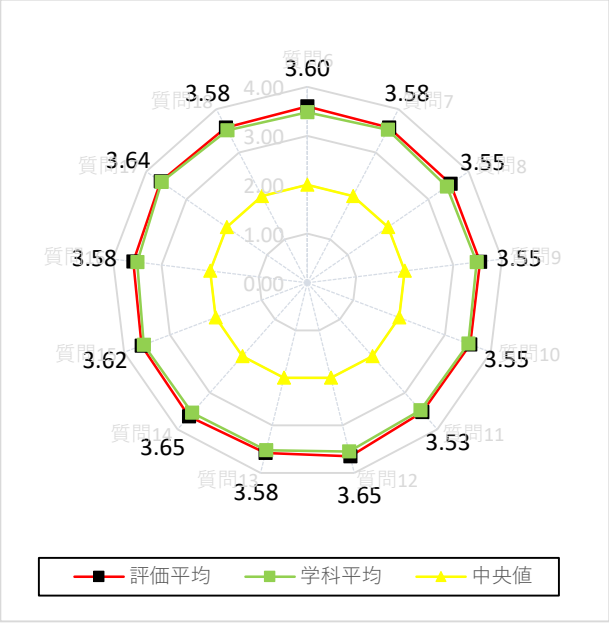
（３）次年度に向けての取り組み

一つ一つ理解を確認しながら進めていく。動画を見せてイメージしやすくする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	69名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

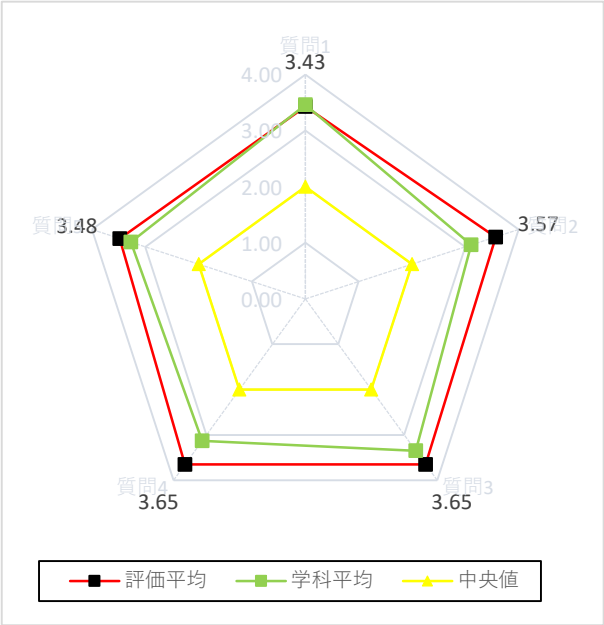
全体的に学科平均と大差なく評価されており、特に問題は無いと思われる。
学生自身に関する質問（質問1～5）に関しては、全て学科平均を上回っており、学生自身が意欲的に取り組むことができたと評価していることは大変嬉しく思う。教育実習に向けて十分に準備することができたという気持ちの表れだとすれば、この授業の目的は達成されたと言える。
一方で、質問６以降は学科平均を下回る結果となり、改善の余地が十分にあると思われる。

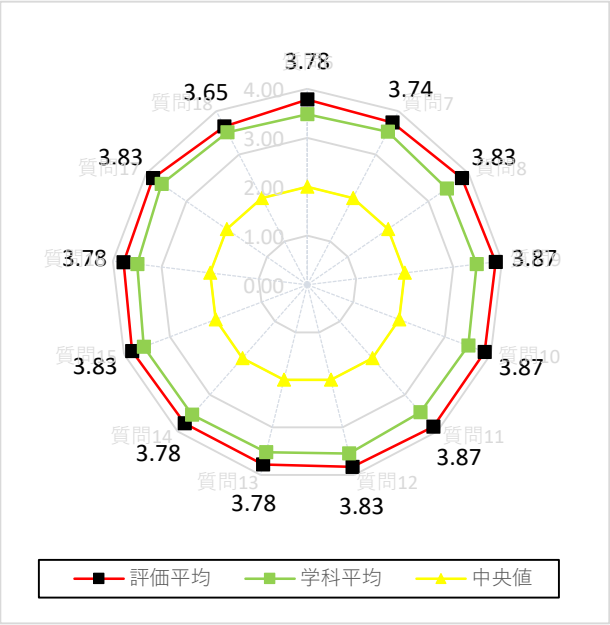
（３）次年度に向けての取り組み

学生の自由記述は「たくさんの事を学ぶことができました」「ありがとうございました」など、好意的なコメントばかりであった為、基本的には本年度の取り組みを継承していきたいと思っている。しかし、視聴覚機器の活用などには、改善の余地があると思っており、次年度以降は「視覚的にも分かりやすい授業」を目標に改善を進めていきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅲ（施設）	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

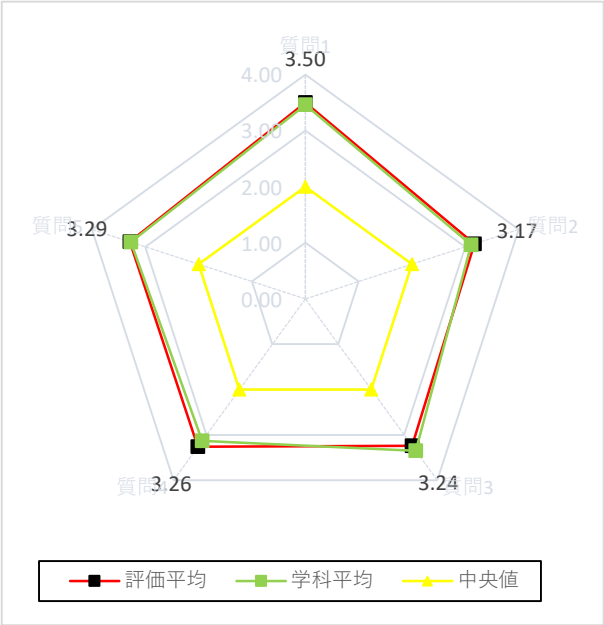
全体的な評価は平均よりも高くなっている。本科目は学外実習の為、評価項目と一致していない。
実習延期、実習地途中変更がそれぞれ1名おり、その対応を行った。2名とも心の支援を必要とした。

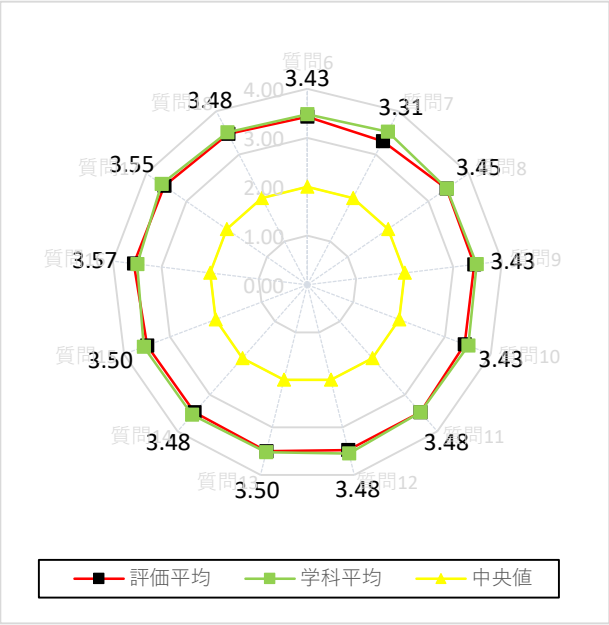
（３）次年度に向けての取り組み

次年度もコロナ収束まで準備を整えていく。また、実習先との連携を強化する（連絡等）。
また、学生の状況を鑑みて実習地の選定を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅡ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

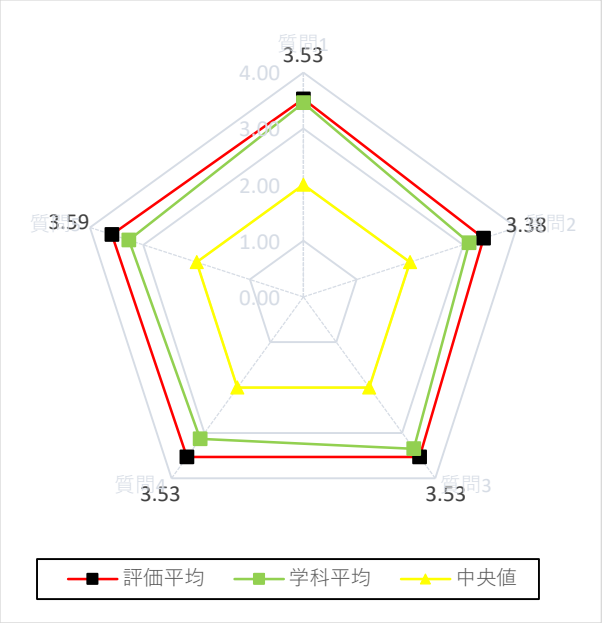
自由記述には、良かった。理解できたとの記述があった。質問１９以降に回答している学生は21名と多かった。良いは全体的に低く、その中でもどうにか高いのは質問16の双方向的な授業を行っていたかであった。一番低いのは到達目標を明確にして授業をしていたかであった。

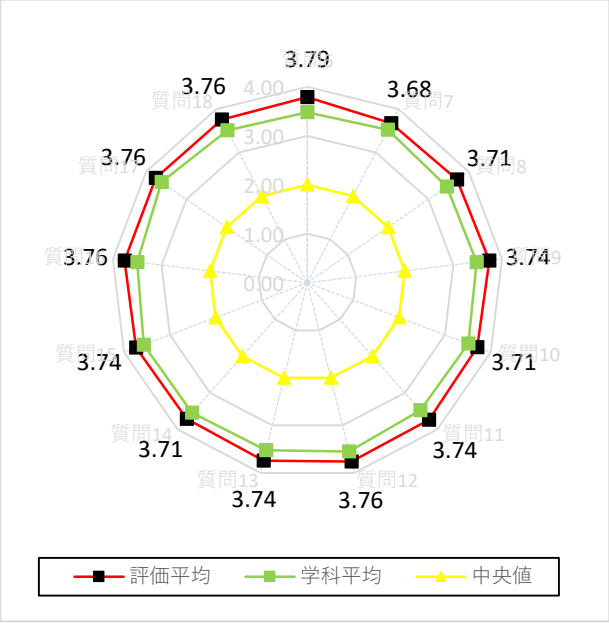
（３）次年度に向けての取り組み

シラバス、到達目標を明確にして授業を進めていく。わかりやすい授業を心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習Ⅰ	68名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

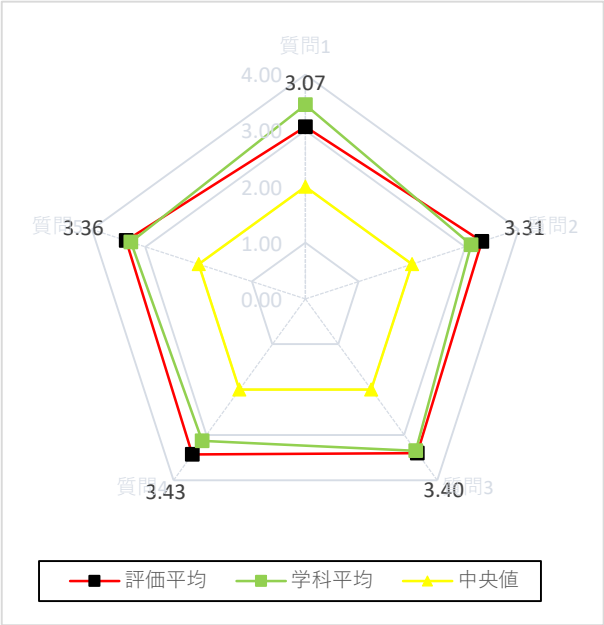
全体として学科平均と同程度かやや高い結果であった。特に学生自身の自己評価が高くなっていた。
1年生にとって初めての実習であり、保育現場で学ぶ機会として比較的高い意欲を持って取り組むことができていたと思われる。
一方で、自由記述の中では「日誌を保育実習前に返して欲しい」とのコメントがあった。例年、本実習の日誌は年度末に園から返却されるため、1年次2月の保育実習では学生が自分の日誌を見返すことができない状態となっている。この点については、実習先である附属園との調整が必要であると考えられる。

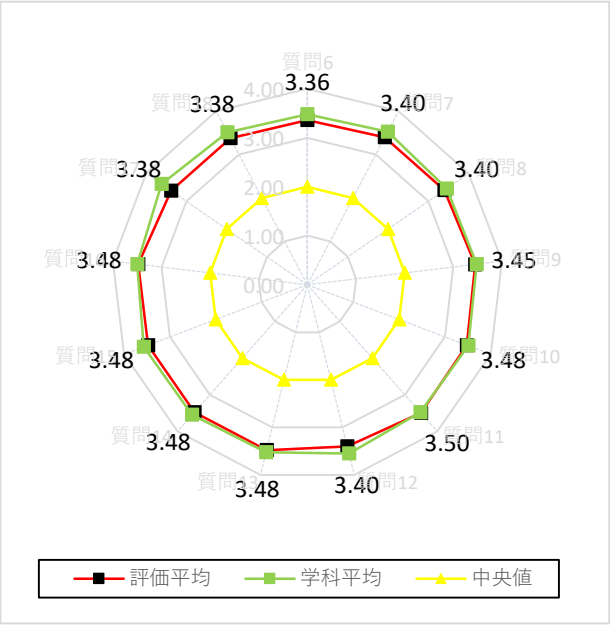
（３）次年度に向けての取り組み

概ね肯定的な評価ではあったが、日誌の返却のタイミングなど、その後の実習に向けて改善すべき点があった。
附属園と連携をとり、可能な範囲で対応を検討していく必要があると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		医療的ケアⅢ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

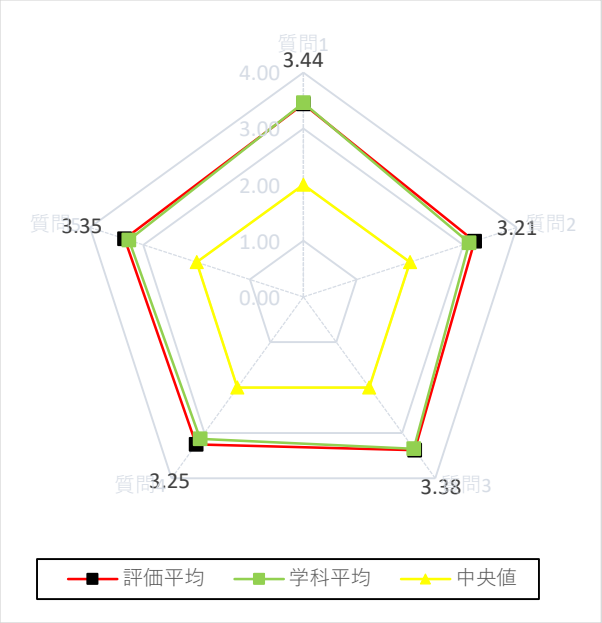
実技の授業にしては評価が低かった。覚えることが多く大変だったと思われる。自由記述には、良かった、専門の実技の教員がやさしかった、ほとんど実技のテストを行う教科なので大変だったとのことであった。質問１９以降の質問がないところに回答している学生も多く25名いた。アンケートの最後辺りで適当になったのか。

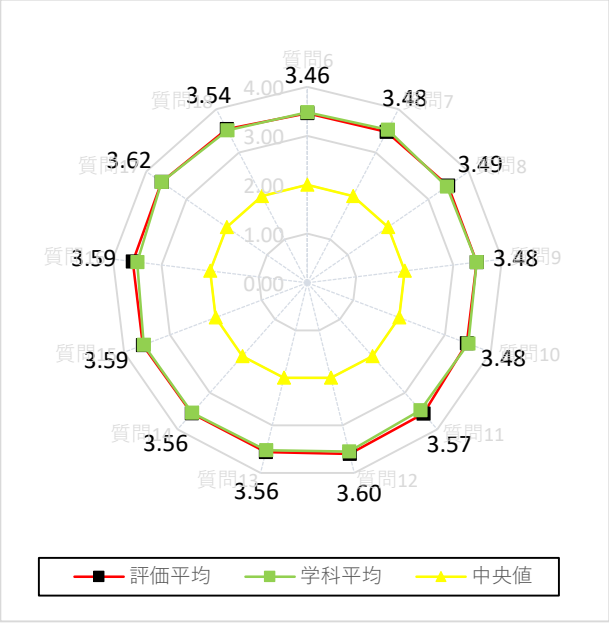
（３）次年度に向けての取り組み

質問19以降に、どういうところを改善した方がいいかわかるような質問を加えることを検討する。アンケート前に、質問内容をよく読むように声掛けを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学（演習含む）	75名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

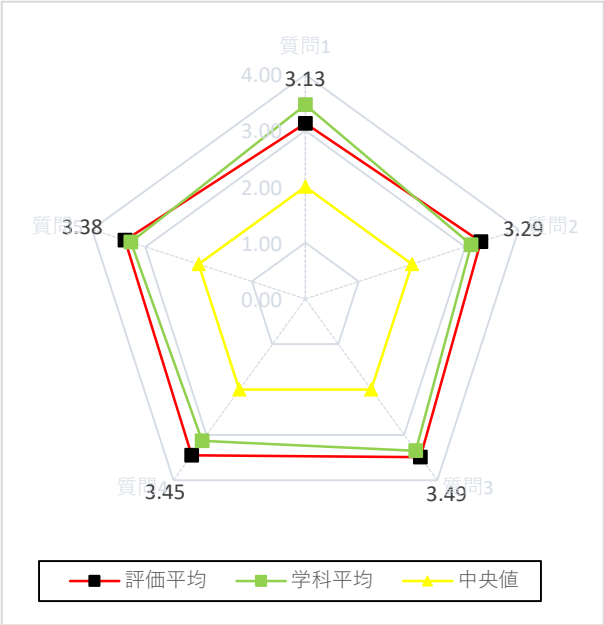
コース別には明らかではないが、評価は概ね平均的であり、この科目の意義とその実践的な活動に対して十分に理解して学習が進められたものと考える。学習計画では、コース別で実施する内容があって、この点は各コースでの考察が必要と考える。

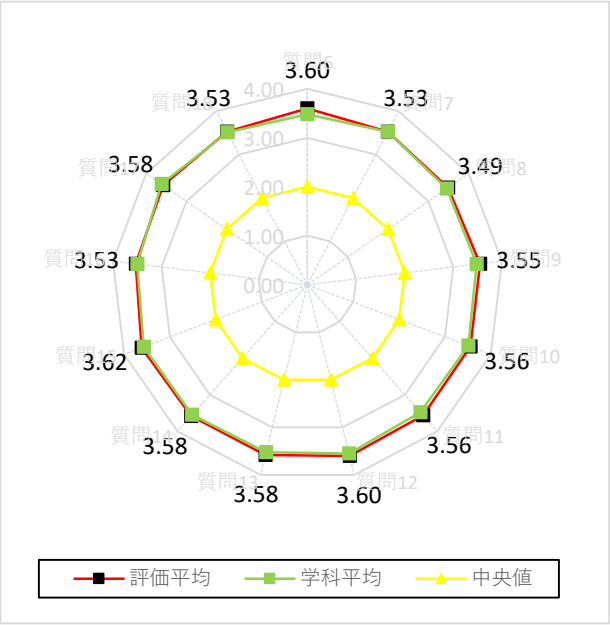
（３）次年度に向けての取り組み

この通年授業では、前期に座学、後期にその実践的活動を導入している。座学では、教員の授業に加えて、佐賀市や青年会議所から外部講師・コメント等をもらう機会を得ているが、毎回ではあるが、各コースの活動日程と外部講師の日程調整は難しい。今回は、ある程度の調整ができ、計画通りに授業を展開することができた。今後も外部との調整を図り、実際の地域課題への理解、課題発見とその解決策を考え、実践的活動につなげていきたい。今後の大きな目標としては、自らが課題意識をもって活動に参加するなど、自主的に地域課題を考え解決・改善してけるように、計画を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習（幼）	70名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

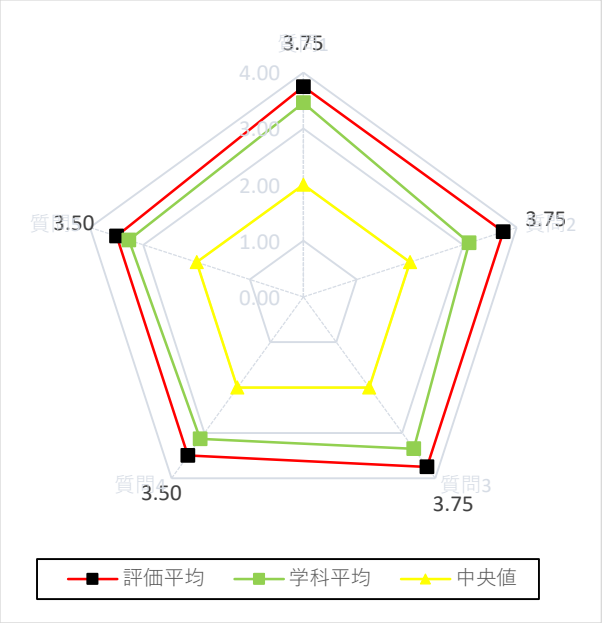
学生による授業評価結果においては、ほぼ学科平均と変わらない結果であった。
本科目は、学科教員によるオムニバス科目であり、毎回担当する教員が異なっている。それにも関わらず、ある程度の評価が得られた理由として、それぞれの教員による専門や個性が上手くオムニバス教科として展開できているのではないかと考えられた。また、コロナ禍による実践演習科目であったが、個々の担当教員の工夫により、実践的な演習が図られた結果とも思われる。

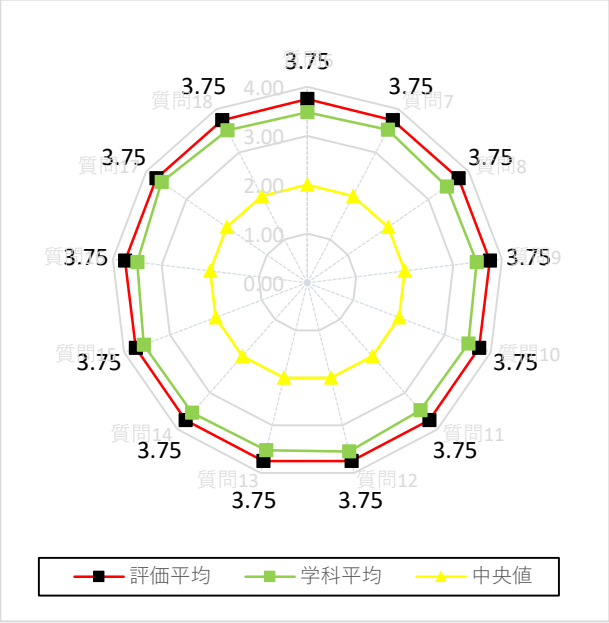
（３）次年度に向けての取り組み

近年は、各教員がコロナ禍に対応するため、遠隔授業や個別ワークなどの手法を多く取り入れて演習科目の役割を果たせるように工夫を図ってきた。
しかしながら、演習科目という性質を考えると、より実践的なグループワークやロールプレイ、ケーススタディなどの授業手法も取り入れていく必要があるかと思われる。
次年度は、コロナ感染症の社会的状況を鑑みながら、より演習科目としての授業展開が図れるように学科内にて議論を深めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

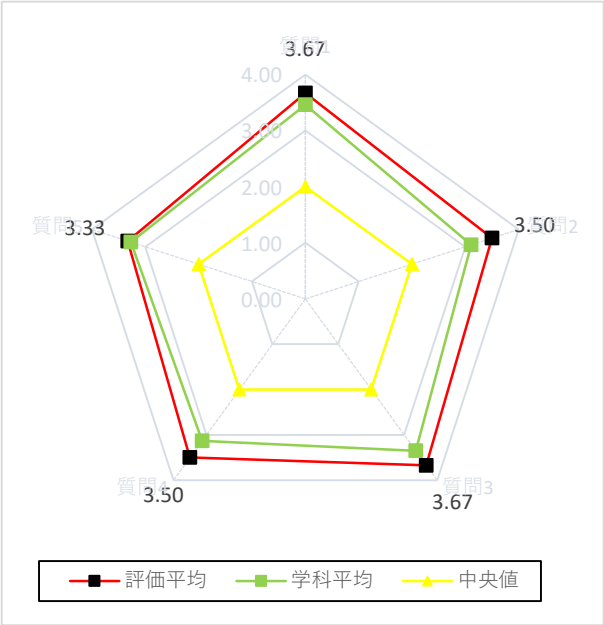
学生自身に対する質問及び授業・教員に対する質問についてはいずれも学科平均よりも高い評価であった。しかし、回答者が４名しかいないので低い評価を付けづらい状況だったことも高評価につながったかもしれない。本科目では学生が主体となって活動することとなっており、教員は学生からの要望など必要に応じて資料の用意や学生の意見の聞き取り、助言を行った。今年度も学生レストラン　プティ・ラ・サンテ、市報さがのレシピ考案、学生チャレンジショップつむぎの３つ実践活動を行った。誰かに任せきりにせず自分で考えて行動しやすいよう担当の割振りをしたことと、ほとんどの学生がそれに応えようとする姿勢も見られたことが今回の評価につながったと考えられる。ひとりだけの意見を採用するのではなく、それぞれが意見を言えるよう促す学生の姿も見受けられた。

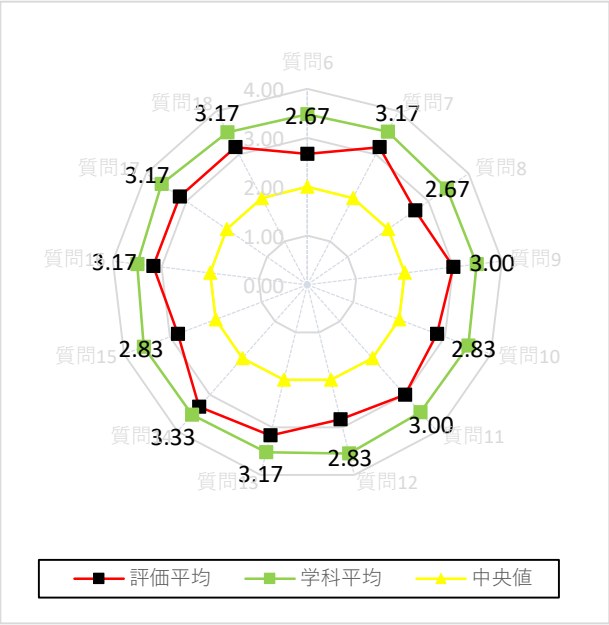
（３）次年度に向けての取り組み

授業初回に「何のため」に活動するのか「在学時と卒業後」にどう活用できるのかなどを理解・納得できるよう事前説明を行ったうえで、研究テーマを学生自身に設定してもらい、テーマに沿って学生チャレンジショップつむぎ、市報さがのレシピ考案、プティ・ラ・サンテ　フェアを行う。活動の目的は初回だけでなく適宜確認する。昨年から引き続き、研究ノート（ファイル）だけでなく、Teamsを活用して研究計画や資料の保管、進捗状況の記録を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	6名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

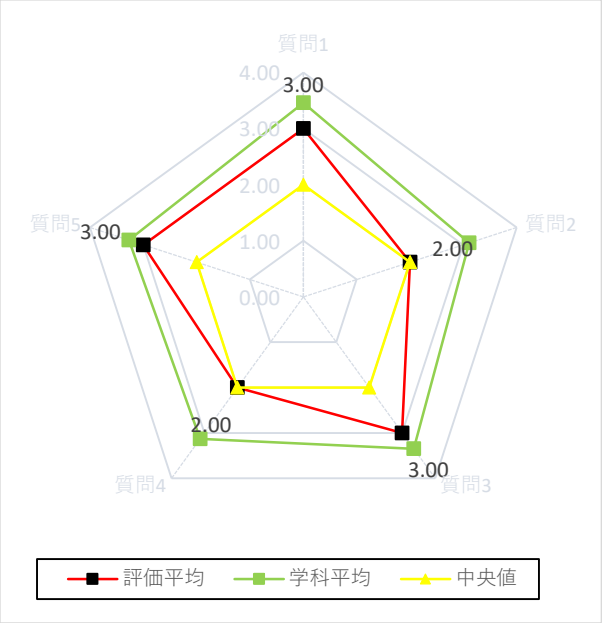
今期学生たちは比較的個性的であって、能動的でありながら自己主張が激しかった。しかしながら年輩学生のリードもあって、グループ活動はどうにか円滑に進めることができていたが、役割の明確化が十分でなかった点ややリーダーへの依存度が強く活動に表れていた。この授業は、学生主体で課題発見、解決に向けた方策の検討、そして活動につなげることを重視するものである。学生たちには公平に適宜、グループに対して適切な指導をしてきたと考えていたが、ファシリテーションの不足が低い結果を与えたものと考える。

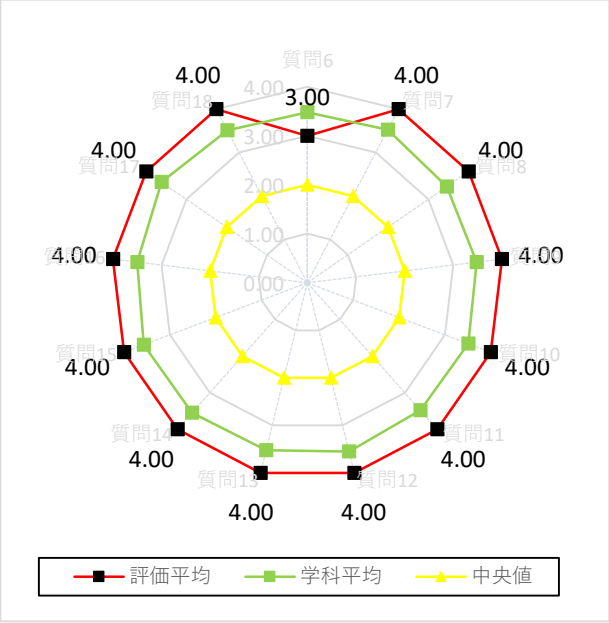
（３）次年度に向けての取り組み

概して、個性が強く、能動的でありながら自己主張が激しい個々の学生・グループに対して、ファシリテーションの難しを感じるところである。今後の方策としては、学生と教員が一緒に学び合う機会、例えば学外現場等での見学や研修の機会を設定することや、個々に応じたモチベーションを上げるための声掛けなどを意識して、指導に臨みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

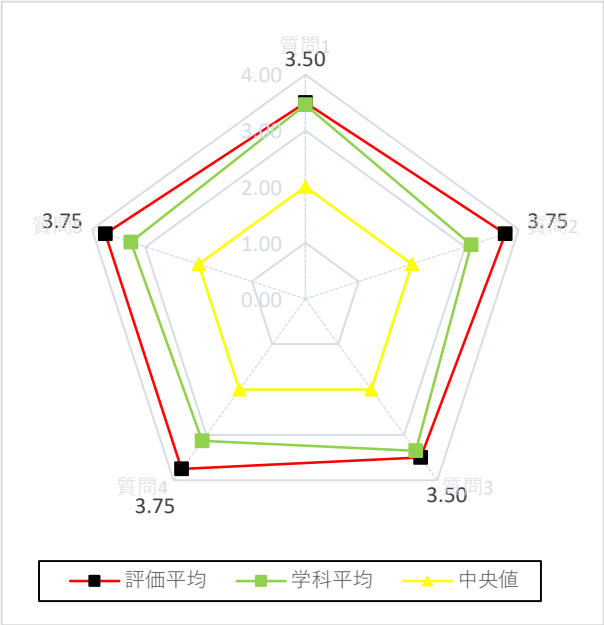
この科目は、卒業研究を実施する科目である。
概ね多くの項目において、高評価を頂いており、大変励みになる。
低評価としては、質問6についてである。
主に、シラバスの活用についてである。もっとシラバスを活用することで、学生の理解を深める内容としたいと考える。

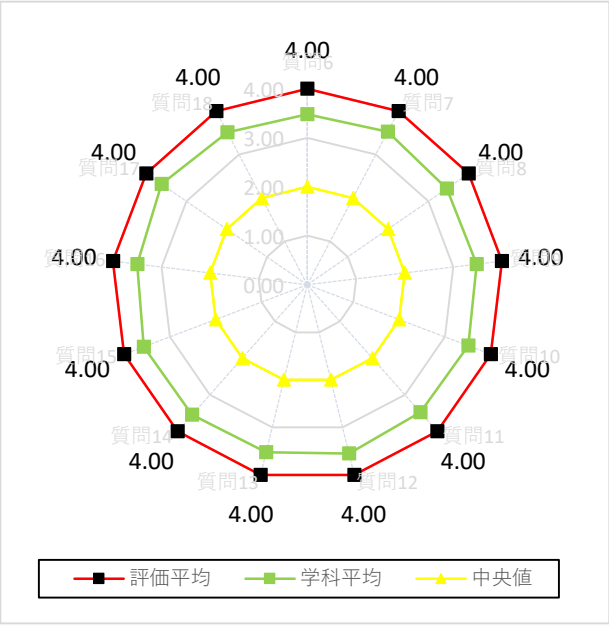
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、基本的に今年度と同様の進め方で行う予定である。
その中で、学生の議論が深まるような工夫を行うことができればと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

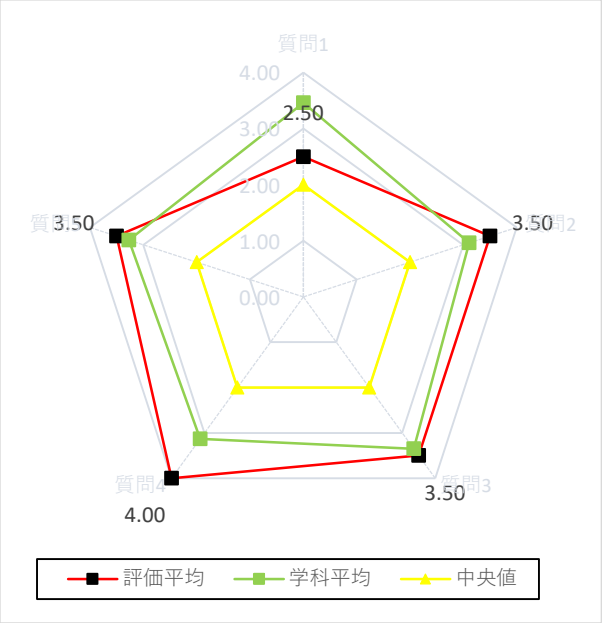
全体的に高い評価を得ることができた。しかしながら、初めてゼミを受け持つことになり、授業計画やテーマの設定など事前の準備不足により学生に混乱を与えてしまったことは反省点である。なるべく学生の取り組みたい内容をもう少し汲み取り、主体性を持たせる必要があったと思われる。

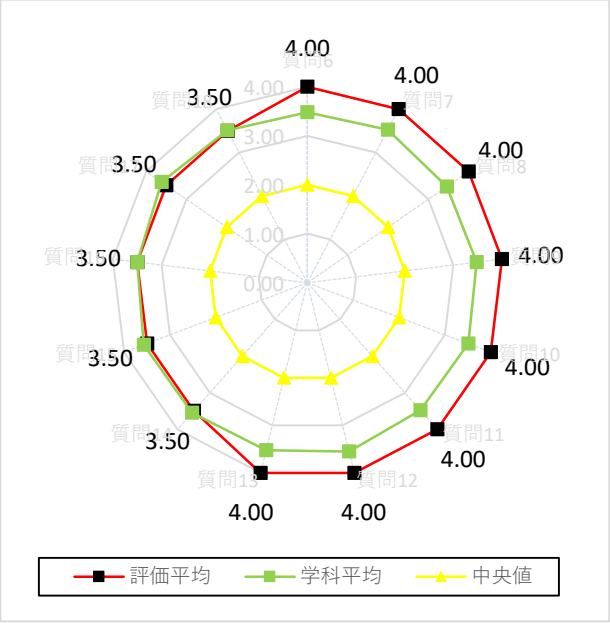
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は学生の取り組みたい内容を受け入れつつ、主体的に取り組めるような計画性をもって授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

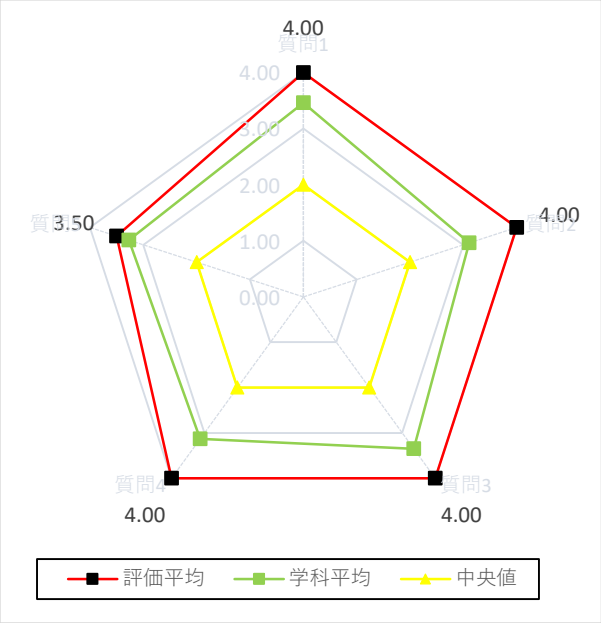
一部学科平均を下回る結果となった。
今年度の履修者は、担当者のゼミを第３希望、第４希望で入ってきたためか、開始当初からモチベーションを維持、高めていくのに苦慮した。
学生の希望に沿ったゼミ決めの工夫の必要性と共に、学生一人一人の興味、関心を丁寧にひろい、対応していく工夫の必要性を感じた。

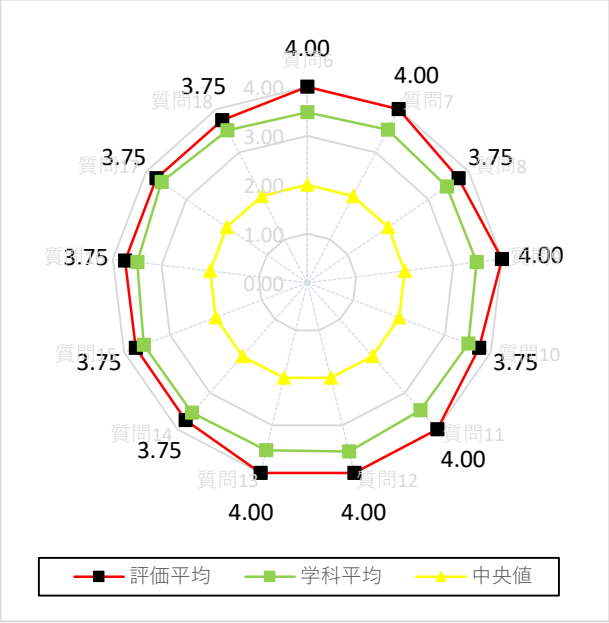
（３）次年度に向けての取り組み

学生の問題関心を拾い上げながら、テーマ設定をしていきたい。
また、学生が意見を出しやすい雰囲気づくり、環境づくりに取り組んでいきたい。
机上では学べない実践からの気付きや学びの機会を設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

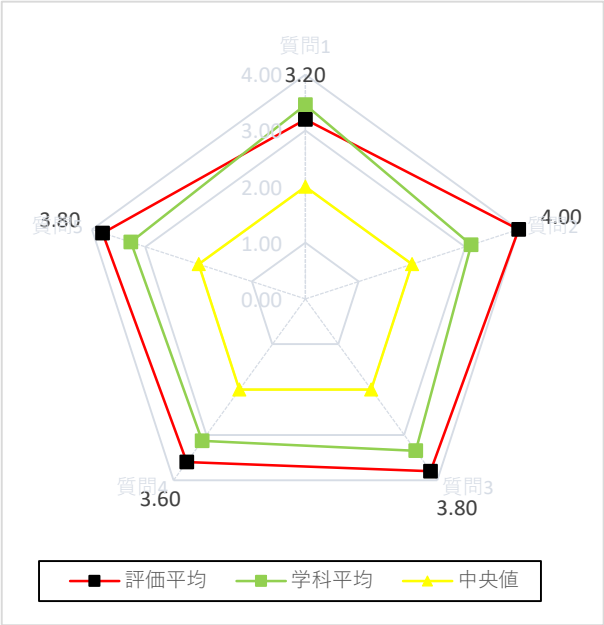
学生による授業評価においては、学科平均を上回っていた。
その理由としては、４名という少人数教育にて授業ができたため、より積極的な学生主体の授業が図れたかと思う。また、フィールドワークも実施し、学生が楽しんで学べる機会を提供できるように努めた。

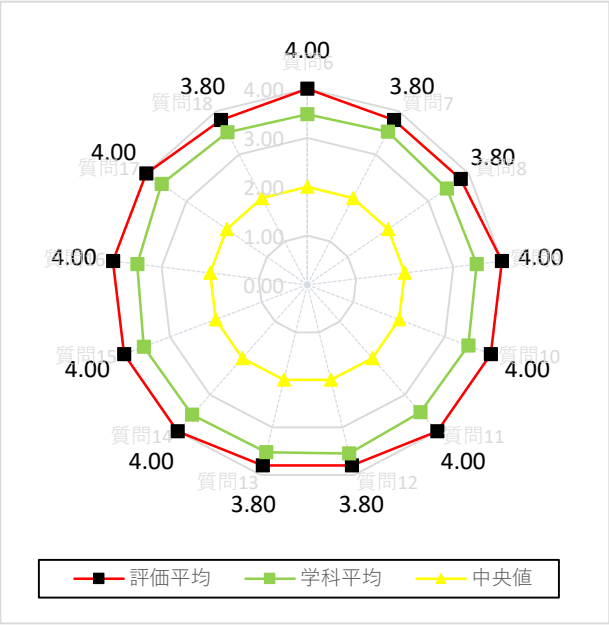
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の評価は、フォールワークによる地域支援に取り組むえたことが良い評価につながったかと思う。そのため、次年度においても、机上の学びのみではなく、より地域におけるフォードワーク学習と学生へのフィードバックを意識して授業を展開できるようしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

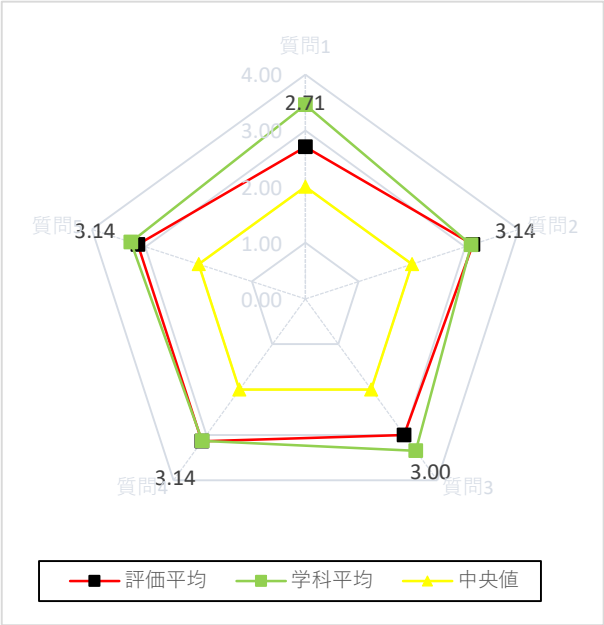
本科目は１年次後期に引き続き展開される科目である。
コース共通で取り組む内容とゼミ毎に実施する内容と２本柱で進めていくが、基本的に自分たちで計画・実施し、教員はサポートが主となるため、授業自体への評価は3.86と比較的高かった。

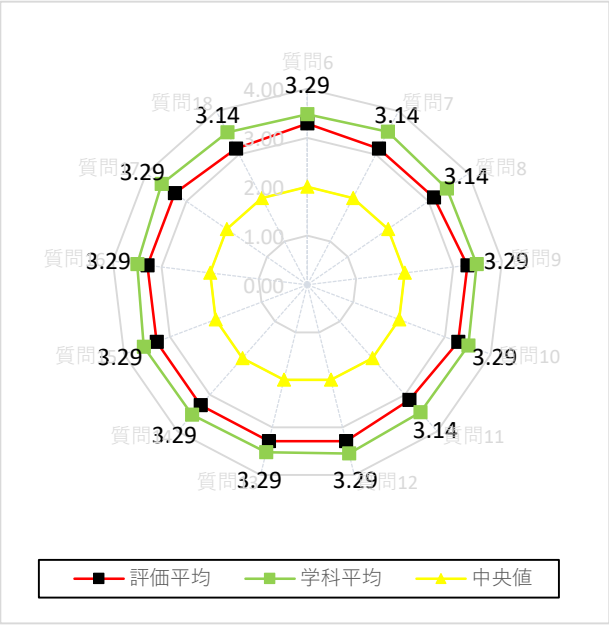
（３）次年度に向けての取り組み

学生が積極的に取り組むことができるよう、環境整備などサポートに努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

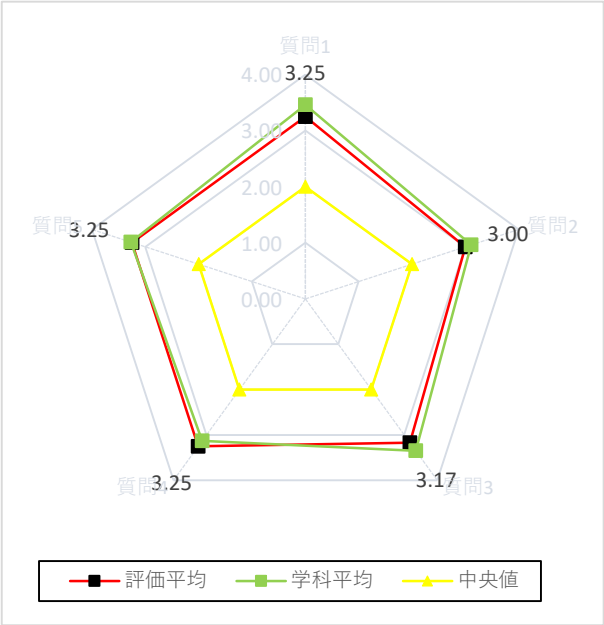
コロナ禍入国が一年が遅れ、国試にも影響がみられると思われたため、卒研の内容を、国試に絡めて行ったためか評価が低かった。また、一人はすべてに1をつけていた。自由記述では、良かったとの記述は見られた。

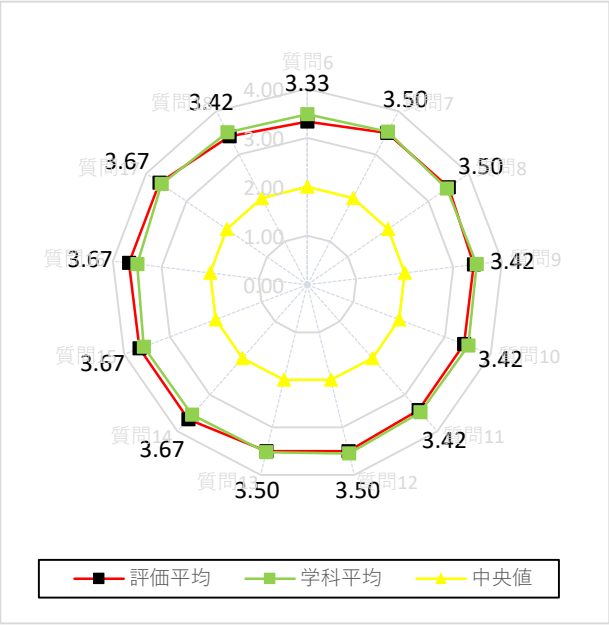
（３）次年度に向けての取り組み

途中途中で意見を聞いてもっとニーズに合った指導を行う必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

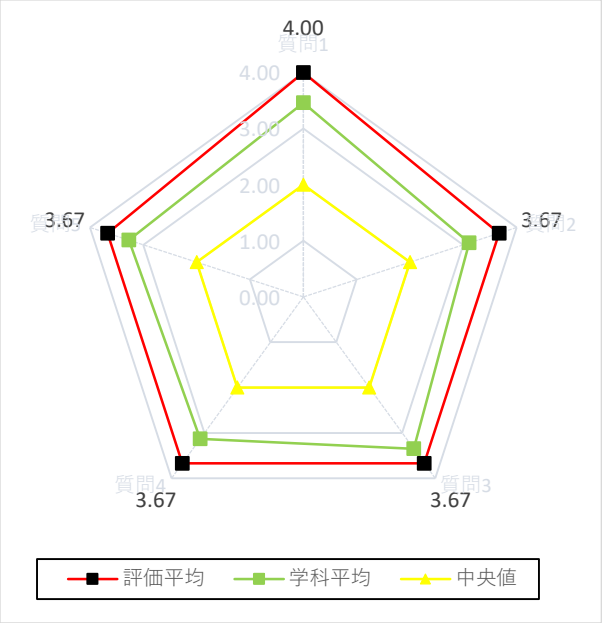
この科目は、学生それぞれが興味のあるテーマについて、研究を進めていく科目である。
授業評価では、おおむね平均的な評価結果となった。
特に質問15～17は、平均より高い結果となった。
これは、学生の研究テーマに沿って、学生の疑問等に対し、個別対応の時間を多く設けた結果であると考える。
一方、質問10・11に関しては、平均より低い結果となった。
この科目では、授業形態が通常の授業と異なり、それぞれの学生の疑問に答える形で授業を進めており、疑問に対し口頭で回答することが中心であったためであると考える。

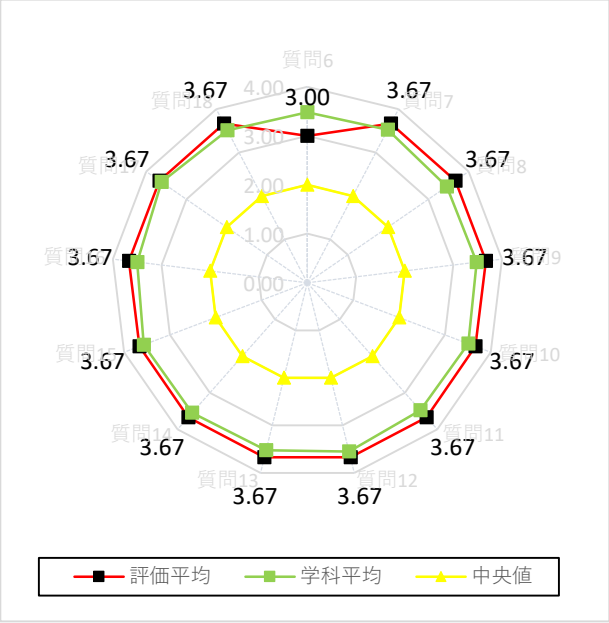
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年同様、学生の研究テーマに沿って、個別に対応しつつ、必要に応じ視聴覚教材や配布資料を用い、学生が理解しやすいように講義をすすめていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

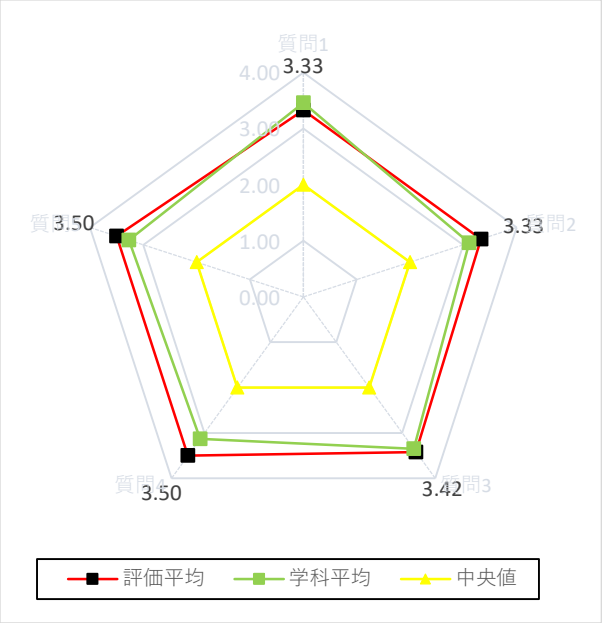
４名の学生たちは、真摯に研究実践に取り組んだ。質問6の「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」という項目の評価が低い点については、年度当初に説明したシラバスの計画内容に対し、中途で佐賀市からSDGｓ紙芝居の製作依頼があったために、変更されたことによるものである。佐賀市からの依頼いを受けて担当者と随時取り組みの内容や流れを協議しながらの臨機応変な対応が求められる研究実践であったために、取り組み計画を予め明確に見通すことが難しかった。しかしながら、SDGｓ紙芝居への取り組みがスタートすると、ゼミ生たちは実践の意義を理解することができたようで、それぞれ主体的に取り組んでいた。最終的にSDGｓ紙芝居が完成し、出来上がったものを配布されると非常に満足している様子が伺えた。また、完成した紙芝居が佐賀清和高校放送部の協力でYouTube配信されたり、英語版も作られるという連絡を受けたりしたことで「たいへんだったけどやってよかった」という感想が聞かれた。学内における紙芝居制作に加え、後期は牛津小学校6年生を対象にしたワークショップの実践研究に臨ませたい。

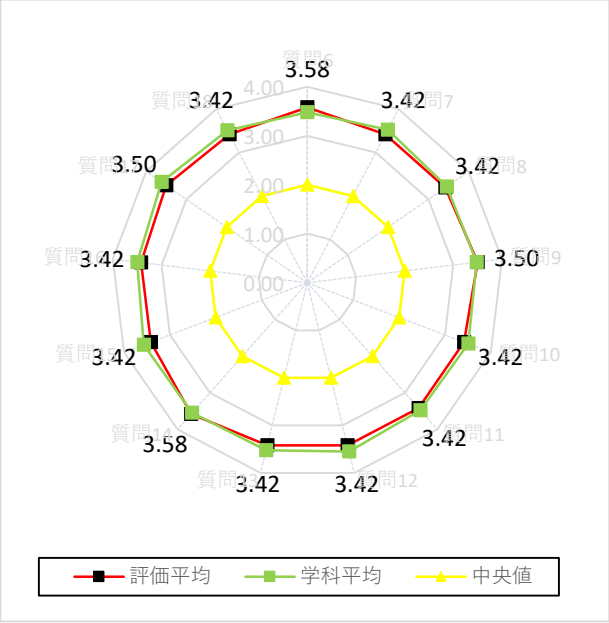
（３）次年度に向けての取り組み

次年度もアートを通して、保育現場、教育現場、介護現場、異文化交流に貢献するという意識やスキルを高めるゼミ活動を展開していきたいと考えている。そのために、前期においては、先ず「造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につける」ためにクリニカルアートに関する理論学習とワークショップを体験させたいと考えている。体験を通して「アート（造形活動）によって自尊感情を高めることに気づかせたいからである。例えば、制作の途中に「急がせない」「他と比べない」「主体的な活動を促す」ことの大切さや、シェアリング（完成作品鑑賞の場）では「五感を生かして言葉かけをすること」の効果を自分ごととして体感させたい。アート（造形活動）は単に作品を完成させることだけが目的なのではなく、作品を通してそれぞれの子どもの存在や思いを認める場にもなるということを学修した後に、放課後児童クラブや地域の保育園、幼稚園、子ども園でのワークショップ、社会教育団体主催の親子アートワークショップ、認知症予防のためのワークショップ、佐賀県や佐賀市の国際課主催の異文化交流イベントにおけるワークショップ等における実践研究を継続したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	12名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

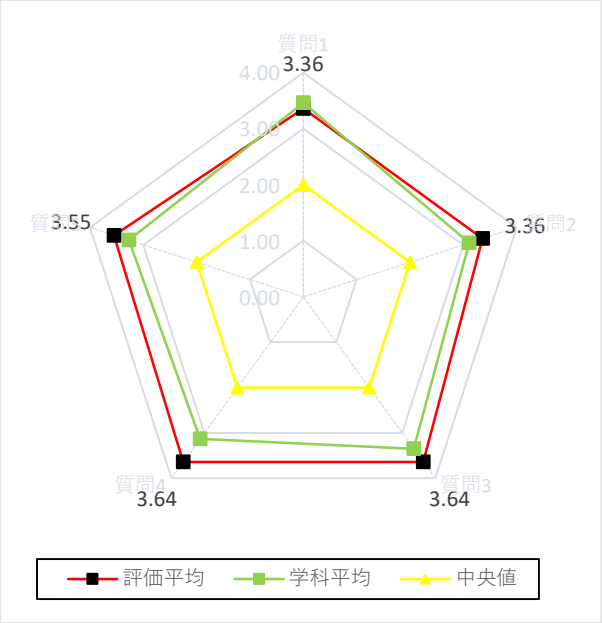
本科目は、本来は、各研究テーマに沿って、個人又はグループで、自主的に調査・研究活動を進めて行き、成果は最終発表会でプレゼンテーションを行うものである。しかし、留学生の入国が1年遅れたことにより、教員側で準備したテーマ（内容）について調査・研究するというそれまでとは異なる方法で行うこととなった。担当したのは12人の学生だが、学生の自己評価は学科平均と同等またはやや高い。教員への評価は、学科平均より全体的にやや低い値となっている。もともと教員側で準備したテーマだったこともあり、学生の自主性を引き上げることができなかった。また、質問15「公平に学生に対応しましたか。」の評価については、よく質問する学生とほとんど質問のない学生との対応の差もあったのではないかと反省している。

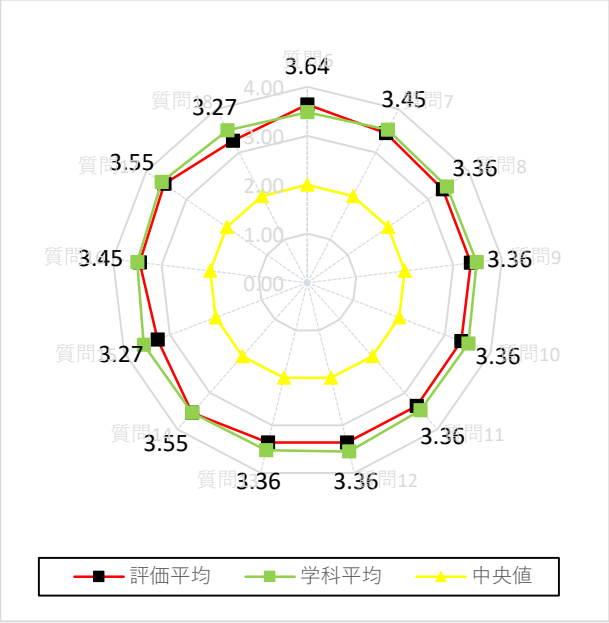
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、従来の研究方法に戻る可能性が高いが、担当する学生それぞれに公平に対応できるよう時間調整をしたい。また、担当学生間で研究の進捗状況を共有するなど、教員の担当学生間でもっと相互に関りを持つような学生への働きかけをしたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	11名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

まず学生自身の取り組み評価については、概ね学科平均と同等の数値を示していることがわかる。質問３「真剣に取り組んだか」、質問４「工夫をしたか」、質問５「総合評価」においては、平均値を上回っている。本科目は、発表会にて公に発表することを目指しているため、学生はより熱心に取り組んだことがわかる。

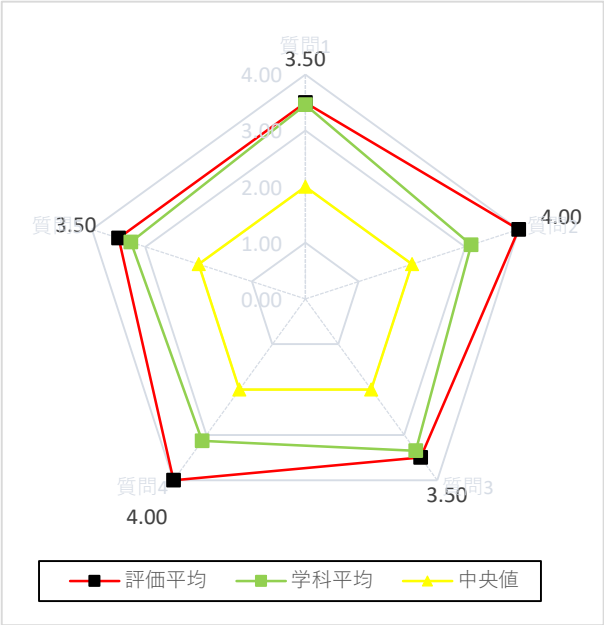
教員に関する評価については、ほとんどの項目で学科平均を下回っている。１１名中１０名は、「十分」「やや十分」に評価しているが、約１名に関してはすべての項目で「不十分」と評価していたためである。実際に約１名の学生とは授業実施当時、クラスメートへの不満も含めた様々な件について、直接やりとりしてきたが、最後まで満足度アップに至らなかった結果だと真摯に受け止めている。

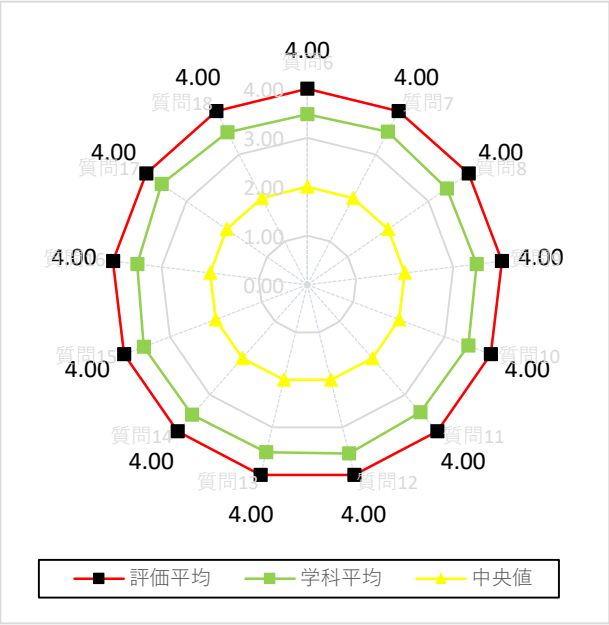
（３）次年度に向けての取り組み

ほとんとの学生からは理解が得られたものの、一部の学生とは、直接の対話を通してきたにも関わらず満足度に変化がなく、誠に残念に感じている。近年の傾向として、学生同士が直接話し合いながら決着をつけるのではなく、教員を介して解決させようとしている面が増えてきたように思う。教員は、適切に間を取り持ちながらも、学生が自分の言葉で主張できる環境を整えていく必要があると感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

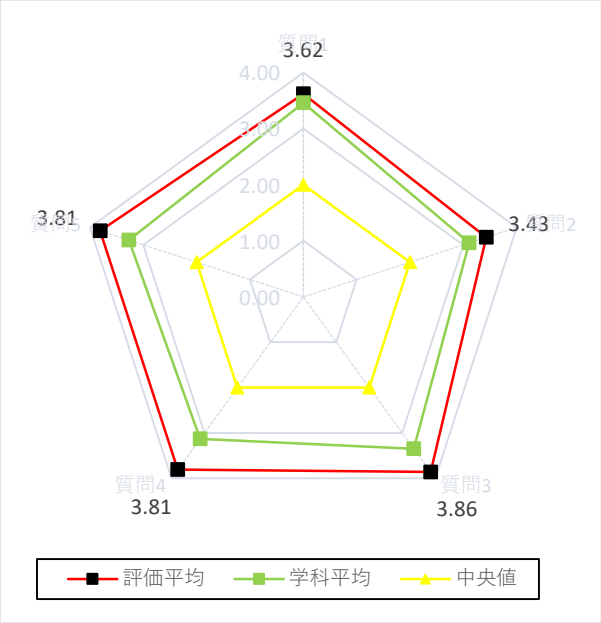
質問6～18にかけて評価は満点となっている。ゼミ学生3名の内、2名のみが回答しており、授業評価としてそのまま扱うことは難しい。一方で2名の評価が満点ということは、ゼミの進行・内容について十分に実施できたとも考えられる。また、今回のテーマがＶＲを用いた実験だった為に学生の興味・関心を引き付けた可能性が大きい。

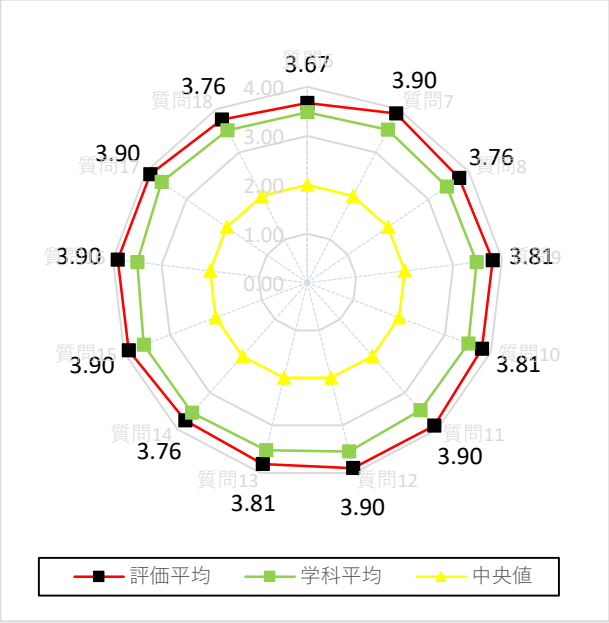
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、より実践的なゼミ活動を実施していく予定としている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

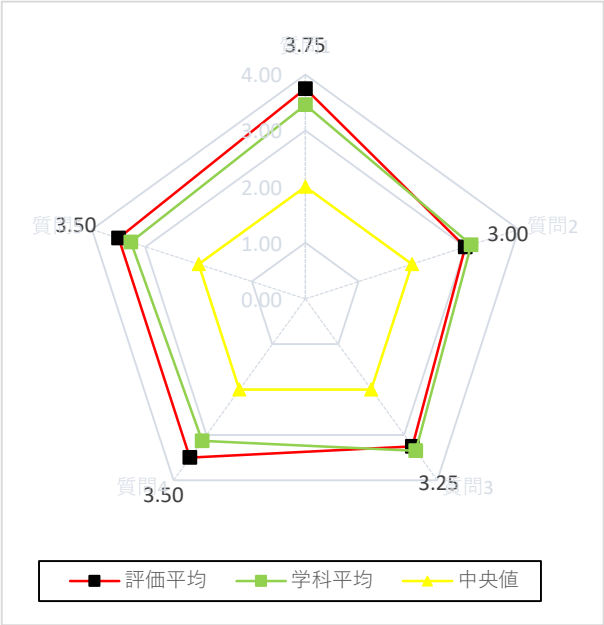
学生による本授業の評価は「シラバス」に関する項目以外は概ね高評価であった。卒業課題研究のシラバスは学科統一のものとなっているが、授業初回のオリエンテーション時に本授業の「授業概要」「授業目標」「スケジュール」について資料で示すようにしている。しかし、表現・音楽コースの卒業課題研究は「表現フェスタ」に向けた取り組みの中で、日々現れる新たな課題を一つ一つ解決しながら進めていくため、シラバスの活用が難しい。学生自身の評価、教員の授業に対する評価の両方で「シラバスの活用」に対する評価が他と比較して低いのはそのためである。それ以外の項目では、学生、教員に共通して高評価である。「表現フェスタ」という目標に向けて学生自身が意欲をもって本授業に取り組み、授業最後の中間発表会でも一定の達成感を持ったことの表れであり、大変嬉しく思う。

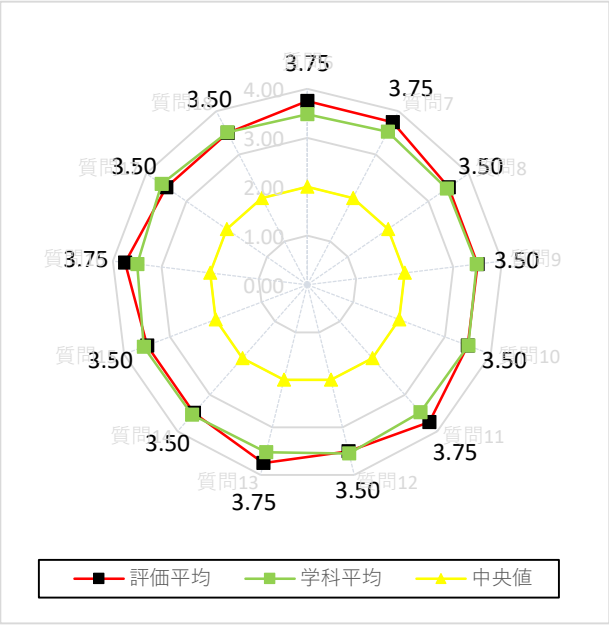
（３）次年度に向けての取り組み

今年度は「ミュージカル」「ミュージカル器楽」の両方を一人で担当した。両チームの学生に指導が行き届くよう正規の授業時間以外のコマを活用し、常に調整を行いながら指導にあたったが、指導に時間がかかる「ミュージカル」に偏ることが多かった。来年度は表現・音楽コース学生の減少に伴い、「ミュージカル」のみを担当することになるため、負担が減る分ミュージカルの学生とさらに充実した活動を展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

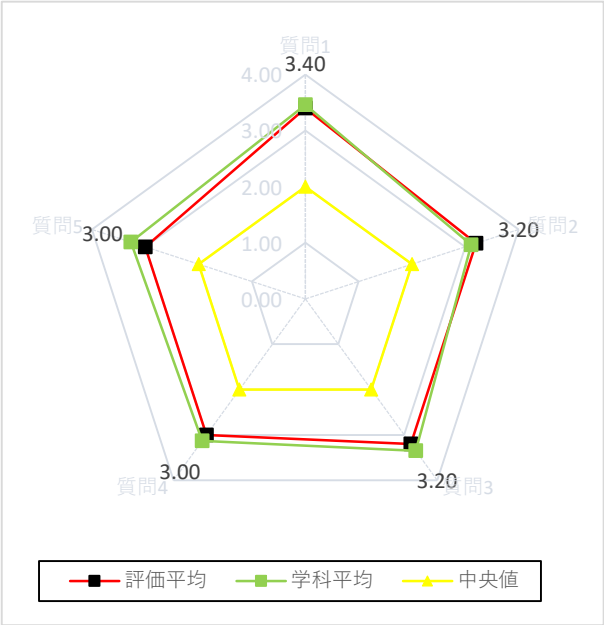
全体的に高い評価であり、特に大きな問題はないと思われる。
卒業課題研究Ⅰは、1年間のテーマを決めて本格的な取り組み始める時期であり、学生にとってはまだまだ授業の進め方が分からない時期であるとも言える。そのような中で、学生自身が意欲的に学ぶ事ができたと自己評価しているということは、概ね授業の目的は達成できたものと思われる。

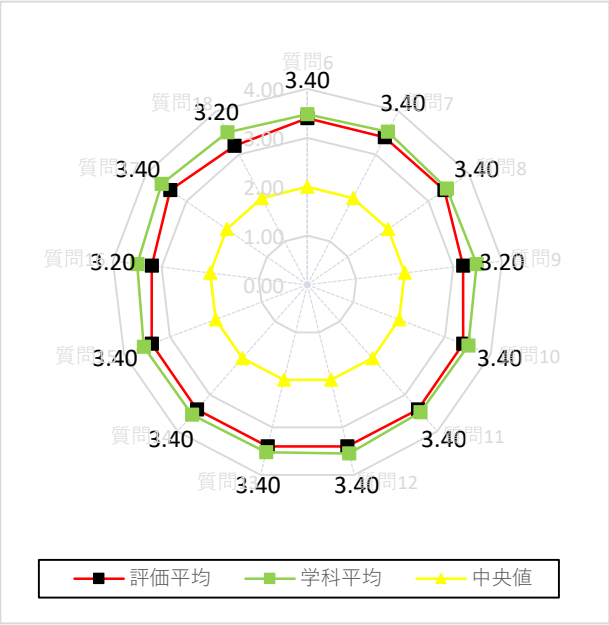
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述が無かったため、具体的な学生の要望を掴むことは難しいが、評価としては概ね良好であった為、次年度以降も学生の自主的な学びを重視したゼミ運営を心掛けたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

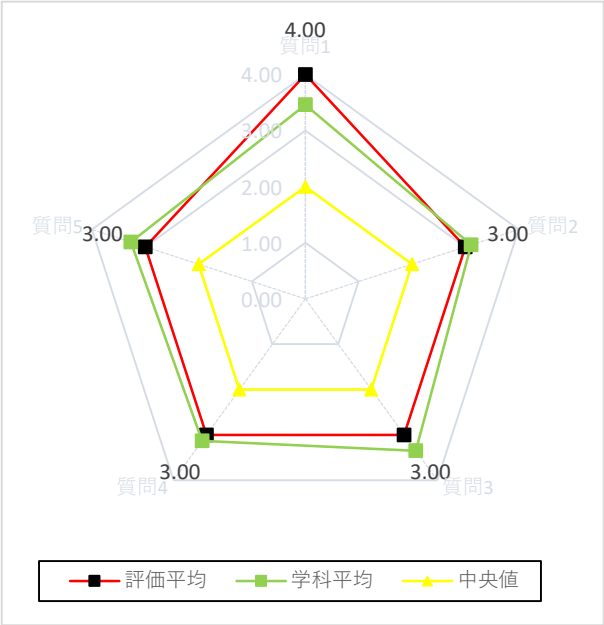
学生の自己評価では、質問3，4，5が低い評価となり、授業にいまひとつ熱心に取り組めていないことが伺えた。授業評価全般についてはすべて学科平均を下回っていた。授業の中でグループ研究を行った。しかし、取りまとめ役の一部の学生は主体的に熱心に取り組んだものの、他の学生は受動的な取り組みであった。このような両者の格差が今回の結果につながったと考えられる。卒業研究のテーマ、グループ活動とその指導について再考し、全員がどこかで主体的に取り組めえるよう、そして学生それぞれが満足して授業に取り組めることを目指す必要がある。

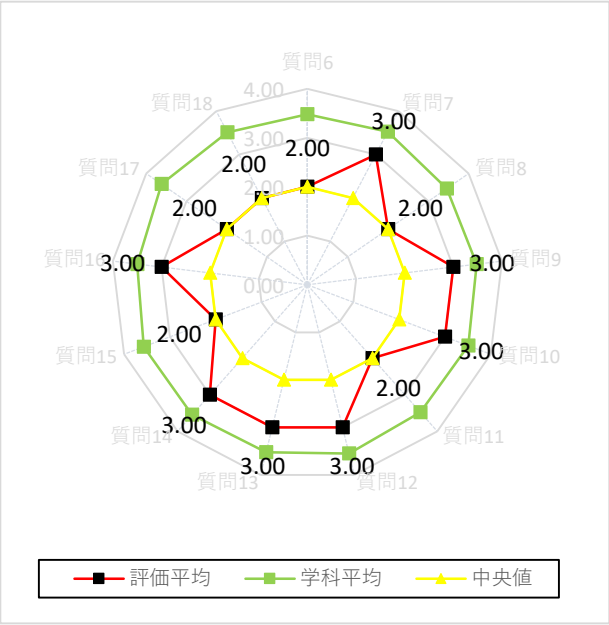
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、テーマに新規な取り組みを取り入れ、学生の興味関心を成果に結び付けたい。卒業研究のテーマに学外の地域活動など学生の食、栄養の知識、技術を実践できる活動を取り入れることを検討し、企画する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	2名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

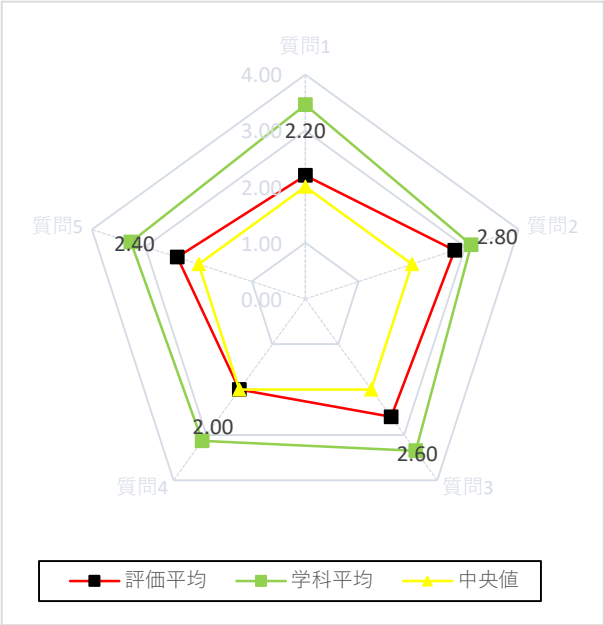
平均を大きく下回る結果となった。卒業研究として学生の興味関心を深めるための工夫や指導が足りていなかったことからこのような結果となった。卒業研究のテーマ選択やその後の調査への取り組みが遅かったことも課題となった。

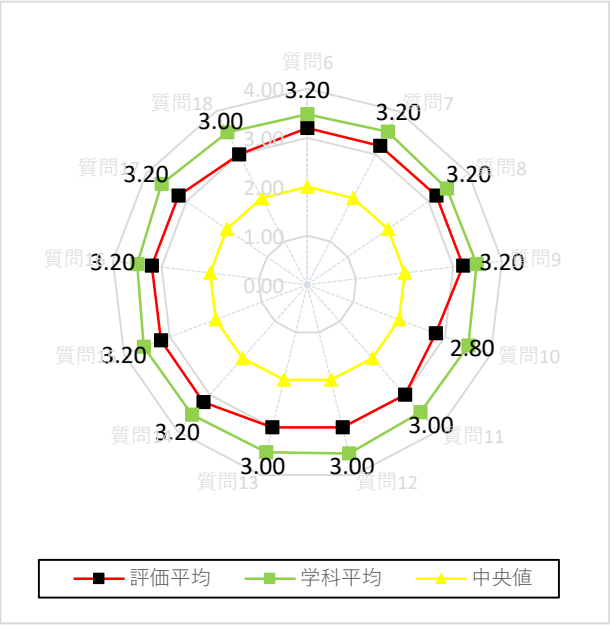
（３）次年度に向けての取り組み

1年を通じた研究活動により、受講生の探求心を高めることができるよう、指導方法を改めたい。受講生の声を真摯に受け止め、改善への意欲を示し、よりよい教育環境を構築する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

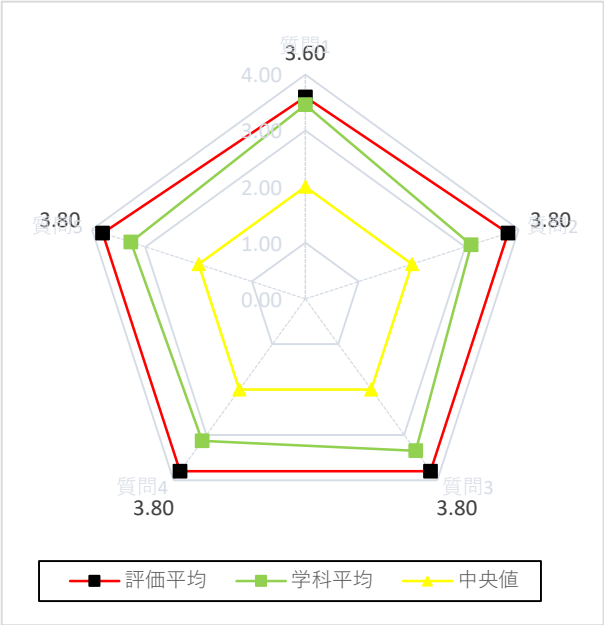
この授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションにも趣きを置いて授業に取りでいる。評価の結果は学生自身のQ4「授業を理解するための工夫」2.00と低く、総合自己評価は2.40であった。教員側の授業内容・方法においてはQ10「視聴覚機器や板書の適切」や2.80と最も低く、他の項目は3.00～3.20であった。この総合評価は3.00である。学生のコメントは、特になかった。次年度は評価が低かった学生の自己評価で「双方的なやり取り」について、質疑応答の時間を設けて興味・関心をもたせながら双方的な学習につなげていきたい。

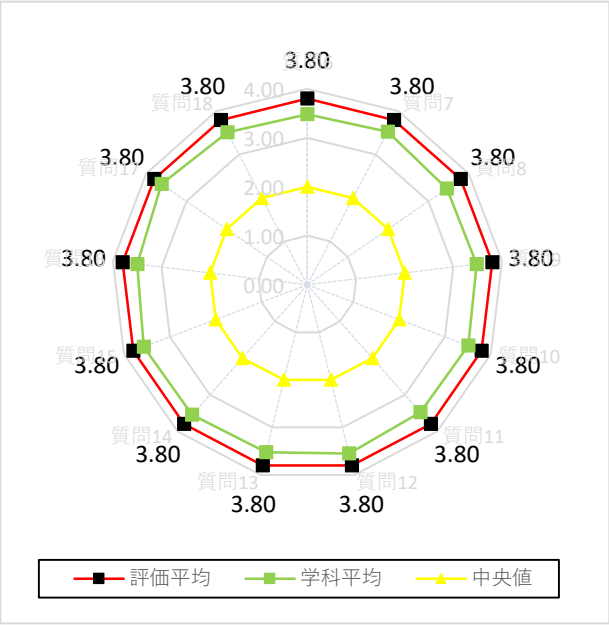
（３）次年度に向けての取り組み

授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションが重要になってくることから、引き続き、満足いく授業を実施していきたい。
次年度に向けての取り組みは次の通りである。
①評価が低かったシラバスの活用についてはしっかり確認し活用させる。
②グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。
③机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

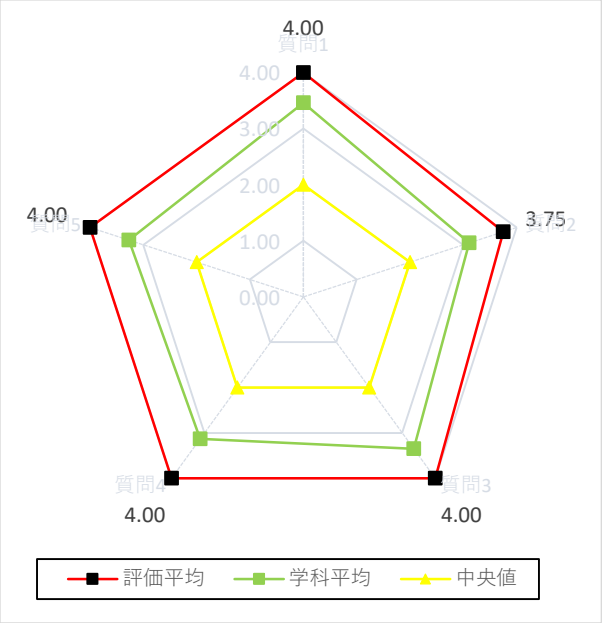
総合評価は3.82であった。質問6～18について学科平均を上回っており、全ての質問項目で8割以上が評価4.0であった。高評であったと思われる。

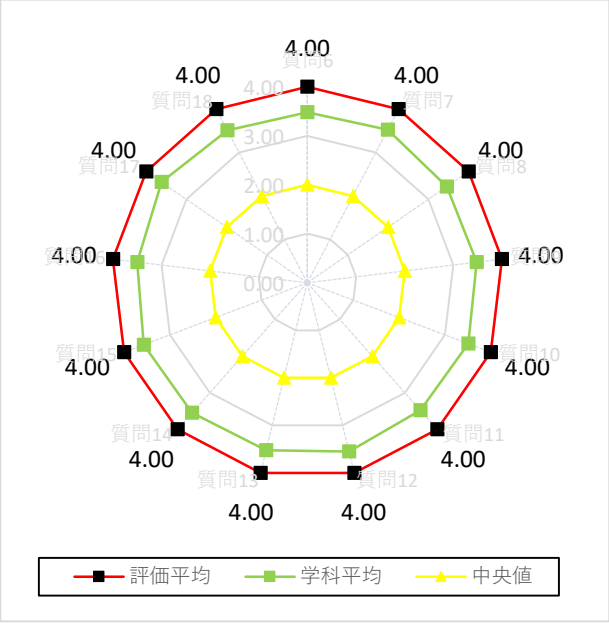
（３）次年度に向けての取り組み

高評であったと思われる。今年度の卒業研究は、フードロス削減が大きなテーマであった。地元の青年会議所の方々と協働で活動を行ったり、廃棄されるみかんを活用して商品開発に取り組んだりとなかなかハードな1年であったと思う。自由記述には「ゼミは大変だったけど充実していました」と書かれており、学生自身は達成感と満足感を抱いていたようである。次年度も学生としっかり話し合い意見交換をして受動的ではなく能動的な卒業研究としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

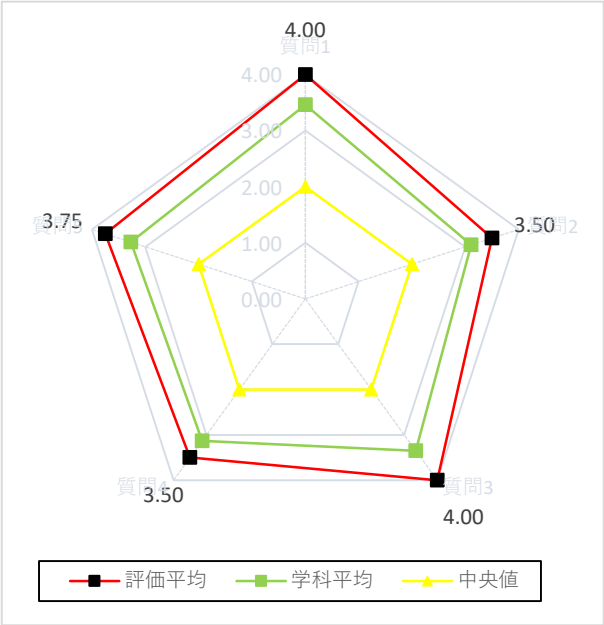
前期は、学生たちのテーマに関するスキルアップを目的に取り組んだ。
ワークショップの開催という最終目標に向けて、学生もよく取り組んでくれた。
他のゼミと協働するなど新たな試みを実践することができた。

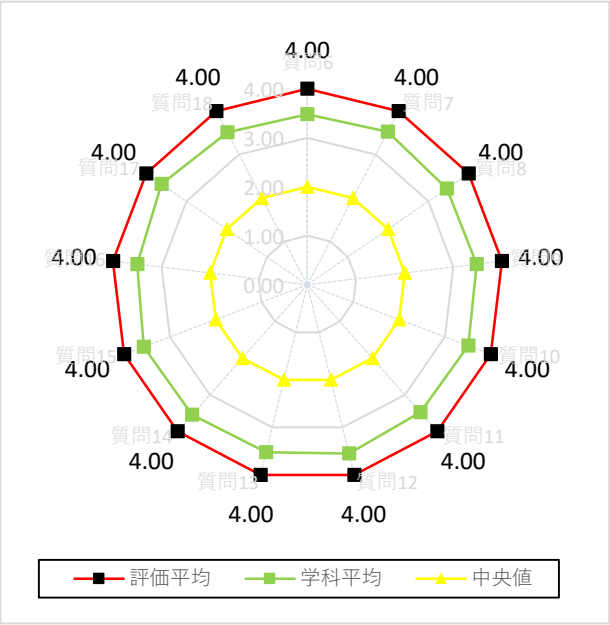
（３）次年度に向けての取り組み

これまでの結果から、学生と共に向かうべき目標が明確な方が、
授業全体に対する評価も良好である。
今年度を参考にして、次年度も明確な目標設定をしっかり行うようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

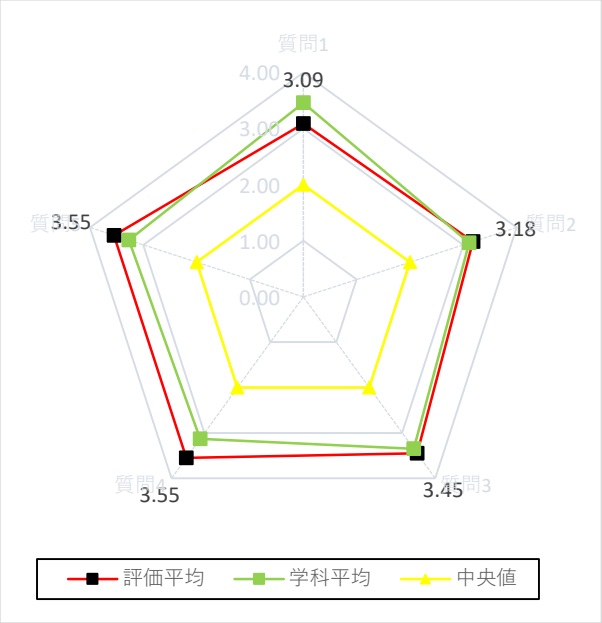
全体として高い評価であった。
少人数で学生たちの興味・関心に基づいたテーマについてレビューを行う活動であったため、意欲をもって取り組むことができたと考えられる。
教員とのやりとりも多く、楽しみながら研究活動を行うことができたのではないかと思われる。

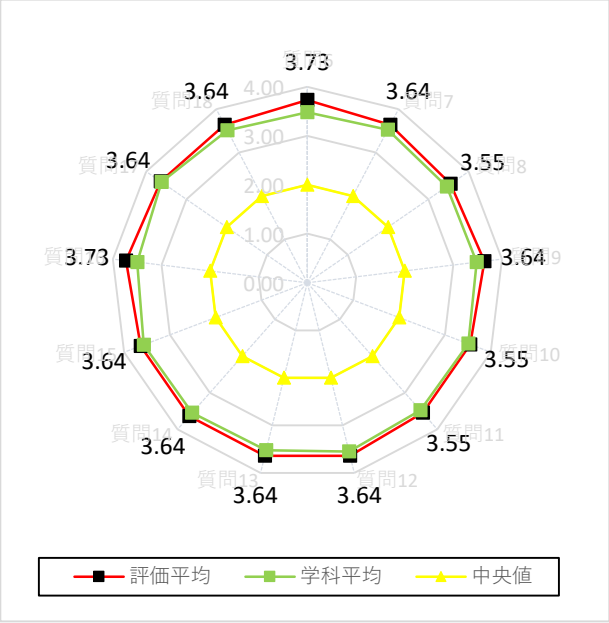
（３）次年度に向けての取り組み

2023年度も引き続き、学生の関心をもとに研究論文のレビューを行い、学生が専門的な知見を理解した上で現場の様々な問題に取り組んでいけるような授業としていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習（卒業研究）	11名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加度は、「欠席」「シラバスの活用」において学科平均を下回っているも、ほかの3項目については学科平均を上回っており、特に「総合自己評価」が高い結果となっている。

授業内容・方法・対応においては、すべての項目において学科平均を上回っていた。特に評価が高かった項目は「シラバスの説明」「双方向のやりとり」であった。しかし、質問内容が記入されていない質問19以降に回答している学生が11名中6名いた。

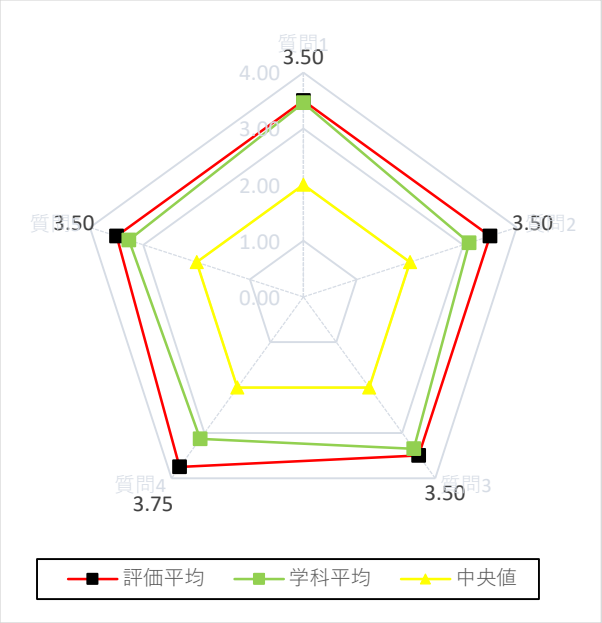
今年度の「地域生活支援演習（卒業研究）」は、例年のような取り組みではなく、1年以上入国の遅れた留学生27名の国試対策につながるような内容をコースの教員で検討した。その結果、過去の国試・模擬試験・学力評価試験の“総合問題”から問題を抽出し、個人またはペアにその問題を配布し、問題の読み解き・病名・支援の方法・関連のある法律などを詳細に調べ発表することとした。調べて発表する側、発表を聞く側、双方の介護の理解が深まることをねらいとした。学生の自己評価が高かった理由としては、与えられた過去問に対し、それぞれの方法で真面目に取り組み、発表のための工夫をしたからだと考える。

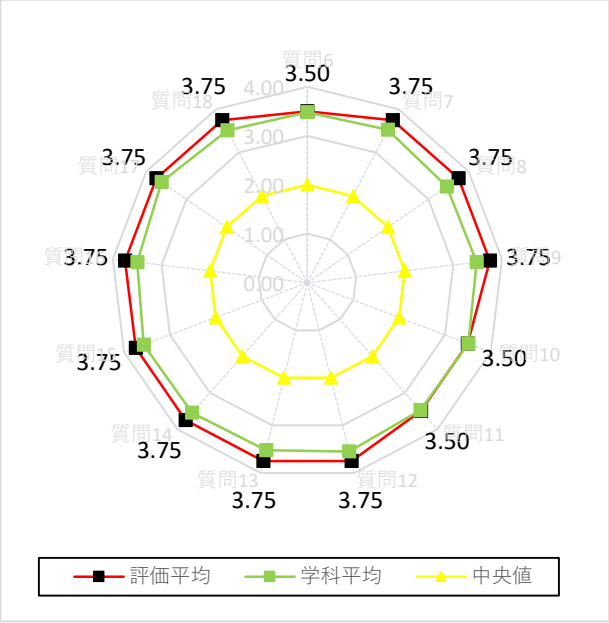
（３）次年度に向けての取り組み

来年度の内容は、決定していない。学生から自由記述欄への意見も特になかった。学生の意見を尊重し、新し取り組みを継続しても、例年の取り組みに戻してもいいと考える。自分たちの気になるテーマを調べることで福祉への興味・関心を広げることも重要だと考える。いずれにしても、留学生にとっては、時間的に厳しい科目となっている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

多くの項目で高い評価となっており、学生の満足度が高かったと思われる。

学生自身の取り組みに関する質問（質問1～5）に関しては全ての項目で学科平均を上回っており、学生自身が意欲的に課題解決に向けて取り組むことができたと感じていることに嬉しく思う。卒業課題研究の1番の「ねらい」は達成されたと思われる。

また、質問6以降も高評価が続いている。質問10と11に関しては学科平均に届いていないが、少人数でのゼミ活動という性格上、板書や教科書等の使用が無いため致し方ないことだと思われる。

全体として、特に問題は無いと思われる。

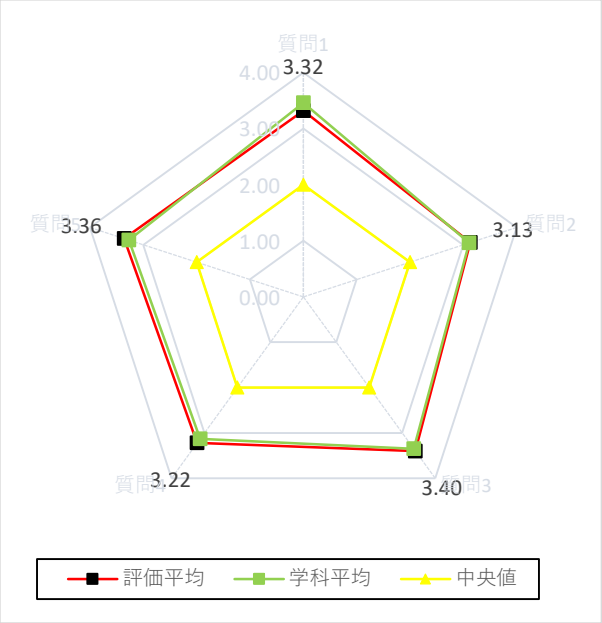
（３）次年度に向けての取り組み

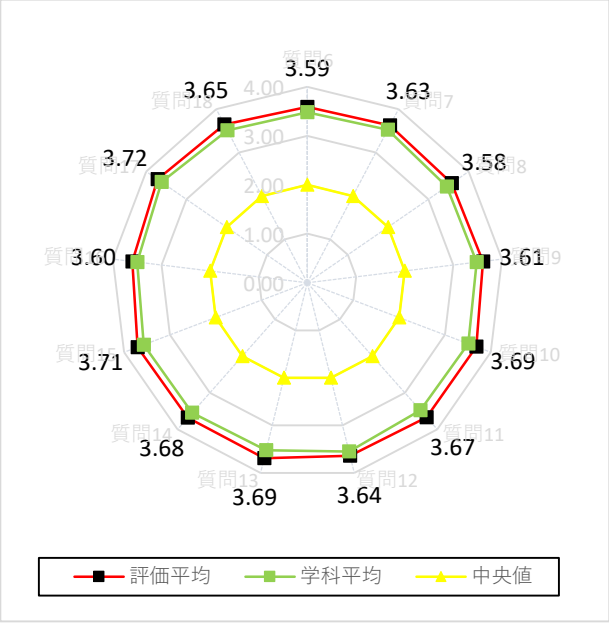
学生の自由記述は無かったものの、授業中のコメントなどから、学生が教員との双方向的なやり取りや、個別の質問への対応に対して満足度が高い様子が伺えたため、次年度以降もその点を重視して授業を展開したいと思っている。

また、前期科目である「卒業課題研究Ⅰ」に比べ、各項目の評価が高くなっている。これは、前期から取り組み続けた学生自身の課題を、後期の授業で自己解決できたためだと思われる。学生自身が自分の力で問題解決できたと思えるような支援を次年度以降も続けていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅠ（実習を含む）	152名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

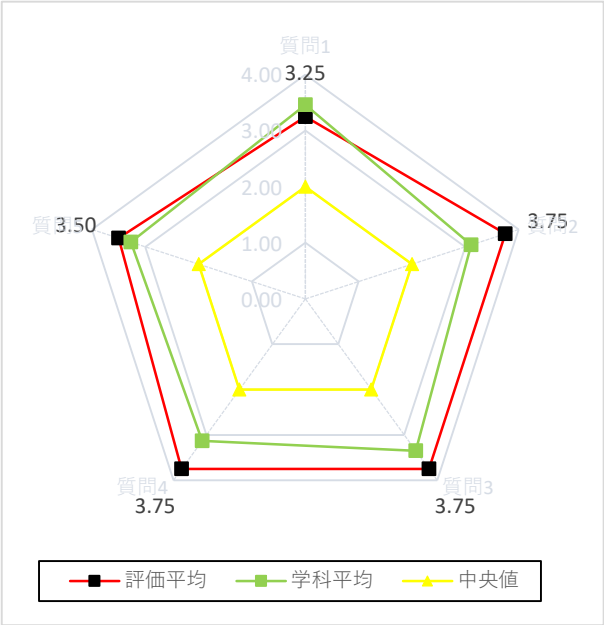
この科目は、コンピュータの基本的な知識の講義と使用方法の演習を行う講義である。
演習においては、比較的ゆっくり進めているため、質問13、質問12などについては、良好な結果が出ていると考えている。
昨年度比較的低評価であった、質問６については、改善がみられた。

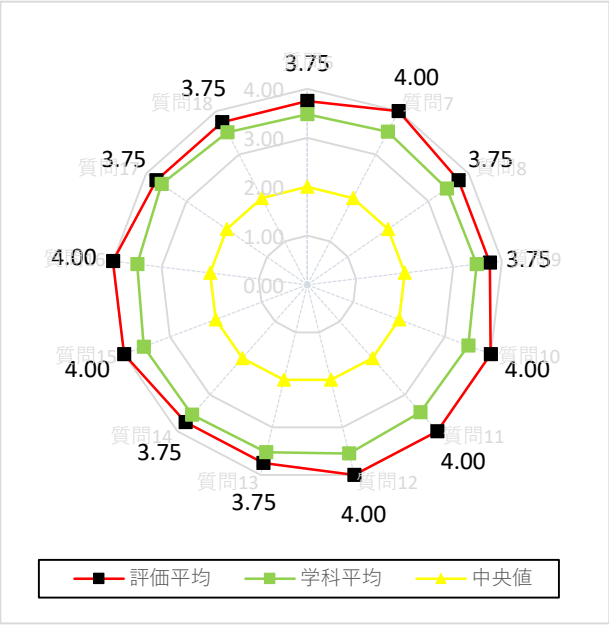
（３）次年度に向けての取り組み

質問2「シラバス」については、第1回目の講義で説明しているが、学生の記憶には残っていないと考えられる。これからは、講義内容の節目で再度シラバスを用いて、進捗内容を説明する必要があると考えている。
今後も、学生の理解度を確認しながら講義を進行するように心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

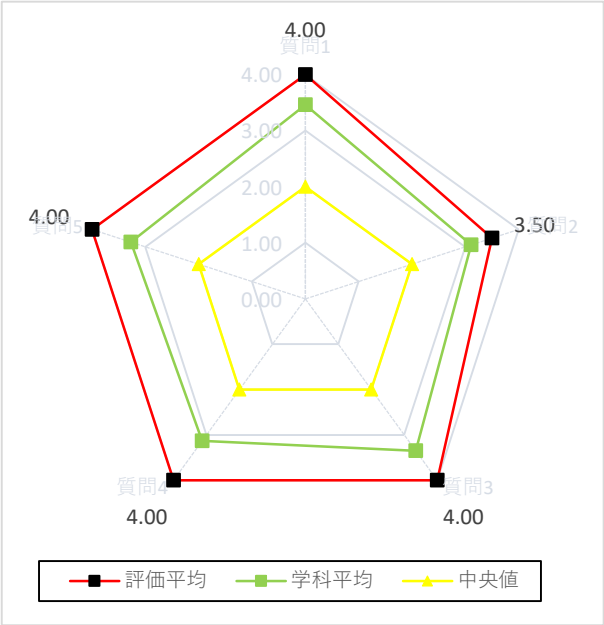
高校生徒の高大連携ゼミ、地方自治体と協働したワークショップの開催など
新たな取り組みを実践することができた。
学生たちもしっかりと取組み、成長を感じることができたようである。
その結果が学生たちの取り組みに対する評価にも現れている。

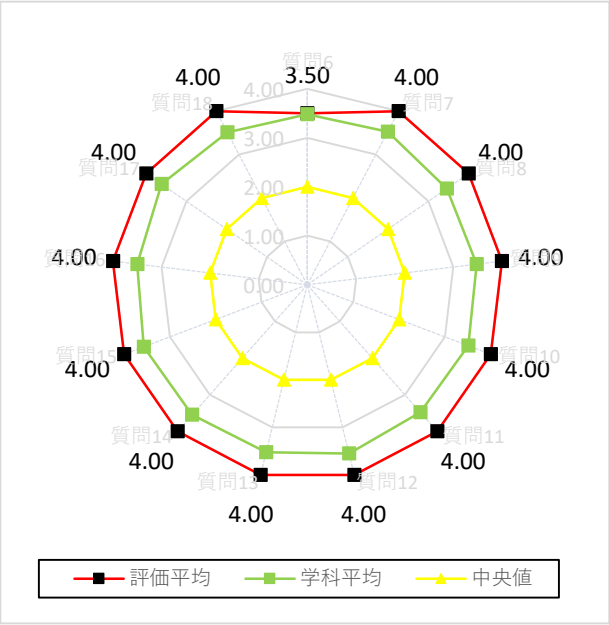
（３）次年度に向けての取り組み

ついつい教員主導で進めてしまいがちになるときがあるが、
次年度も学生たちと双方的なやり取りをしながら（質問16）、
学生たち主体のゼミ活動となるよう、指導方法については十分に留意する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

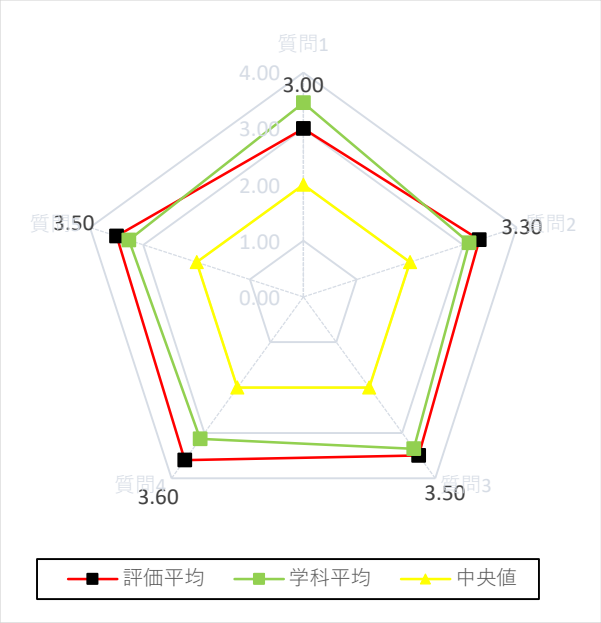
質問6～18にかけて質問6を除いて、評価は満点となっている。ゼミ学生3名の内、2名のみが回答しており、授業評価としてそのまま扱うことは難しい。一方で2名の評価が満点ということは、ゼミの進行・内容について十分に実施できたとも考えられる。また、今回のテーマがＶＲを用いた実験だった為に学生の興味・関心を引き付けた可能性が大きい。抄録の作成は年内に終わらせたことも評価を高くしている。
質問6については、前期の卒業課題研究Ⅰにて十分な説明をしていることがあった為にこのような結果となったと考える。

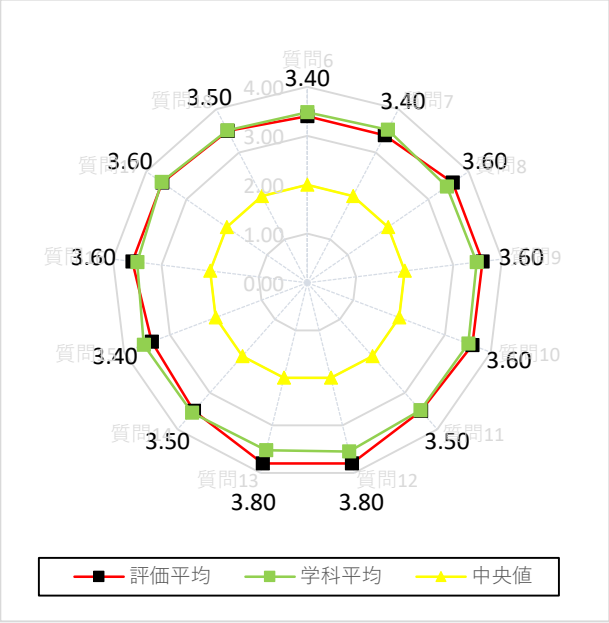
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、より実践的な学生が能動的に考えるゼミ活動を展開していく予定。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	11名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生自身の評価については、質問１「欠席回数」、質問４「工夫できたか」を除いては概ね学科平均値を示しているのがわかる。この科目では、授業回数以上に学生自身が自主練習も多く行ってきたため、それらを含めて頻繁に参加した者と、それほど出席できていない者との間で差が開いている。発表会に向けて熱心にやってきたかどうかが一番顕著にみられる時期なので、このような結果になったと考えられる。

教員に対する評価については、「卒研Ⅰ」よりも多少数値が上がったように見受けられるが、質問６「シラバスの説明」、質問７「到達目標の明確化」、質問１５「公平な対応」等の項目において、約１～２名「不十分」と回答している。

本科目は、発表会に向けた準備時間という位置づけであるため、発表会に向けて取り組む姿勢や人に聴かせるに値する演奏指導を行ってきたつもりではあったが、改めて到達目標として、言葉にしていく必要があるのだと感じた次第である。

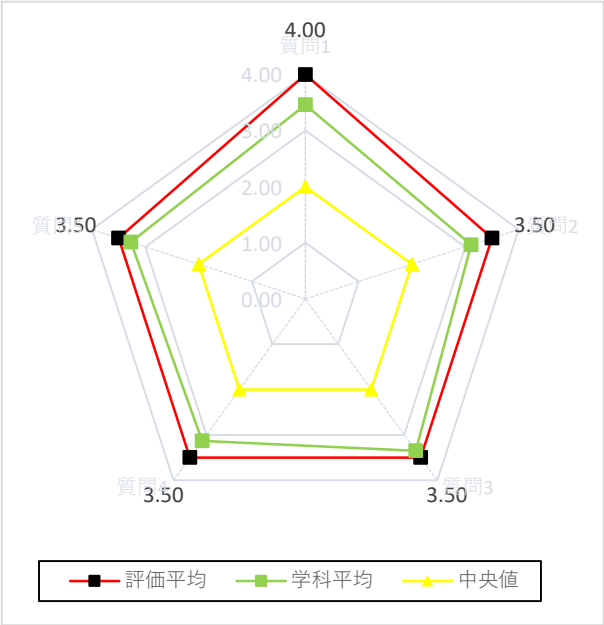
（３）次年度に向けての取り組み

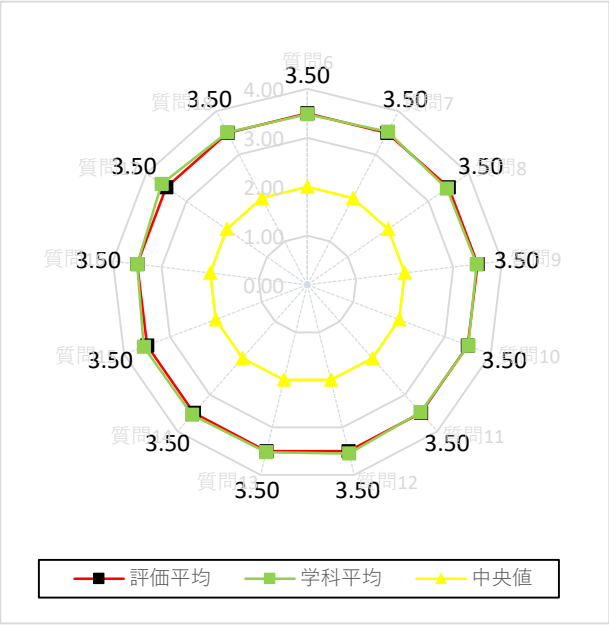
本科目は「器楽表現」「卒研Ⅰ」と同じ受講生であるため、共通することではあるが、全ての学生の要望を聞き入れて授業に反映させることは大変難しいと感じた年であった。「卒研Ⅰ」よりも少し改善されたとも言えるが、「不十分」と回答する場合は自由記述にも具体例を書いてもらうよう指導したいとも感じた。

尚、この授業は１年生も一緒に受講していたが、当時のやりとりを見て、活動の進め方を学べたという声もあった。学生も教員も変化に柔軟に対応し、その時の最善を尽くせるように切磋琢磨していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

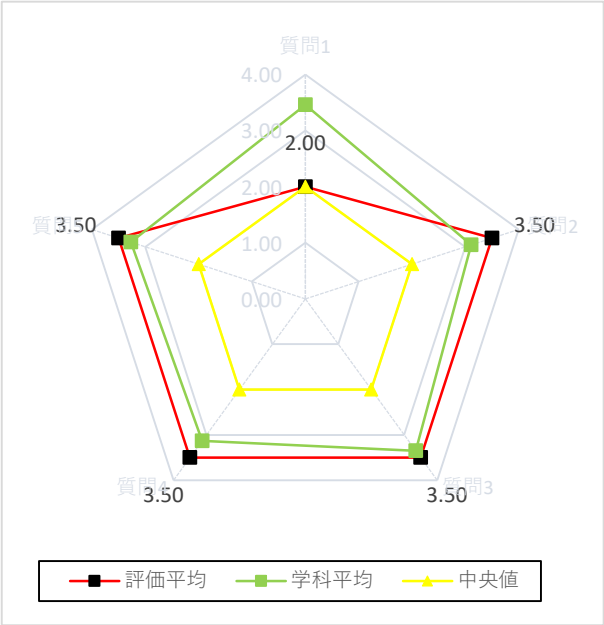
学生による授業評価においては、概ね学科平均と同等、項目によっては学科平均を上回っていた。
その理由としては、４名という少人数教育にて授業ができたため、より積極的な学生主体の授業が図れたかと思う。また、フィールドワークも実施し、学生が楽しんで学べる機会を提供できるように努めた。

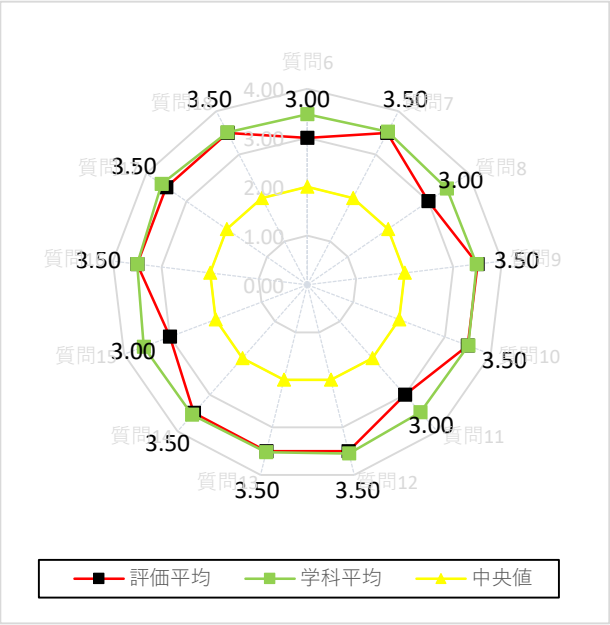
（３）次年度に向けての取り組み

前期の卒業課題研究Ⅰと同様、本科目においてもフィールドワークを中心としたゼミ活動を重視した。その結果、学生自身も主体的に学びながら、卒業課題に取り組めたかと思う。
反省としては、積極的に参加する学生とそうでない学生の落差がみられたため、次年度は学生間の役割分担や課題設定を明確にし、ゼミ活動を計画することが課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

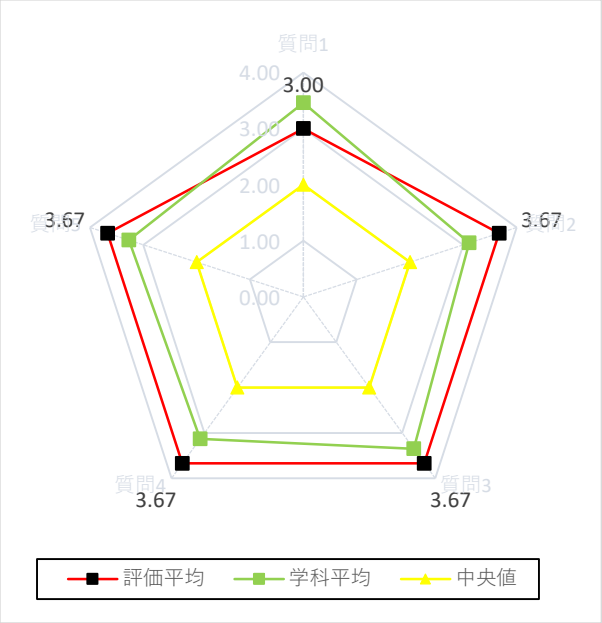
多くの項目で学科平均を下回る結果となった。
学生のゼミ課題への興味や関心を引き出す工夫の再検討が求められる。
今年度の履修者は、担当者のゼミを第３希望、第４希望で入ってきたためか、開始当初からモチベーションを維持、高めていくのに苦慮した。
学生の希望に沿ったゼミ決めの工夫の必要性と共に、学生一人一人の興味、関心を丁寧にひろい、対応していく工夫の必要性を感じた。

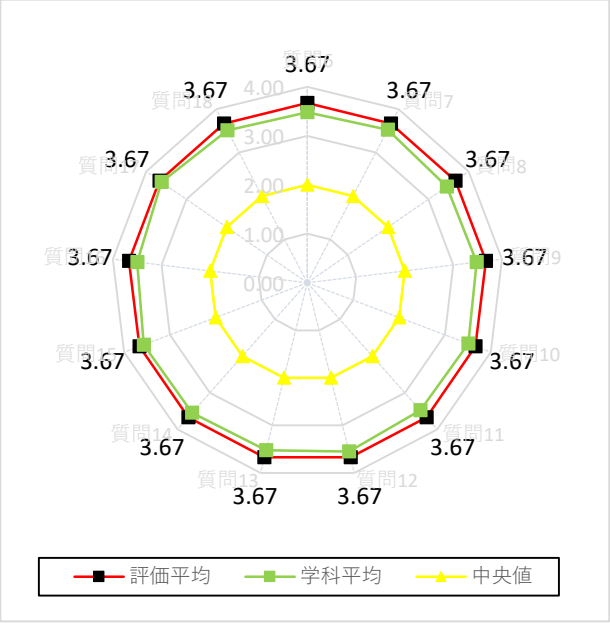
（３）次年度に向けての取り組み

学生の問題関心を拾い上げながら、取り組みの内容を検討していく。
また、学生が意見を出しやすい雰囲気づくり、環境づくりに取り組んでいきたい。
学生の実習や就職活動等を踏まえながら、無理のないスケジュール設定をしていく。
机上では学べない実践からの気付きや学びの機会を設ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

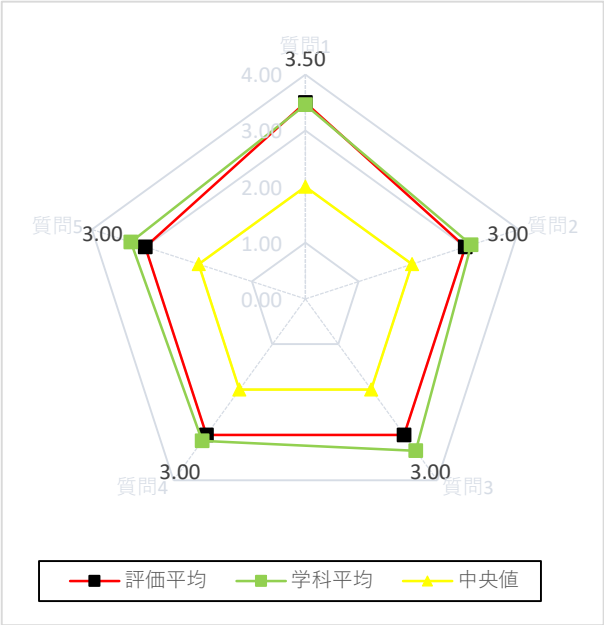
本年度の実践研究は、ゼミ生がアート（造形活動）に関する理論学習とワークショップを体験することや、実際に子どもたちをサポートする場を経験することを通して「①造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につける」と共に「②アートを通して保育や地域に貢献する意識やスキルを高める」ことを目的とした実践研究が主なテーマであった。研究の成果については、佐賀新聞の記事や特集にも数回とりあげられ、地域に貢献する実践研究として、望ましい評価を得ることができた。今回はゼミ生たちに「①造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につけること」「②アートを通して保育や地域に貢献する意識やスキルを高めること」を目的として実践研究を行うことを意識させた。ゼミ生の中には造形活動が苦手というメンバーもいたが、クリニカルアート（臨床美術）という「技術面を評価しない造形」「五感を生かした言葉かけによる自尊感情を高める造形」を通して、保育実習や施設実習では体験できなかった体験が有意義であったという感想が聞かれた。アートを生かして保育や学校教育、地域への貢献ができるという認識を高めることができたと捉えている。

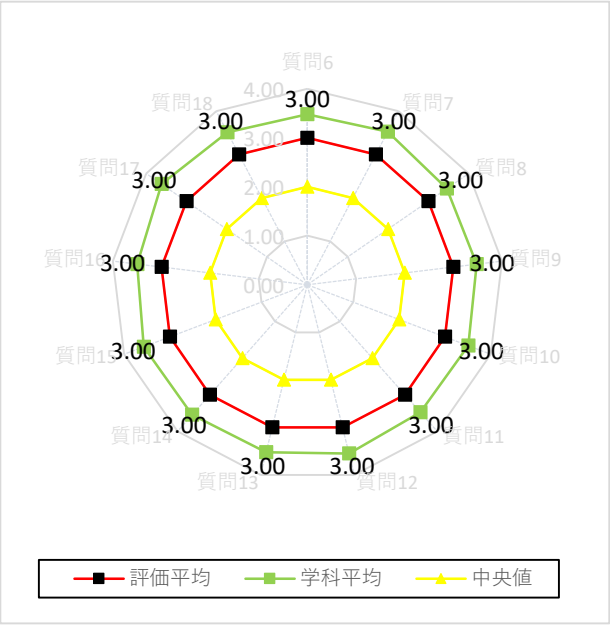
（３）次年度に向けての取り組み

次年度もアートを通して、保育現場、教育現場、介護現場、異文化交流に貢献するという意識やスキルを高めるゼミ活動を展開していきたいと考えている。そのために、前期においては、先ず「造形活動に関する新しい指導・支援スキルの基礎を身につける」ためにクリニカルアートに関する理論学習とワークショップを体験させたいと考えている。体験を通して「アート（造形活動）によって自尊感情を高めることに気づかせたいからである。例えば、制作の途中に「急がせない」「他と比べない」「主体的な活動を促す」ことの大切さや、シェアリング（完成作品鑑賞の場）では「五感を生かして言葉かけをすること」の効果を自分ごととして体感させたい。アート（造形活動）は単に作品を完成させることだけが目的なのではなく、作品を通してそれぞれの子どもの存在や思いを認める場にもなるということを学修した後に、放課後児童クラブや地域の保育園、幼稚園、子ども園でのワークショップ、社会教育団体主催の親子アートワークショップ、認知症予防のためのワークショップ、佐賀県や佐賀市の国際課主催の異文化交流イベントにおけるワークショップ等における実践研究を継続したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

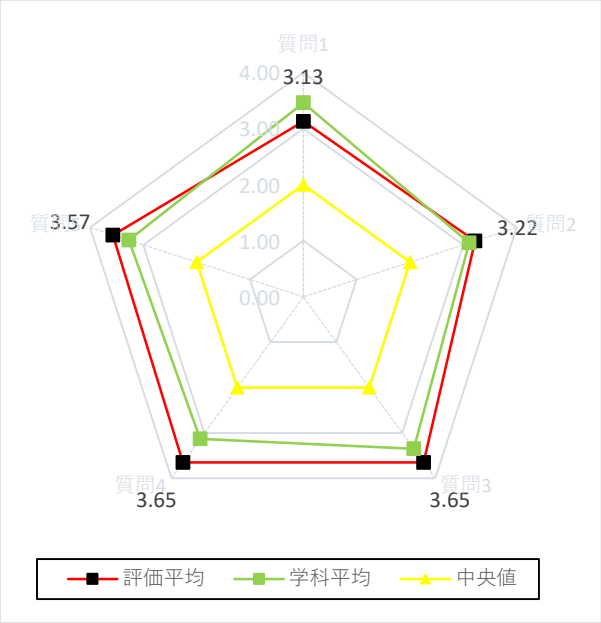
4名中2名の回答ではあるが、しっかりとこの評価を受け止めたい。学外での活動などを予定していたが、コロナの影響もあり、予定よりも遅い時期に実施することになり、活動の振り返りや卒研発表会に向けた準備などに時間が足りなかったことは否めない。

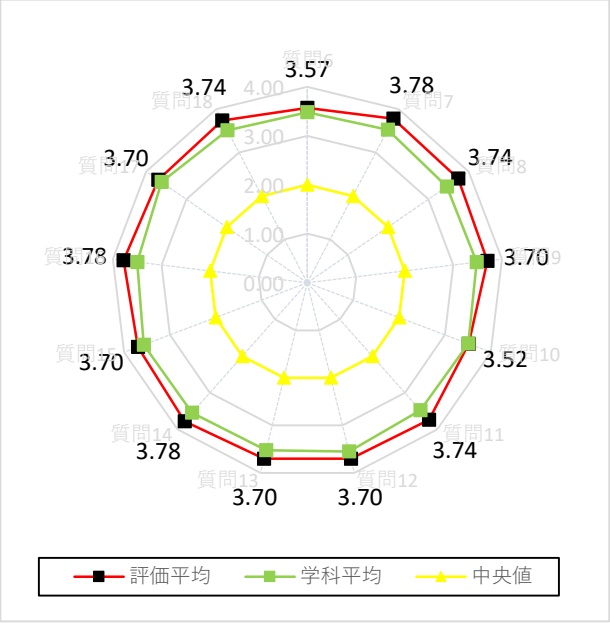
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は計画的に実践し、振り返りを行い、学生が主体的に取り組めるような環境づくりをしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

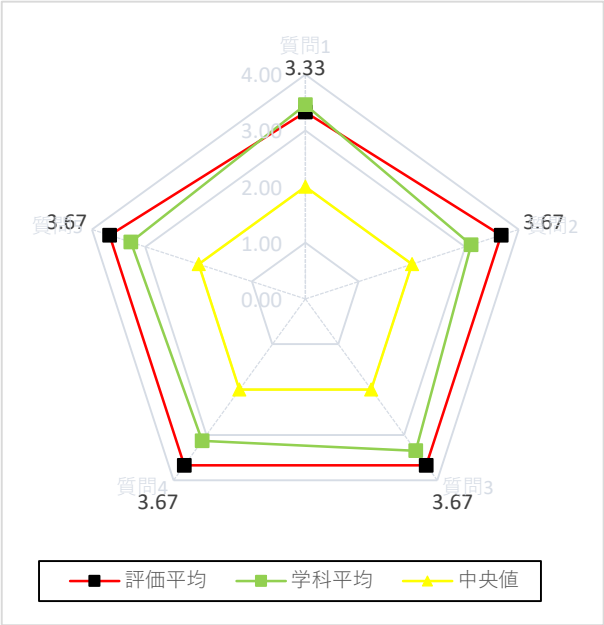
本授業は前期の卒業課題研究Ⅰに引き続き、表現フェスタ（実技発表会）に向けて、ミュージカル「不思議の国のアリス」の演技、歌、ダンスを担当するミュージカルチームと、その劇中の音楽を生演奏で担当するミュージカル器楽チームが、舞台での発表に向けて準備を重ねる過程である。評価は全体的に学科平均よりやや高い評価である。本授業の特性上、質問10で問われる「視聴覚教材」の使用はほとんどないことから評価が低くなっている。
一人で2グループを担当していることで、指導が行き届かない部分は非常勤講師にも分担を依頼し進めたが、今年度のミュージカル器楽チームとのコミュニケーションとその指導には難しさを感じた。両チームのコミュニケーションも上手くいかない部分もあり苦労が多かったが、最終目標である実技発表会では滞りなく発表を終えることができた。ミュージカルチーム学生の自由記述には感謝の言葉が並び、そこには救われた。

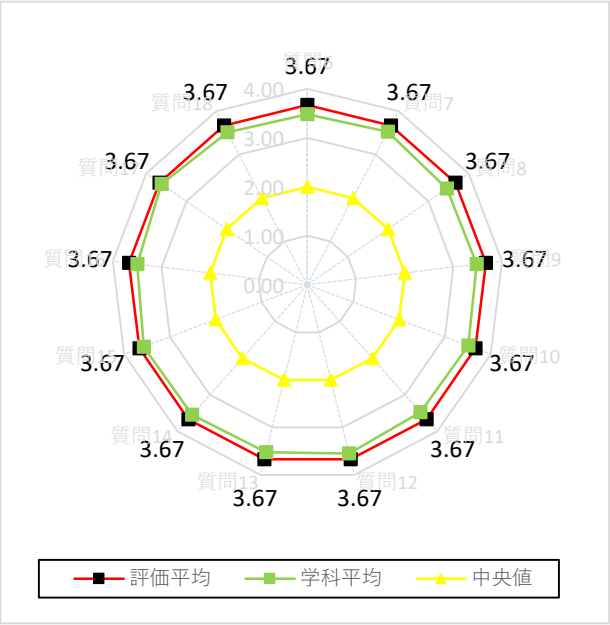
（３）次年度に向けての取り組み

表現音楽コースの学生減少により、次年度はミュージカルチームのみを担当することになった。前期の卒業課題研究Ⅰから後期の卒業課題研究Ⅱまで、1年間を通したの取組みであることで、学生のモチベーションを保ち続けることが難しいと感じることもあるが、毎回の授業の目標を明確に示し、学生の意欲を引き出せるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

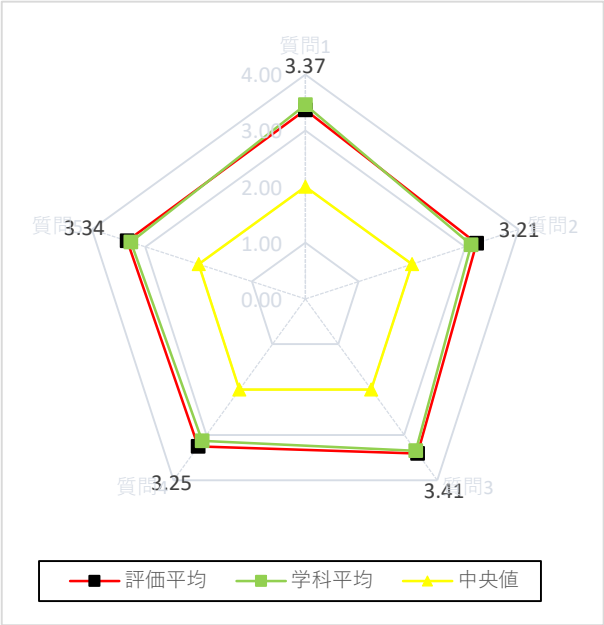
全体として学科平均と同程度かやや高い結果であった。
特に学生の自己評価が高くなっていた。学生間での議論や発表会に向けた準備など、明確な目標に向けて取り組んだことが肯定的に評価された可能性が考えられる。
一方で科目に対する評価は平均的だったが、前期よりは低くなっていた。後期には各学生がテーマを決めて各自で取り組んでいたため、教員からの働きかけが少なくなった面があり、このことが評価の低下につながったのかもしれない。

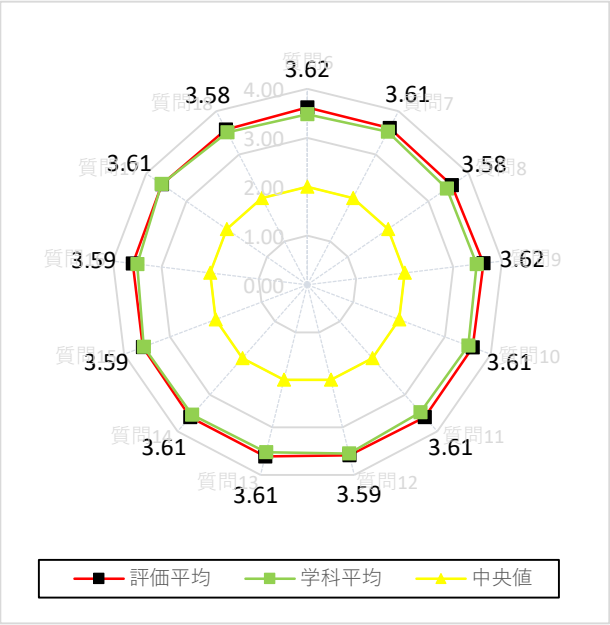
（３）次年度に向けての取り組み

2023年度も授業方法そのものを大きく変える必要はないと思われる。
ただし、最後まで教員が積極的に関与し、学生が心理学的な知見を得たりそうした視点を持って現場に向かうことができるような働きかけはより多くしていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅡ	108名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

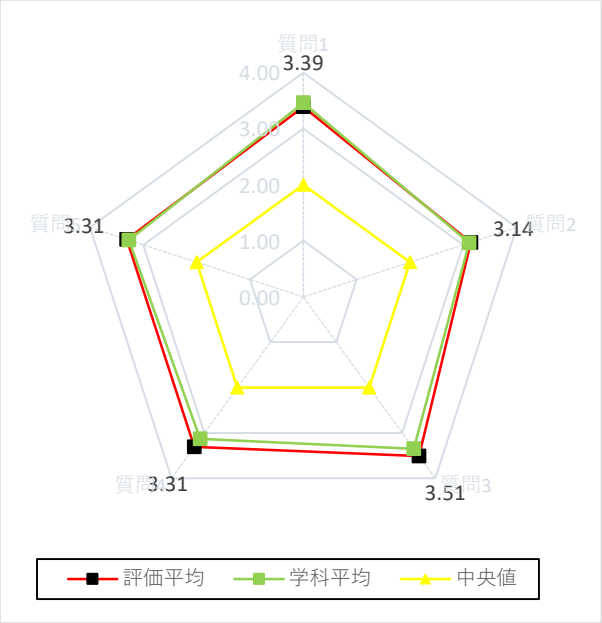
この講義は、PCを使い主に表計算ソフトの使い方について講義を行う授業である。
高評価としては、質問7～13などの項目が挙げられる。
主に、講義内容への工夫や学生への対応が評価されており、大変励みになる結果である。
今年度は、特に目立った低評価項目は無いと感じている。

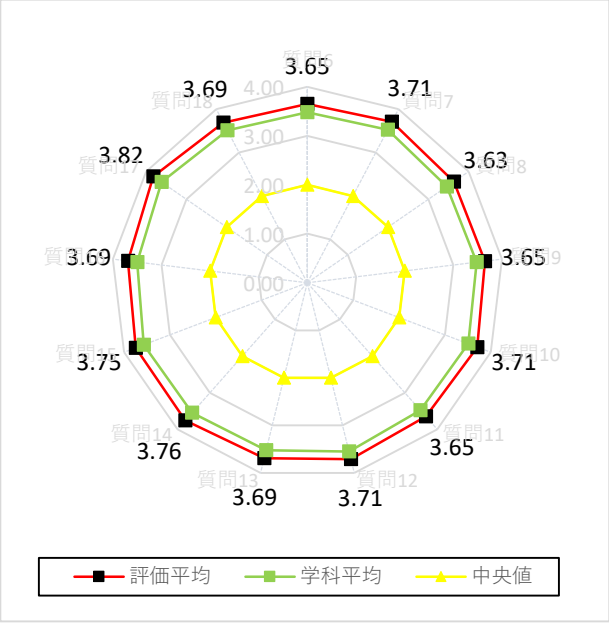
（３）次年度に向けての取り組み

今年度、高評価を得た項目については、今後も続けていきたいと考える。
次年度も、学生の専門分野に近い例題を準備し、学生の興味関心に沿うような講義内容に出来るよう努力したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション概論	53名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

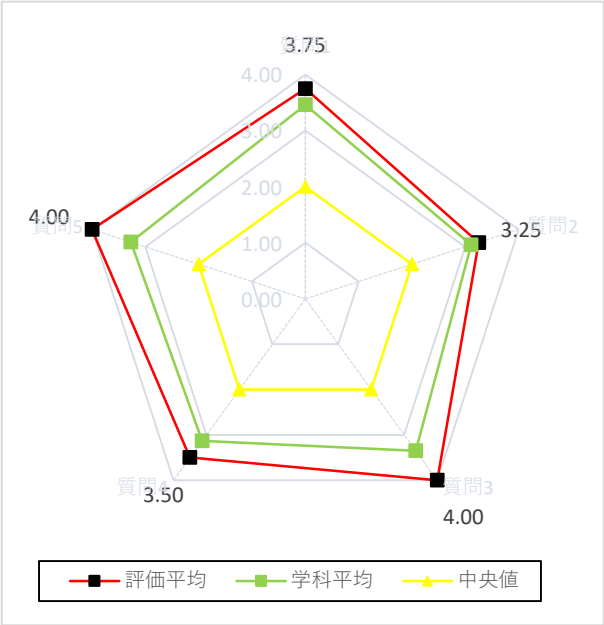
全体的には、平均的な結果となったが、総合評価としては平均を上回ることができた。
この科目は全て遠隔授業ということで、オンデマンドとオンラインを使い分けながらの授業となった。オンデマンドでは、しっかりと学生にこちらの意図が伝わっているか不安な部分もあり、オンラインで実施する際に、授業内容を振り返りながら授業を展開した。しかしながら、例年になく履修者が多く、また、留学生の履修も多かったことから、遠隔以外での難しさを感じた。学生の表情や反応がなかなか感じ取ることができないため、授業で伝えたかったことがしっかりと伝わっているか不安であった。授業内容はパワーポイントのスライドを活用したが、遠隔のため、文字の大きさなどに気をつけながら準備をしたことが評価につながったと思われる。また、オンラインの時にはブレイクアウトルームを利用するなど、教員の一方的な授業ばかりにならないよう意識したことも評価につながったと思われる。

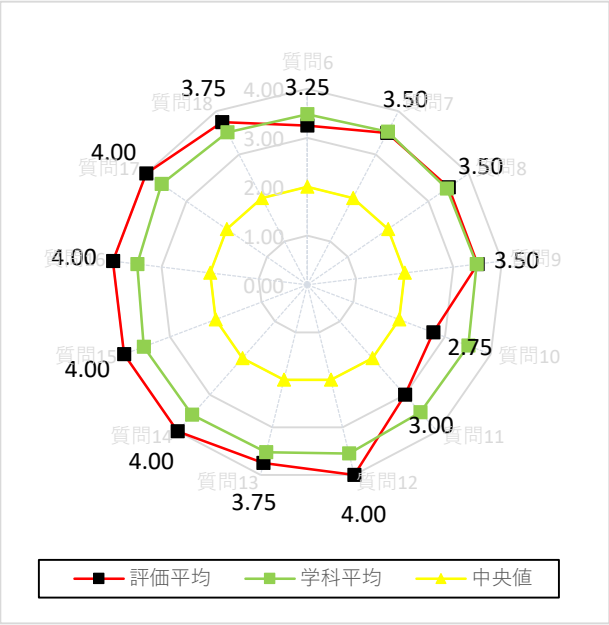
（３）次年度に向けての取り組み

今年度も遠隔授業のため、オンデマンドでも学生にしっかりと伝わるように意識したい。
オンラインにおいても、昨年度は学生の発表の場が少なかったため、学生一人一人が自分の意見を主張できる場を設け、学生が主体的に学ぶ環境をしっかりと作っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		レクリエーション実習	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

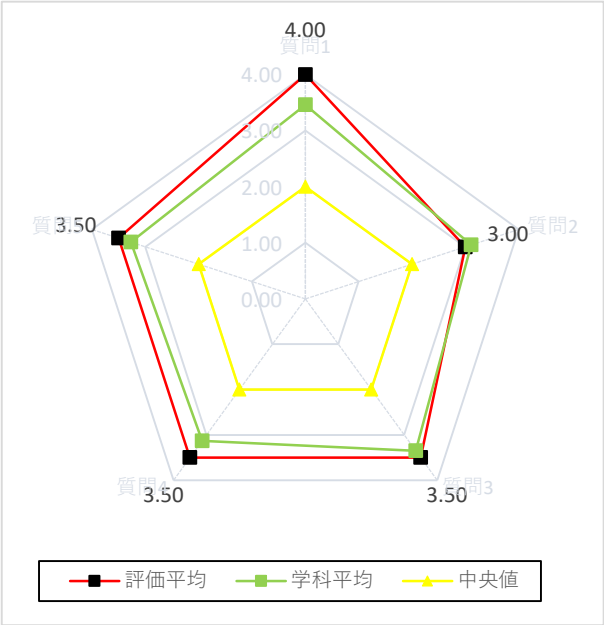
この科目はレクリエーションインストラクター取得のための科目であり、授業内容は現場実習のため、他の科目との単純比較は難しいと思われる。その中で、学生が希望した実習先では、レクリエーション活動を支援者や参加者の立場から考える機会になったのではないかと思われる。学生自身が真剣に取り組み、自己評価も高いことから積極的に取り組んでいたのではないかと考えられる。しかしながら、実習先のエリアが限定的だったため、学生にとっては参加しづらい地域もあり、実習先の確保が課題である。

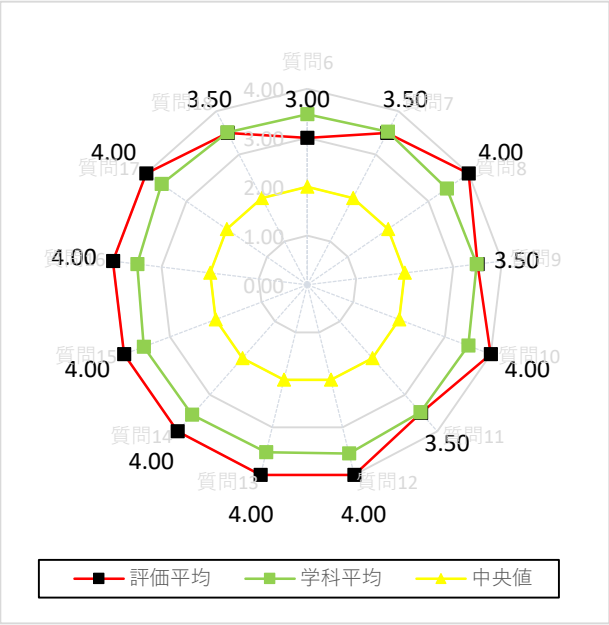
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、さまざまなレクリエーション活動の取り組みをとおして、地域貢献の大切さや様々な人との交流などレクリエーションの意義やレクインストラクターとして、どのような役割があるのか考える機会をしっかりと設けたい。
また、実習先を確保し、その中で学生が参加しやすいように年間計画や余裕をもって事前連絡をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション演習	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

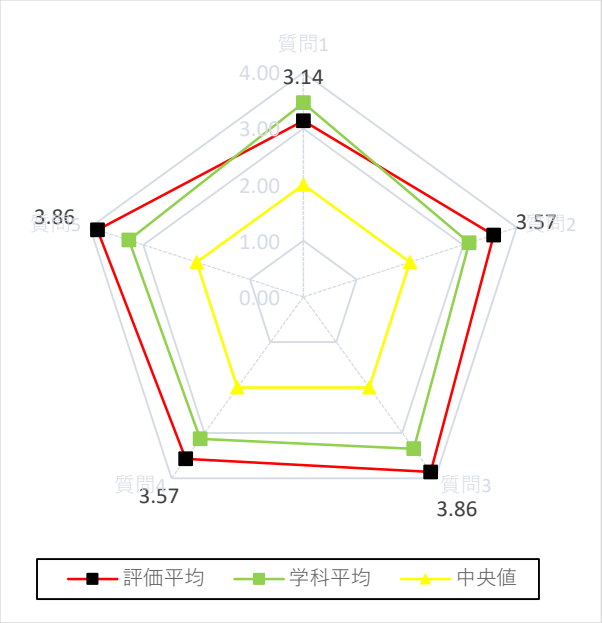
回答が2名ということで、全体との比較は非常に難しいが、学生の評価としてしっかりと受け止めたいと思う。最終的な履修者は3名であり、その中での演習による授業を展開することはやりづらさはあったものの、少人数だからこそできる内容や展開方法を考えながら授業に臨んだつもりではあるが、もっと工夫ができたのではないかと思われる。

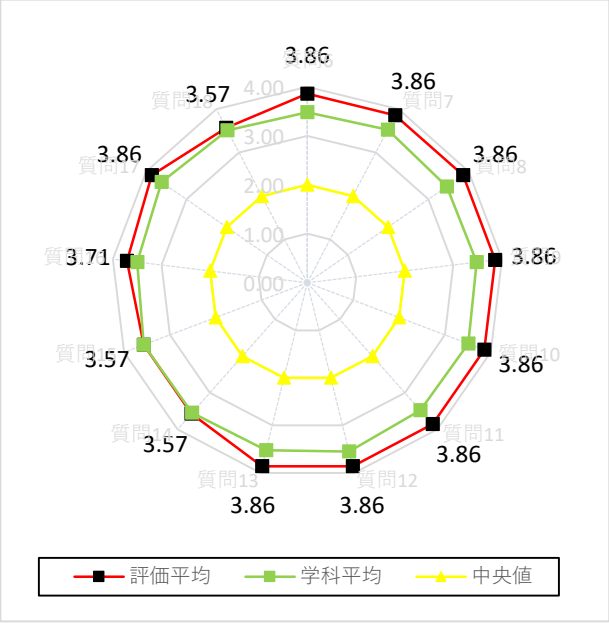
（３）次年度に向けての取り組み

次年度はレクリエーションの意義やレクリエーション活動の楽しさを実技をとおして学生に実感してもらえるような授業計画、授業の展開を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）	9名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

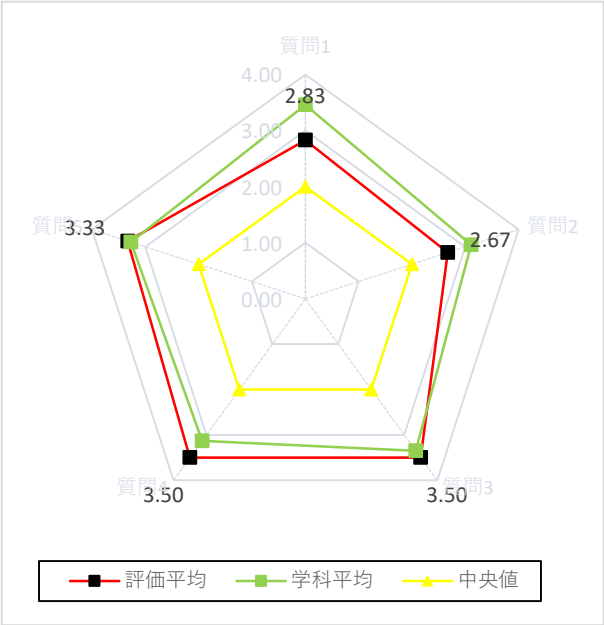
全体的に高い水準で評価されている。この科目は実践的な内容が多くを占めており、実際に地域の子どもと保護者を学内に招待して行っている。その為にかなりシビアが対応が求められる。そこで、自由記述の中には、「質問しにくい雰囲気がある。勇気を出して発言した生徒の気持ちを踏みにじるような発言があった。授業や取り組み、活動はとても良いと思う。受講した生徒が前向きにぽっぽに取り組めるように教員は接してほしい。」と1人からコメントがあったが、この時の状況を十分に理解できていなかったと振り返っている。コメントについては真摯に受け止めるが、このような一方的なコメントについては授業担当者として考察しづらい。実際に他の学生からは質問も出て、円滑に運営できていたためになおさらである。一方で、このようなナーバスが学生が増えてきていることについても配慮していく必要があると思われる。

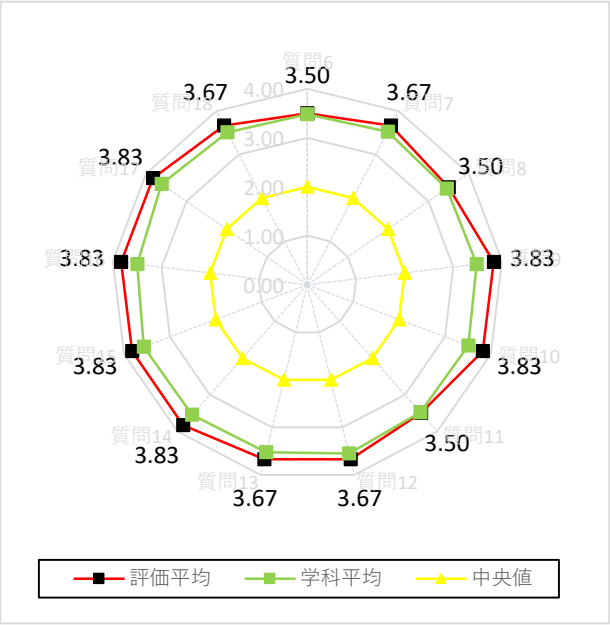
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、実際の臨床場面である為にその場で待ったり、黙り込んだりすることができない。その為、事前の準備を十分にして学生が安心して実践活動に参加できるような配慮を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎英語	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

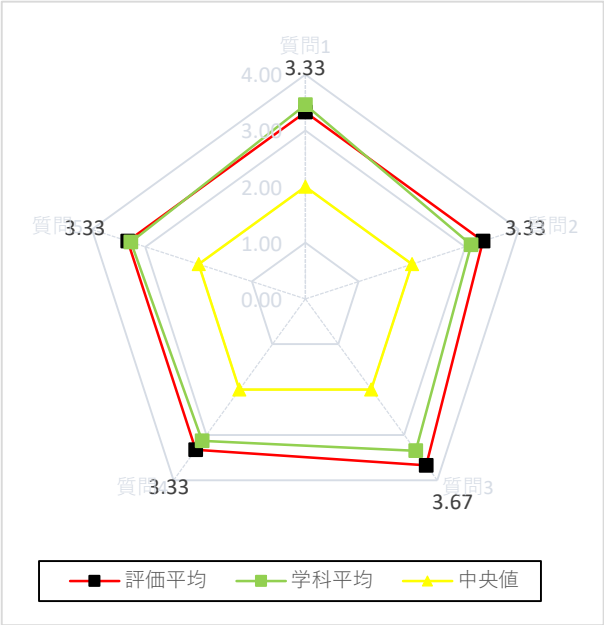
授業評価は平均的な結果となった。本授業ではTOEIC対策の前段階となる基礎英語レベルを高めることを目標として掲げている。受講者の人数は少ないものの、英語のレベルは高く、意欲的に取り組む学生が多かった。TOEICの受験に挑戦した学生もおり、本授業で資格案内をしたことの効果が出ている。しかし、シラバスの活用については評価が低く、効果的な授業計画の周知と自宅学習の促進が必要だと感じた。

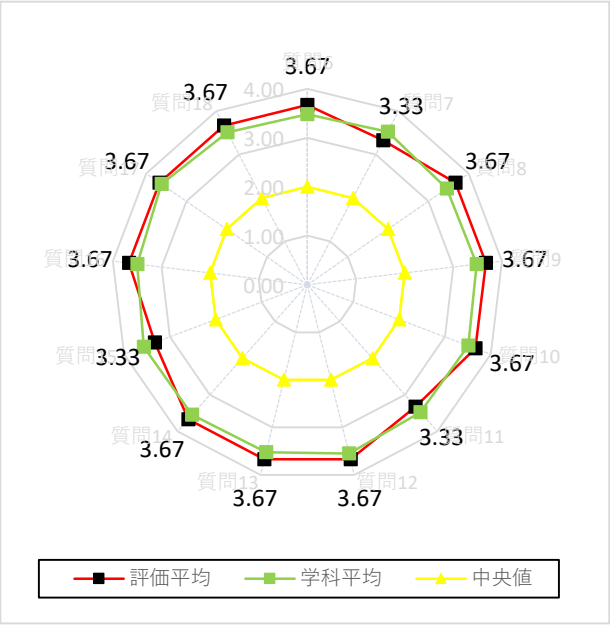
（３）次年度に向けての取り組み

英語の基礎力が高い学生については、受講の免除制度を取り入れたことで、本授業を選択しなくなることが予想される。英語に苦手意識を持っている学生に対してのアプローチの方法を検討し、主体的な学びを促す工夫を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		英語検定Ⅰ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

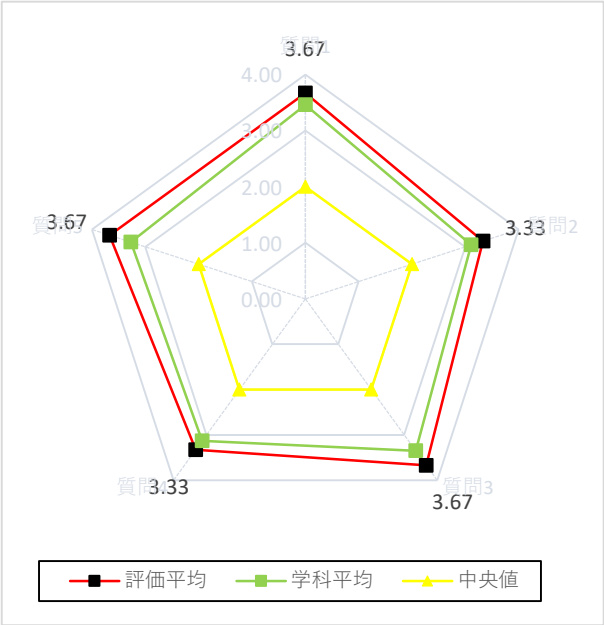
本授業はTOEIC400点レベルの問題を繰り返し行うことで、資格試験の特徴を捉え、点数の向上を図ることを目的としている。語学資格に関心のない受講生もいるため、到達目標を明確にし、毎回の授業で説明する必要があるが、それを欠いていた結果が示されている。受講生間のレベルにギャップがあったことも授業の充実度を下げる要因になったと推測できる。真剣に取り組んだという受講生の自己評価を基に学生の主体性を活かした授業を展開する必要がある。

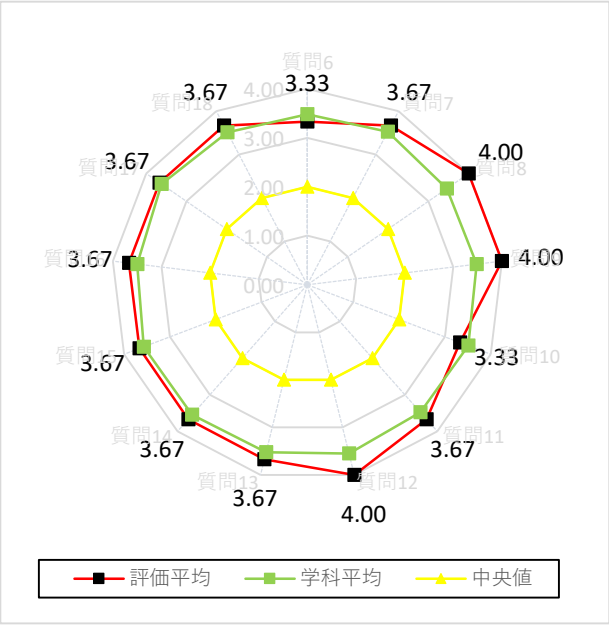
（３）次年度に向けての取り組み

受講生の得意不得意な点をテスト等によって把握し、英語能力を全体的に補えるような授業を展開する。英単語については小テストを実施し、必須単語の修得を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		アートマネジメント演習	6名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

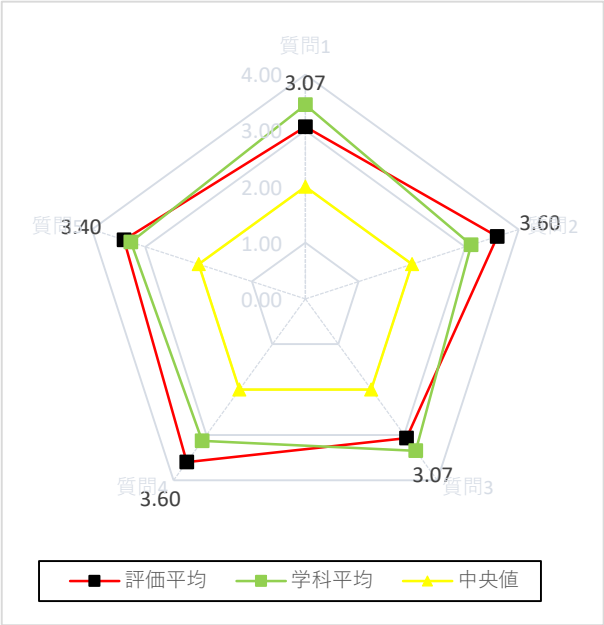
多文化コースの学生と幼児保育学科学生との混合クラスであるために、アートに係る授業の履修状況が異なる。そのために、幼児保育学科の学生が保育現場で生かせるアートの知識やスキルだけではなく、多文化コースの学生が目指すであろう観光関係、ホテル業等の業務においても生かせるようなグローバルな内容をシラバスには盛りこんだ。特にアートに関するグローバスな視点からのアプローチを工夫した。授業に対する学生たちの評価では、「質問8　授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」「質問9　授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」「質問12　声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」に対する評価が高い。「質問10　聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」についてはやや低いが、これは授業の性格上、ワークショップやプリントをもとにした中心の授業で当たった目だと考える。視聴覚機器の使用は、あくまで授業の目標達成の手段（ツール）であり、視聴覚機器を多用すること自体が目的とならないようにしている。シラバスについては授業のたびに内容確認をしていたが、更に意識づけをする工夫が望まれる。

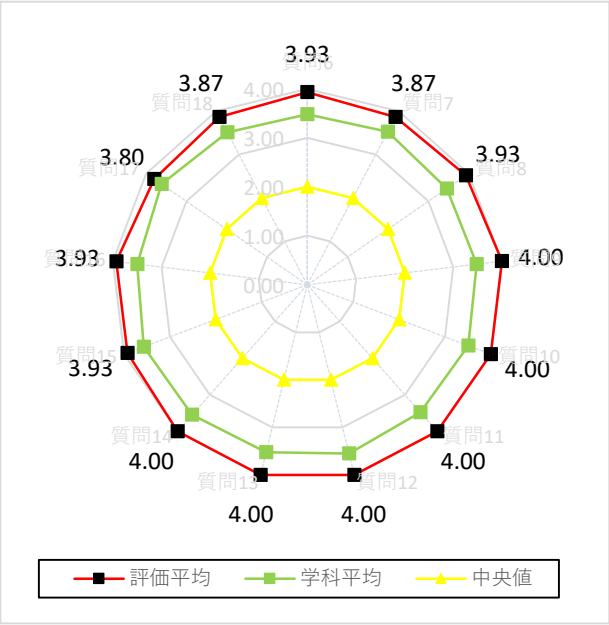
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も、多文化コースと幼児保育学科コースの混合クラスの予定である。幼児保育学科は、１年次、２年次と「幼児と造形表現」「保育内容（造形表現）の理論と方法」等の授業を通して、アートに関する知識や技能は身に就けてきているが、多文化コースの学生については「日本文化事情」の中で、アートに係るワークショップなどを体験するものの、幼児保育学科の学生と比較するとその量は少ない。そのことを踏まえ、この授業では次年度も「アート」に関する基礎的な学びからスターする。幼児保育学科の学生については、既習内容もあるが振り返りの場としてとらえさせたい。修行の進め方は理論学習に留まらず、体験型、空くてリブラーニング（主体的・対話的学習スタイル）を可能な限り取り入れながら学びを深めさせる。特に、近年注目されてきている「クリニカルアート（臨床美術）」のアートプログラムも積極的に取り入れながら、技術だけに注目するアートではなく、作品自体や作品制作の家庭における「言葉かけ（コミュニケーション）」の大切さに気付かせながら、アートを通して良好な人間関係を構築する力も育みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅰ	15名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

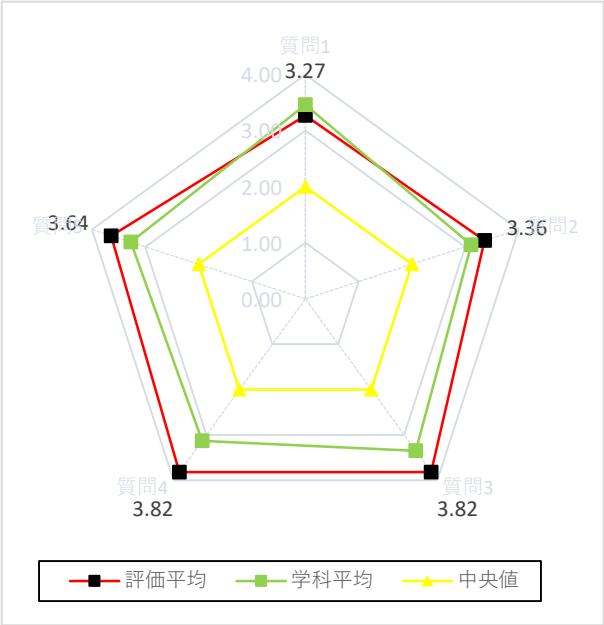
今年度から初めて担当した授業である。しかも、留学生の入国がおくれ、
TEAMSでの同期型の遠隔授業での実施となった。
学生に問いかけながら、双方向的なやりとりを重視した。
学生たちがそれによく応えてくれ、学生たちのおかけで授業を進めることができた。
学生の取り組みと教授方法に関する評価は、
おおむね良好なものとなっている。

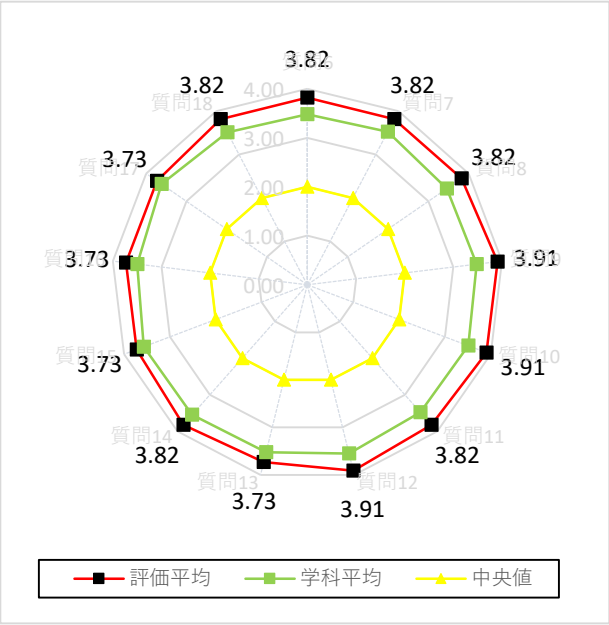
（３）次年度に向けての取り組み

前期の授業は入国時期の問題もあり、遠隔授業になりやすいようである。
次年度は非同期（オンデマンド）型の展開も考えたい。
そのうえで、受講者は異なるが、同期型と非同期型の授業を比較検討し、
より効果的な授業方法を模索する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅲ	14名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

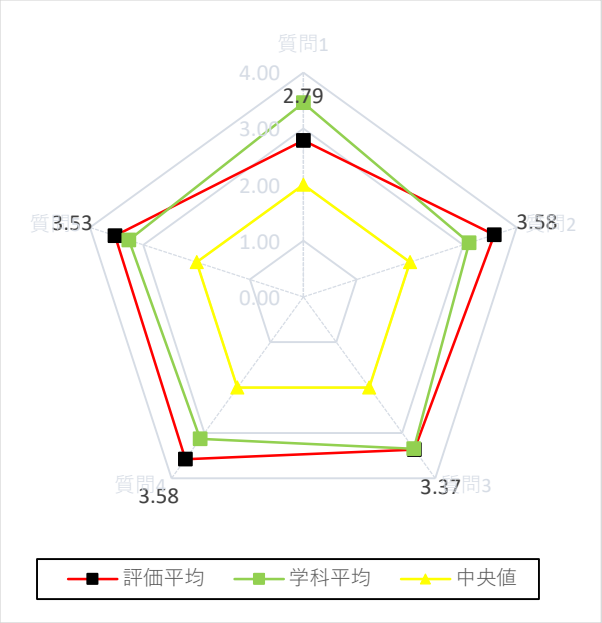
概ね平均的な結果となった。日本語の試験に対応するため、読解を中心とした授業を展開している。使用するテキストの内容が充実していたため、読解を楽しんでいるようであった。資格試験へのチャレンジを促す取組をして学習効果を高める必要がある。

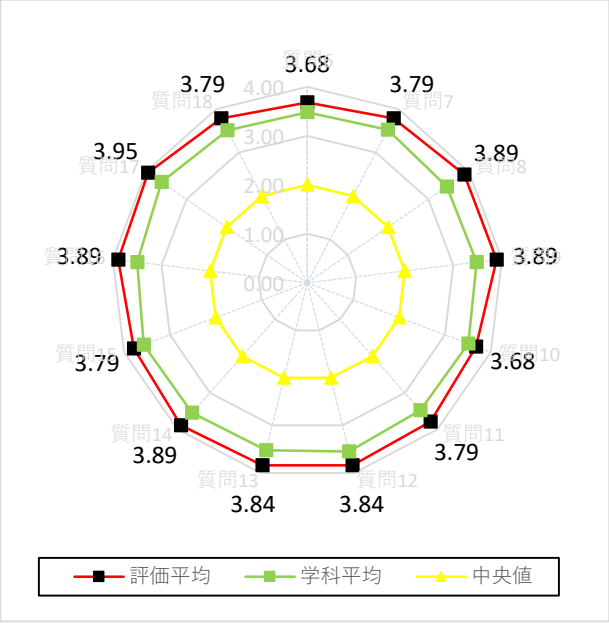
（３）次年度に向けての取り組み

受講生の読解力を高められるよう、コンテンツの充実を図る。資格試験への受験率や合格率の向上を目指し、受講生一人一人の学習状況等の把握に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語検定Ⅰ	20名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

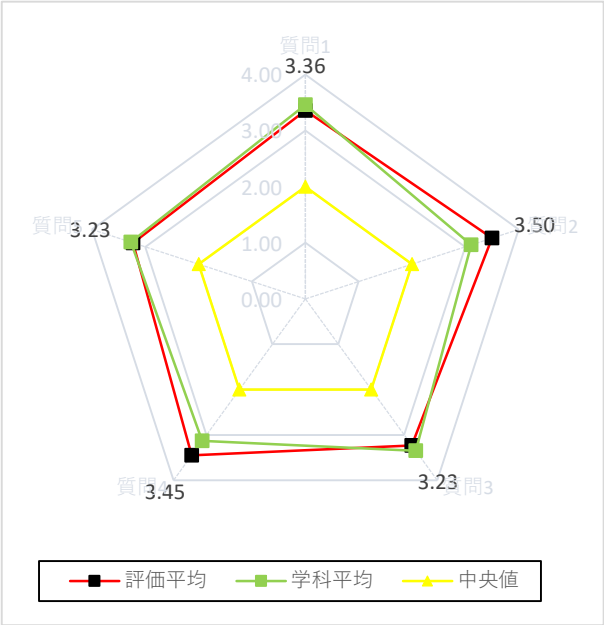
前期は同期型の遠隔授業で「日本語Ⅰ」の授業を展開したが、
後期の本授業は対面で実施することができた。
日本語能力試験に向けて、「読解問題」を中心に授業を組み立てた。
また、日本文化理解に関する内容も一部取り入れながら、
生活のなかでの日本語にも興味を持ってもらうようにした。
学生の取り組みと教授方法に関する評価は、おおむね良好であった。

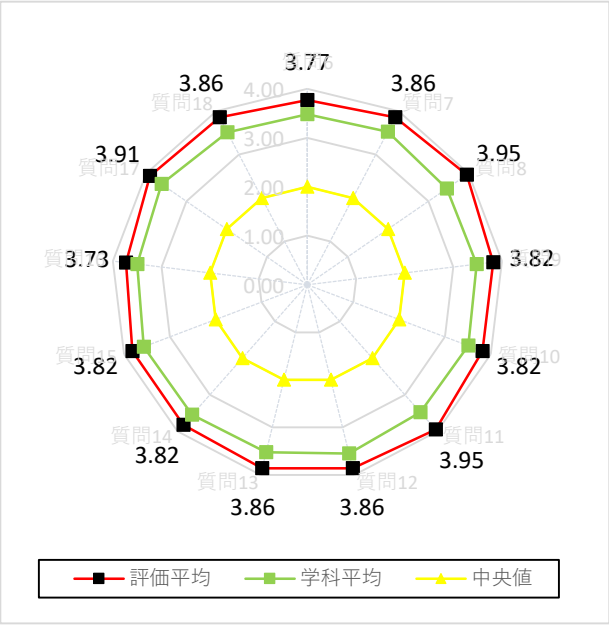
（３）次年度に向けての取り組み

学生たちの声からは、「読解」のほかにも
「漢字」や「語彙」についても取り扱ってほしいとの声もあった。
一方、日本語のレベルがそれほど高くない学生からは、
丁寧に「読解」に取り組めるのはとても勉強になるとの声もあった。
日本語レベルによって、授業に求めるニーズも異なるようである。
人数ではなく、より日本語レベルに応じたクラス展開も必要なのかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語応用（方言と介護）	24名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

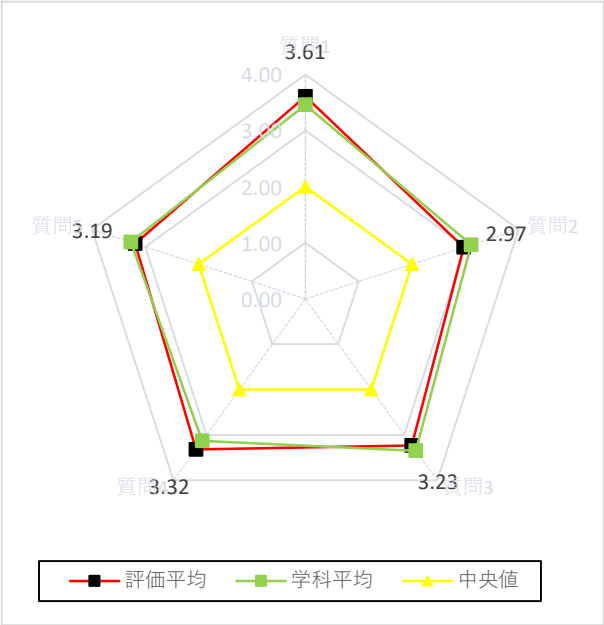
留学生のみの授業で演習が主であったので楽しく受けることができていたようであり評価は高い。自由記述では、佐賀弁が難しい、良かった、熊本弁も学びたい、大切な教科、配布資料が欲しい、楽しかった、役に立つなどの記述があった。口頭では後期のしてほしいという声もあった。自己反省以外は、100%良い又はほぼ良いであった。良いの率も全部90%近かった。質問19以降に答えた学生は、これも14名いた。特に高かったのは質問8の工夫、質問11資料であった。

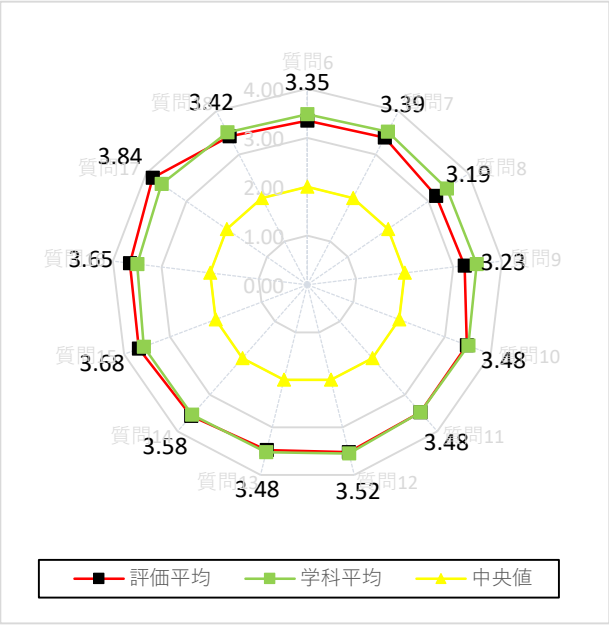
（３）次年度に向けての取り組み

卒業後や実習時に、わからなかった佐賀弁があったりしたので常に改善していく。佐賀以外に就職していく留学生にも対応していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

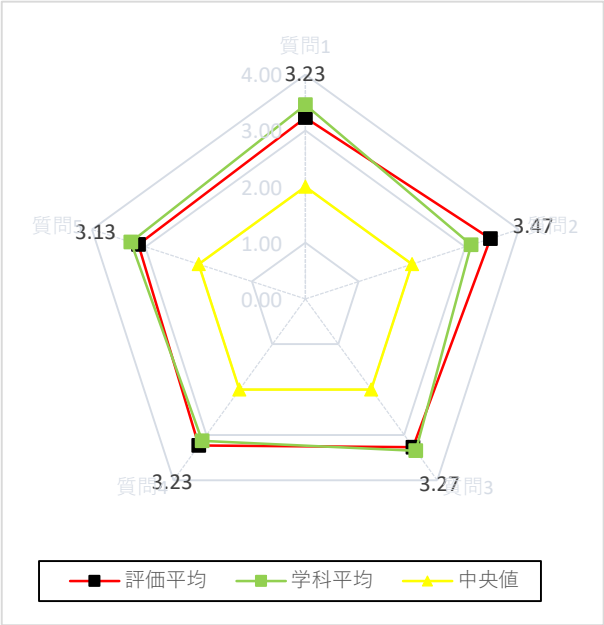
学生による自己評価は、学科平均と比べ質問１がやや高く、質問２がやや低かった。このことから学生の出席状況はよいが、シラバスの活用があまりなされず毎回の予習復習など事前事後の学習が不十分な状況が伺えた。
学科平均と比べ特に低かったものとして考察すると、質問８の興味・関心が持てる工夫、質問９の授業をわかりやすくする工夫について不十分であり、学生の興味関心と理解につながる授業展開の工夫が必要であり、次年度の授業改善に努めたい。

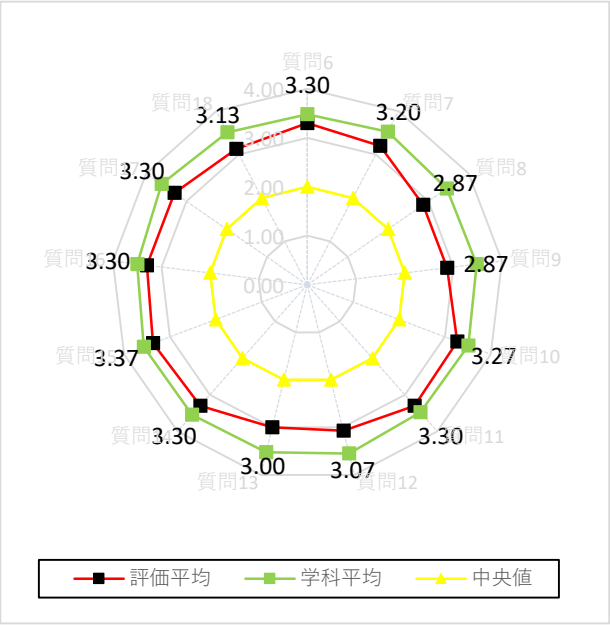
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、学生とのコミュニケーションを重視して双方向の授業、グループワークやペアワーク、学生が主体的に考え発言できる機会を増やしたい。また、関連で興味関心に結びつく話題の提供などを行い、学生の学ぶ意欲を高める授業内容について検討して授業の充実を図る予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学実験	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

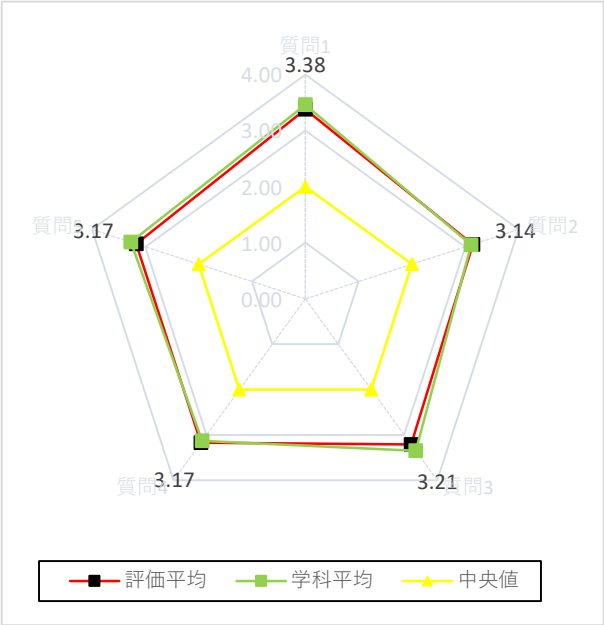
学生の自己評価は、ほぼ学科平均値と同等となっている。質問2のシラバスの活用については、他の担当授業科目（講義）と比べ活用度が高いといえる。
授業評価全般的には、学科平均値を下回っていた。当該科目は今年度からの新規担当の授業であり、授業時間も長いことから今後の内容、展開の工夫が必須である。

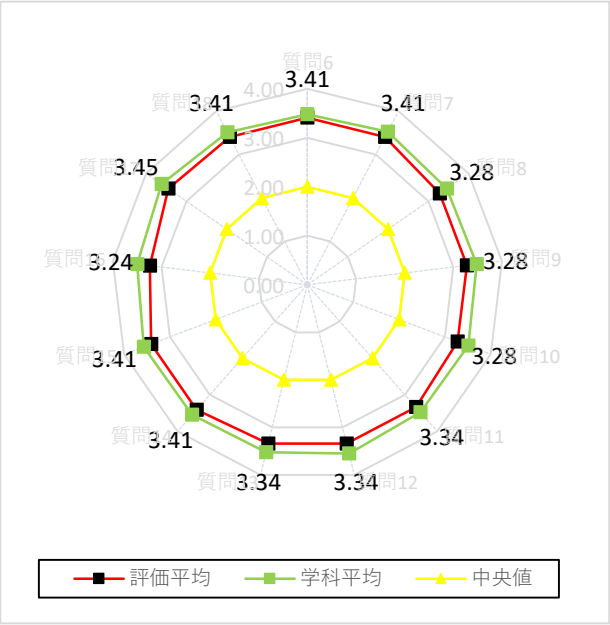
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、今年度の授業を振り返り、授業内容を再検討していきたい。前半は食品学実験で後半を当該科目で展開し、内容も同じ食品学で重複する部分もあるので両科目の棲み分けを再検討し実験内容と授業展開を改善する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅰ	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

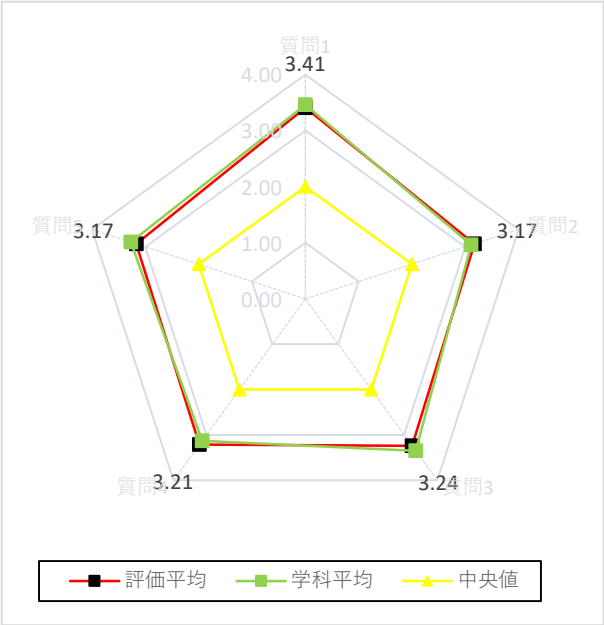
栄養指導論Ⅰは、栄養士の専門科目で、人々の健康・維持増進をはかるために正しい食生活を確立させるための実践的に取り組みやすい学問である。評価の結果は学生自身のQ2「シラバスを活用したか」3.14と低く、総合自己評価は3.17であった。授業内容・方法におい
てはQ17「熱心に授業に組んでいた」3.45で、低い値はQ16「双方的なやり取り」3.24であった。この総合評価は3.41である。学生のコメントは、特になかった。

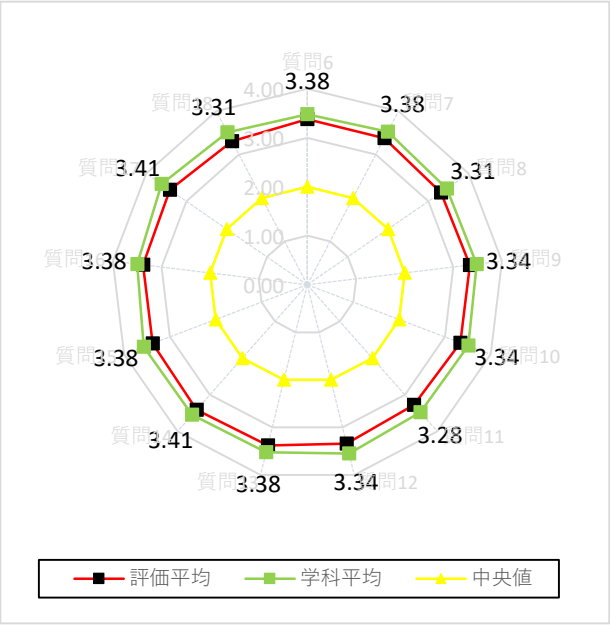
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かった学生の自己評価で「双方的なやり取り」について、質疑応答の時間を設けて興味・関心をもたせながら双方的な学習につなげていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅰ	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

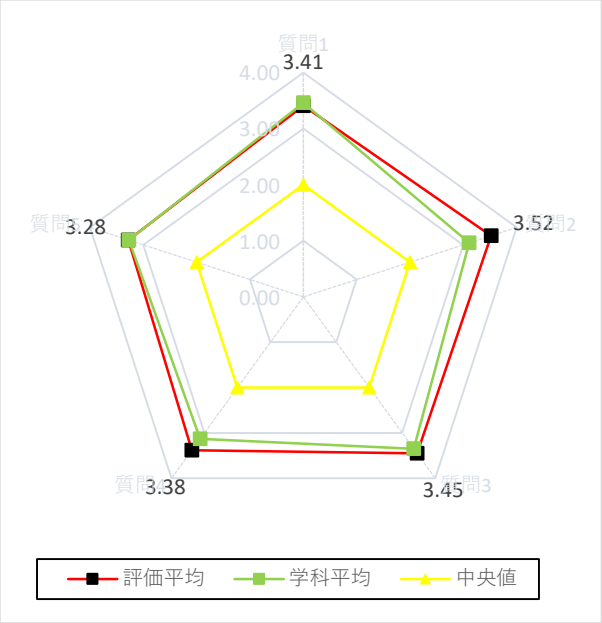
この授業は栄養士の専門科目である栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学ぶ、そして将来現場での栄養指導で役立てるように学んでいく授業である。評価の結果は学生自身の総合評価3.17で学生の参加態度の項目が全体的に低く3.14～3.41であった。教員側の総合評価は3.31で、その中でQ14「学生の質問等に誠実に対応している」とQ17「熱心に授業に取り組んで入る」は3.41で、他の項目は3.31～3.38の値であった。学生コメントは特になかった。

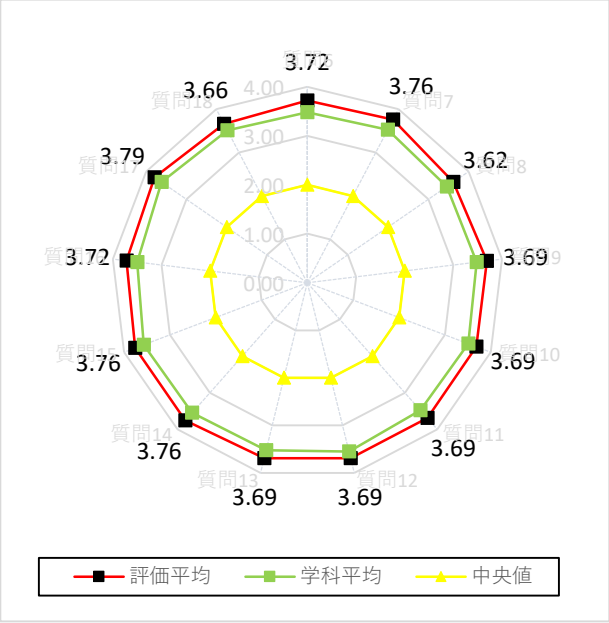
（３）次年度に向けての取り組み

今後の取り組みとして各項目の評価を高めていくことと、この科目の実習は実践的要素が含まれているので理解しやすい科目である。今後も興味・関心が持てるように分かりやすい内容で授業を展開し、予習・復習を習慣化させ積極的に学ぶ力を修得させたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論Ⅱ	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

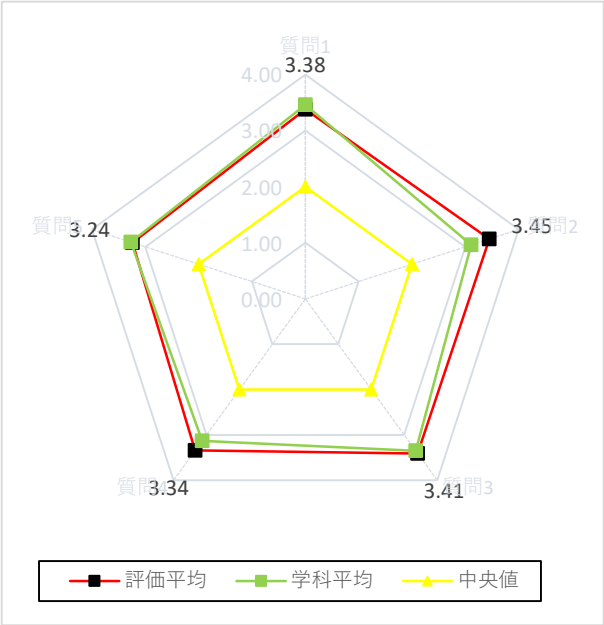
栄養指導論Ⅱの科目は栄養士資格必修科目である。栄養指導論Ⅰの授業内容を踏まえてライフステージ別に日常生活に即した内容である。評価の結果、学生の参加度であるQ1～5までの評価は3.38～3.52であったが学生の総合自己評価をみると3.28と低値であった。授業に対する教員側の総合評価は3.66であった。教員側で高い値はQ 6シラバスの説明、Q7到達目標の説明、Q 11教科書・資料の活用とQ14学生の質問、Q15公平さ、Q16双方的なやり取り、Q17教員の熱心さで3.72～3.79であった。学生コメントは「先生の話す速さがとても聞き取りやすかったです。」「分かりやすくて楽しかった。」「授業スライドを印刷しやすいようにしてくれて助かりました。」「スライドが分かりやすかった。」「すごくわかりやすかったです。」「課題の解説や回答が欲しかったなと思いました。」といったコメントを得た。

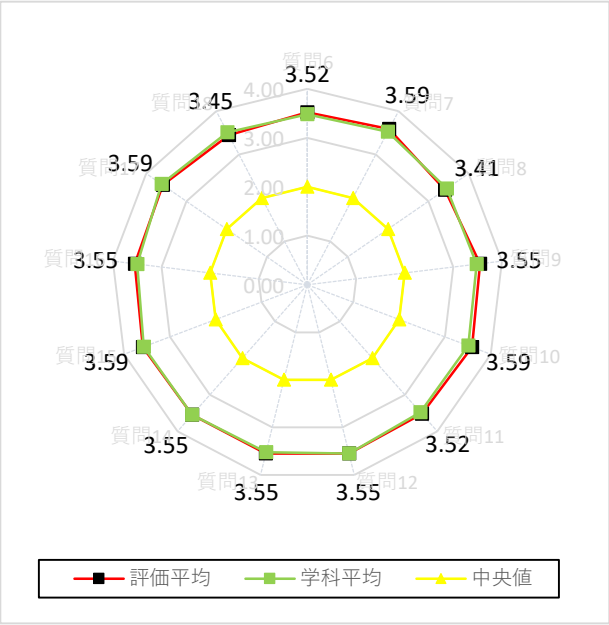
（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価は概ね良好であった。コメントで得た内容を更に充実させていき、学習の成果をあげていきたい。また、課題についての解説等は必要な内容だけを行っていたが、丁寧に解答解説をしていくことで学力向上につなげていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習Ⅱ	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

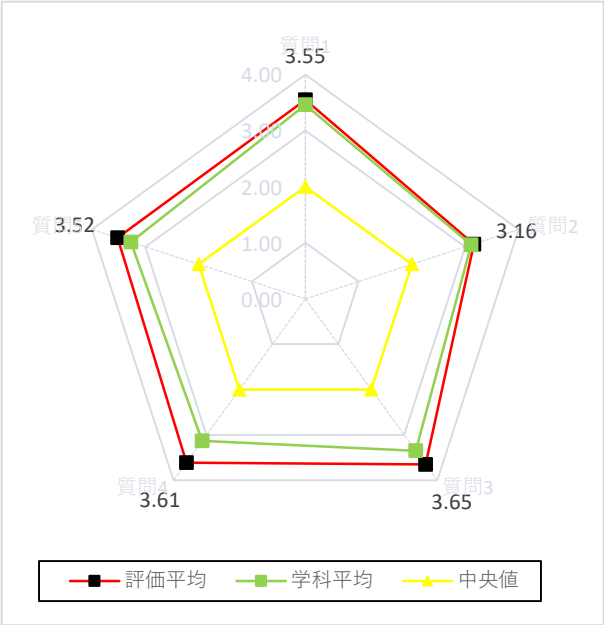
総合評価は3.50であった。質問項目6～18については学科平均並みであった。

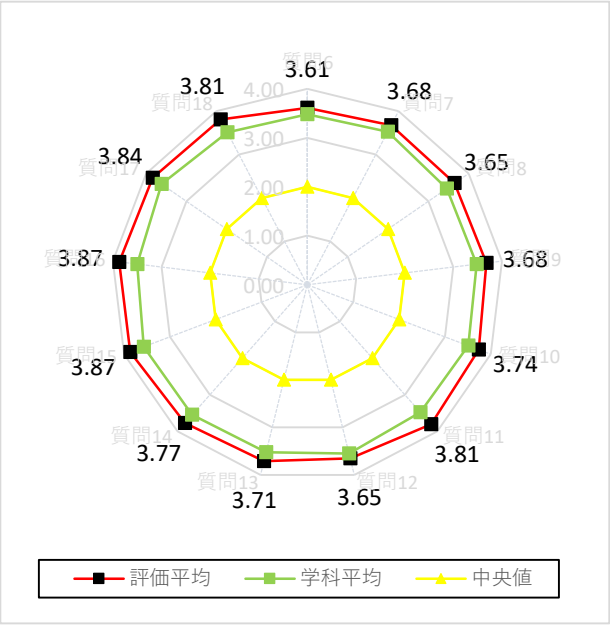
（３）次年度に向けての取り組み

学科平均並みの評価であった。本授業ではほどんどの回でPCを活用して実施している。また、栄養教育・調査に必要な統計処理については、扱うデータも栄養の分野に関わりあるものとし、できるだけ学生が興味を持って取り組めるようにしている。しかしながら、もともとPCを苦手とする学生も多く拒否反応をいかに和らげるかが毎年の課題である。次年度は、本授業の内容が実際の現場でどのように活かされるのかがイメージできるような授業展開を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

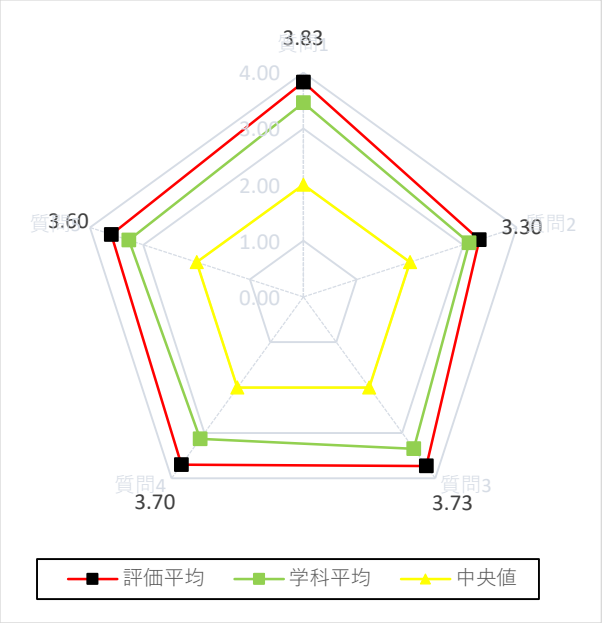
調理学は日常的な調理操作の基礎を科学的に学んでいく科目であるため、調理実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。学生の評価で、特に高い値はQ3「授業態度」3.65とQ4「授業を理解するために工夫をした」3.61と低い値はQ2「シラバスの活用」3.16であった。総合自己評価3.52である。教員側の評価では高い値はQ15「公平に学生に対応した」3.87、Q16「双方的なやり方で行っていた」3.87で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.68である。
学生からのコメントは「パワーポイントが分かりやすかった」などがあり概ね理解しやすい授業であったことが言える。

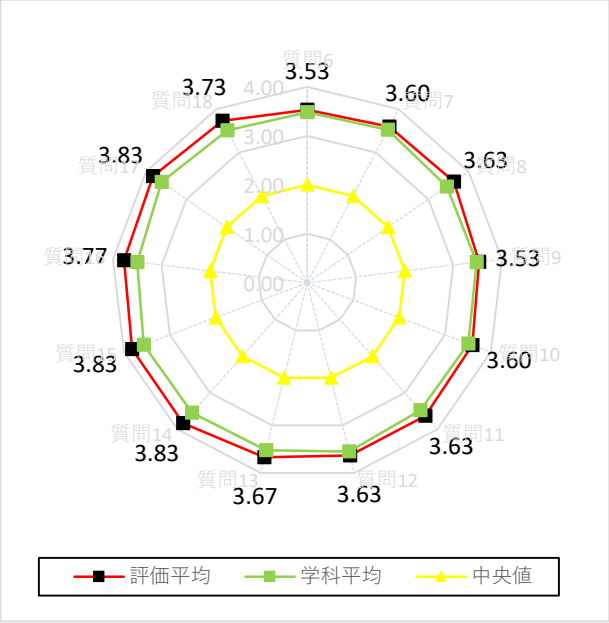
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は評価が低かったシラバスの活用について全員が活用できるように工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（日本料理）	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

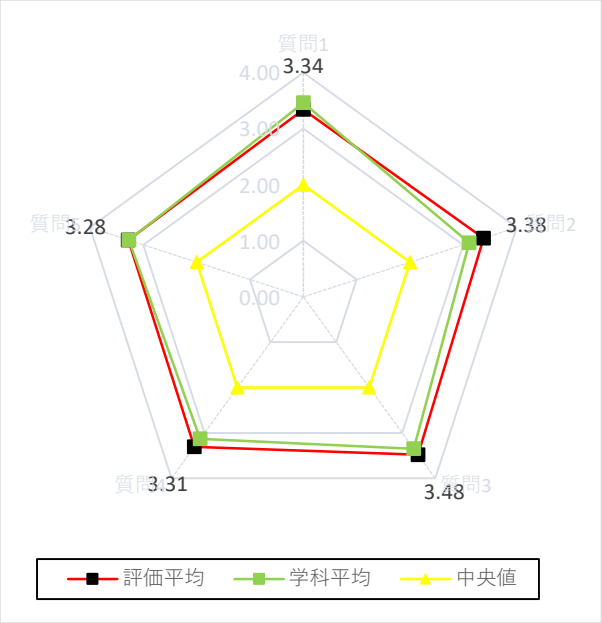
この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。初回は調理と栄養計算の目的や算出方法の理解から展開していった。実習では、技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るように出来る限りデモストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1「授業参加態度」3.83、Q3「授業の取り組み」3.73と高く、総合自己評価は3.60であった。授業内容・方法においてはQ17「熱心に授業に組んでいた」3.83で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.67である。学生からのコメントは「調理作業中にレシピを確認する必要があるため、具体的なレシピの分量等も板書してもらえるともらえると助かる。」「作る前に前で実際に先生たちが作られたほうがいいかなと思いました。調理を全くしたことがない人にとってはあまりにも難しすぎると思います。」「先生とお話するのが楽しかった」があげられた。

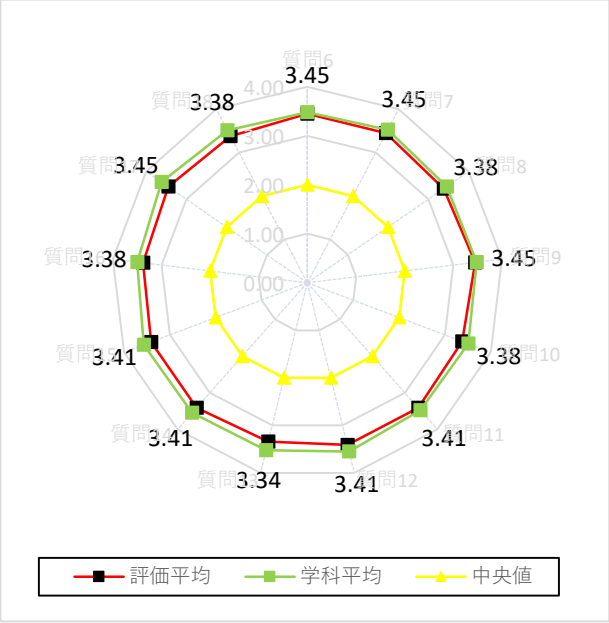
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も学生の声を聴いてデモストレーションを工夫しながら魅力ある授業にしたい。
引き続き、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。
①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と して互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。
④実習時間の時間配分を明確にしてメリハリある実習を展開し学習意欲を高める

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（西洋料理）	31名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

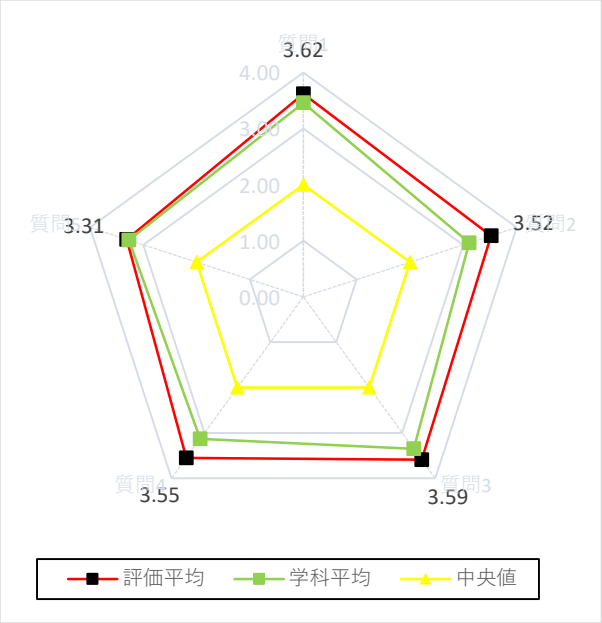
この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るような説明をイメージさせながら、特殊操作についてはデモストレーションと併用しながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ3「授業の取り組み」3.48と高く、低かったのはQ4「授業を理解するために工夫をした」3.31であった。総合自己評価は3.43であった。授業内容・方法においてはQ9「わかりやすく工夫されている」とQ17「熱心に授業に組んでいた」3.45で、低い値は特にみられなかった。総合評価は3.38である。
学生からのコメントは「楽しく取り組めました。」があげられた。

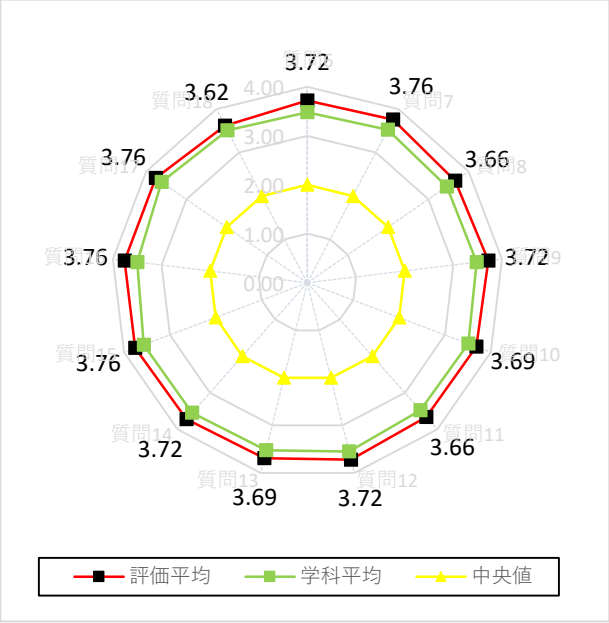
（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。
①自分で調理操作と出来上がりがイメージできるように、家庭でも調理をする機会を増やすように促す。
②授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
しかし、過去の経験で実習時にカードを“忘れる”“紛失する”といったことから、カード管理も十分にできるよう指導する。
③学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と して互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
④包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（中国料理）	30名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

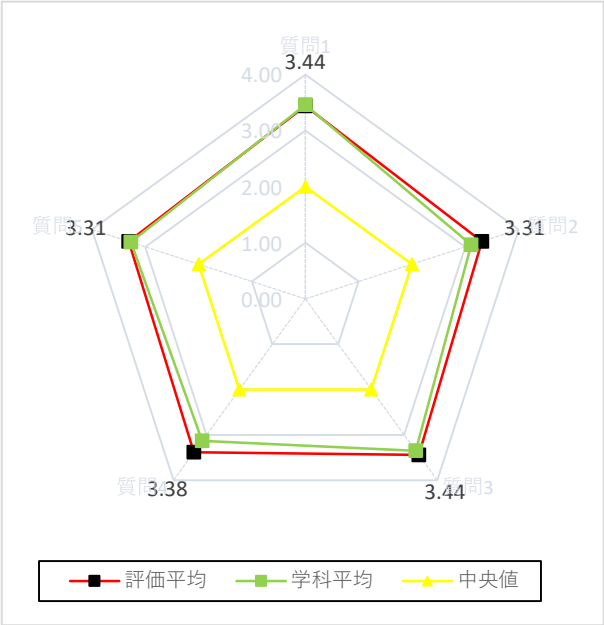
この授業は2年後期に開講される。栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。既に1年次に日本料理と西洋料理を修得している。初回の授業では中国料理の特徴と特殊素材、特殊器具の説明を行った。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解で出来るように出来る限りデモストレーションをおこないながら授業を進めていった。結果は学生自身のQ1～4までのあなた自身の授業参加態度は3.52～3.62の評価であったが、総合自己評価は3.31と低かった。授業内容・方法においては全ての項目で3.66～3.76で、授業の総合評価は3.62であったことから、概ね満足している授業であったことが伺えた。学生のコメントは「中国料理がおいしかった。」「分からないことがあると丁寧に実践しながら教えてくれたのでよっかたです。」「班のみんなと協力して楽しく調理することができました。」「頑張った。」「説明をもうちょっと短くしてほしい。」があげられた。

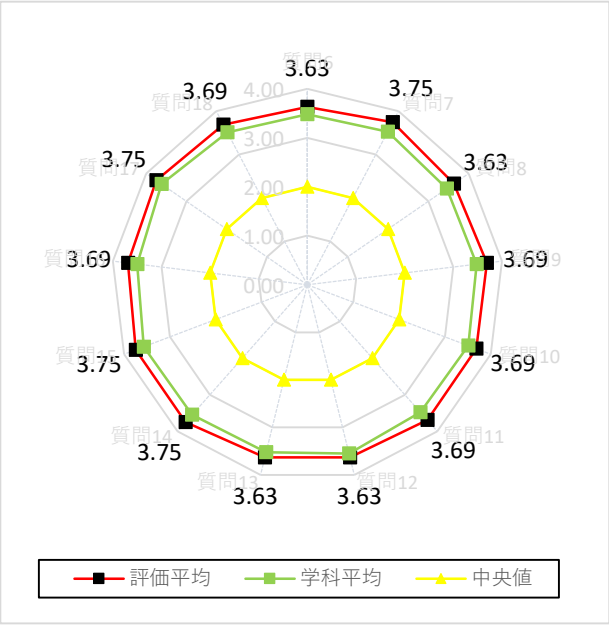
（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。
①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場と　して互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。
④説明時間の配分を工夫し、ポイントをおさえながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食育演習	16名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

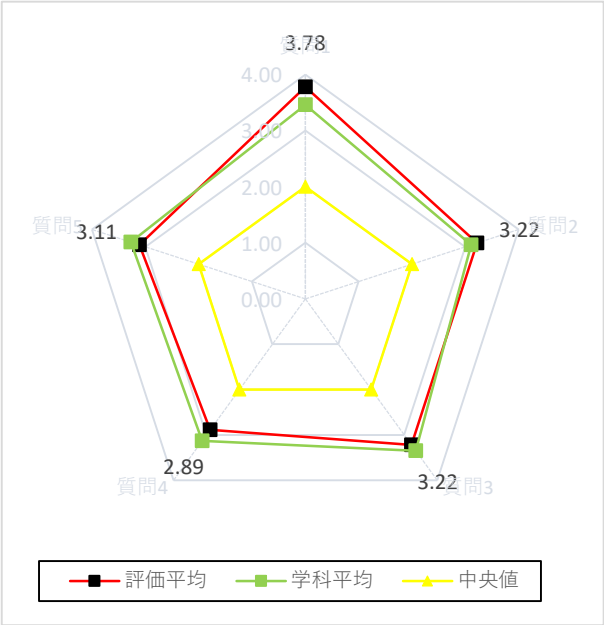
本科目は食育アドバイザー認定を目指す学生には必須であり、1年後期に開講される「実践食育」と対をなす科目である。食健康コースに在籍する30名中16名が受講しており、その全員から回答を得た（回答率100%）。
学生自身の授業参加態度を問う項目においては学科平均とほぼ同じ評価、教員に対する評価を問う項目では学科平均より若干高い評価、総合では3.60の評価であった。前年度の「実践食育」と比較すると高い評価が得られた。

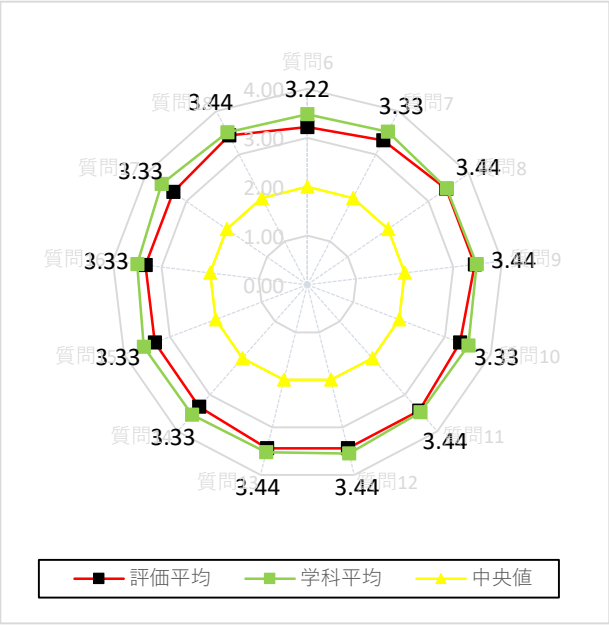
（３）次年度に向けての取り組み

食育アドバイザー認定を目指す学生が食健康コース在籍生のおよそ5割に留まることから、食育アドバイザーという資格の周知であったり、学生が取得しやすい時間割展開であったりと、履修者数を増加させるための方法について検討が必要だと思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		実践食育	10名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

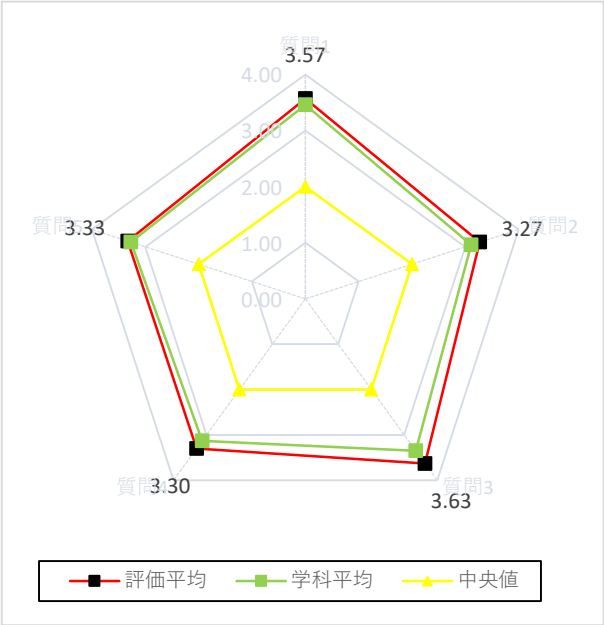
学生自身に対する質問では、質問1の出席については学科平均よりも高い評価であったが、質問4「授業を理解するために自分で工夫をしたか」は特に低い評価であった。教科書を使用しないので予習がしにくい状況であることもこの評価につながったかもしれない。授業・教員に対する質問では全体的に学科平均よりも低い評価であった。特に低い項目は質問6「シラバスについて説明があったか」で学科平均よりも0.3ポイント低かった。授業初回にスクリーンに映し出しながら授業計画と成績評価の方法など説明していたが、学生に十分に伝わっていなかったか、もしくは学生は毎回の授業で説明を必要と考えているのかもしれない。他にも質問14，15など学生に対する教員の態度に関する質問でも3～4名（約1割）の学生が「やや悪い」「悪い」と回答しており、学生への態度に気を付けなければいけないと感じた。

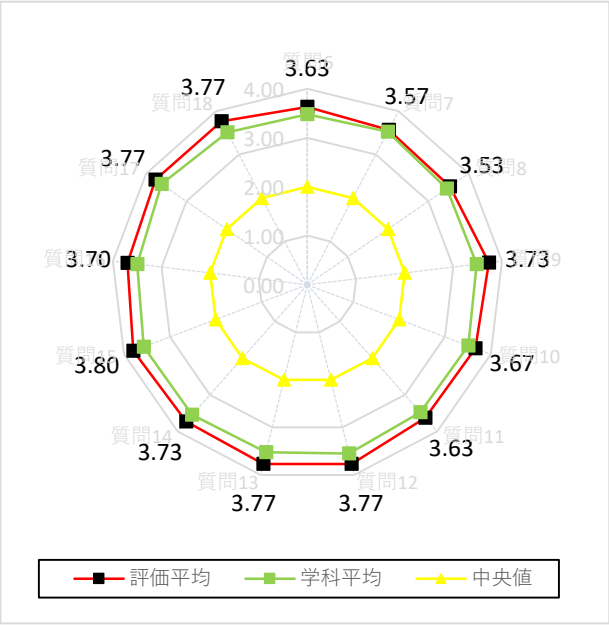
（３）次年度に向けての取り組み

教壇にいるだけでなく、学生の近くに移動する回数を増やして教員にも意見を言いやすい雰囲気づくりを行う。健康ウォークへの参加により、保育所、小学校、中学校、企業などで実施されている食育活動の紹介ができなかったので、健康ウォークのような実践活動をすることになっても実際の食育活動の紹介ができるように授業計画を変更する。２年次前期に開講される「食育演習」では、親子クッキングを実施する予定なのでその事前指導を行う。教科書の導入を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食経営管理論	35名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

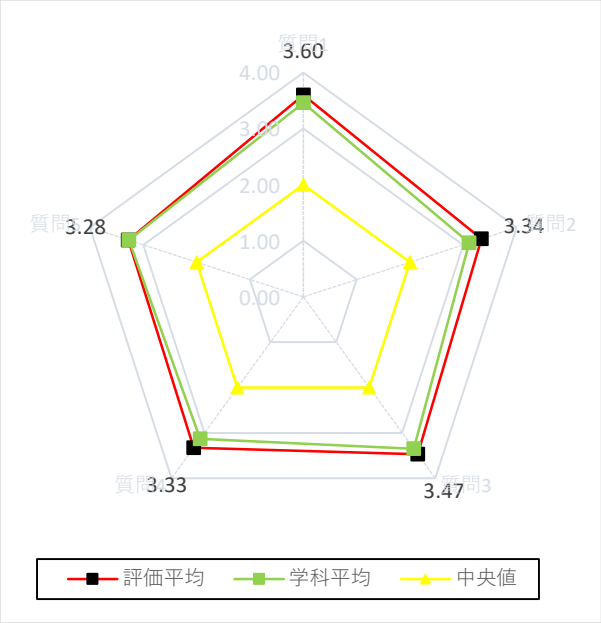
総合評価は3.62であった。質問6の視聴覚機器や板書の用い方は適切であったかとの問いにのみ1人だけ2.0の評価をつけていた。他の項目については、おおよそ6割以上のものが4.0と評価をしており高評であったと思われる。

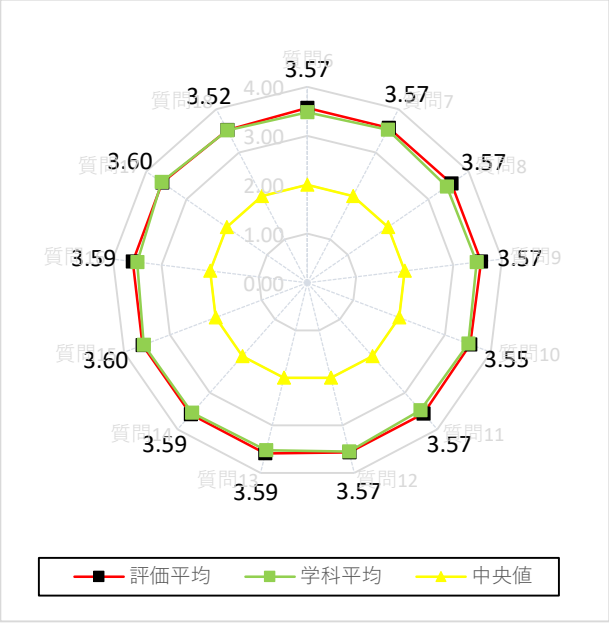
（３）次年度に向けての取り組み

令和4年度は教科書を電子書籍に切り替えて授業を実施した。本学がPC必携になっていること、これからのデジタル社会に向けてできるだけPCを使う機会を増やしたいとの思いからであった。しかしながら、実際電子教科書を取りれてみるとやりずらい面がいくつかあり、学生も不自由と感じることがあったようである。質問6の視聴覚機器や板書の用い方は適切であったかとの問いに1人だけ2.0の評価をつけていたというのがまさにこの事を示している。自由記述の中に「教科書が電子書籍のためパワーポイントとの見比べや必要ページを自己学習時に確認するのが大変だった」とあり、これが評価2.0の理由であったと思われる。このことから次年度については、通常の教科書へ戻して授業展開を行いたい。また、授業途中で実施している振り返り確認テストについては、「何回かの授業毎に小テストをしてくれたから覚えながら復習しながら勉強できた！」と肯定的であったためこのまま継続していきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅰ	61名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

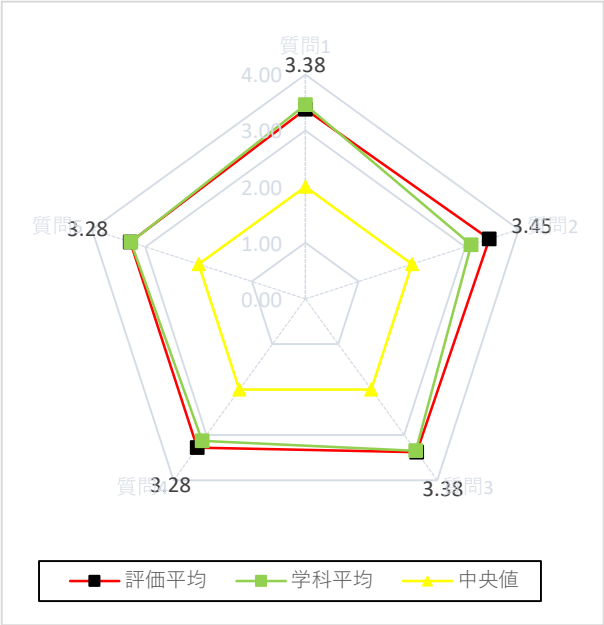
本授業について、ここに示された評価は、1年生と2年生の分の平均値となっている。この授業は1年を通して実施するものだが、この評価者は1年生と2年生は同一ではないため、結果を分けて評価をする。
1年生については総合評価は3.41であった。2年生については総合評価は3.62であった。質問6～18について、1・2年生共に学科平均を上回っており、ほとんどの質問項目で1年生は5割以上、2年生は7割以上が評価4.0であった。この結果から、本授業の教育指導法は概ね高評であったと思われる。

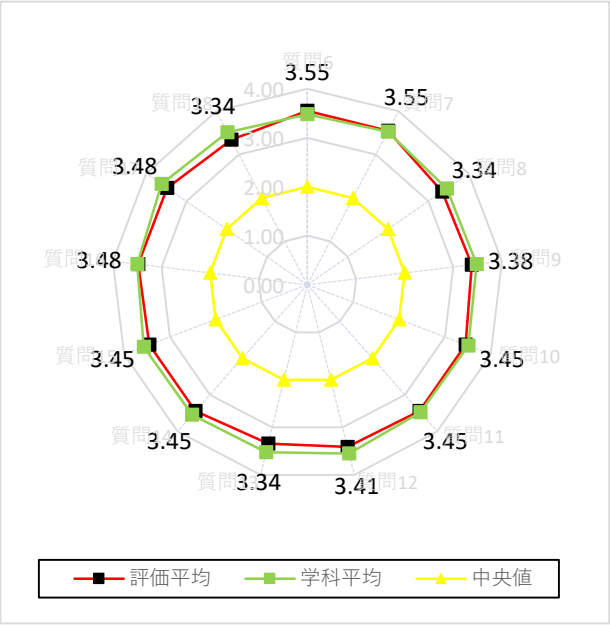
（３）次年度に向けての取り組み

本授業は1年を通して実施する授業ではあるが、1年後期と2年前期で行う授業内容は異なっている。1年後期は、給食の運営に関する講義（演習）と西九州大学附属三光幼稚園での実践実習、２年前期は1年後期に学んだことをベースとして学内給食を実践することを目的としている。講義と実践では学生の学習意欲、理解度もかなり異なってくると思われる。実際、1年と2年での評価を比較すると2年の方が評価は高い。1年生の自由記述は見られなかったが、2年生の自由記述には、「学内実習は楽しかった」、「献立を立てて実施するまで難しいこともあったけど、丁寧に教えてくれた」、「学内給食で大量に給食を作るのが大変だった」、「学内給食が楽しかったです」、「学内給食が楽しかったです。準備や書類作業は大変でしたが充実していました」と書かれていた。全体としては学生からの肯定的な意見が多く、授業そのものはおおむね上手く展開できているのではないかと思われた。次年度は今まで以上にPCを活用する授業方法に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		給食管理実習Ⅱ	29名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

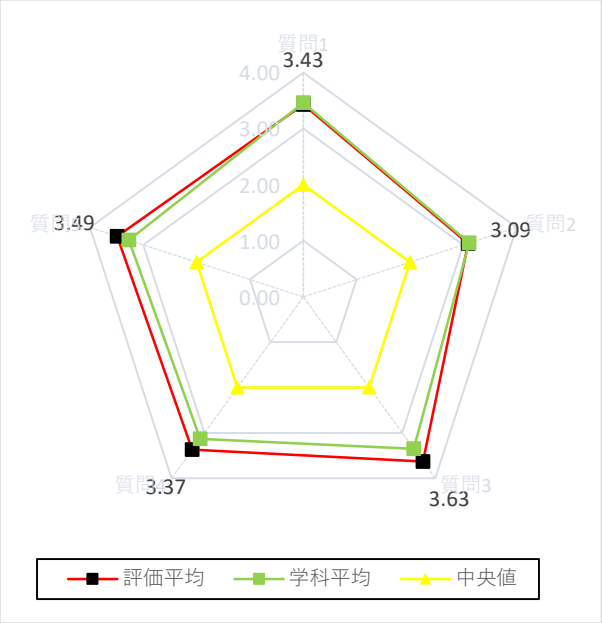
給食管理実習Ⅱは学外実習で行う実習で特定給食施設における給食管理の実際を体得すると共に特定給食における栄養管理のあり方を習得する科目である。学生自身の総合評価は3.28で、教員側の総合評価は3.34であった。教員側の項目はQ8「興味関心がもてる工夫」とQ13「授業の進む速さ」は3.34と他項より低かったほとんどが3.45～3.48の値でこの授業の総合評価は3.48であった。学生のコメントは特になかった。
今回の授業評価では概ね良好であった。引く続き、学外の実習施設に出向き実践的な実習内容でこれまでに習得した専門的知識と技術をもって、実習先での課題発見や問題解決へ発展させる力を身につけさせる。また、栄養士業務のスキルアップにつなげる。また、実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせるなど人間形成の場としていきたい。実習後は学生同士の学びとしてパワーポイントを活用して発表することで情報共有も行っていく。

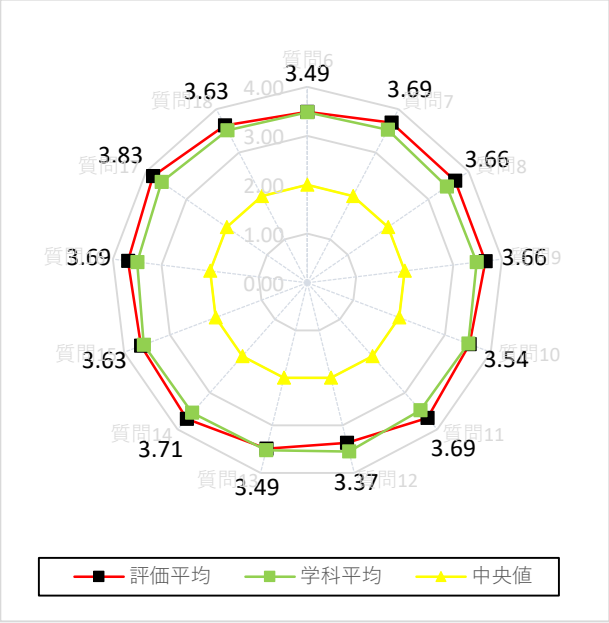
（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であった。引く続き、学外の実習施設に出向き実践的な実習内容でこれまでに習得した専門的知識と技術をもって、実習先での課題発見や問題解決へ発展させる力を身につけさせる。また、栄養士業務のスキルアップにつなげる。また、実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせるなど人間形成の場としていきたい。実習後は学生同士の学びとしてパワーポイントを活用して発表することで情報共有も行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト基礎理論	39名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

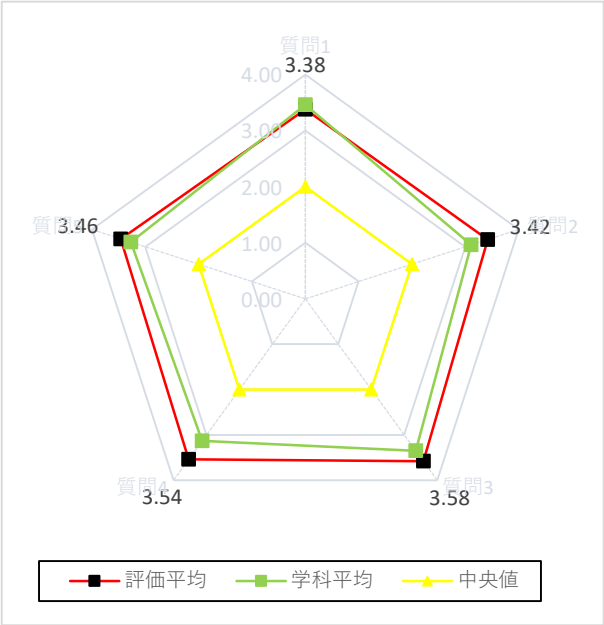
学生自身に対する質問では、特に「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」という質問は学科平均よりも高い評価であったが、「シラバスを活用していたか」はやや低かった。１年生前期に開講しているのでシラバスの説明だけでなく活用例の紹介も必要と感じた。
授業の総合評価は学科平均よりも0.11ポイント高かった。教員及び授業に対する質問において「授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか」「興味・関心が持てる工夫がされていたか」「分かりやすくする工夫がされていたか」「教員は熱心に授業に取り組んでいたか」は学科平均よりもやや高い評価を得られていた。一方で「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切だったか」では、全体の17%の学生がやや不十分と回答しており、学科平均よりも評価が低かった。教員の活舌が悪いので言い直しをする場面があったことからこのような評価になったと思われる。
自由記述には「やや実践に必要な個所が抜けている」とのコメントがあった。

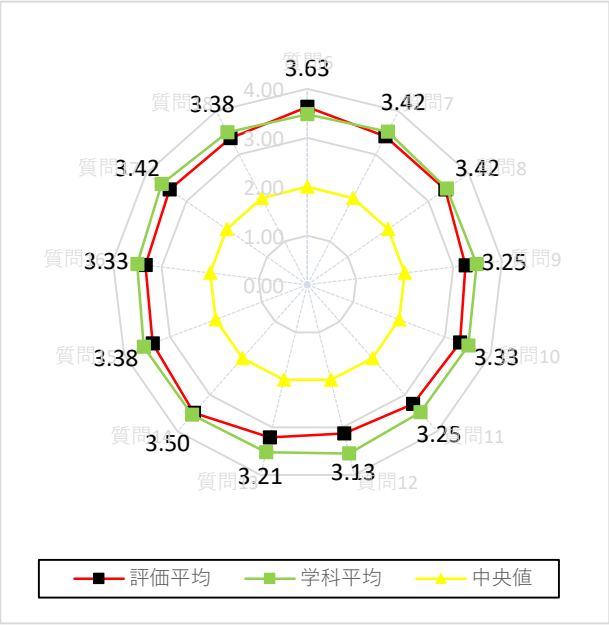
（３）次年度に向けての取り組み

配布資料の見直しを行う際、実際にスイーツクリエイト基礎実習で作成する部分にスポットを当てて物質の変化の理由を詳しく説明できるようにする。また、製菓の専門学校の教員に目を通してもらえるようお願いする。学生が聞き取りやすいよう、ゆっくりと呂律が回るよう話すことを心がける。来年度は遠隔で授業を行うので、今回の対面授業よりも進行速度を少し早められるよう心がける。資料に載せる内容が詳しくなるのに伴い、使用する印刷用紙が増えているので、対面と遠隔にかかわらず配布資料のペーパーレス化について学生の意見を参考にしつつ検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト基礎実習	25名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

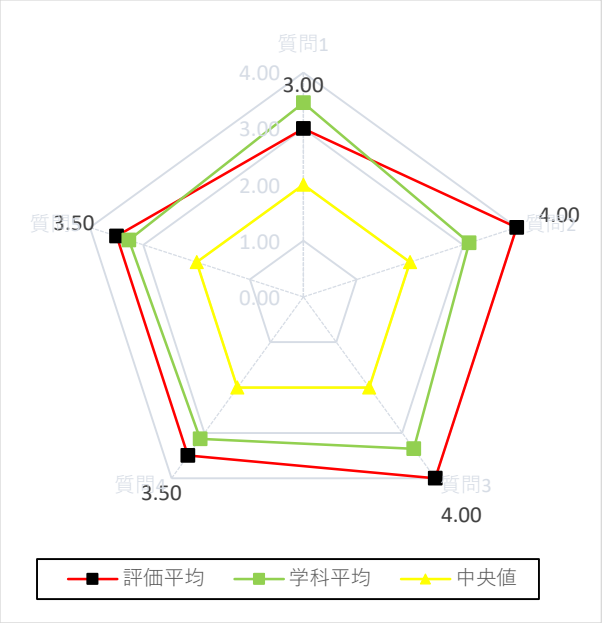
学生自身に対する質問の評価は学科平均よりも高かったが、授業・教員に対する質問では、質問6以外のすべての項目が学科平均よりも低い評価であった。特に質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」については学科平均よりも0.42ポイントも低く、次いで質問11「教科書・配布資料等は役に立ったか」質問13「授業の進む速さは適切だったか」に続いた。質問12については、教員が作りながら説明を行うため、作ることに集中してしまい声の調子やスピードに気が配り切れていなかったと実感している。そして本科目では教科書と配布資料は使用せずに、学生が教員の作成を見聞きしながらレシピノートを作成しているため評価が低かったと思われる。質問13は、焼成時間が30分以上のものや焼き上げ後に処理が必要なものがあるため、学生が次の授業を受けている間に冷却時間をとって放課後に配布したこと。授業時間内に作業が終わらなかったことが原因と考えらえられる。製菓の性質上、この方法をとらざるを得ないことを履修登録前に説明すべきであった。本科目で今回のような低評価は初めてであった。学生が前向きに学びやすいよう、学生への態度等に気を付けなければいけな

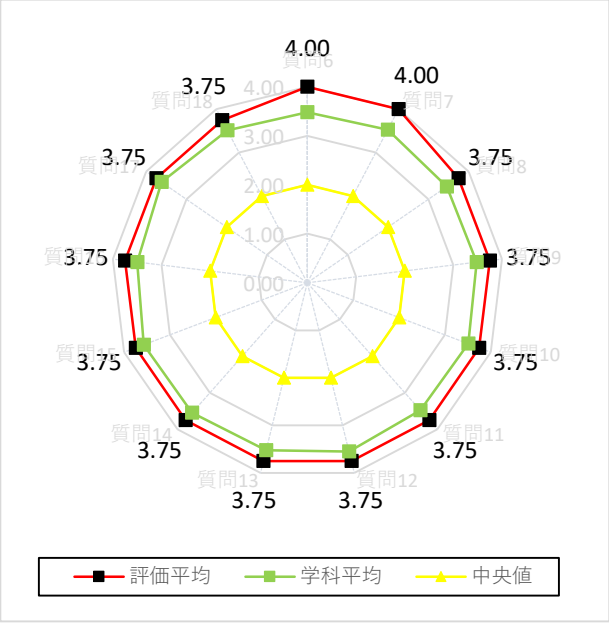
（３）次年度に向けての取り組み

マイクをハンドマイクからピンマイクに変え、学生が声が聞きやすく、さらに教員も作業をしやすくして時間を少しでも短縮する。スイーツクリエイト基礎理論の資料を用いて本科目で行う実習のつながりを紹介し、実際に起こる食品の変化などの説明ができるようにする。授業開始時と終了時に何を学んだのか、何のために作業をしたのかの振り返りを行う。履修登録前に終了時間が変則的になる場合があることを説明し、実際に実施する前の回でも作り上げた菓子の配布が授業時間外になることを周知する。飾りつけなど学生が時間をかけがちな作業の時間を制限し次に進められるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		スイーツクリエイト応用実習	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

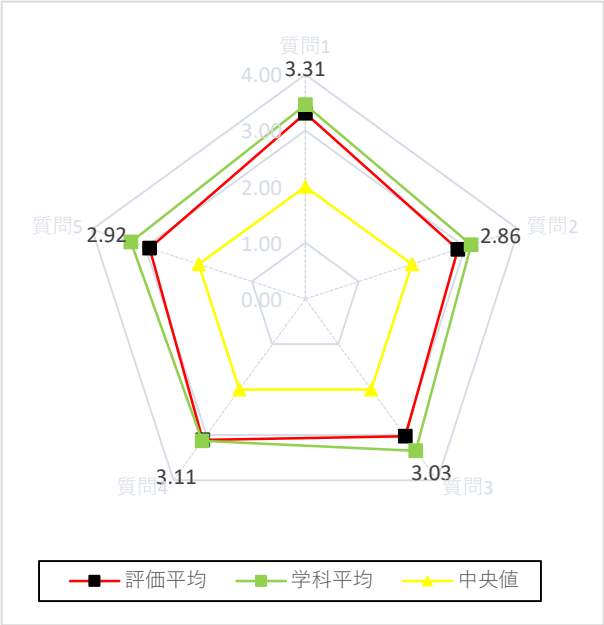
学生自身に対する評価は授業の出席に関してのみ学科平均よりも低かった（0.38ポイント）が、質問2，3においては履修者全員が「良い」と評価していた。就職活動や感染症による出校停止でやむなく欠席していることはあった。少人数で授業を展開しているので学生一人一人の頑張りや授業に対する真剣さは見受けられた。授業・教員に対する評価はすべての項目で学科平均よりも高い評価であった。しかし、履修者が４名しかいないので低い評価を付けづらい状況だったことも高評価につながったかもしれない。特にシラバスの説明と授業の到達目標を明確にしていたことに対して高い評価を得られていた。他科目でも同様に授業計画と到達目標などまとめてシラバスの説明を行っているが、履修者が少人数ゆえに教員ともやり取りがしやすく理解もしやすかったと思われる。

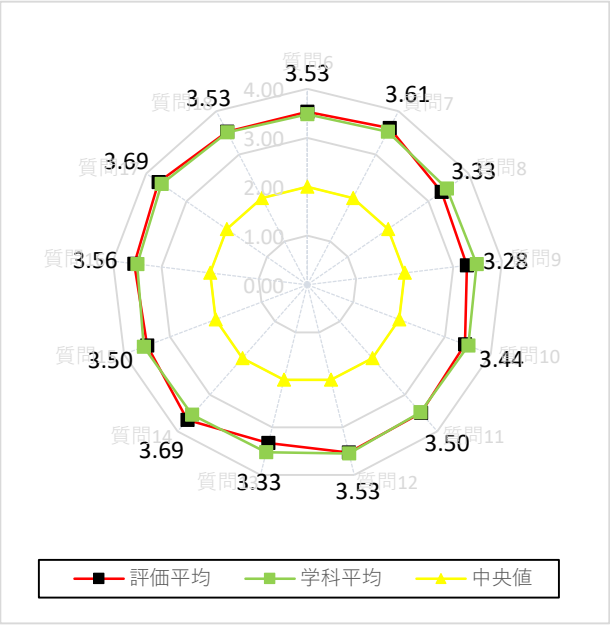
（３）次年度に向けての取り組み

応用実習では栄養士の現場で採用している菓子を実際に作成しているが、多文化コースの学生も履修する可能性があるので、栄養士以外でも興味が持てるような内容の実施を検討する。ワークシート（何を目的に作った菓子なのか、材料、作る手順、味、出来栄えなどを学生自身が評価・反省）をTeamsで導入し、フィードバックを行う。配布資料を眺めるだけの学生がいたので、空白部分を増やし教員の説明を理解しながら学生自身が記入できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解Ⅰ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

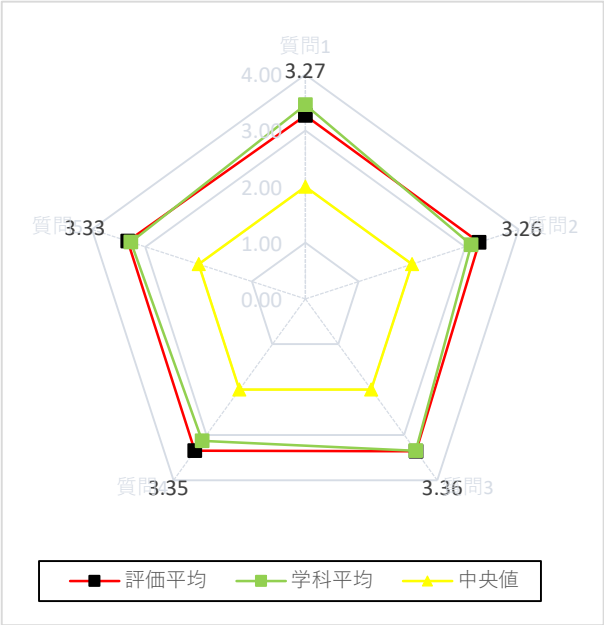
学生による授業評価結果は、概ね学科平均と変わらなかったが、質問３・５については平均を下回っていた。その理由としては、本科目が日本の社会保障などの制度を対象とするため、やや難易度が高かったことが挙げられると考える。
また、質問１３についても同様であり、介護福祉士の国家試験に対応するため制度論が中心となるなり、学生にとっても難しく感じていると思われる。

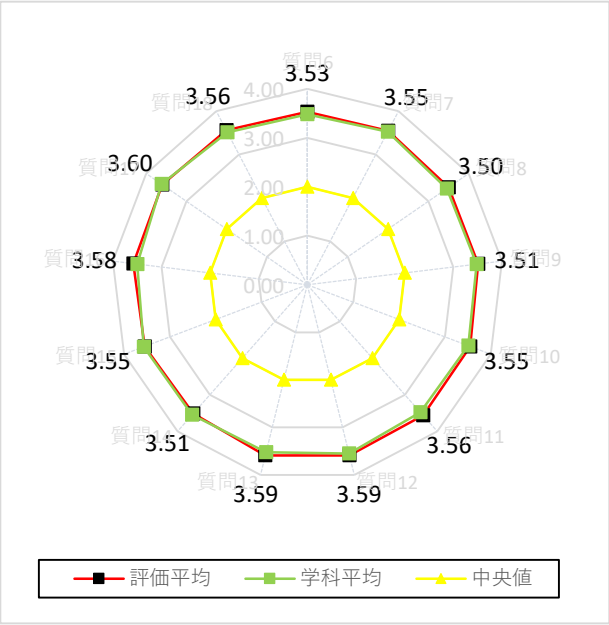
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述などにおいては、「難しかった」「早く感じた」などの感想があった。
担当教員としても、国家試験に出題される科目であり、かつある程度の理解や暗鬼が求められるため、広範囲でテンポよく授業を展開することを意識していた。しかしながら、特に留学生にとっては、それが難しく感じてしまう理由になったと思われる。日本人の学生は、あまりゆっくりと進めると退屈に感じてしまうため、その辺りにジレンマを生じている。
そのため、次年度以降においては、国家試験に対応できるポイントを押さえつつ、留学生にとってもわかりやすい内容やスピードとなるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	80名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

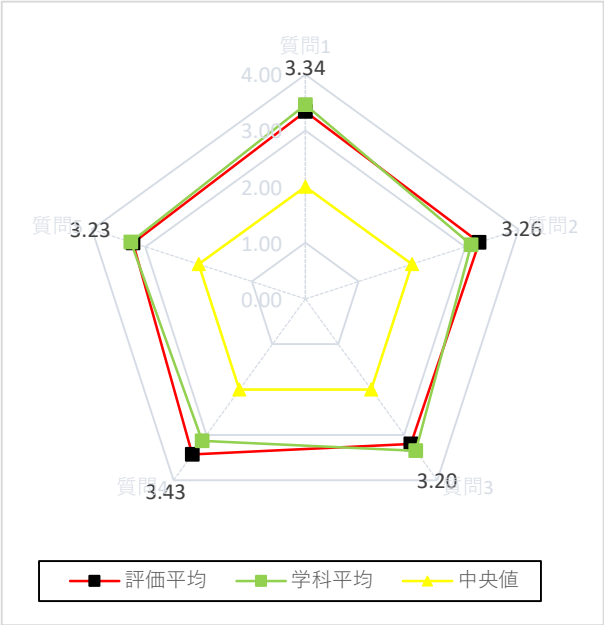
1人は全部に1をつけている学生がいる。質問19以降、質問がないのに答えている学生が24名と多い。自由記述には、良い、と、外部講師は新鮮だが、
鶴先生のほうがわかりやすいという記述あり。国試の模擬試験と解説等が主の授業であるが良いとまあ良いは多いが、良いが多いわけではない。国試近くになると自分で勉強したいと思う学生も出てくる。しかし、そのことが合格にはつながっていないので、このまま、今後も介護総合講座等への出席を促していく。

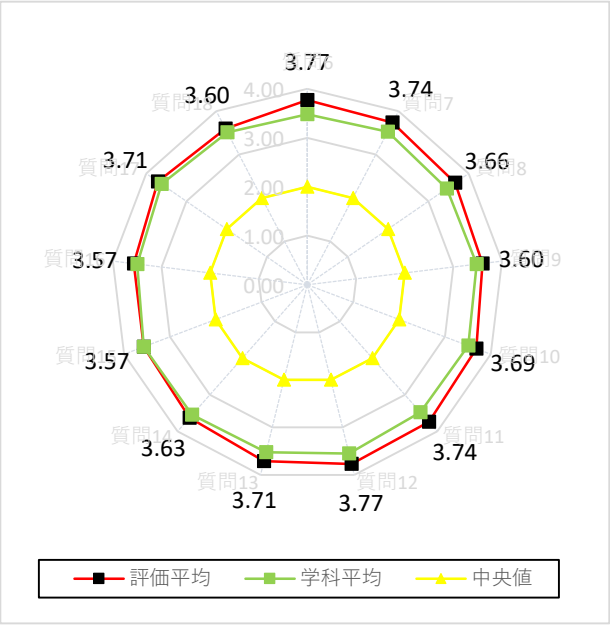
（３）次年度に向けての取り組み

外部講師ではなく、専任教員を中心に行っていく。確実に覚えれるように何回も支援していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ＩＡ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

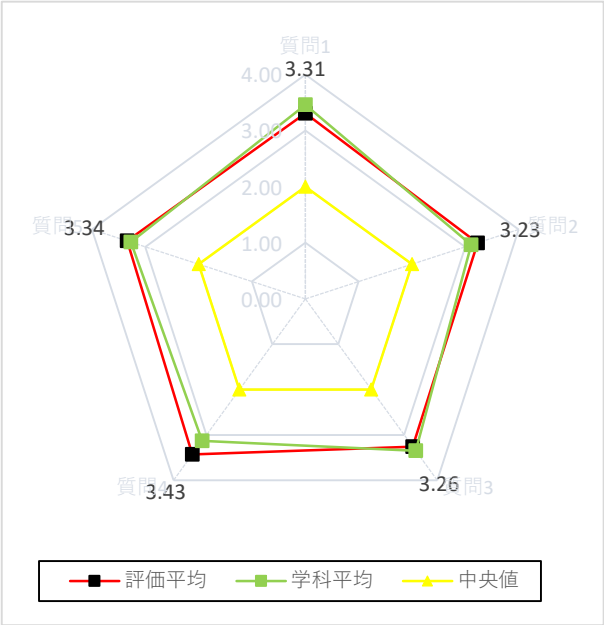
学生の授業参加態度は、「欠席」「居眠り・私語」「総合自己評価」において学科平均を下回っていた。授業内容・方法および対応において学科平均を下回っていたのは「公平に対応したか」の項目のみであった（0.02ポイント）。特に評価が高かったのは「シラバスの説明」と「声の大きさ速さ」であった。しかし、問19～25の質問がない項目においても３５名中１４名が回答しており、その中に「やや悪い」にチェックが入っている項目もあった。自由記述のなかには、「介護の歴史や法律は、難しかったがおもしろかった」「法律を知り、重い責任を感じた」「難しい漢字や言葉が大変だった」「事前にプリントを配布してもらえれば、難しい言葉を調べることができる」などの意見がみられた。

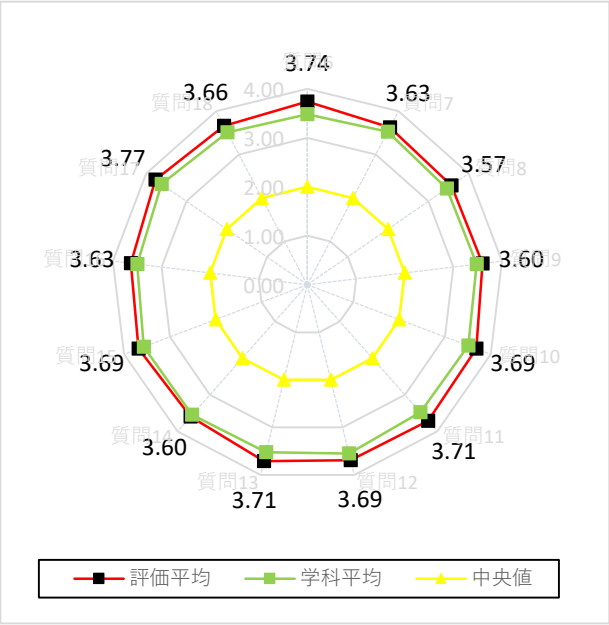
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスの説明や毎回オ授業目標をしっかり説明していたため、概ね評価は高かった。自由記述のなかには、「難しい言葉・難しい漢字があった」との意見、または事前に資料の配布を希望する意見があった。次年度は、留学生が学びやすいように予習を意識した働きかけをしていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ＩＢ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

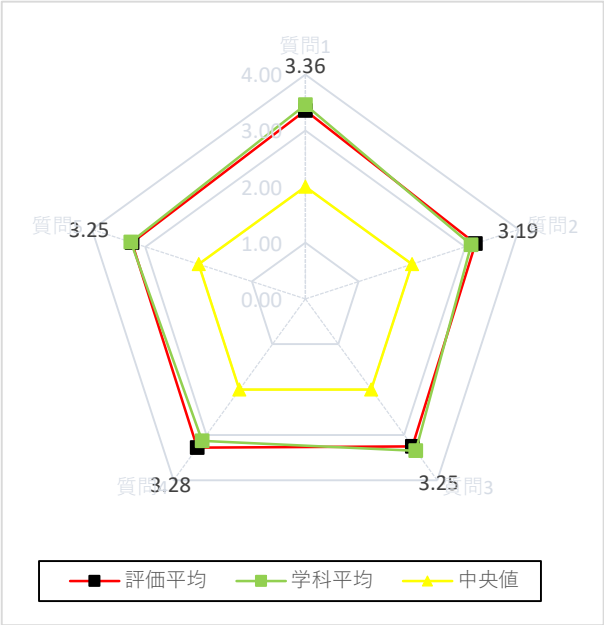
学生の授業参加態度および総合自己評価は、5項目中4項目において学科平均をわずかであるが下回っていた。授業内容・方法、対応については、すべての項目において学科平均を上回っていた。評価が高かった項目は、「熱心さ」「シラバスの説明」「配布資料が役立ったか」「速さ」であった。自由記述においては、「言葉が難しかった」との記載もあり、法律や義務規定などは、特に難しく感じたと考える。質問9の「わかりやすい工夫」の評価は、高くなかったが、自由記述には「関連づけて話があるのでわかりやすかった」との記述もあった。

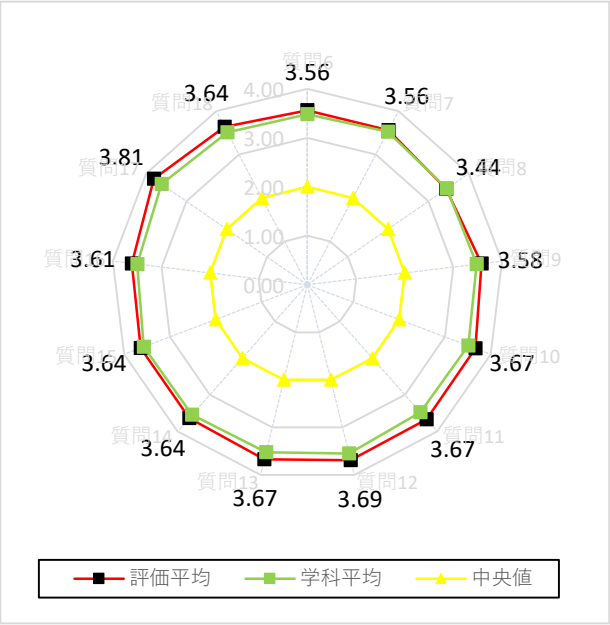
（３）次年度に向けての取り組み

授業の内容には、法律のことや介護職の義務規定など難しい言葉も多くなる。留学生にもわかりやすく説明し、学生へ理解度の確認もしているところではあるが、今回の授業評価において、まだ不足していることが伺えた。日本語能力にも個人差があるため、全体に目を向けて授業を進めていこうと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

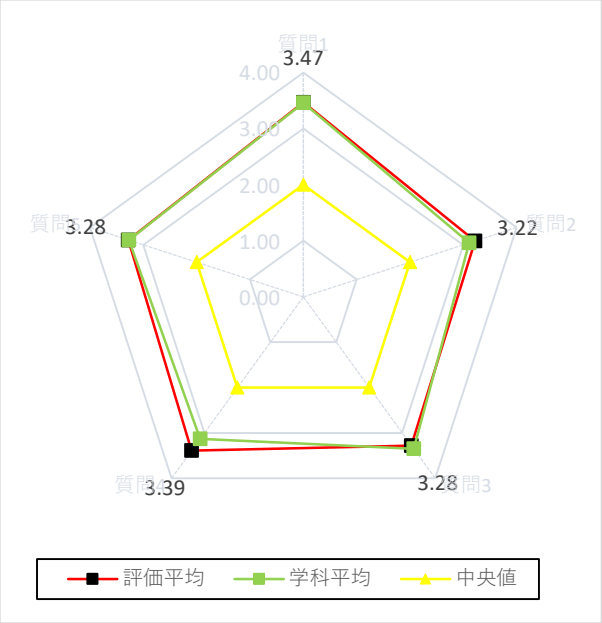
この科目は他職種連携、特にリハビリテーション分野との連携について学ぶ科目である。
アンケートは、平均をおおむね上回る結果となった。
特に質問10～13、質問17の項目で高い結果となった。
これは、学生の理解度を確認しながら、授業のスピードや説明を工夫した。また、留学生には理解しやすいようにフリガナ付きの資料の配布等の工夫を行った結果であると考える。

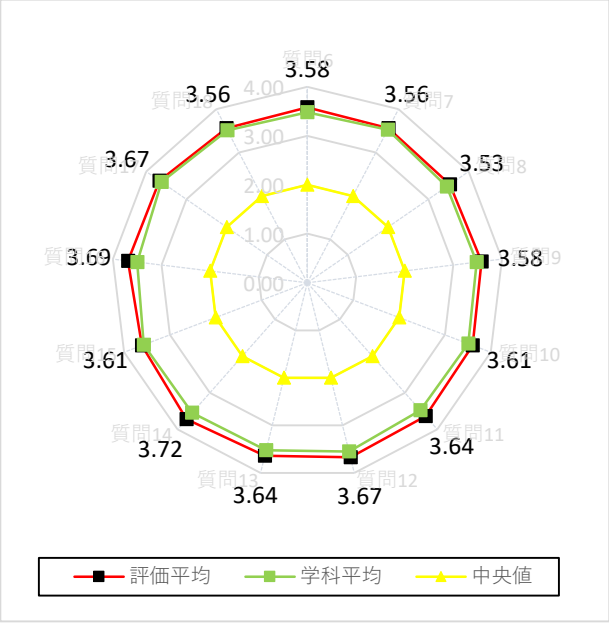
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様に、次年度も学生の理解度を確認しながら、理解度に合わせた授業スピードや配布資料の工夫を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡB	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

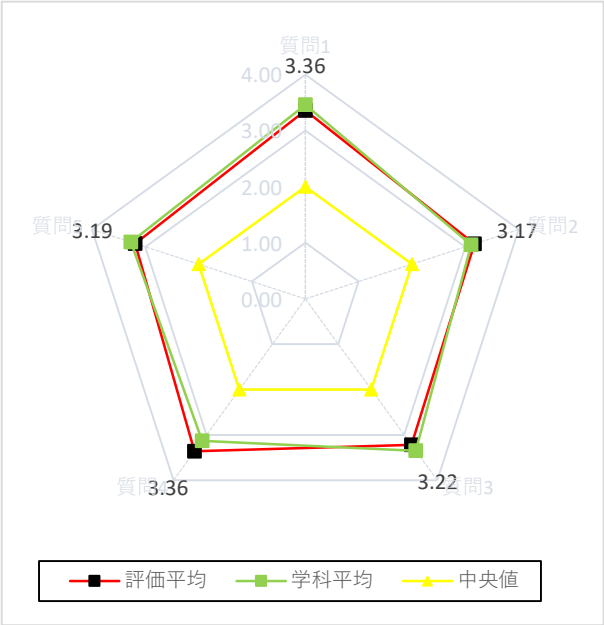
本科目は、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習である。しかし、教科書だけで理解することは容易ではなく、特に留学生にとっては非常に難しく感じる内容も多いと考えられる。そこで、授業では自分の考えをまとめて発表することやグループワークの時間を多く設け、教科書からだけではなくクラスメイトの考えを知ることで理解を深めることを期待した。質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか」の自己評価は、学科平均よりやや劣っておりグループワークの時に私語ともとられるような会話もあったのは確かだが、決して私語ばかりしているわけではなく、意見交換の場としては特に問題ない程度であった。自由記述の中には、「難しいところがあったら分かるように説明してくれます」や「自分の意見を聞いてもらったり、先生の意見も貰えるし、考え方とか、状況によってどうすればいいのかなどが出来上がったので良い授業になりました」というコメントがあったが、お互いに考えや思いなどを共有することが学生にとっての満足感につながったと理解できる。

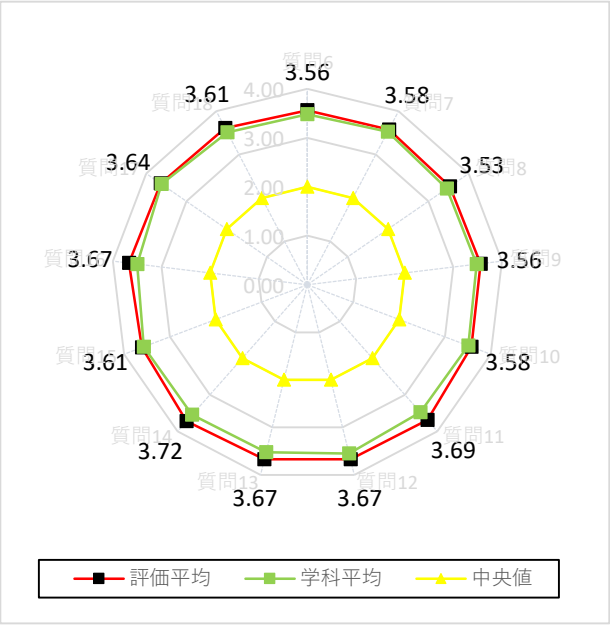
（３）次年度に向けての取り組み

留学生が多いクラスならではの配慮は必要であるが、今回の結果からは、日本人学生と一緒にグループワークを行い考えることで、互いに協力しながら授業内容を理解していくことが可能であることがわかった。ただ、日本人学生への過度な負担（留学生への日本語の説明等）にならないように留意しながら、次年度も同じようなスタイルでの授業展開をしたいと考える。異なる学生であっても今年度と同様の結果になるのか確認したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢA	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

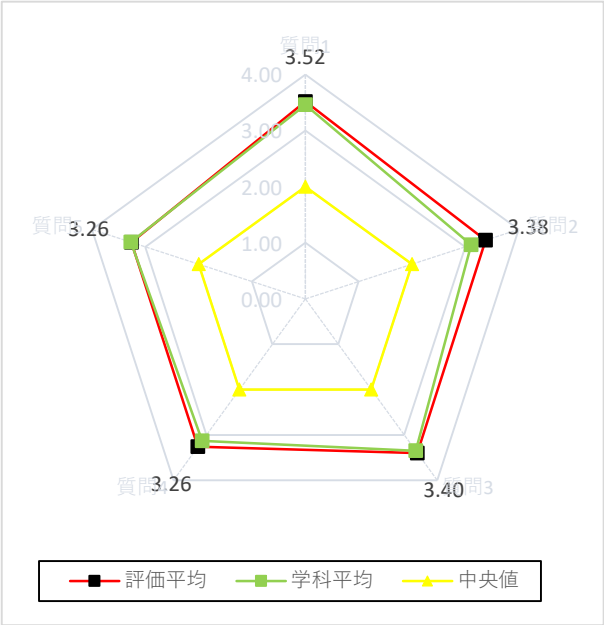
本科目の内容に、介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全確保のための基本的な知識や事故への対応を理解することが含まれており、介護施設で実際に必要となることだとイメージできたからなのか、学生は非常に積極的に学んでいた印象がある。質問1～～質問5の結果も、特に値が低い項目もない。また、質問6～質問18全てが学科平均値を上回っており、教員の授業の進め方も概ね好評であったと考えられる。本科目の受講生は半数以上が留学生であることや、介護中のリスクや施設内の事故をよりリアルに伝えるために動画やDVDを多く使用したことも良かったのではないだろうか。

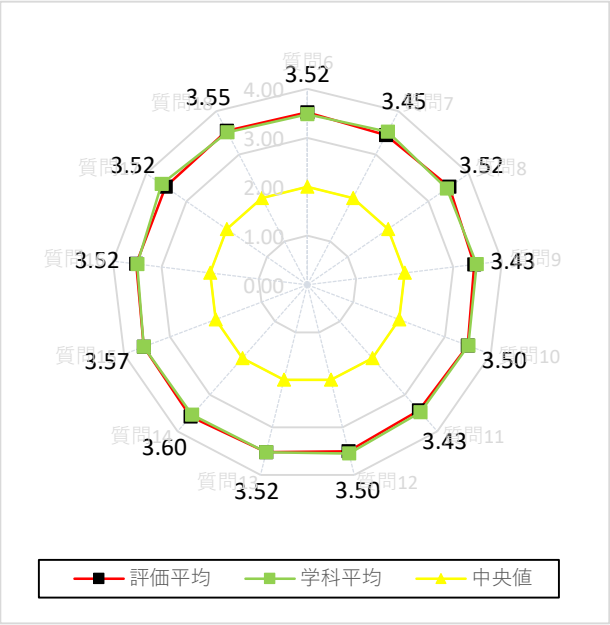
（３）次年度に向けての取り組み

動画やDVDなどの視聴覚教材を用いることで、授業内容についてはおおまかな理解はできたものと思われる。しかし、視聴覚教材は、実は日本語のなっレーションのスピードが留学生にとっては速いのではないかと感じている。また、が円に流れる映像w説明するスーパーには、フリガナはない。今よりもっと留学生がスムーズに理解できるようにするためには、それらの点についての工夫が必要だと考えている。また、自由記述に「教科書の意味だけではなくわかりやすい説明といつも学生さんに考えてくれたりするのが先生の授業の特徴だと思います。」というコメントがあるが、次年度もわかりやすい説明を心がけ、学生が積極的に学びたいと思える授業を目指したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅢB	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

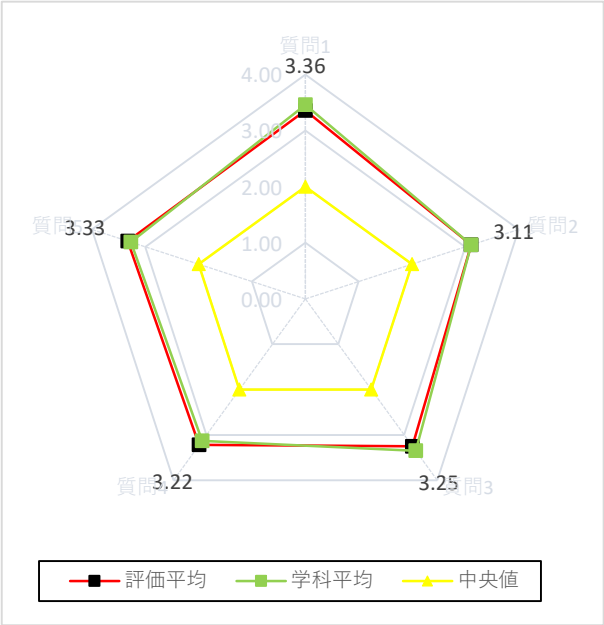
結果は、全体的に学科平均とほぼ同じかわずかに増減がある程度の評価であり、学生は特に大きな問題を感じることなく受講できたものと考える。自由記述には、「理解しました」「分かりやすいしよく理解できたと思います」「たくさん勉強になりました」という肯定的なコメントがある一方、「難しいです」というコメントもあった。本科目は、日本人にとっても難しい内容であり、DVDや動画を活用しながらできるだけわかりやすい授業を行うことを意識した。しかし、難しいという印象のまま授業を終わらせてしまったことは反省すべき点である。特に留学生の中には十分に理解しないっま授業が終了した学生も多かったかもしれない。ただ、アンケートの設問項目以外の項目（番号）にも回答している学生が非常に多く、学生が真剣にアンケートに回答したか否かは不明とも言えるのではないだろうか。

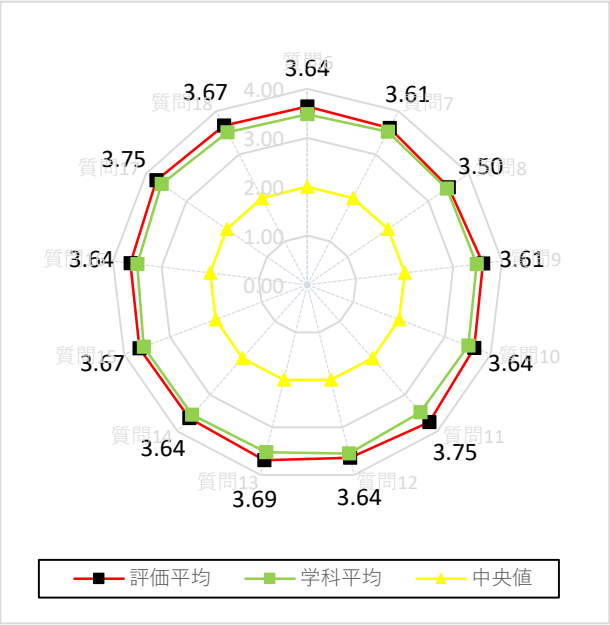
（３）次年度に向けての取り組み

次年度の授業では、理解度の確認の時間や小テストを多く用いるなどして、授業の途中で学生の理解度を確認し、理解が不十分な内容については復習のための課題を出すなどして、「難しい」という感想を「難しいけれど理解することができた」などの感想に変えていきたい。また、アンケートの回答についても、」十分な説明を行い、学生が本意で回答できるよう日本語の説明や助言をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術A	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

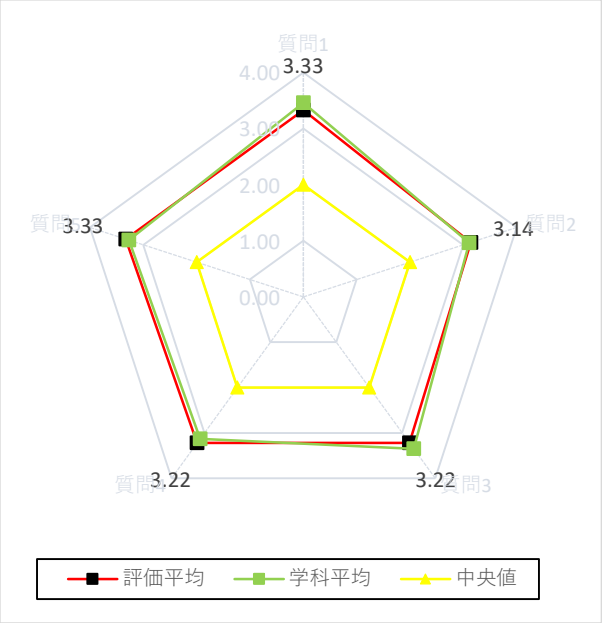
学生の授業参加態度は、すべての項目において学科平均を下回っていた。授業内容・方法、対応については、1項目において学科平均を下回った（0.01ポイント）。評価の高かった項目は、「配布資料が役立ったか」「熱心さ」であった。問19～25の質問がない項目においても３６名中１０名が回答していた。自由記述においては、「理解しやすいよう例文をあげていた」との記載があった。

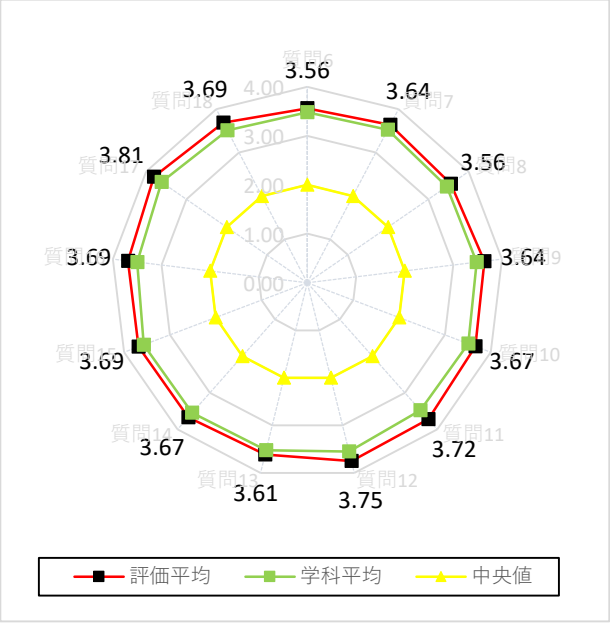
（３）次年度に向けての取り組み

留学生も理解しやすいように配布資料と事例を用いた説明を心掛けていたが、自由記述にも「わかりやすい」との記述もあった。これからも、よりわかりやすい授業を工夫していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術B	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

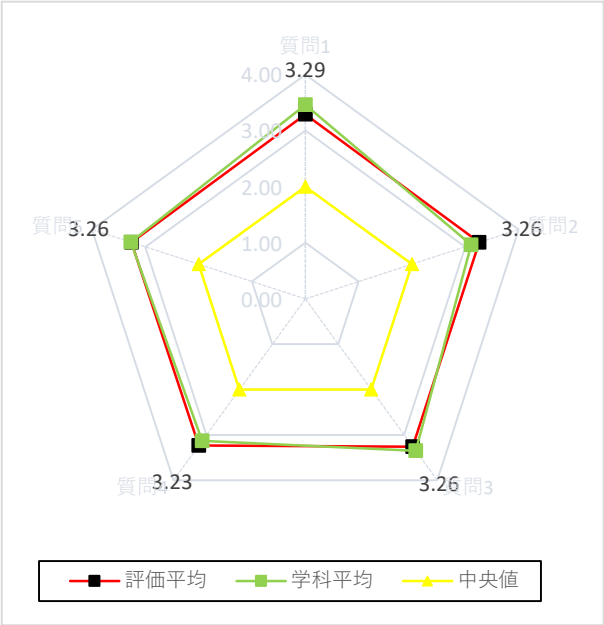
この科目は、教員２名で分担し、手話と家族やチームでのコミュニケーションについて学ぶ科目だある。
授業評価は、おおむね平均を上回る結果となった。
特に、質問11・12、質問17・18で高い結果となった。
学生の理解度に応じ、授業スピードや説明の工夫を行った結果であると考える。
また、出来るだけ学生自身で考えられるようにグループワーク等も取り入れ、理解を深められるように工夫した。
自由記述でも、「グループワークがあってよかった」との記述もみられた。

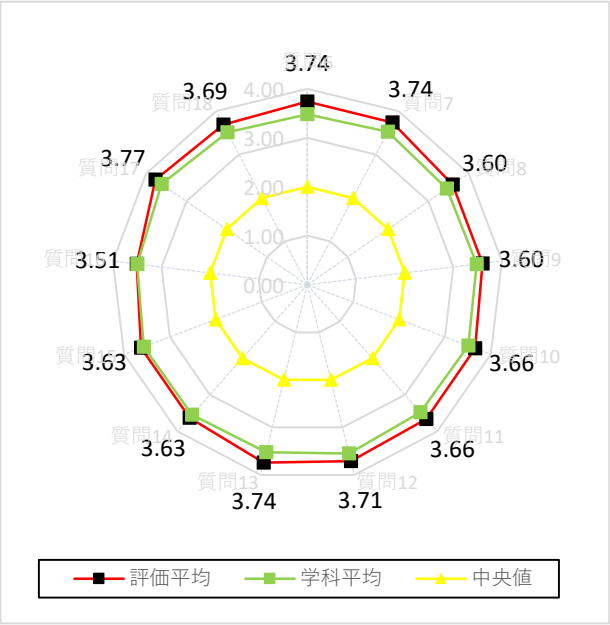
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様、次年度も学生の理解度に応じ、授業スピードや説明の工夫を行っていく。
また、必要に応じグループワークも取り入れ，学生の理解を深めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加態度においては、すべての項目において学科平均を下回っている。総合自己評価は、質問16「双方向の授業」を除き他の項目はすべて学科平均を上回っている。特に評価が高かった項目は、「シラバスの説明」「授業の到達目標」「授業の速さ」などであった。問19～25の質問がない項目においても３５名中１４名が回答しており、その中に「やや悪い」にチェックが入っている項目もあった。

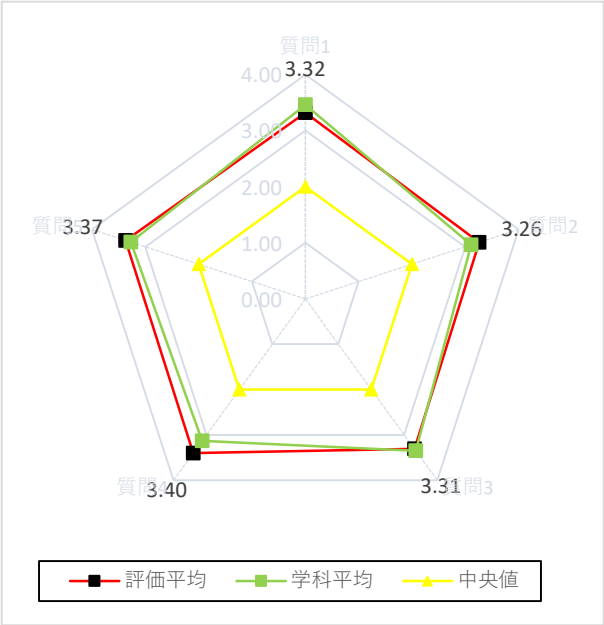
この科目は、介護技術の実践授業である「生活支援技術B」とリンクしている授業であるため、まずは、介護の意義、そして実際の動きがわかるような手順の説明、またその介助を行う際の留意点について授業を行った。自由記述には、「配布資料がわかりやすかった」「実践に活かすことができた」「到達目標を明確にして授業が展開されていた」「面白くて眠くならなかった」のどの記載があった。

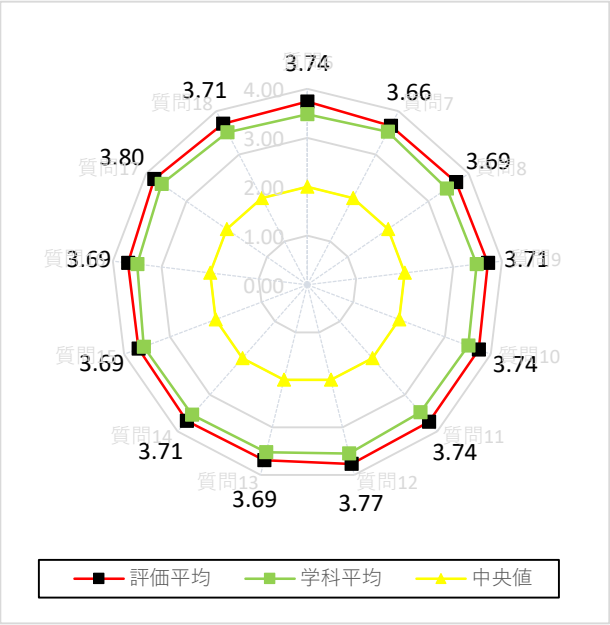
（３）次年度に向けての取り組み

シラバスの説明、授業の到達目標に関しては、詳細な説明を継続して行う。介護の知識を理解したうえで実技の授業にスムーズに入れるよう、「生活支援技術B」の担当教員と連携して授業を展開していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術B	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

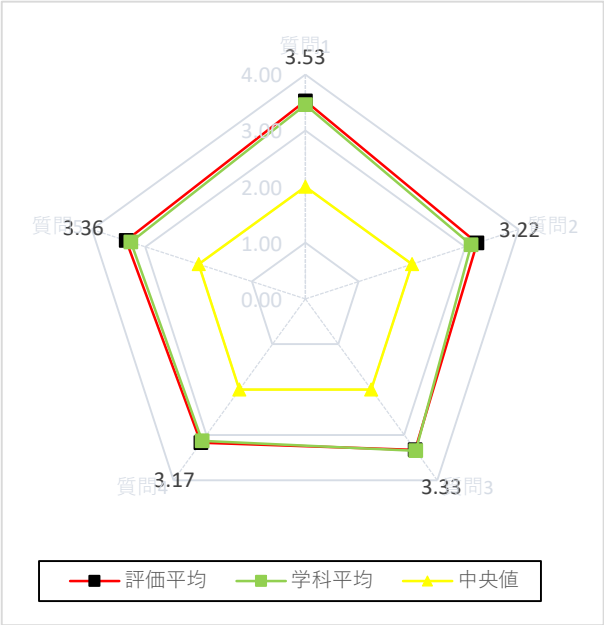
この科目は、基礎的な生活支援技術について学ぶ科目である。
授業評価については、おおむね平均を上回る結果となった。
この科目では、ベッドごとに小グループに分かれ実技を行っていく。教員は、全体の説明後、各ベッドを回りながら、学生1人ひとりの実技を確認し、学生に1人ひとりにあわせた指導を行っている。その結果、平均より評価が上回る結果となったと考える。

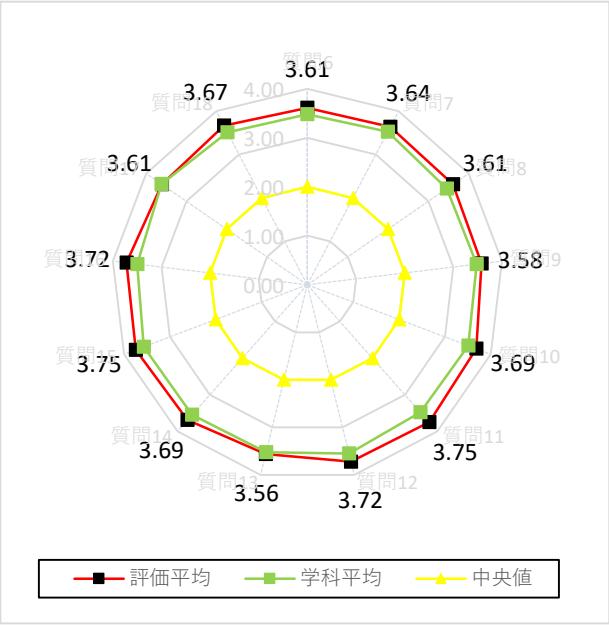
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様、次年度も学生1人ひとりの理解度、技術の習熟度に応じ指導を行っていく。
また、自由記述では、「実習前に食事介助をもっとしたかった」等の意見もあったため、実習で行った介護などの情報を集めながら、より必要な介護技術に焦点を当てた実施をしていく.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

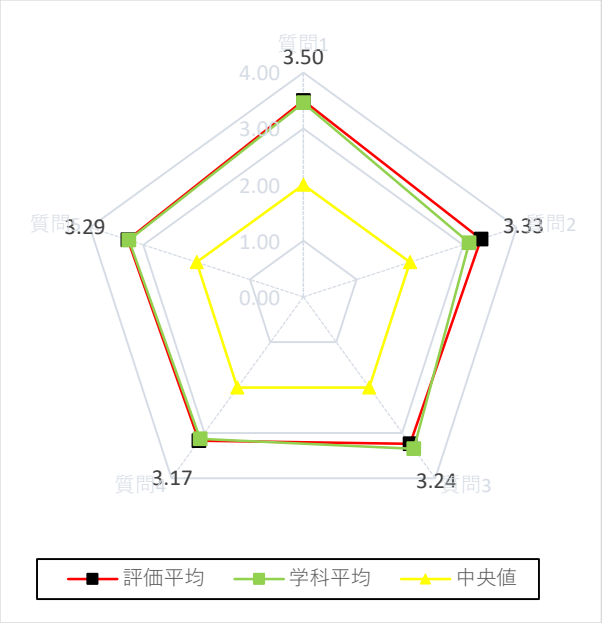
この科目は、１年前期の生活支援技術Bで学んだ、基礎的な生活支援技術から発展させ、応用的に生活支援技術について学ぶ科目である。
授業評価については、おおむね平均を上回る結果となった。
特に質問10～12、質問15～16、質問18で高い結果となった。
この科目では、ベッドごとに小グループに分かれ実技を行っていく。教員は、全体の説明後、各ベッドを回りながら、学生1人ひとりの実技を確認し、学生に1人ひとりにあわせた指導を行っている。その結果、平均より評価が上回る結果となったと考える。

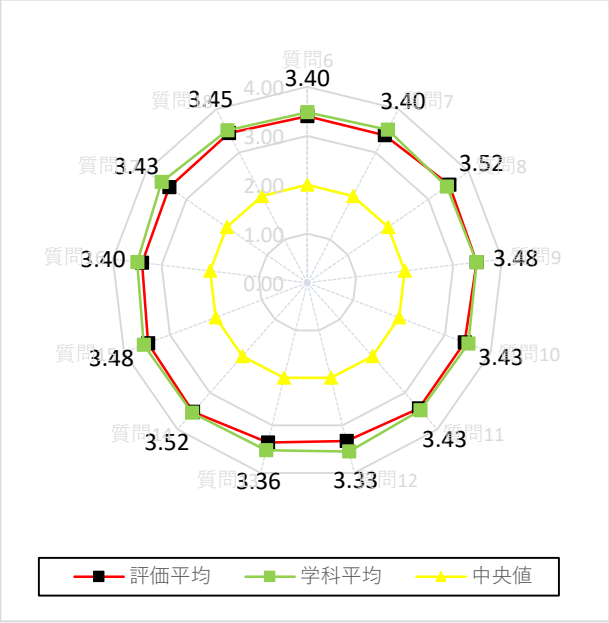
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様、次年度も学生1人ひとりの理解度、技術の習熟度に応じ指導を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術D	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

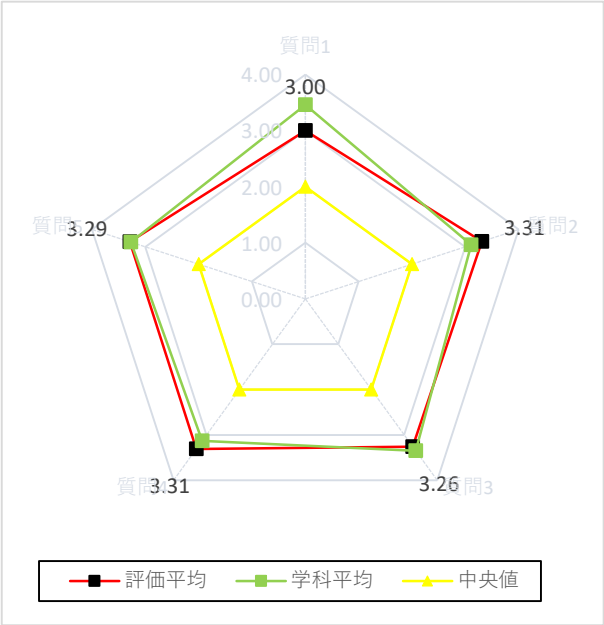
履修者43名中42名より回答をえた（aクラス27名中27名、ｂクラス16名中15名）。令和４年度は受講者数が多く、未入国の留学生が27名と多かったことから、未入国学生のみのａクラス、すでに入国済みの留学生と日本人が半々であるｂクラスの２クラスに分けて授業を展開した。
どちらのクラスも学科平均とほぼ同じか若干低い評価であった。日本人と留学生の間の意見の相違は前年度にもあったが、日本人同士、留学生同士のなかでも意見の相違があり、対応に苦慮しながらの授業展開であった。公平に公平にと心掛けてきたつもりであったが、授業評価からは不満を抱いていたことがうかがえる。ただ自由記述には「もしチャンスがあったら、施設のレクリエーションのとき、利用者に作ってみたい」とか、「薄い味ですけどとても美味しかった」、「最初は日本料理があまり食べられませんでしたが、授業を通して食べられるようになりました」、「日本の12月の料理も学びとても勉強になりました」など好意的な意見のみであり、授業内容自体には満足してもらえたのだと考える。

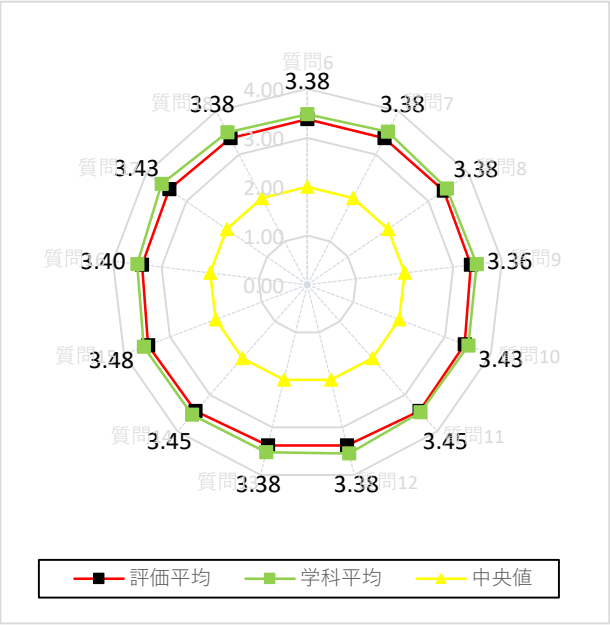
（３）次年度に向けての取り組み

日本人学生、留学生、双方にとって満足できる授業の実施方法を検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術F	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加態度は、5項目中3項目が学科平均を下回っていた。特に低かった項目は、「欠席」であった。2年後期の1限目の授業とのこともあり、気持ちが緩んだ学生もいたようだ。

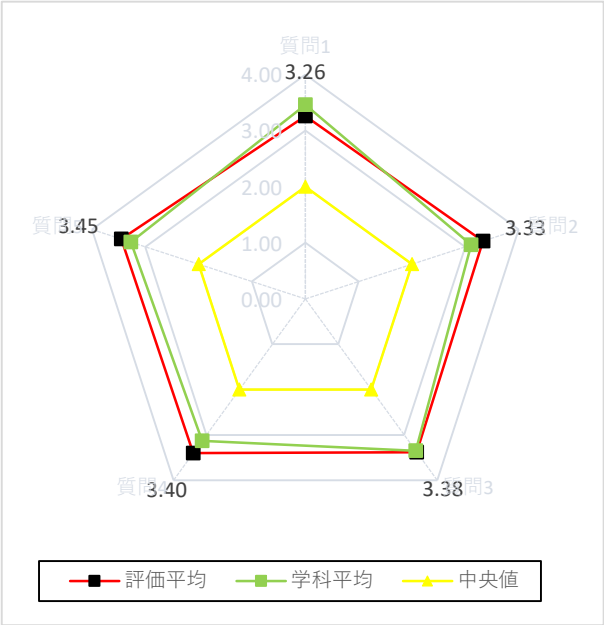
授業内容・方法、対応は、すべての項目において学科平均を下回っていた。その中でも評価が高かった項目は「配布資料」「誠実」「公平」などであった。問19～25の質問がない項目においても４２名中２４名が回答しており、すべて「悪い」にチェックを入れている学生もいた。

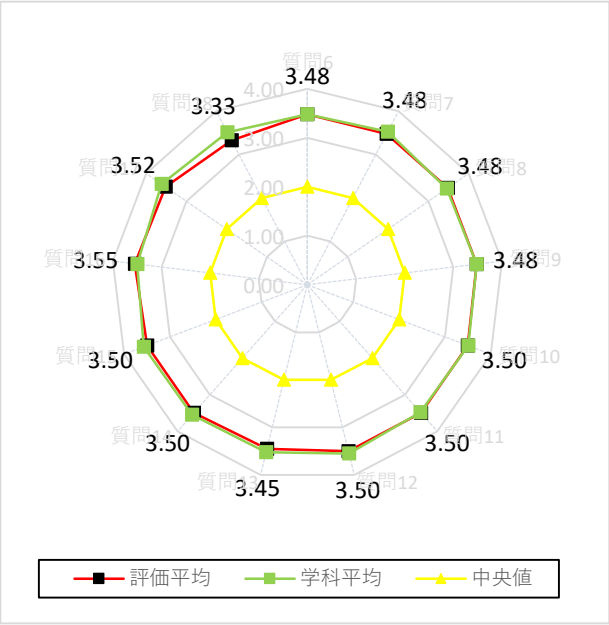
（３）次年度に向けての取り組み

この授業は、それぞれの障害に応じた支援方法について理解する授業であり、医療的な部分も含め難しい部分もある。そのため、配布資料や視聴覚機器を用いて理解しやすい工夫をしてきた。配布資料に関しては、概ね高い評価を得ていることから、より工夫を重ね知識の定着につなげられるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術G	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

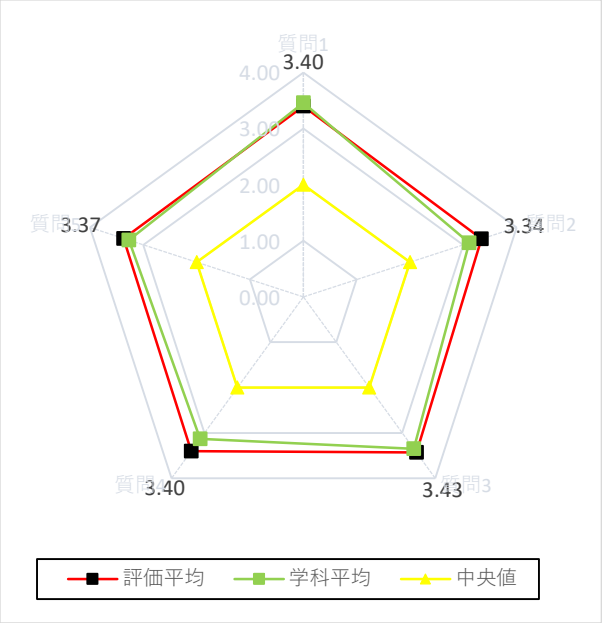
自由記述では、難しかった、動画が欲しいとの記述があった。半分が実技やそのテストであったためか良い、やや良いが多かった。しかし、一人全部に不十分を付けた学生もいた。質問19以降に回答した学生も22名いた。良いは半数ほどで多くはなかった。国家試験の勉強で忙しくなり時期に、医療的ケアとともに覚えなくてはいけないことが多く大変であったと思われる。

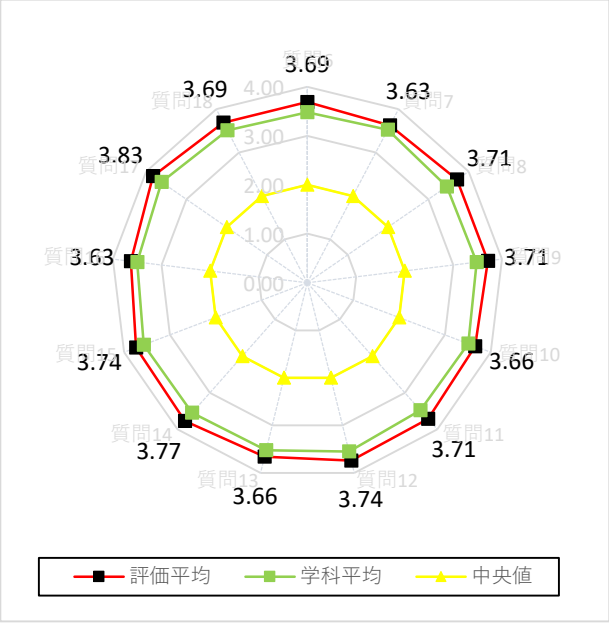
（３）次年度に向けての取り組み

2年前期に変更することも検討する。動画で残すことも検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅰ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

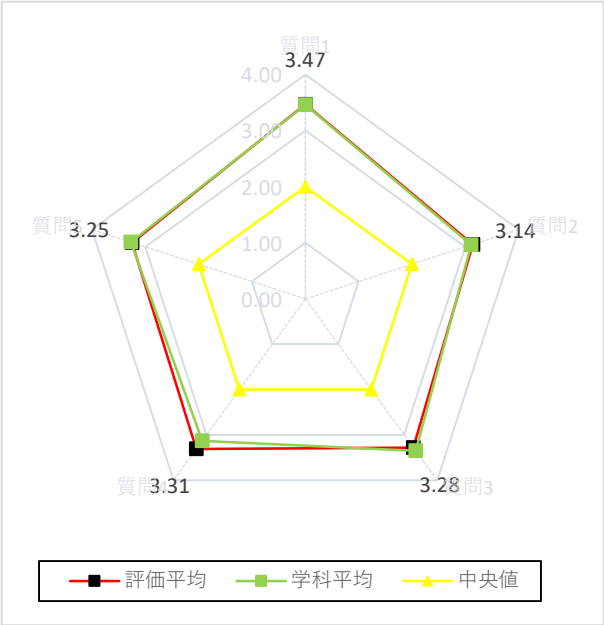
本科目の評価は、全体的に学科平均よりも高い値となっており、学生にとっての不満足感はさほどなかったと捉えている。しかし、コロナ禍で留学生の入国が遅れていたため授業のほぼすべてを対面と遠隔のハイブリッド型での実施となり、学生によっては、インターネットの通信状態や留学生の母国の事情（内戦）等で十分な学習環境が整わないこともあった。学生の中には、その点でのストレスもあったのではないかと想像する。ただ、そのような状況下でも、熱心に受講する学生が多かったことは印象的であった。質問5の自己評価が高いのは当然の評価であると捉えている。

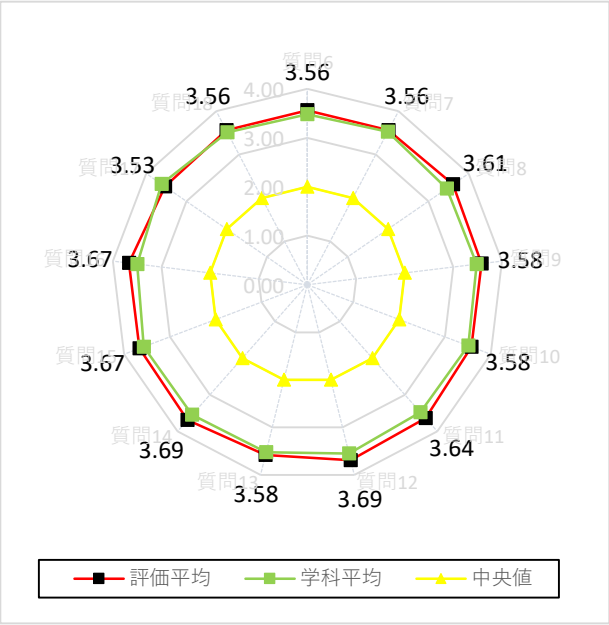
（３）次年度に向けての取り組み

この授業では、グループワークを多く取り入れた。その際、介護過程を学ぶ際に重要となる個別性を理解するために、クラスメイトも個性があること、価値観や考え方の違いがあることを実感させたかったからである。同時に、人の意見をいったん受け入れること、さらに自分の意見を他者に伝えることの難しさと大切さを学んでほしいとも思いながら授業を進めた。しかし、授業が始まった当初、特に留学生はなかなか意見が言えず、日本人学生がリードする場面が多くなり、グループワークの難しさを痛感することも多かった。だが、自由記述をみると、グループワークに対する肯定的な意見が幾つかあり、教員が思う以上に学生自身が色々なことを得ていることがわかった。グループワークは、是非次年度も積極的に取り入れていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅱ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

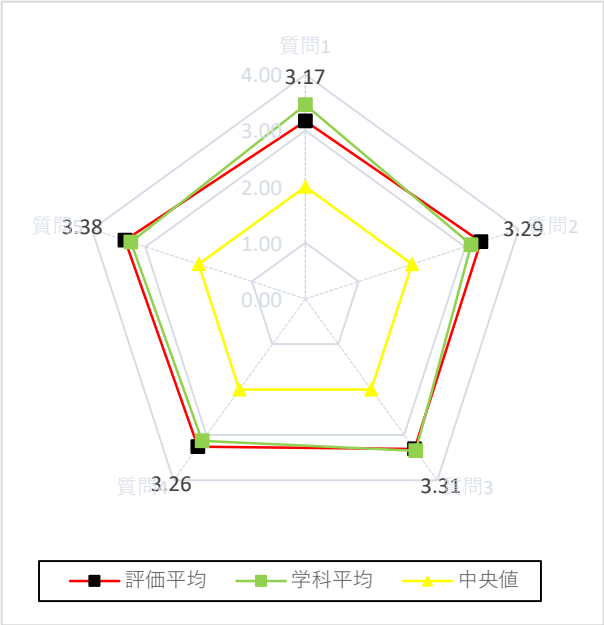
評価の値は、学科平均とほぼ同程度の結果であった。質問2、3、5は、若干学科平均よも低い数値であった。本科目は、前期に開講された介護過程Ⅰの内容を引き継ぐものでもあり、事例問題を多く取り入れ学生自身が考えることを重要視しして学習を進めていった。授業中、「難しい」という声は多々あり、考え方のヒントを与えたり助言を多くするなどしたが、学生にとっては達成感を得にくい内容だったと推察する。質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」の評価は、学科平均よりも0.09低い数値だが、毎回の授業が講義中心ではなく事例問題を用いた個人ワーク中心であり、教員は助言は最低限にしてとにかく学生自身が考える時間を多くとったが、学生には、教員の熱心さが足らないように感じられたのかもしれない。個人ワーク中の学生への声掛けやアドバイスのタイミングと量について学生の学習の様子に応じて工夫すべきであった。

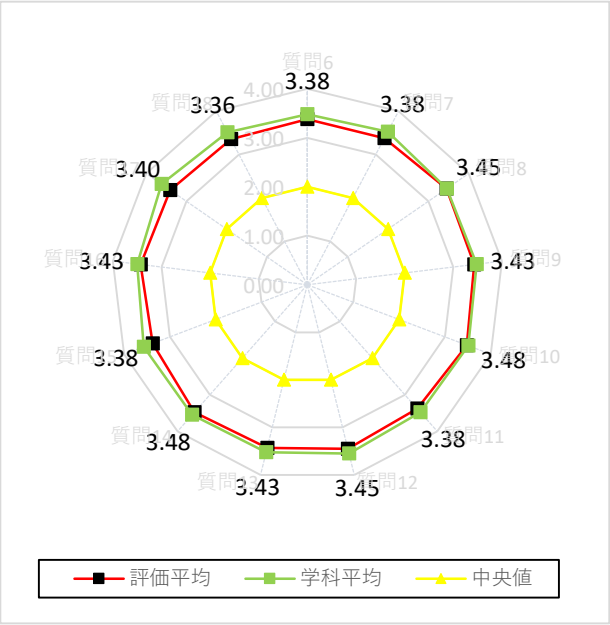
（３）次年度に向けての取り組み

本科目の性質上、次年度以降も事例問題を活用することは考えていない。事例問題に関しては、教員の説明や助言が多すぎると、学生が自分で考えなくなるという心配があったのだが、今後は、学生の学習の様子に応じて個人ワーク中の学生への声掛けやアドバイスのタイミングと量を検討したい。自由記述に、「説明は分かるようにしてくれます。」とあったが、そう感じていない学生いることを忘れずに対応を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

本科目は通年開講科目で、前期は一人の専任教員が授業を行い、後期は５人の非常勤講師がオムニバス形式で授業を行っている。そのため、それぞれの教員の授業についての分析は難しい。しかし、今回の評価結果からは、学生はおおむね肯定的な評価をしたものと受け取ることができる。問19～25の質問がない項目においても回答が多く見られ、その中に「悪い」にチェックが入っている項目も多かった。

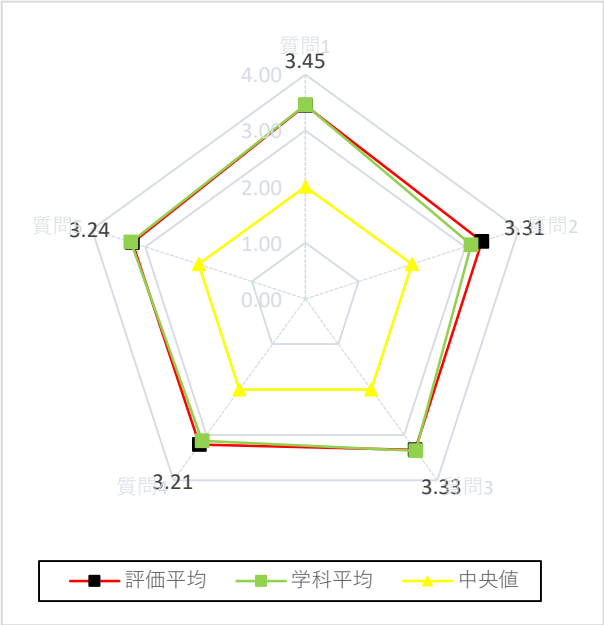
自由記述の欄には、「グループワークは参加したくなかったが、一番面白い授業だった」との記述もあり、介護の仕事をするうえで必ず必要とされる知識であることから、実際の現場の方々からの授業は、学生が関心を持ちやすいものだったのではないかと考える。しかし、複数の教員が授業を行うため、それぞれの担当者（専任教員、非常勤講師）の授業評価の詳細はわからない。

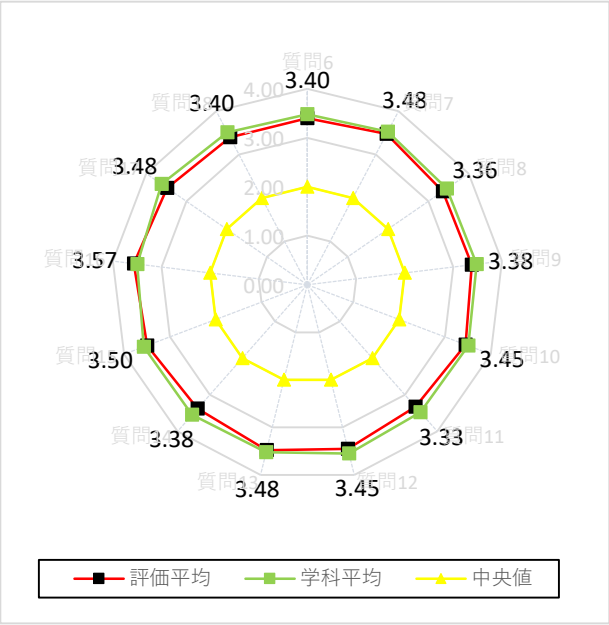
（３）次年度に向けての取り組み

本科目は通年開講科目で、しかも多数の教員が授業を担当することから、教員によって授業の進め方や使用機器、教材等も異なるため、学生も評価の難しさを感じることも考えられる。今後は、複数の教員で担当するオムニバス形式の授業の評価方法の検討を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅲ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

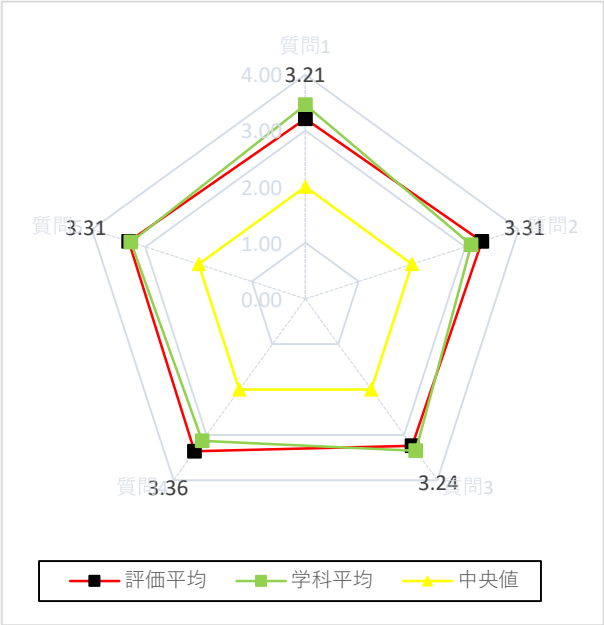
介護過程Ⅲは通年の授業です。

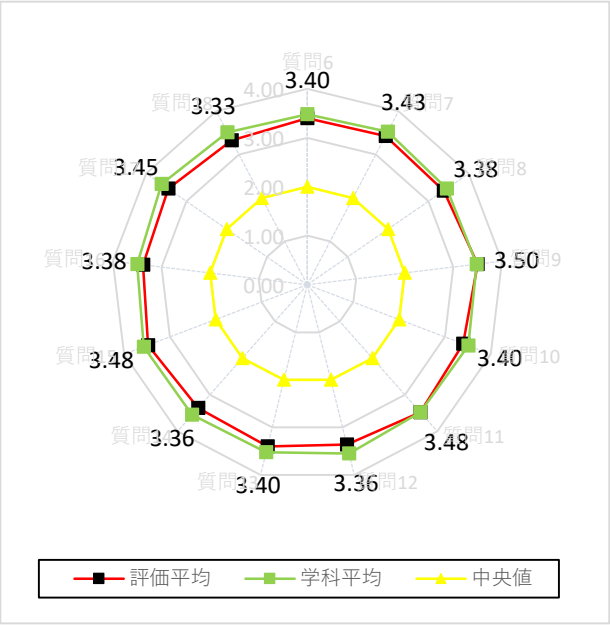
（３）次年度に向けての取り組み

介護過程Ⅲは通年の授業です。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅳ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加態度は、「欠席」「居眠り・私語」の項目が学科平均を下回っていた。介護実習を終え、「介護総合演習」とともに求められる介護福祉士を目指し、介護観を形成する大事な段階となるが、どうしても実習を終えた安心感と国試受験に向けた学習などにより、授業に集中できない学生も見受けられる。

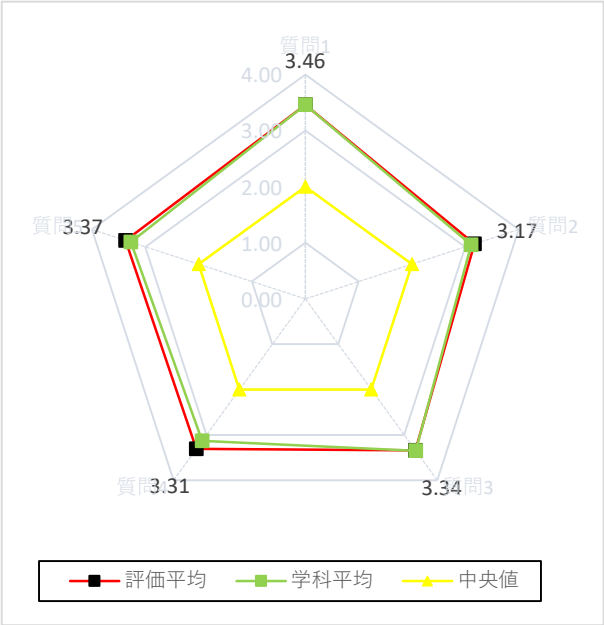
授業内容・方法、対応は、全般的に学科平均に近い数値であった。

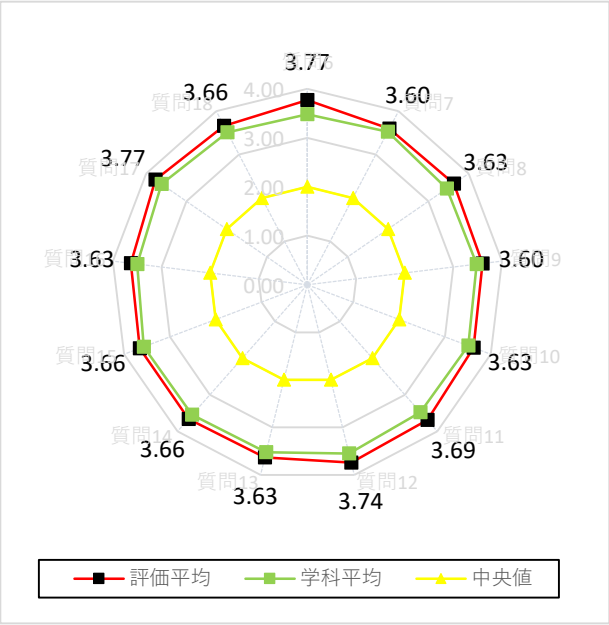
（３）次年度に向けての取り組み

この授業は、介護過程の展開の必要性を理解し、介護福祉士としての専門性を自覚し、介護計画を立案することができるようになることを目標としている。また、ケアマネジメントのシステムを理解や同職種・他職種との連携についても学ぶ。ここ近年、特に授業の後半は、どうしても受験に活かせるような内容となり、学生それぞれに専門性を考えさせる十分な時間となっていないことを反省している。今後は、授業の組み立てをしっかりと行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅰ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

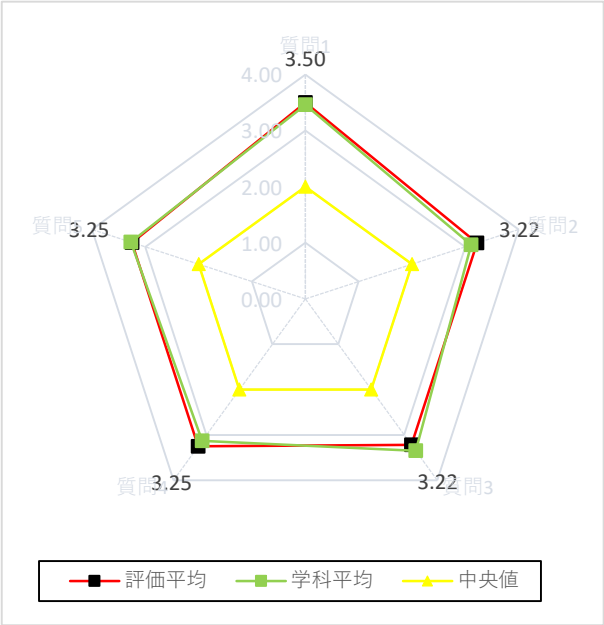
本科目は、主に介護実習の意義・目的、種類等の理解、実習時に必要な記録方法の習得、カンファレンスの必要性の理解、その他介護実習に必要な知識を習得するものである。評価の数値は、ほとんどの項目が学科平均と同等か若干高くなっており、実際、学生は、介護実習に対する期待と不安を持ちながら熱心に受講していた印象である。留学生の入国の遅れで、対面と遠隔のハイブリッド型の授業だったため、実際には、板書の使い方や視聴覚機器の使用も十分ではなかったと感じている。

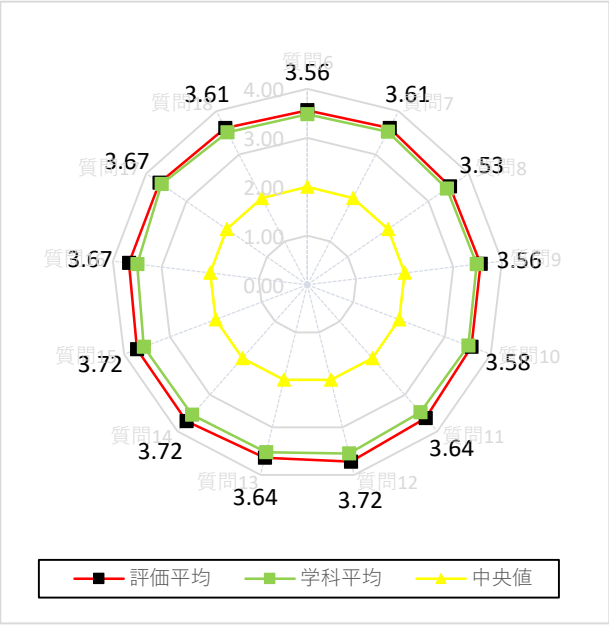
（３）次年度に向けての取り組み

対面授業と遠隔授業を同時に行った授業だが、その場合すべての学生に同等・同質の授業を行うことの難しさを強く感じることが多かった。特に、遠隔授業の場合、通信費の関係もあり、海外で宴会く授業を受けている留学生が授業中ずっと画面に顔を出すことは難しく、こちらの授業・説明にどのように反応しているのかを確認することは非常に困難だった。また、大多数の学生が対面授業を受けている場合は、少数の遠隔授業をうけている留学生は「置いてけぼり」のような感じになっていないか気をつける必要もあった。今後も、対面・遠隔のハイブリッド型の授業を行う場合は、十分な事前準備と学生への丁寧な説明を心がけたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅱ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

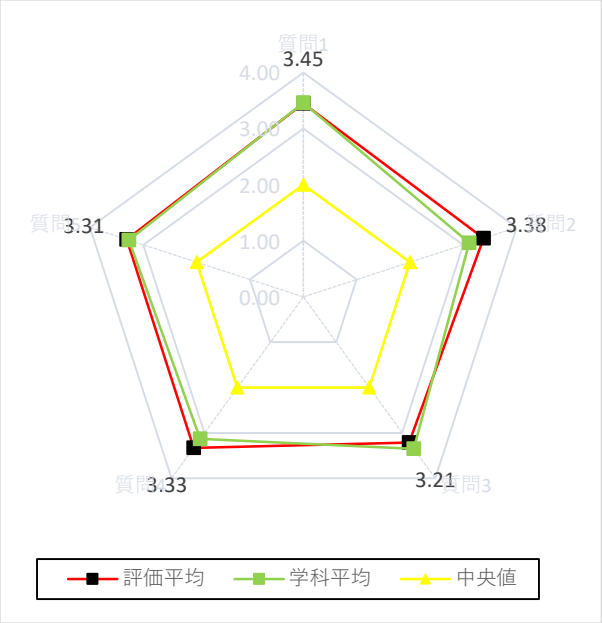
本科目は、介護実習の振り返りの重要性を理解し、今後の課題を明確化することを中心とするものである。質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」質問5「あなた自身の総合自己評価」が学科平均よりも若干低い数値ではあるが、その他は、同等もしくは若干高い数値であった。この授業では、夏休みに体験した介護実習についてグループ内で発表することもあり、学生の自己表現の場にもなっていた。その際の発表に自信のない学生は、やや低めの自己評価となったのかもしれない。また、質問6以降の評価は学科平均よりも良い結果であったが、授業中、学生からの質問も多かったが、それに対応していたことがこの評価につながったのではないだろうか。

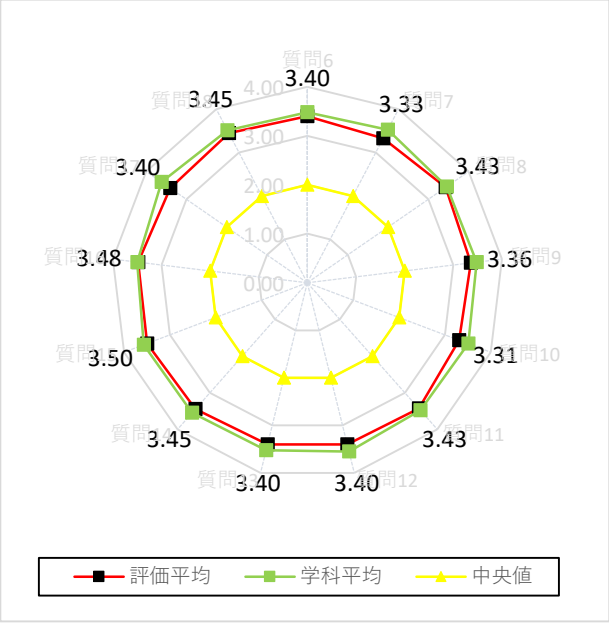
（３）次年度に向けての取り組み

この授業は、夏休みの介護実習を振り返えい、自己の課題を明確にする重要なものである。自己の振り返りを行い、グループ内で発表するという学習スタイルは、自分の学び、気づき、考えを他者に伝える良い経験になっていると感じている。学生の自己評価を向上させるためにも（自信をつけさせるためにも）、今度もこのスタイルで授業を行いたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅲ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加態度は、４項目において学科平均を上回っていた。学科平均を下回っていた項目は「居眠り・私語」であった。この授業では、介護実習Ⅱに向けて介護過程について学ぶ授業でもある。理解を深めるためにグループワークも多く実施することから、私語が多いとの反省が見られた可能性が高い。居眠りは、特に見られなかった。

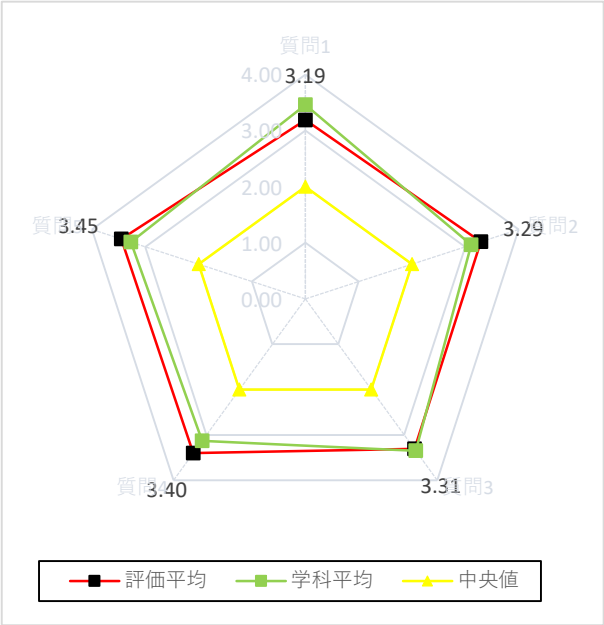
授業内容・方法、対応すべての項目において学科平均を下回っていた。特に平均よりも評価が低かった項目は、「視聴覚教材・板書」であった。情報を分析する作業が多く、実習で用いる様式に記入していくため、多少評価が低い結果になっても納得できる。また問19～25の質問がない項目においても多くの人が回答している状態だった。

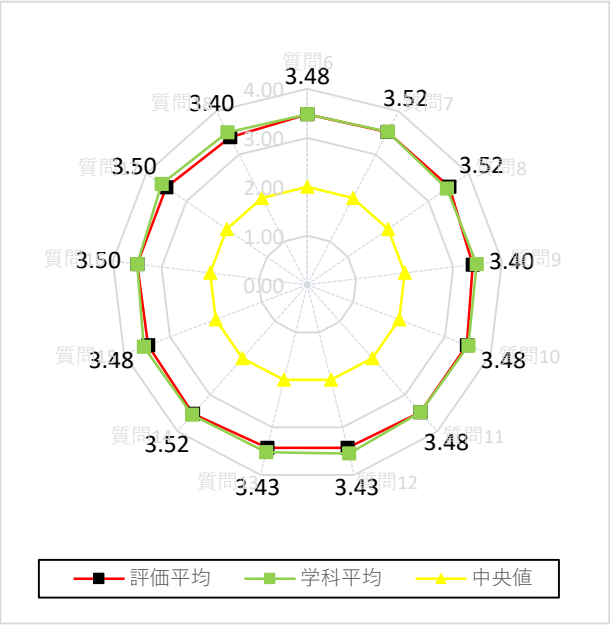
（３）次年度に向けての取り組み

この科目の内容は主に実習に向けた介護計画の立案の思考過程の理解である。最終実習である介護実習Ⅱに向けたて、学生が今までの学びを総合して整理する学びであるため、様々なことを考え、頭を悩ませる科目だけに、もっと理解しやすくする工夫が必要だと感じた。また留学生にも伝わりやすく工夫しなければならない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅳ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

学生の授業参加態度の評価は、学科平均を上回った項目が多かった。特に低かった項目は、「欠席」であった。事例研究発表に向けたパソコン作業や発表準備など能力に個人差があり、早く終えた学生には、その時間を国試の自学の時間に切り替えたりして対応したため、欠席の認識があったのかもしれない。

授業内容・方法、対応については、学科平均を下回った項目が多かった。「やや悪い」と評価された項目もあったが、問19～25の質問がない項目においても半数う以上の学生が回答している状況であった。

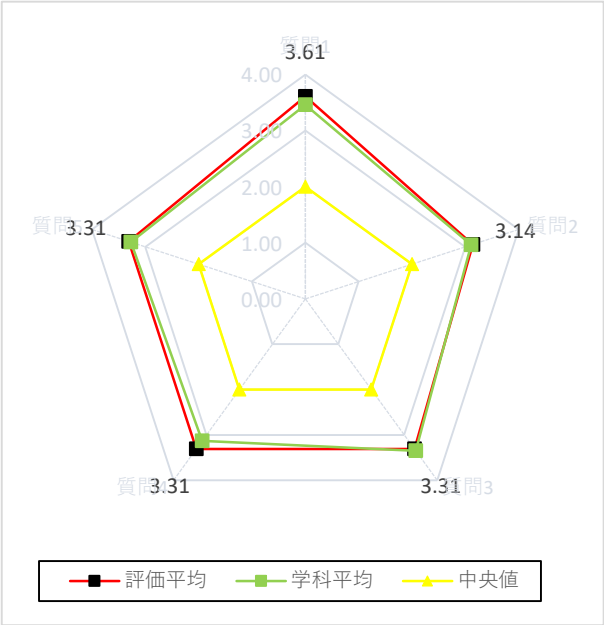
自由記述には、「他の学生の事例から学べることも多かったのではないか。もっと分析の時間が欲しかった」との記述もあった。学生には、事例研究発表会の中で質疑応答等行いながら討議して欲しかったが、実際には、教員が働きかけないと質問も出ない状況であった。

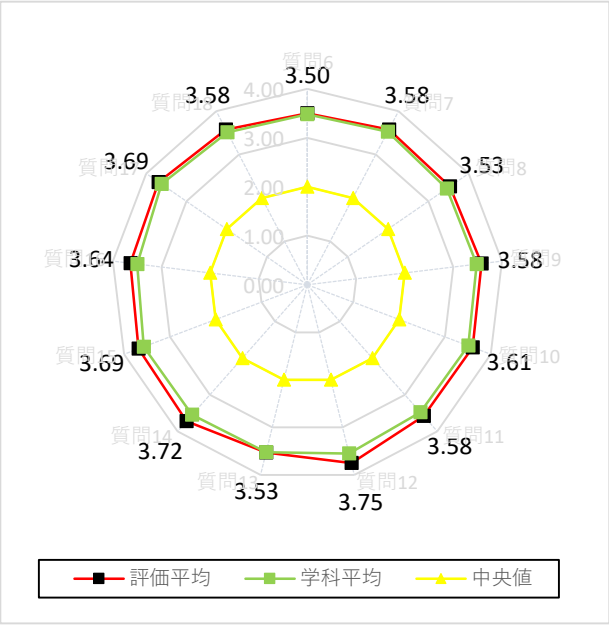
（３）次年度に向けての取り組み

介護実習後の振り返りや事例研究発表等の事前準備等が含まれた授業であるため、個人の能力により作業速度が違ってくる。今年度は、国試の学習時間として対応したが、それがベストではないと考える。自由記述のコメントもあったように事例研究発表会後にも多くの学びのチャンスがあるため、今後の対応を考えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅰ	36名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

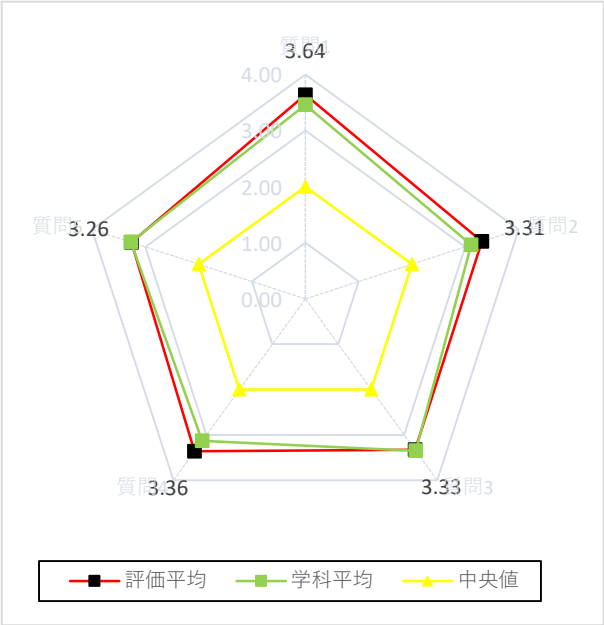
介護実習Ⅰは、実習の概要や実習目標は学生全員（またはすべての実習施設）に共通しているものの、当然、学生それぞれの実習施設が学びの場であり、施設の実習指導者によっても指導方法や内容には多少の違いがある。しかし、その違いを最少にするためにも、コース教員間での実習に関する共通認識と情報共有を行い、コース教員による1週間に1回以上巡回指導を実施している。今回の評価対象が実習巡回時の教員に対するものとして今回の評価結果を見ると、ほとんどの項目で、ほぼ学科平均と同程度の評価を得ており、コース教員が偏りなく実習巡回指導ができたと捉えることができるのではないだろうか。同時に、学生の実習状況や思いに合わせた指導や助言を行うことができたものと推測される。

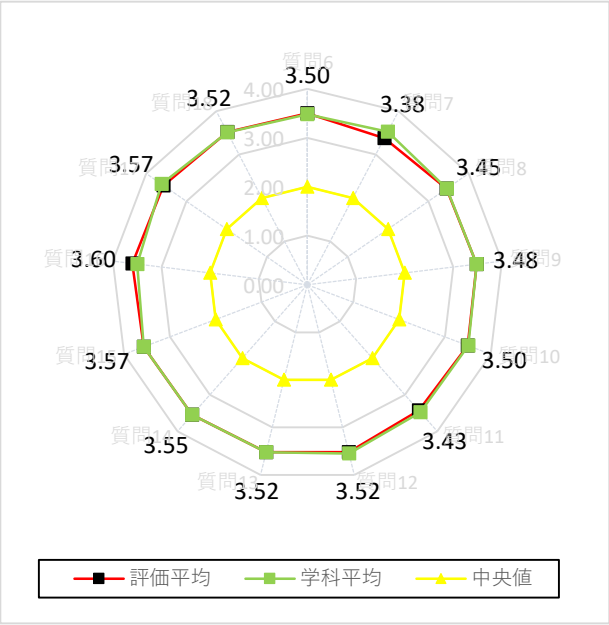
（３）次年度に向けての取り組み

巡回習指導は、緊張と不安の中で実習している学生の気持ちや状況を理解したうえで、学生が自分自身でそれぞれの課題に気づくよう助言・指導を行っている。また、施設の実習指導者との情報共有も非常に重要で欠かすことのできないものである。特に、留学生を含め多様な学生が介護実習を経験するにあたっては、これまで以上に実習施設と教員との密な連携が不可欠である。今後はさらに、実習施設と連携を深める機会を増やし、よりよい介護実習になるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習Ⅱ	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

介護実習Ⅱは、実習の概要や実習目標は学生全員（またはすべての実習施設）に共通しているものの、当然、学生それぞれの実習施設が学びの場であり、施設の実習指導者によっても指導方法や内容には多少の違いがある。しかし、その違いを最少にするためにも、コース教員間での実習に関する共通認識と情報共有を行い、コース教員による1週間に1回以上巡回指導を実施している。

今回の評価対象が実習巡回時の教員に対するものとして今回の評価結果を見ると、ほとんどの項目で、ほぼ学科平均と同程度の評価を得ており、コース教員が偏りなく実習巡回指導ができたと捉えることができるとかんがえる。また学生の実習状況や思いに合わせた指導や助言を行うことができたものと推測される。

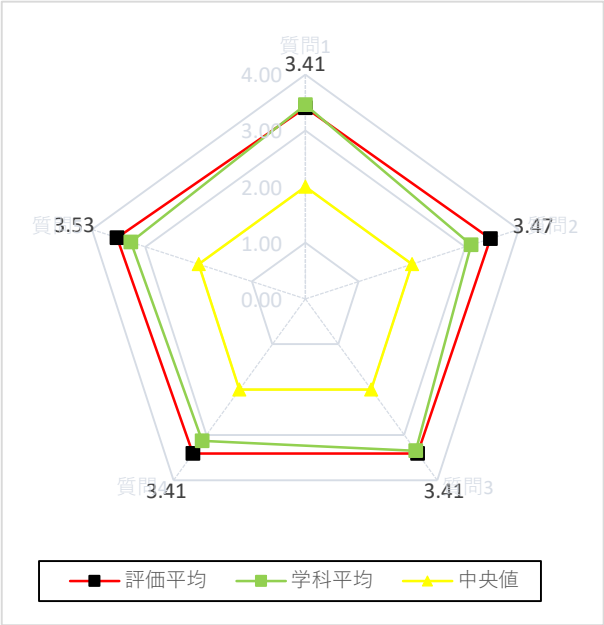
入国が1年以上遅れた中、またコロナ感染拡大の中、可能な限りの施設実習と学内実習で対応した。結果的に卒業式の前日まで実習を行った学生もいたが、なかなか厳しかったと思う。

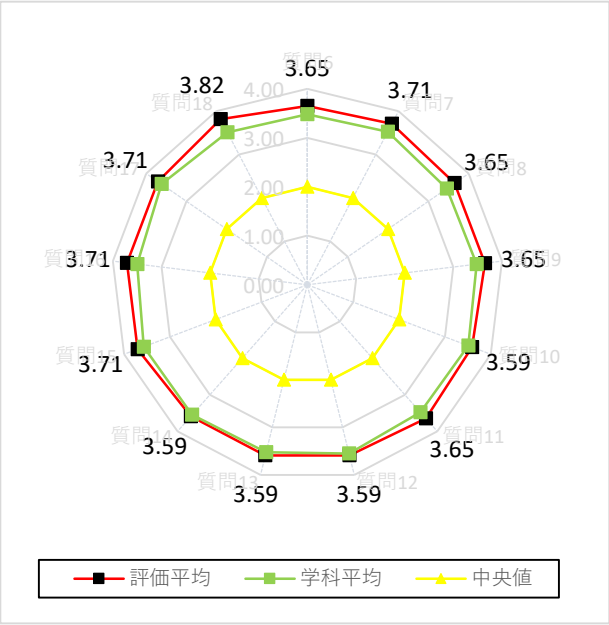
（３）次年度に向けての取り組み

巡回習指導は、緊張と不安の中で実習している学生の気持ちや状況を理解したうえで、学生が自分自身でそれぞれの課題に気づくよう助言・指導を行っている。また、施設の実習指導者との情報共有も非常に重要で欠かすことのできないものである。特に、留学生を含め多様な学生が介護実習を経験するにあたっては、これまで以上に実習施設と教員との密な連携が不可欠である。今後はさらに、実習施設と連携を深める機会を増やし、よりよい介護実習になるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		リラクゼーション（演習を含む）	17名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

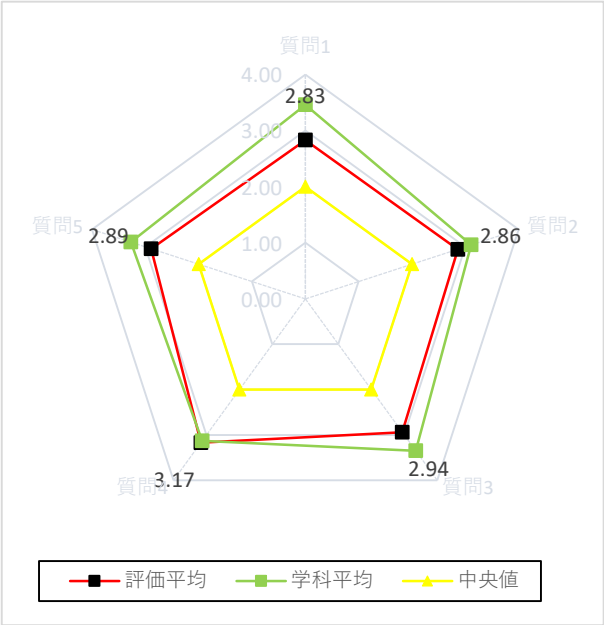
結果は、すべての項目で学科平均を上回っている。そもそもこの科目は、交感神経・副交感神経の働きとそのバランスの重要性を解説し、介護・福祉現場及び日常生活でのリラクゼーションの意義を学ぶものであり、演習がほとんどであったため、学生は専門科目の授業に比べると非常にリラックスして受講している様子だった。そのため、学生と教員との双方向のコミュニケーションもスムーズであり、学生も積極的な受講態度であった。それらが今回の結果に表れているものと考えている。質問５の学生自身の総合評価が3.53と高い数値であることからも学生にとって有意義であったのはないかと推測できる。

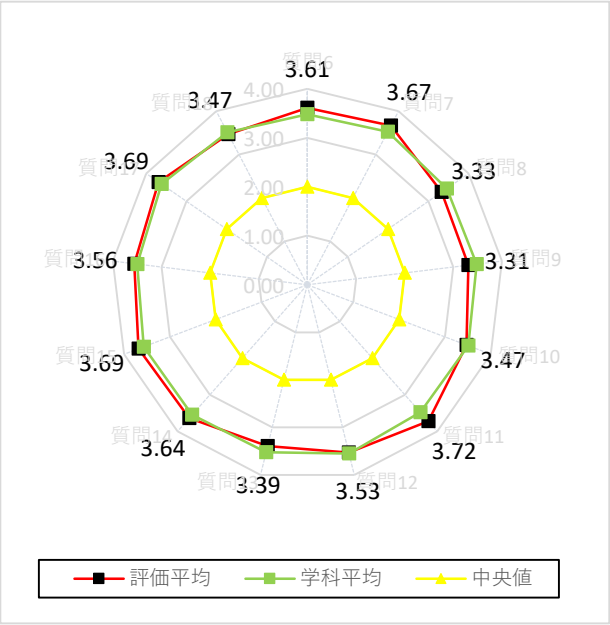
（３）次年度に向けての取り組み

この科目においても、まだ完全にコロナの影響がなかったわけではなく、授業は予定していた内容通り進めることはできなかった。しかしその分、学生の意見を取り入れながら授業内容を変更したことも、結果的に良かったのではないだろうか。学生の意見を取り入れる方法は、今後も何らかの形で活かしていきたい。また、この科目は、学科内の選択科目であったが、普段一緒に学ぶ機会が少ない3つのコースの学生が、一緒に学んだことの意義も大きかったと感じている。出身国や学年が異なる学生同士の関りは、リラクゼーション理解を深めるため、また、相互理解のために非常に良い影響を及ぼしたものと考えている。引き続き、学科内の選択科目としての位置付けで授業展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

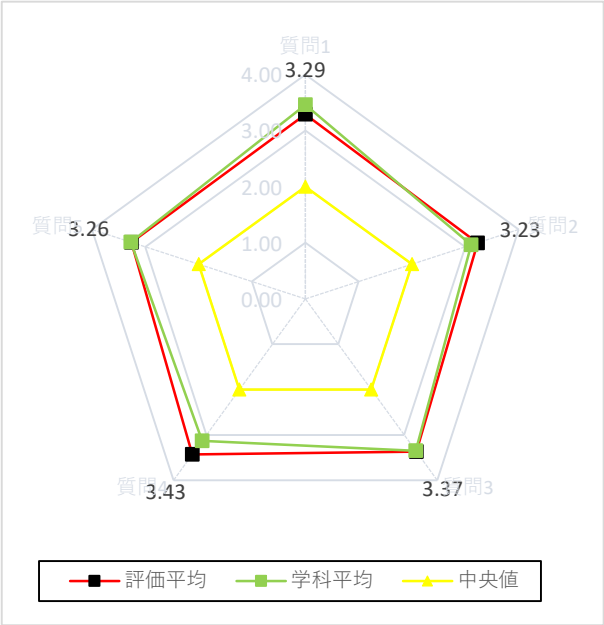
質問１、質問２、質問３、質問５において、学科平均を下回っていた。逆に、質問６、質問７、質問１１は学科平均を上回っていた。
本科目は、倫理や道徳を扱う科目であるため、留学生にとっては母国の文化や価値観のちがいに戸惑ったと思われる。また、言語や概念が日本固有の内容があるため、担当教員としてもいかにわかりやすく伝えられるのか苦心した。

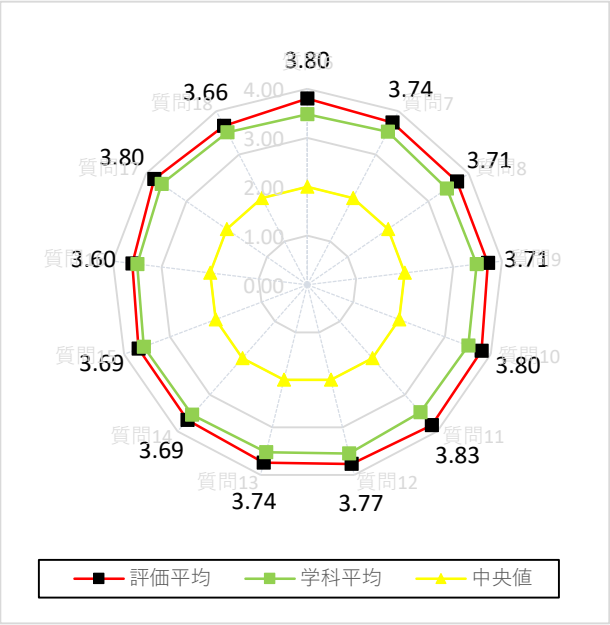
（３）次年度に向けての取り組み

自由記述などのおいては、「難しい内容であるが、面白かった」という記載もみられた。
留学生は、アルバイトを通じて、日本の介護現場を体験している。授業においては、グループワークや事例検討を通じて、介護における倫理や道徳について取り上げ、学生間でシュアを図れるように工夫した。
今後の課題としては、本科目においては、日本人と留学生の授業理解のギャップがある程度あること（文化の相違）、また留学生館においても日本語力の差があることがあり、いかにグループワークや事例検討をとおしてそのギャップを少なくできるか工夫を図ることだと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーションⅠ	38名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

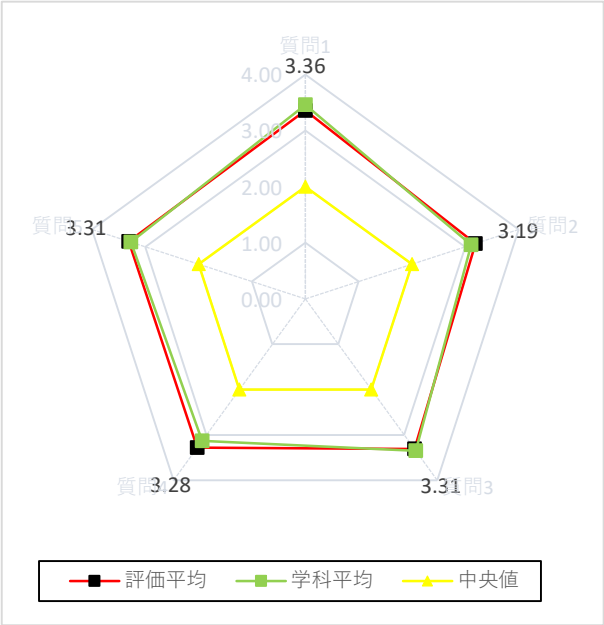
この科目は、対人援助者としてのコミュニケーションの基礎を学ぶ科目である。
授業評価では、全体的に平均を上回るけ結果となった。
質問10・11では、特に高い結果となった。
学生が理解しやすいように資料の工夫を行い、また座学だけでなく、学んだ知識をグループワークや演習を通し実践していったことも、評価が高くなった結果であると考える。

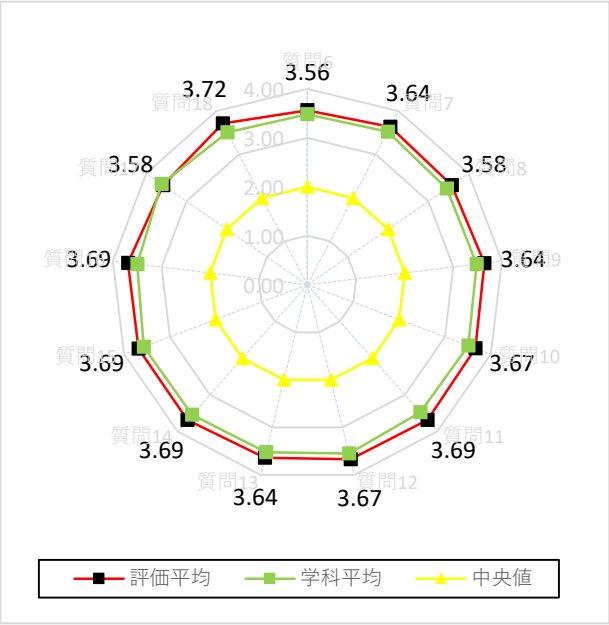
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様に、次年度も理解しやすい資料の工夫や演習を通した学びを取り入れ，理解促進に努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーションⅡ	37名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

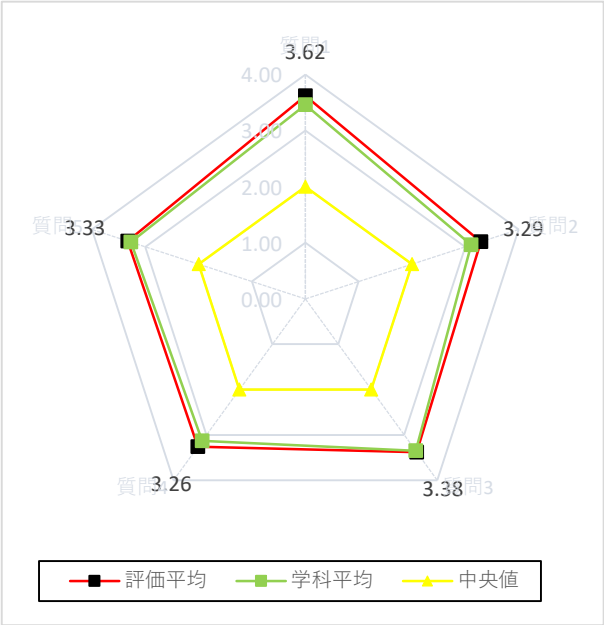
この科目は、チームマネジメントについて学ぶ科目である。
評価結果は、全体的に平均を上回る結果となった。
学生の理解度に応じ、資料や説明を工夫したこと、座学だけでなく演習やグループワークを多めに設けたことも、評価結果が高くなった要因であると考える。

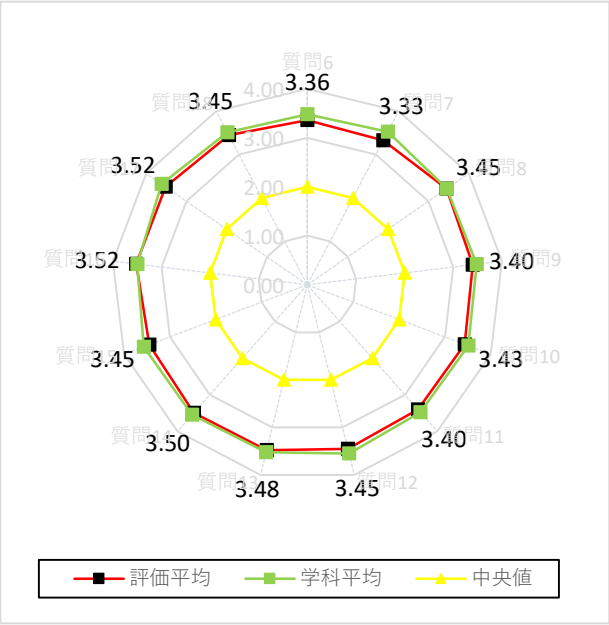
（３）次年度に向けての取り組み

令和４年度同様に、次年度も学生の理解度に応じた資料や説明の工夫、理解促進のために演習やグループワークを取り入れた講義を実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護予防支援学	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

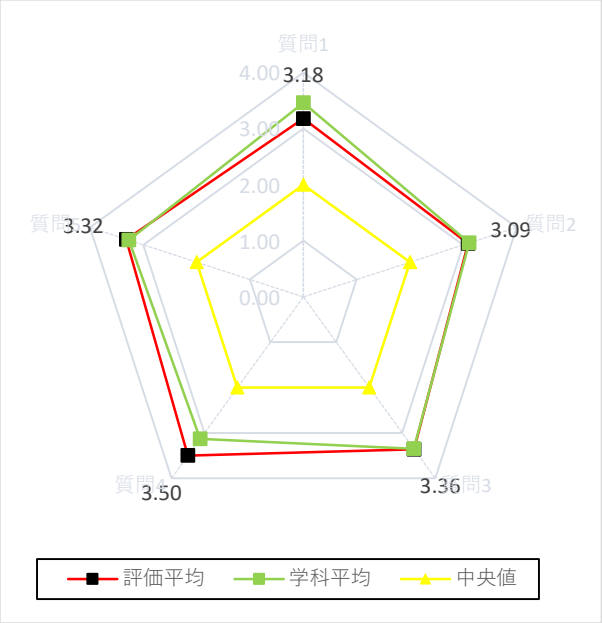
この科目は、本学の教員に加え、介護予防の現場にいる実務教員が介護予防の理論・実践について、オムニバス形式で授業を行う科目である。
授業評価は、全体的に平均を下回る結果となった。
これは、各教員により、授業方法や資料、授業スピード等が違うことが要因であると考える。

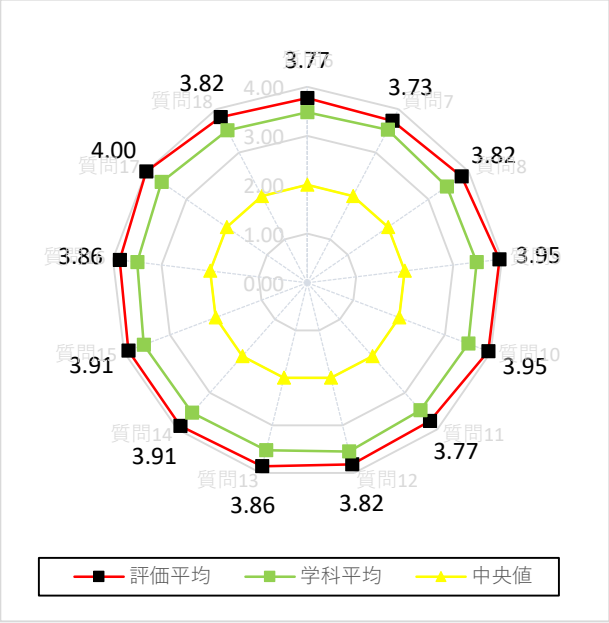
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、授業評価で得たデータをもとに各教員間で情報を共有し、学生がより理解しやすいような授業方法を工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情（演習含む）	24名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

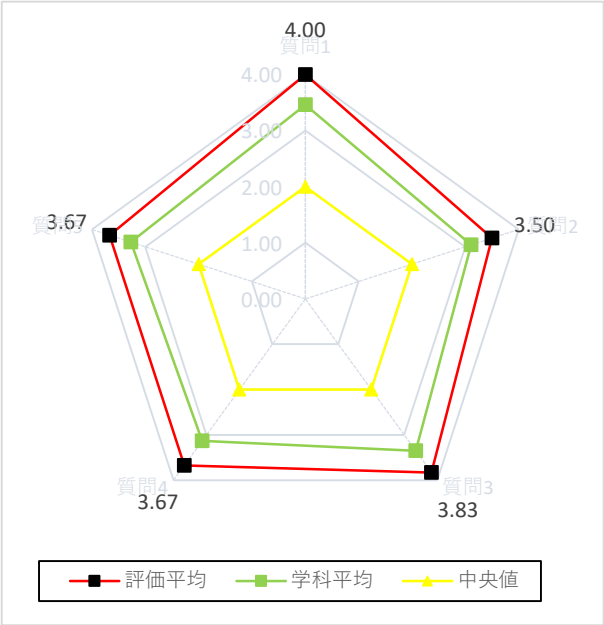
この授業は、介護福祉コースと多文化コースの学生が受講するが、多くが留学生である。コロナ禍は落ち着きをみせてきたものの、今回も留学生の入国が遅れ、受講生全員が揃って対面授業を行える日数は限られていた。入国が遅れている学生に対しては、TEAMSを利用し、資料の配布、レポートの指示などを行いながらサポートした。学生たちの学習に向かう意欲は大変高く、理論学習においてもワークショップにおいても「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を展開することができた。日本の文化を１５回で網羅することは難しいために、学生たちの興味関心が高い分野を取り上げたり、文化・教育・観光等、学生たちの今後のキャリアに生かせるようなテーマを可能な限りシラバスに取り込んだ。また、介護現場や旅行観光業に就く学生も多いために、高齢者との交流や異文化交流に生かせるクリニカルアート（臨床美術）のプログラムも体験させた。学生の授業に対する評価は予想以上に高い。シラバスの内容や、対話を多く取り入れた授業展開、会話を重視したアートワークショップ等が、学修成果につながったと捉えている。

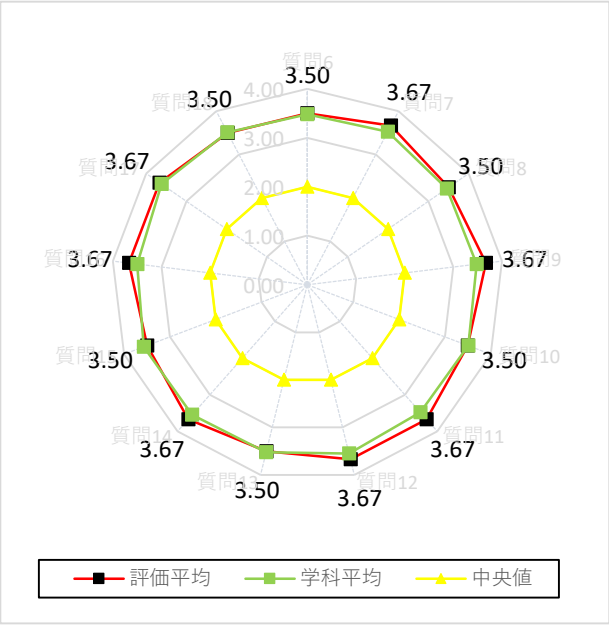
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、介護福祉コースの留学生に加え、多文化コースの留学生が増えることが予想される。留学生の入国の時間差が生じることも念頭に置き、入国が遅れる学生に対しては、TEAMSを利用し、資料の配布、レポートの指示などを行っていく。留学生の国籍は複数に及び、文化的な背景、宗教、そして日本語能力の高さの違いを踏まえ、臨機応変な対応が次年度も求められると思われる。また、日本人学生との交流も大切にしなければならない。そのため、理論学習においてもワークショップにおいても、分かりやすい日本語を使ったり、資料にルビをふったりするなど「合理的な配慮」を心がけたい。また、積極的なコミュニケーションを促すために「アクティブラーニング（対話的・主体的な学び）型の授業スタイル」を継続する。シラバスの内容も、１５回という授業回数の中で、より深い学びにつながるように、学生たちの興味関心や今後のキャリアに生かせるようなテーマを精選して計画したい。加えて、クリニカルアート（臨床美術）のプログラムを通して、年齢や国籍を超えたコミュニケーションツールとしてアートが活用できるということへの気づきも促していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解Ⅰ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

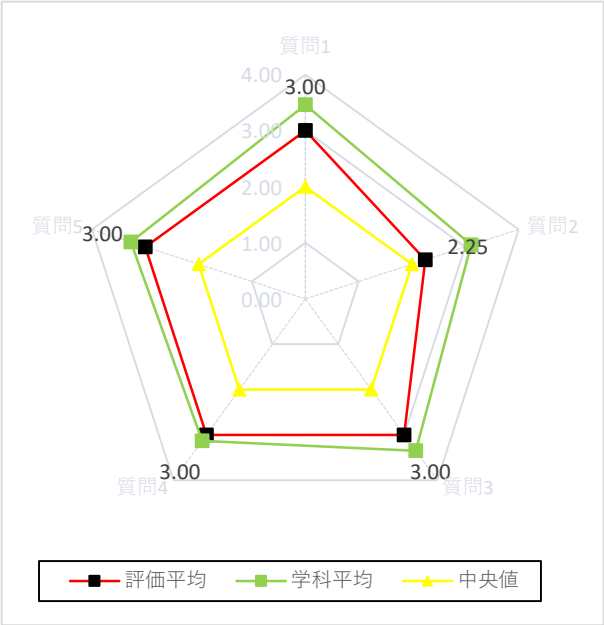
本授業は実務家教員（外部講師）と本学教員によるオムニバス授業で海外や国内の政治・経済ニュースを取り上げ、グローバル社会の中で国際人に必要なメディアリテラシーの習得を目指している。実務家教員の一人は官公庁で国際交流の実務を担当し、国際交流事業や外国人の支援にあたっており、長年の経験を基に、地域での国際交流活動の実際、異文化理解について講義している。また、もう一人は英語教育等、日本での長年の経験を活かし、国内外の文化比較と多文化社会について講義している。これらの学びをもとに講義と演習を組みあわせ、グループディスカッションなど行い、学びの報告・発表を行っている。
これらの学びについて学生の自己評価は、学科平均と比べて非常に高かった。授業評価全般は、ほぼ学科平均値を同等であった。この結果からオムニバスで教員の教授法は異なるが学生は概ねどの回も満足していることがわかった。

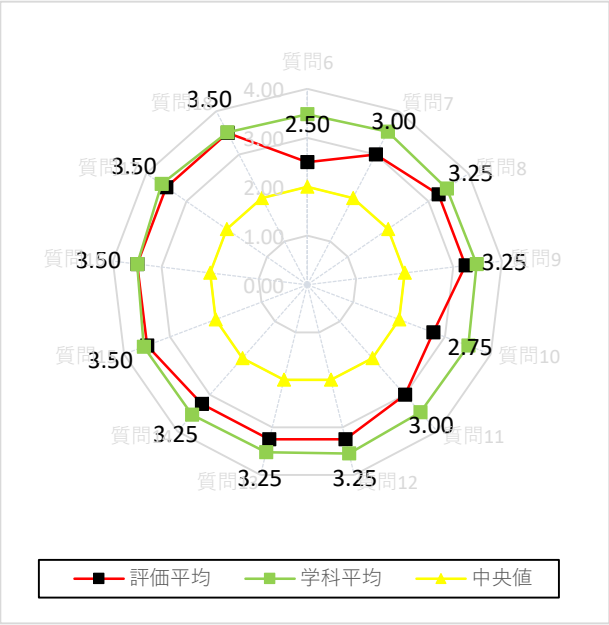
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も今年度の結果をもとに3教員が連携、情報を共有して各担当回の内容の充実を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化理解Ⅱ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

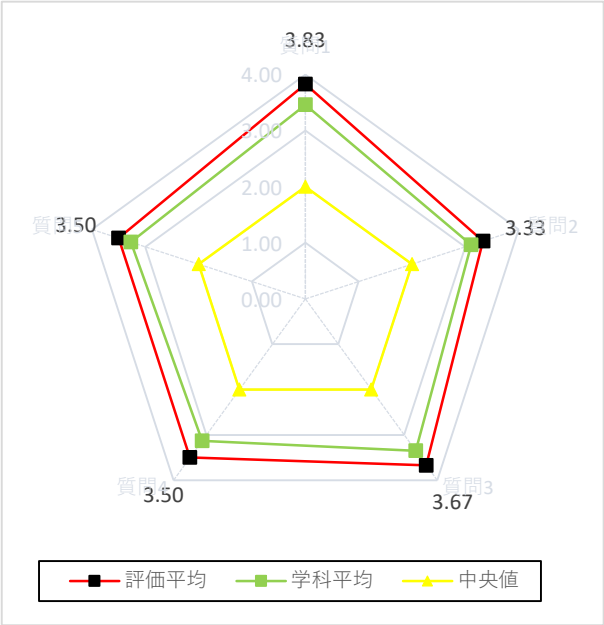
昨年度はオンラインでの授業を行ったが、シラバスの活用や授業の方法・進め方などの点で厳しい評価となった。授業資料は授業後にTeamsで共有したが、受講生の関心のあるテーマや時事問題を欠いており、授業目標と実際の授業が乖離していた。

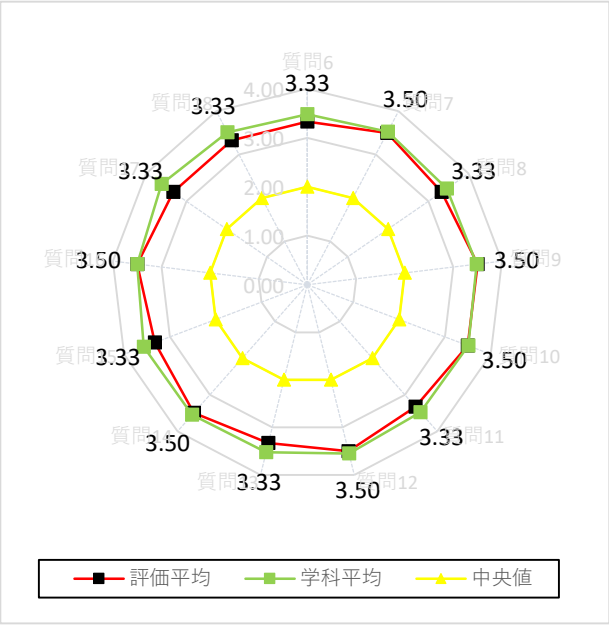
（３）次年度に向けての取り組み

授業目標の再設定とシラバスの効果的な活用により、受講生が身に付けるべき技能を理解することに努める。対面での授業となるが、授業資料の精査と課題・発表が連動させる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		国際コミュニケーションⅠ（留学）	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

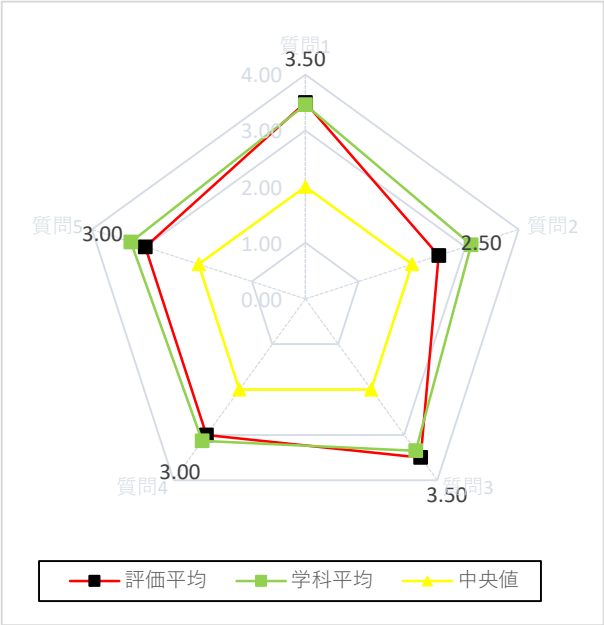
国際コミュニケーションⅠは海外留学プログラムを含む異文化体験をする科目となっているが、感染症の影響によって留学プログラムを実施することができなかった。オンライン交流を海外の大学生と実施したが、授業目標や学修成果に与える影響が少なかったと考えられる。

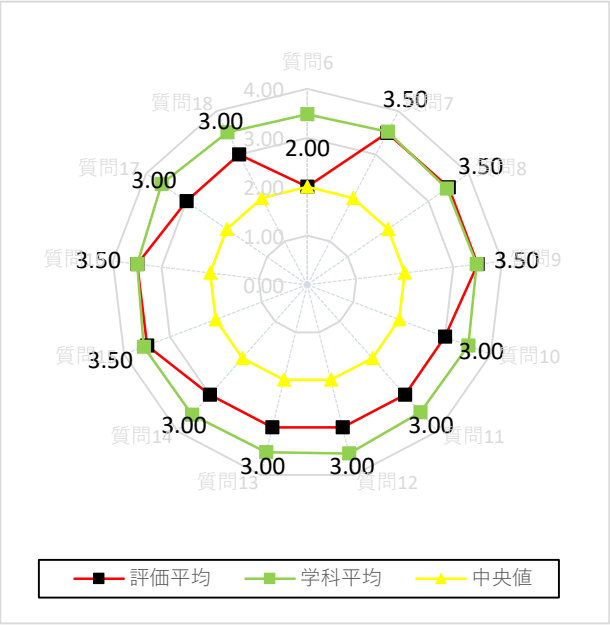
（３）次年度に向けての取り組み

受講生の期待に応えられるよう、留学プログラムの充実を図る。海外留学・オンライン交流のどちらも実施できるようになるため、海外の協定大学との連携のもと本授業の目標を達成したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		国際コミュニケーションⅡ（留学）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

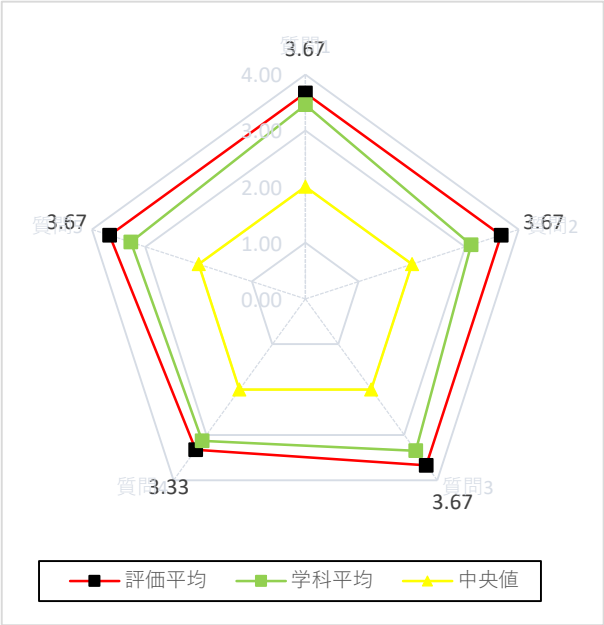
本授業は海外留学の準備学習と実際の体験を通じて授業目標を目指す科目となっている。感染症の影響により海外留学を体験させることができなかったため、オンラインでの交流授業を海外の協定校と実施した。交流授業では英語によるコミュニケーションが求められるため、フィリピン人講師による英語指導を事前に行った。授業の評価としては全体的に平均を下回る結果となった。学期を通じて行う授業ではなく、シラバスを上手く活用することができなかったことは反省として、次年度に活かしたい。

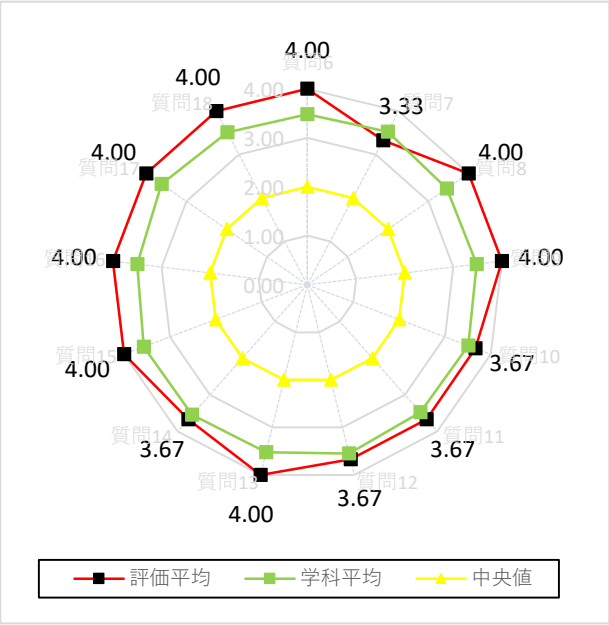
（３）次年度に向けての取り組み

海外留学プログラムの実施が難しい状況が続いており、本科目の開講の可否を検討する必要があるが、到達目標に沿った科目の展開やシラバスの活用により、授業の充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		ホスピタリティ心理学	6名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

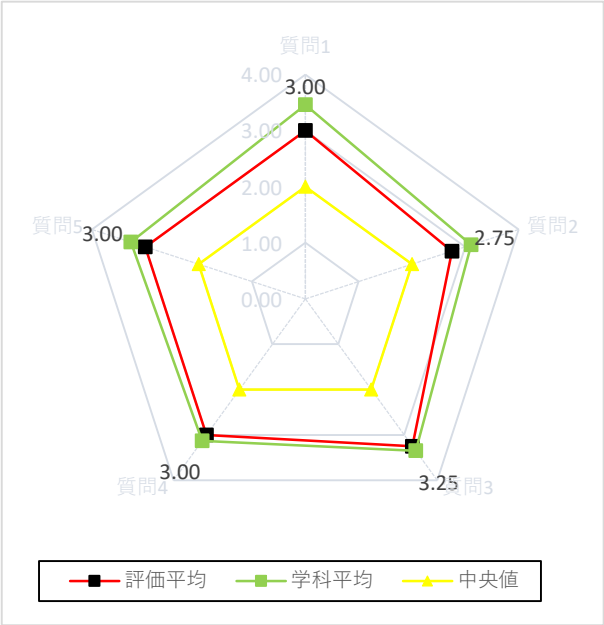
全体的に高い評価で満点も複数項目ある。しかしながら、受講生は6名と少なく、また回答者も半分の3名であり、授業評価としてはそのまま受け止めることが難しい。一方で、授業終了後にはホスピタリティに関心を寄せた意見やそれを活かした就活の話題などもあり、学生の理解度はある程度あったように思われる。

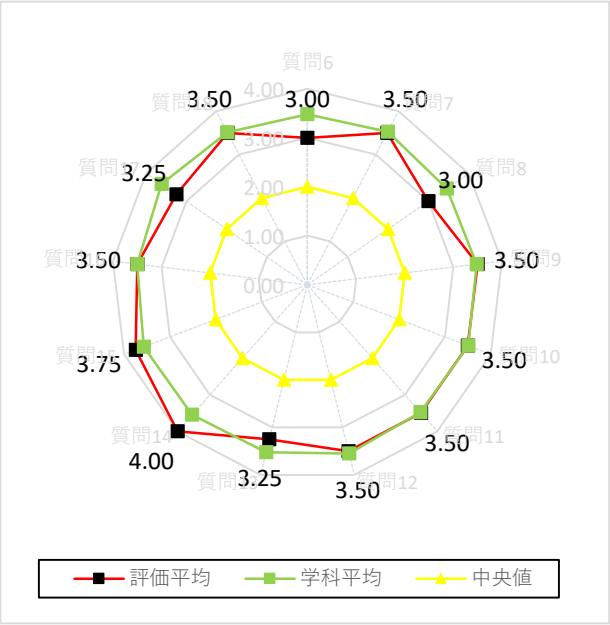
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は受講人数が増え、留学生も増える可能性が高い為、それに向けた資料準備を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会とデータサイエンス	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

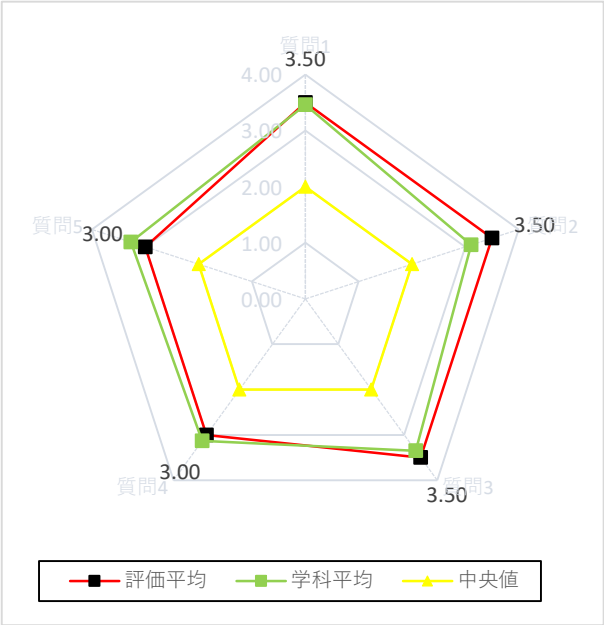
この科目は、今年度初めて開講される科目である。
低評価項目としては、質問６、質問８、質問１３、質問１７があげられる。
質問６、８については、主に講義の計画性に関わる項目であると感じている。今年度から開講されている科目であることから、手探りで講義内容を検討していたこともあり、少し計画性としては乏しいものになったと考えられる。質問１３、１７については、講義への取り組み方と認識している。内容が難しい場面で、講義の進捗が早い箇所があったと考えられる。
高評価としては、質問１４、１５だと考える。この２つについては、学生への接し方についての評価ととらえており、その部分は評価頂いたと考える。

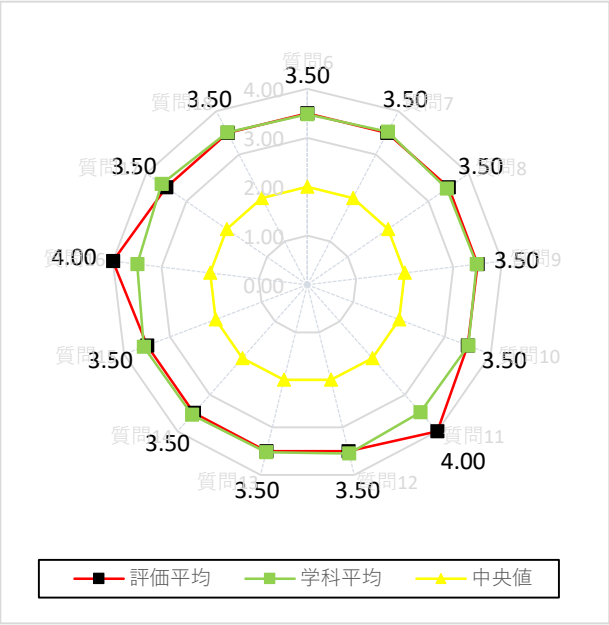
（３）次年度に向けての取り組み

来年度は、２年目となるため、計画的に講義を実施していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会とデータサイエンス演習	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

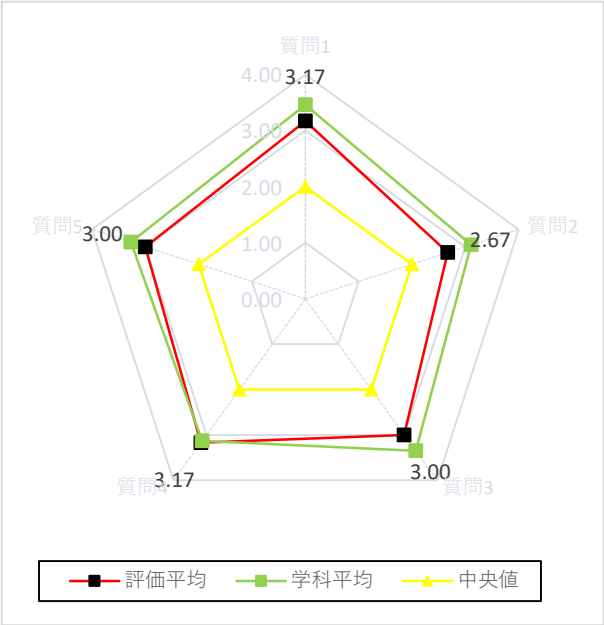
この科目は、今年度、初めて開講される科目である。
高評価としては、質問１１、質問１６であると考える。講義資料や講義方法が評価されており、大変励みになる内容である。
低評価としては、質問１４、質問１５、質問１７が挙げられる。科目の内容が、学生にとって難しいにも関わらず、私が独りよがりな講義を実施してしまった可能性がある。今後の反省としたい。」

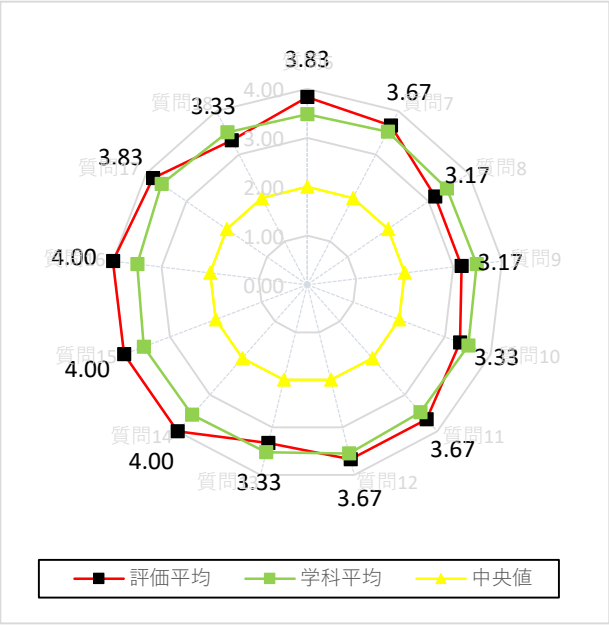
（３）次年度に向けての取り組み

来年度は、２年目となるため、今年度の反省点を活かし、計画的に講義を行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

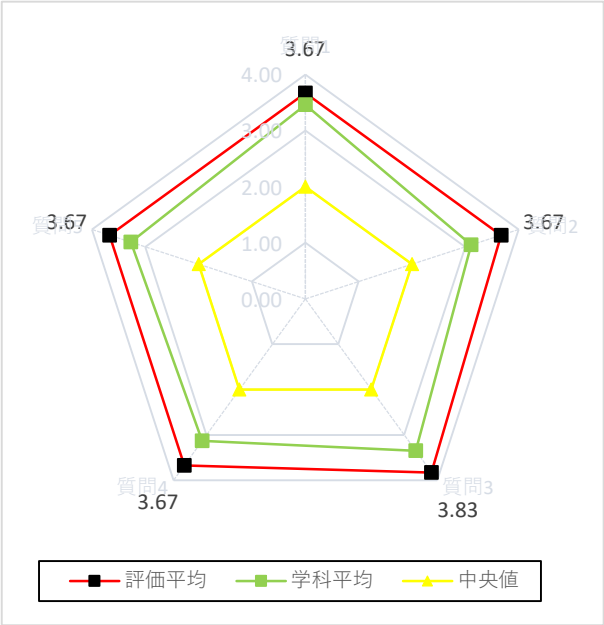
概ね評価からは、学生への対応は平均以上であったが、教材活用等に対して低い結果となっている。授業では、テキストをなぞるような学習をせずに、作成した教材を中心に学習を進めた。学習では、未入国留学生へのオンライン授業（オンデマンドとリアルタイムの双方）の実施により、計画通りとはいかず、また対面受講者とオンライン受講者の混合の場合もあって、学生たちの温度差（学習に対する志向性）を感じるところであった。

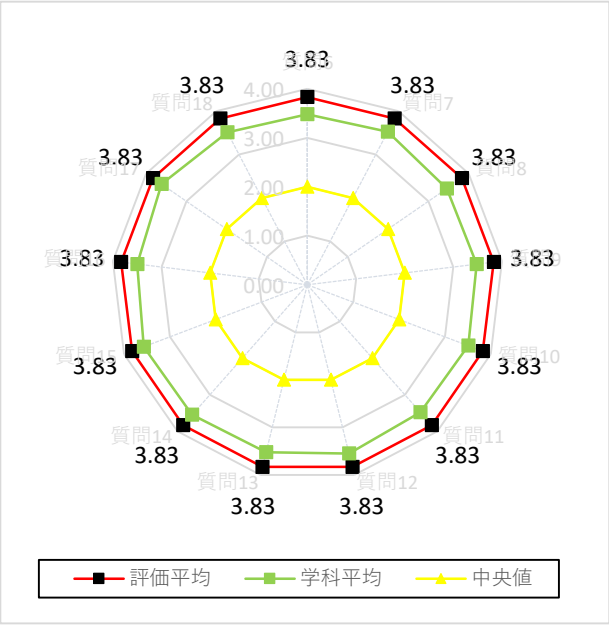
（３）次年度に向けての取り組み

この先も、状況によってはオンライン授業を実施するため、対面受講者とオンライン受講者の双方に配慮した教材づくりを図りたい。また、テキストの活用についても、見直しをしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

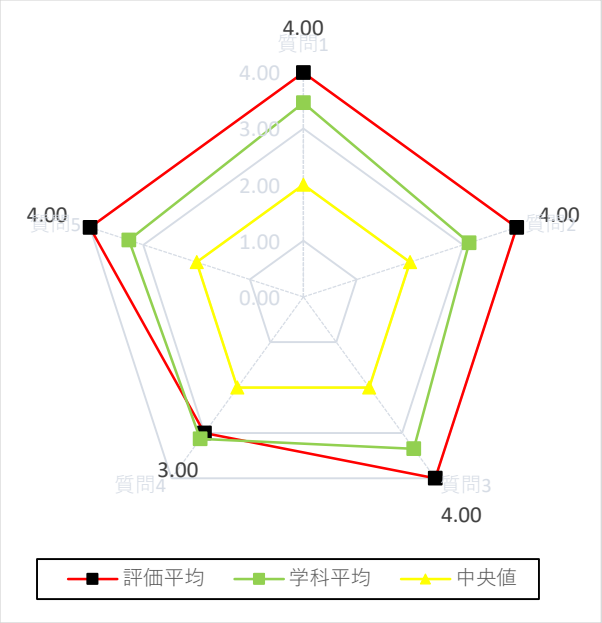
この授業では、テキストに沿って演習を行い、毎回の課題で復習（反復）するようにしている。授業に対しては、概ね効果的な学習ができていることが考えられた。

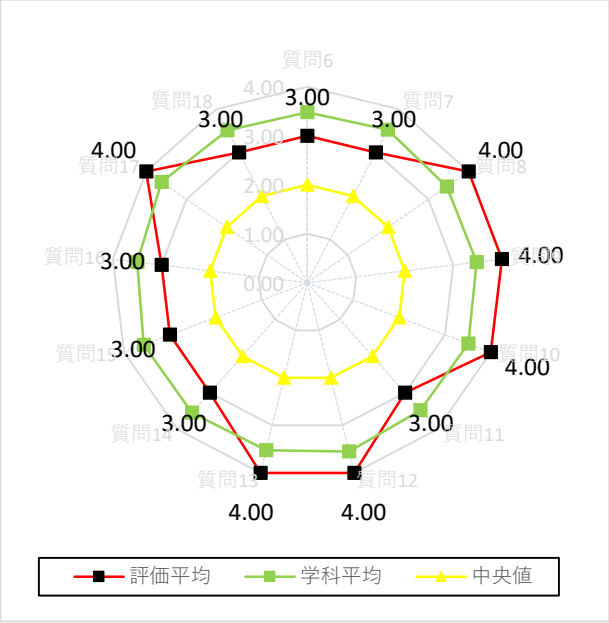
（３）次年度に向けての取り組み

今後、発展的学習を取り入れて、学習内容の高度化を図ってみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		応用プレゼンテーション演習	2名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

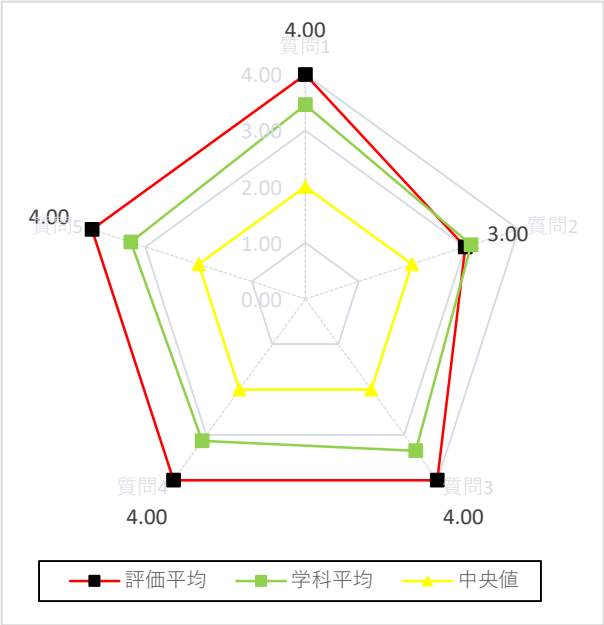
本授業は、プレゼンテーション概論と同演習で修得した知識と技術を基に、実践的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的に学内外のイベント，観光プランなど具体的な企画を各自が行うことで実践力を養っている。前半では、観光プランを作成し、そのプランを学生自身が体験して地域観光の魅力を確認して学びを深める。今回は受講者が2名と少数であり、回答者は1名であった。この中で全体分析は困難であるが、1名の評価について述べると、学生の自己評価は、質問４の理解するための工夫を除きすべて４であり高い評価であった。授業全体の評価もばらつきがあるが、質問8，9，10，12，13，17は評価４で高評価であった。

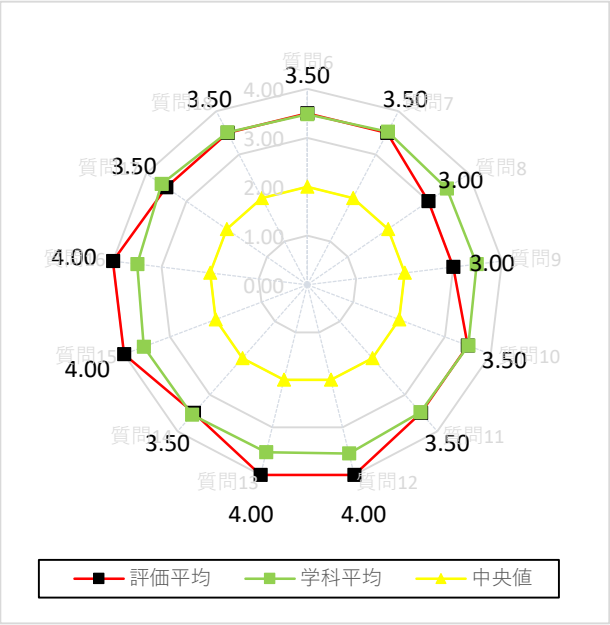
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は受講生を増やし、身近な地域での学外の観光プランや地域観光の活性化について学生自身が関心を持って取り組めるテーマでグループワークやプレゼンテーションの実践を積めるよう検討し、授業の充実を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化共生とSDGｓ	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

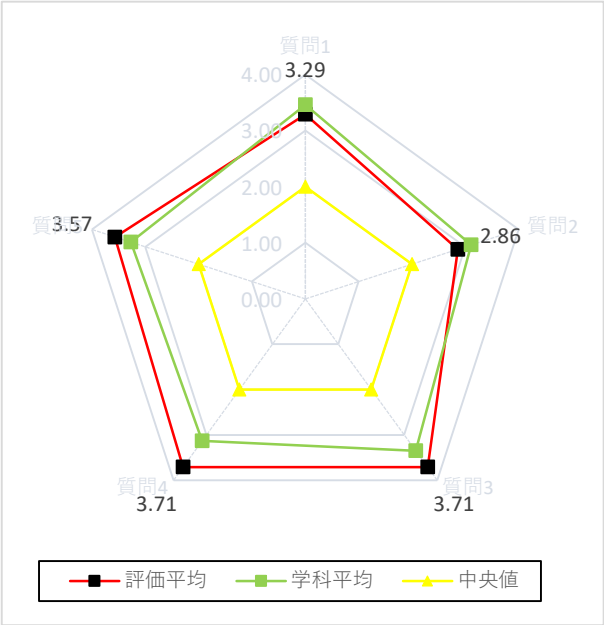
新規科目として導入されたものである。評価からは、教材（配付プリント）と質問への対応の評価が低かった。

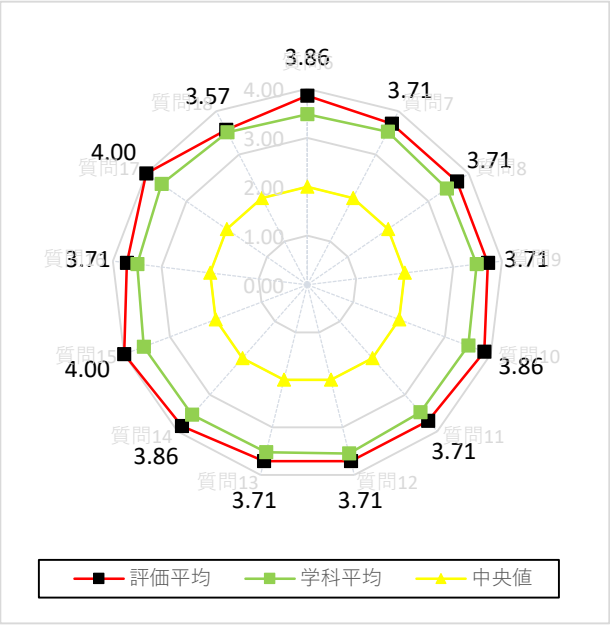
（３）次年度に向けての取り組み

学習内容は、領域が広いため、教材の編集が難しいが、学生の視点にそって教材を編集することに努めたい。質問への対応については、領域が広いこともあって、当該内容を超えた知識と理解が求められることから、質問や討論等での教員の開設やコメントが理解できていないことが十分に考えられる。学習内容については、より丁寧に内容を紐解きながら解説していくように工夫し、自らの意見が言えるように導きたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅠ	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

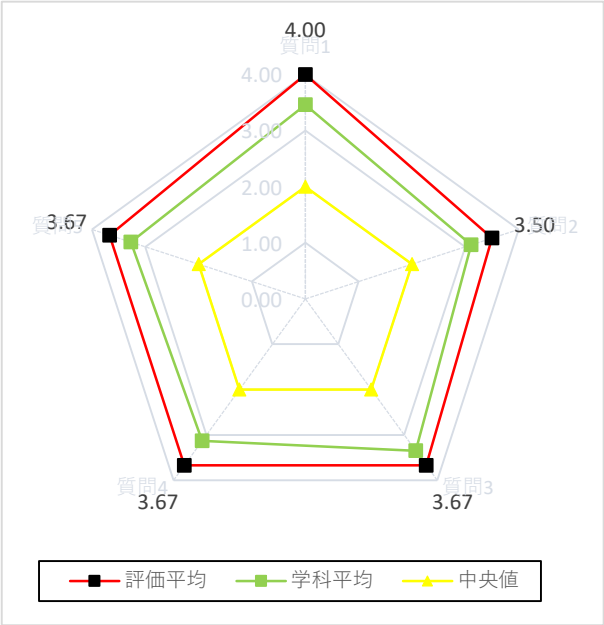
本授業では語学・観光・情報に関連する資格取得を目指すため、それぞれの資格の内容や活用方法等を学び、それぞれのゼミナールで体験的に学習していく。受講生の評価結果は平均を上回る結果となったが、受講生の資格取得を促すような取り組みを維持していきたい。

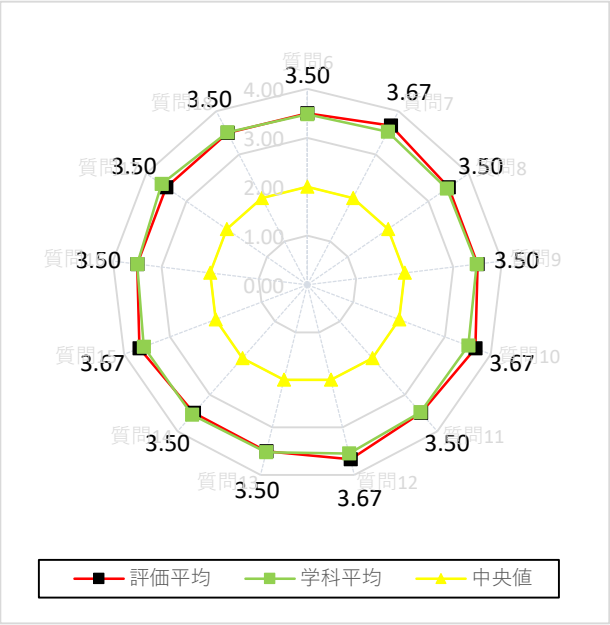
（３）次年度に向けての取り組み

それぞれのゼミナールでの資格試験の受験と合格を目指し、今年度の取り組みを継続する。資格試験に合格した２年生が勉強方法や資格の活用等について１年生に教えるような取り組みにより、受講生に目的意識を持ってもらう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅡ	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

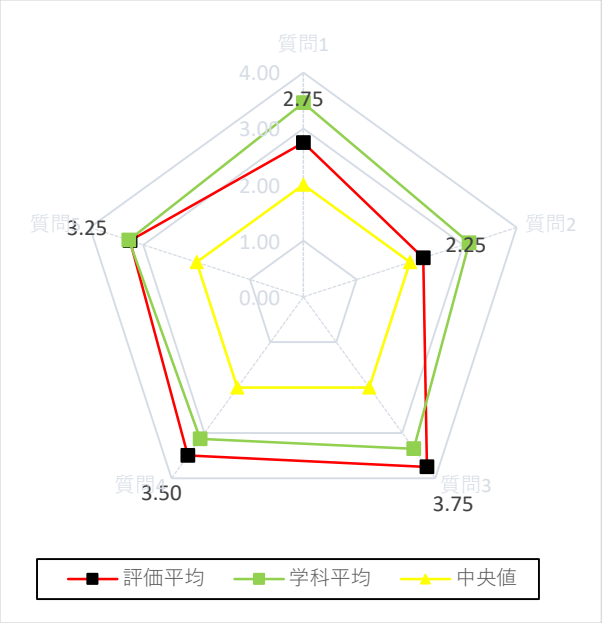
多文化ゼミナールⅡは受講生それぞれが関心のある資格を選択し、資格取得のための勉強を行うため、目的意識を持って取り組むことができる科目となっている。昨年度は資格試験の受験者が増え、好成績を残した学生もいる。資格試験の受験が互いを刺激し、好循環を生むことができた。

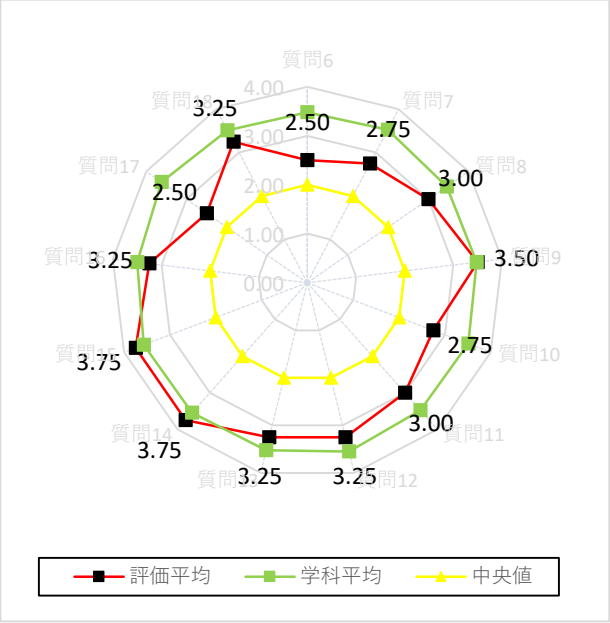
（３）次年度に向けての取り組み

受講生が目指す資格や関心のある分野は毎年変化するが、それぞれのゼミで資格取得を促すことができるよう、継続して支援していきたい。受講生のモチベーションを高めることによって、本授業による学修成果が高まることが期待される。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅢ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

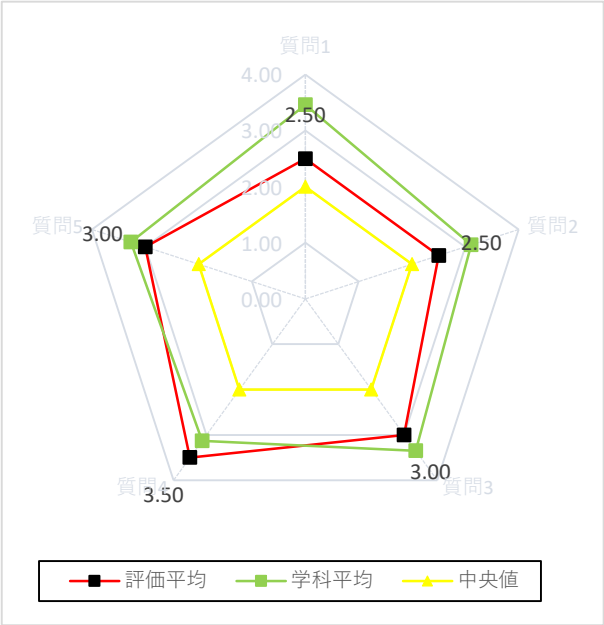
この科目は、語学・観光・情報の３つの分野から、自分が希望する資格を取得するための講義を行う授業である。
また、科目「多文化ゼミナールⅣ」につながる科目である。
ほぼ全ての項目で、平均以下であることがわかる。
特に点数が低い、質問１７の結果から、この科目は学生が学ぶ内容を選択して受講するため、学生のモチベーションは高いと思われるが、教員側の熱意がそれにこたえることが出来なったことが推測される。
その中、質問１４、１５については、比較的高評価を頂いていると考える。この２つの設問は学生の質問への対応に関する設問であり、教員が誠実に対応したことを評価頂いたものと考える。

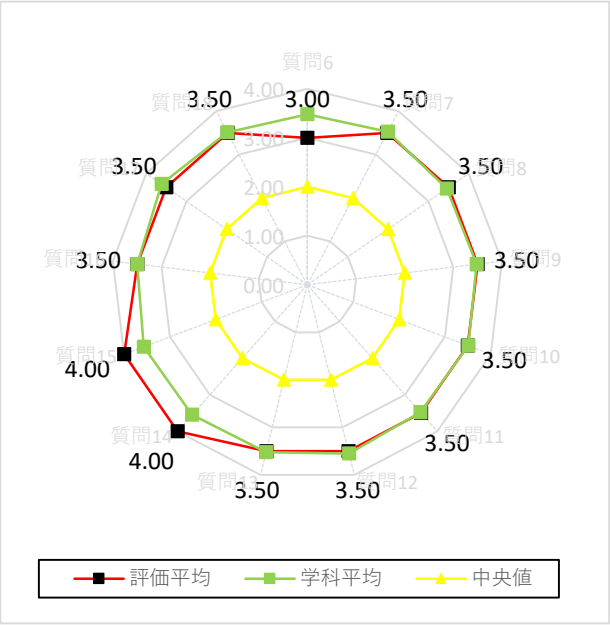
（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けては、主に学生の志向を正確に把握して、具体的な資格取得に向けて指導を行う必要があると考える。
また学生さんが適切なレベルの資格にチャレンジできるように指導を行う必要があると考える。
学生さんは、自分の実力以上の資格に挑戦することもあるため、その結果、資格を取得できない事もある。
そうならないように、適切なレベルの資格に挑戦できるように指導を行い必要があると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		多文化ゼミナールⅣ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

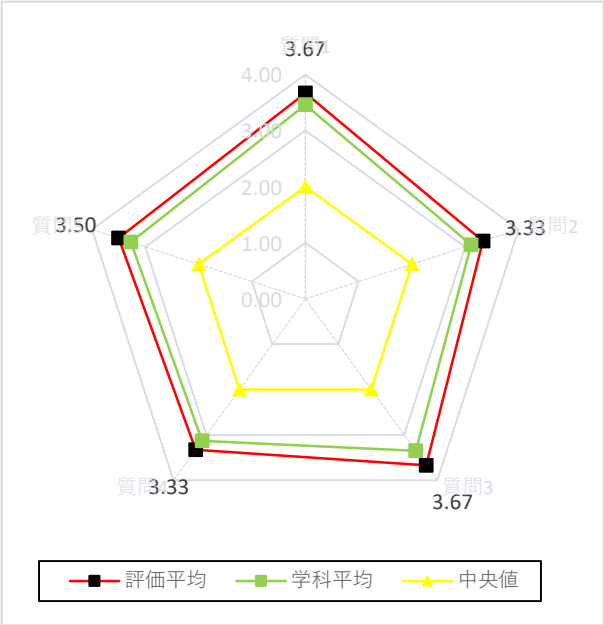
この科目は、語学・観光・情報の分野から、自分で選んだ資格に挑戦するための学習を行う科目である。
前期の「多文化ゼミナールⅢ」と比較して、点数が高評価であることが印象的である。
特に質問１４、１５については、高評価と考える。
ただ、質問１～５については、比較的低評価であることから、学生さん自身は達成感が満たされていないのではないかと感じる。

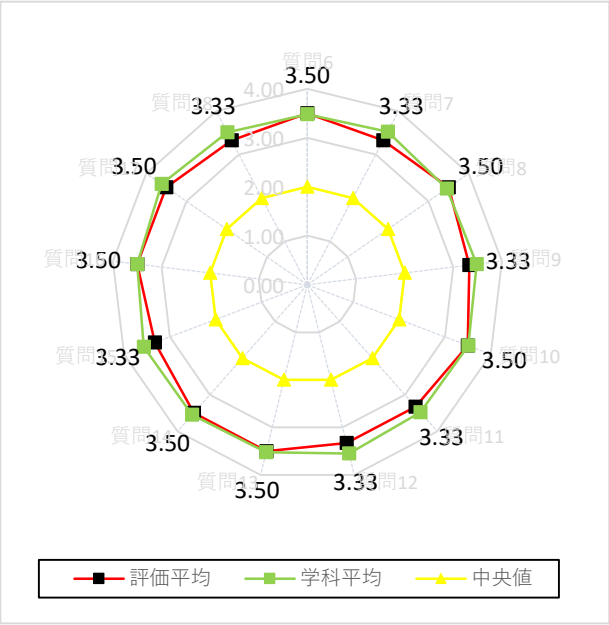
（３）次年度に向けての取り組み

「多文化ゼミナールⅢ」と同様となるが、学生が適切なレベルの資格試験にチャレンジできるように指導する必要があると考える。
特にこの科目は、２年生後期という卒業直線の重要な時期のため、社会人になったときに必要な資格にチャレンジする必要がある。
学生の将来にとって適切となる資格選択も重要となると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		インターンシップⅠ	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

インターンシップⅠの授業では事前学習として社会人基礎力や社会人マナー等を講義し、インターンシップ研修の準備をした。前年度と同様、観光業界での研修となったが、主体的に取り組んでいた。概ね平均的な結果となったが、授業目標を達成するために、更なる工夫や意識付けが必要だと考えられる。

（３）次年度に向けての取り組み

インターンシップの重要性を学生は認識しているが、社会人基礎力や社会でのマナー等について学生は不安視しているため、社会人の体験を聞く機会を設けるなど経験者との授業を組み込み、自信を持ってもらうようにする。

西九州大学短期大学部

令和４年度　学生による授業評価アンケート調査結果報告

令和５年９月１日

IR 室

【質問事項】

１．授業は何回欠席しましたか。
【評価　4：0回、3：1回、2：2～3回、1：4回以上】
２．シラバス（授業計画）を活用しましたか。
【評価　4：0回、3：1回、2：2～3回、1：4回以上】
３・授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
【評価　4：0回、3：1回、2：2～3回、1：4回以上】
４．あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
５．あなた自身の総合自己評価
【評価　4：良い、3：やや良い、2：やや悪い、1：悪い】
６．シラバス（授業計画）について説明がありましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
７．教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
８．授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
９．授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
１０．視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
１１．教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
１２．声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
１３．授業の進む速さは適切でしたか。
【評価　4：十分、3：だいたい十分、2：やや不十分、1：不十分】
１４．学生の質問等に誠実に対応しましたか。
【評価　4：十分、3：だいたい十分、2：やや不十分、1：不十分】
１５．公平に学生に対応しましたか。
【評価　4：十分、3：だいたい十分、2：やや不十分、1：不十分】
１６．教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
【評価　4：十分、3：だいたい十分、2：やや不十分、1：不十分】
１７．教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。
【評価　4：そう思う、3：だいたいそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない】
１８．この授業を総合評価してください。
【評価　4：良い、3：やや良い、2：やや悪い、1：悪い】

【令和 4(2022)年度授業評価アンケート回答結果】

（前期科目）

	開講科目数		履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	4	66	184	1,869	4	64	159	1,729	86.4%	92.5%
幼保	5	54	291	1,596	5	53	260	1,417	89.3%	88.8%
西九短	9	120	475	3,465	9	117	419	3,146	88.2%	90.8%

※通年科目を除く

（後期科目）

	開講科目数		履修者数		回答科目数		回答者数		回答者率	
	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門	共通	専門
地域	14	91	429	1,932	12	87	394	1,814	91.8%	93.9%
幼保	10	61	440	2,037	10	56	283	1,354	64.3%	66.5%
西九短	24	151	869	3,969	22	143	677	3,168	77.9%	79.8%

※通年科目を含む

【学生回答による項目別評価平均値】

（前期科目）

質問	共通教育科目		地域生活支援学科（専門科目）		幼児保育学科（専門科目）	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.56	0.83	3.44	0.87	3.5	0.75
2	3.04	0.95	3.23	0.83	3.27	0.81
3	3.39	0.7	3.37	0.67	3.48	0.62
4	3.17	0.76	3.34	0.7	3.41	0.67
5	3.28	0.63	3.29	0.66	3.42	0.58
6	3.45	0.72	3.56	0.64	3.7	0.53
7	3.56	0.61	3.55	0.62	3.7	0.52
8	3.43	0.69	3.54	0.62	3.65	0.57
9	3.49	0.65	3.54	0.63	3.66	0.55
10	3.56	0.61	3.57	0.61	3.69	0.53
11	3.55	0.58	3.58	0.61	3.7	0.53
12	3.58	0.57	3.59	0.61	3.7	0.54
13	3.57	0.59	3.57	0.61	3.68	0.56
14	3.51	0.68	3.62	0.6	3.72	0.51
15	3.6	0.62	3.64	0.6	3.73	0.53
16	3.47	0.69	3.61	0.61	3.68	0.56
17	3.68	0.53	3.69	0.58	3.74	0.48
18	3.51	0.61	3.58	0.6	3.66	0.52

質問 5　総合自己評価

質問 18 授業の総合評価

（後期科目）

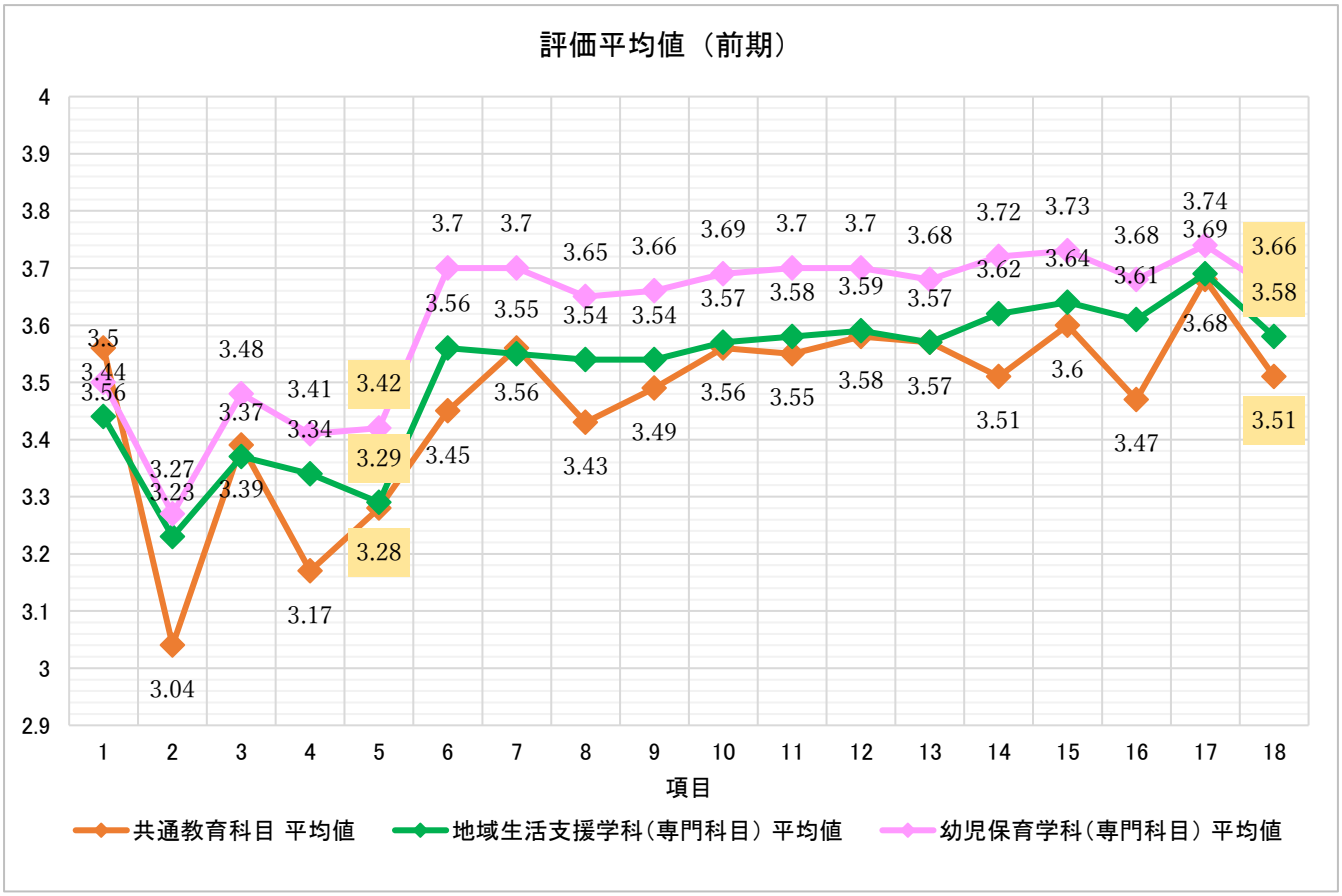
質問	共通教育科目		地域生活支援学科（専門科目）		幼児保育学科（専門科目）	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.46	0.87	3.37	0.89	3.37	0.82
2	3.11	0.87	3.24	0.8	3.27	0.78
3	3.36	0.7	3.35	0.69	3.46	0.61
4	3.13	0.77	3.31	0.68	3.39	0.65
5	3.26	0.62	3.29	0.64	3.41	0.57
6	3.48	0.68	3.52	0.65	3.67	0.53
7	3.53	0.61	3.53	0.62	3.67	0.52
8	3.47	0.66	3.49	0.64	3.62	0.56
9	3.49	0.64	3.5	0.65	3.64	0.55
10	3.51	0.63	3.53	0.64	3.65	0.54
11	3.48	0.65	3.55	0.62	3.66	0.54
12	3.55	0.59	3.55	0.63	3.67	0.53
13	3.53	0.61	3.52	0.64	3.66	0.54
14	3.55	0.63	3.59	0.62	3.69	0.52
15	3.58	0.61	3.59	0.62	3.69	0.53
16	3.51	0.66	3.57	0.63	3.65	0.56
17	3.63	0.58	3.62	0.63	3.71	0.49
18	3.51	0.61	3.52	0.62	3.64	0.52

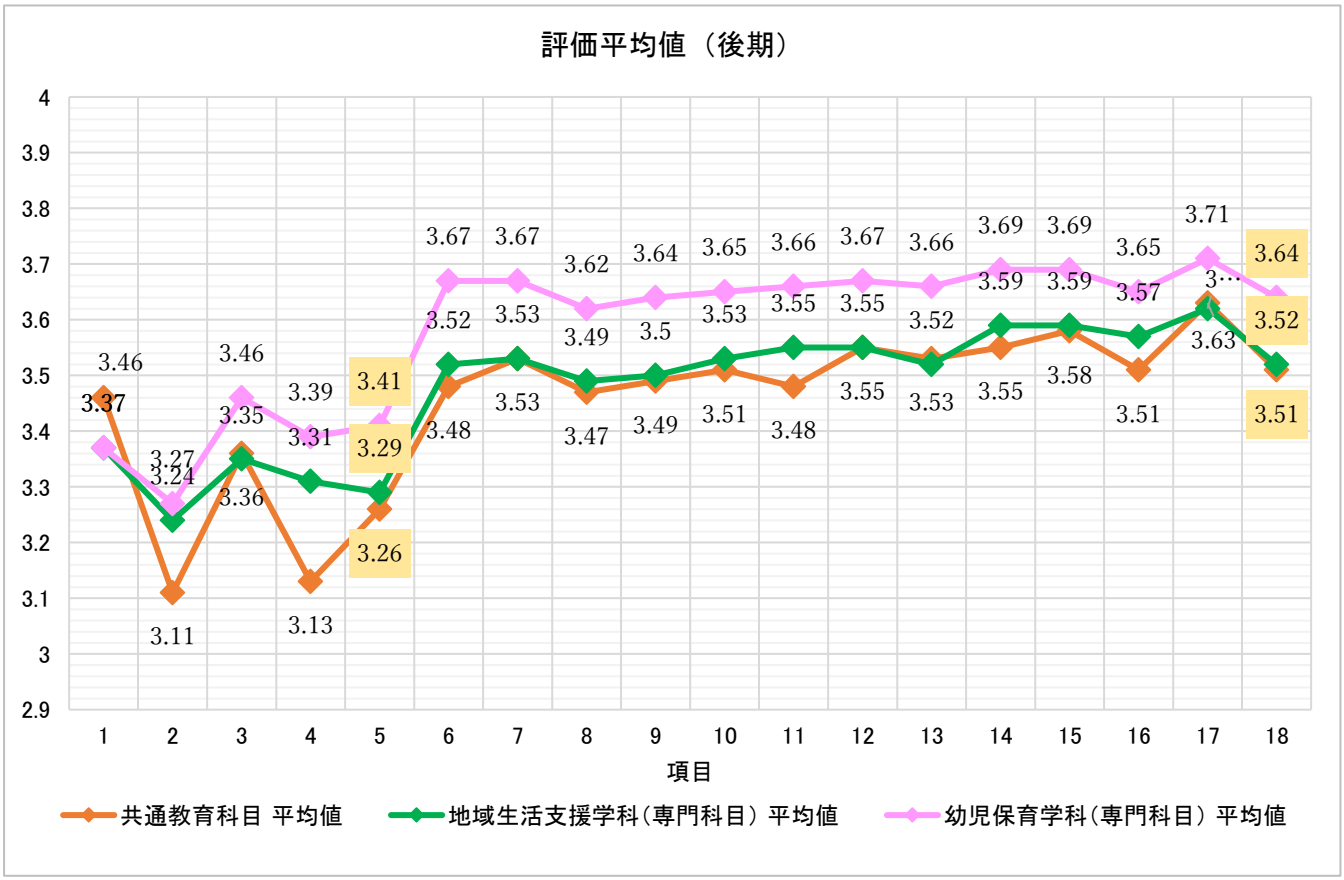
※通年科目を含む

質問 5　総合自己評価

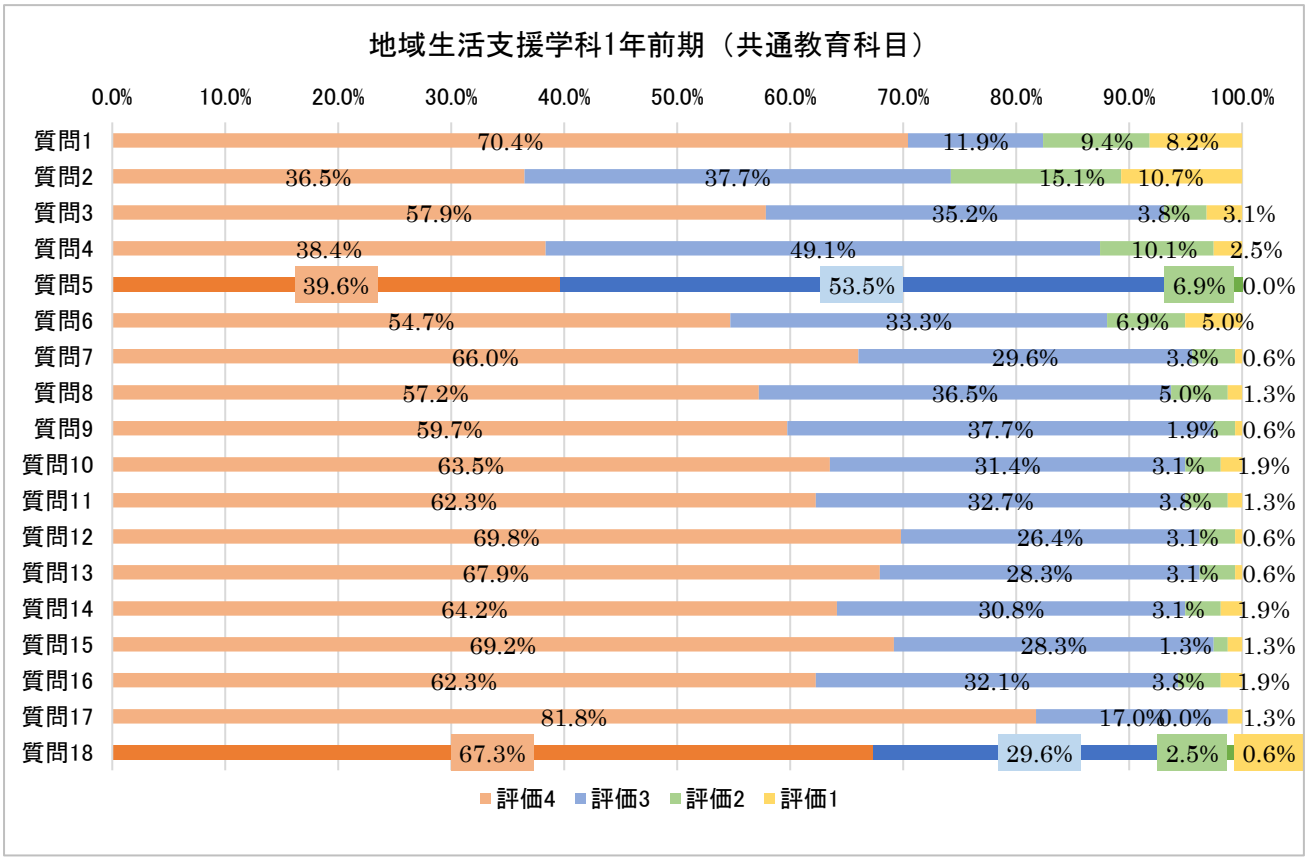
質問 18 授業の総合評価

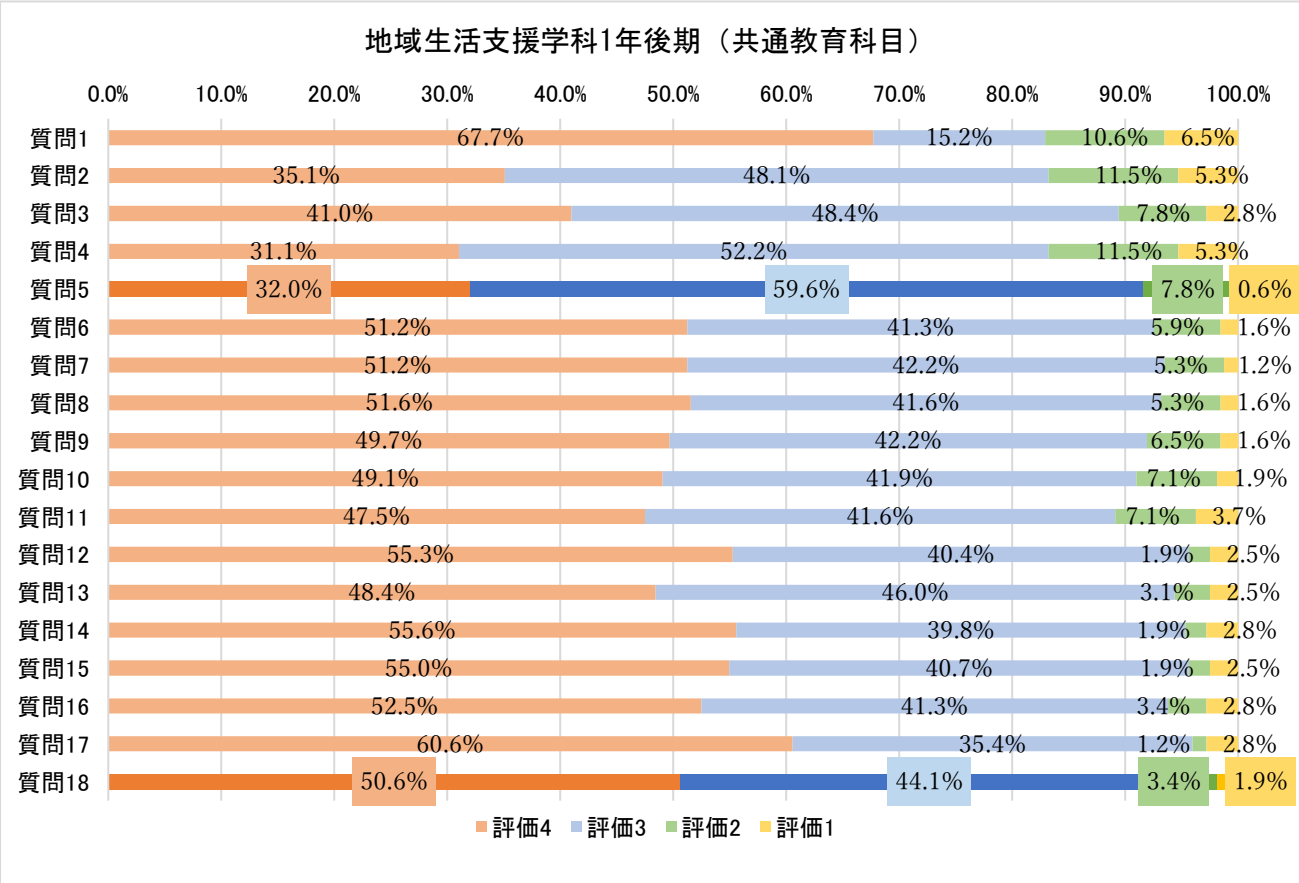
【学生回答による項目別評価平均値】





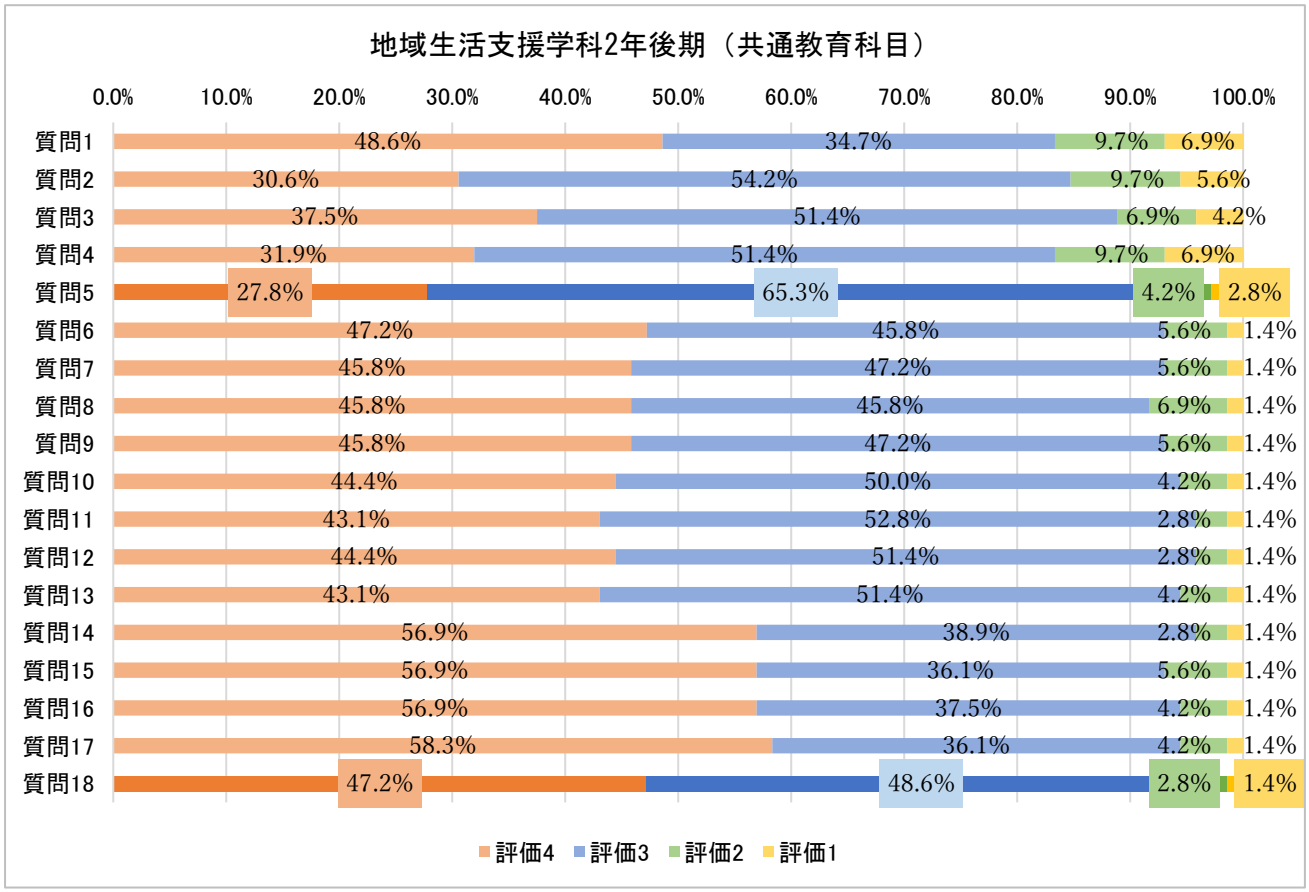
【学生回答による学年別学期ごとの回答割合】

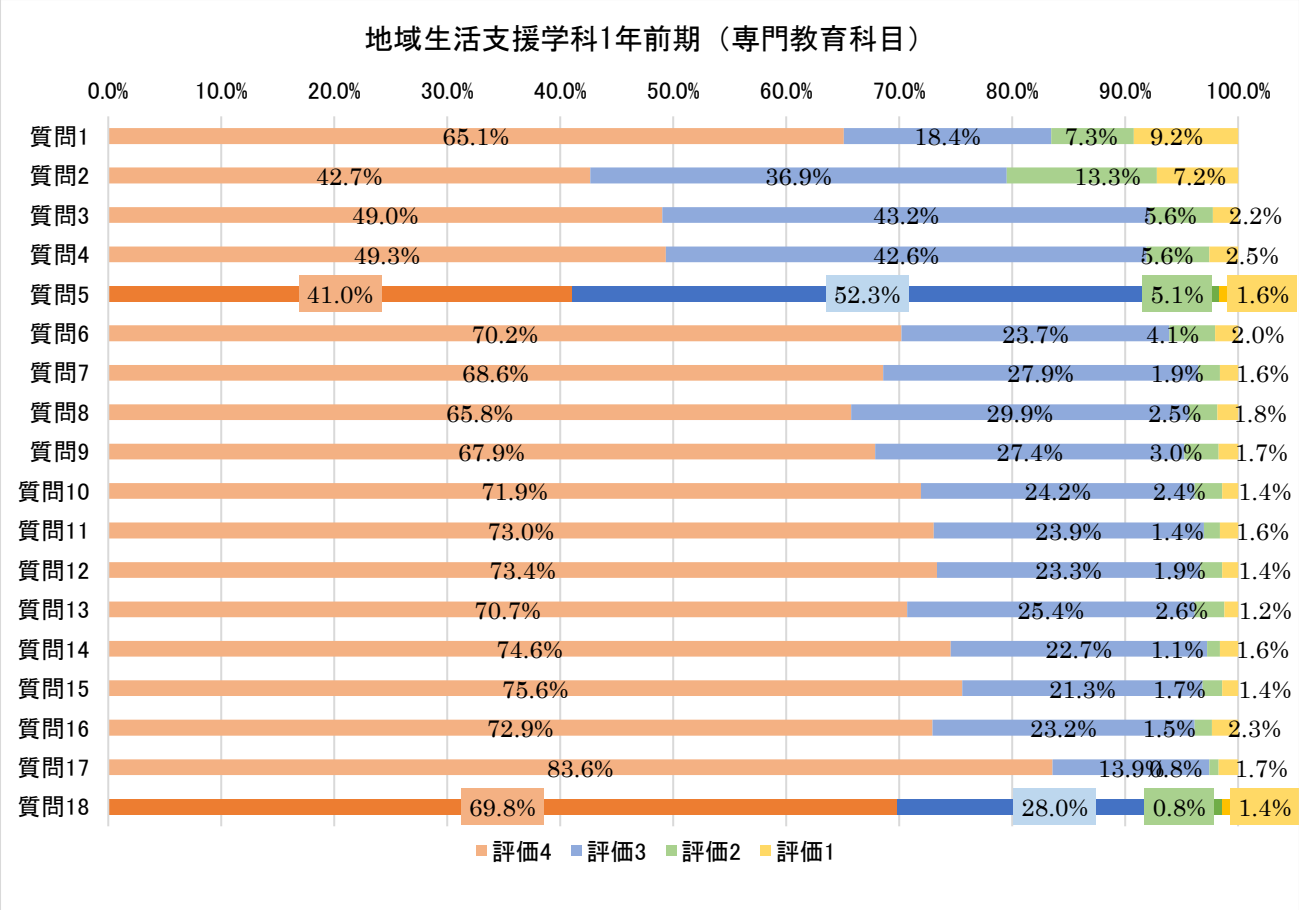


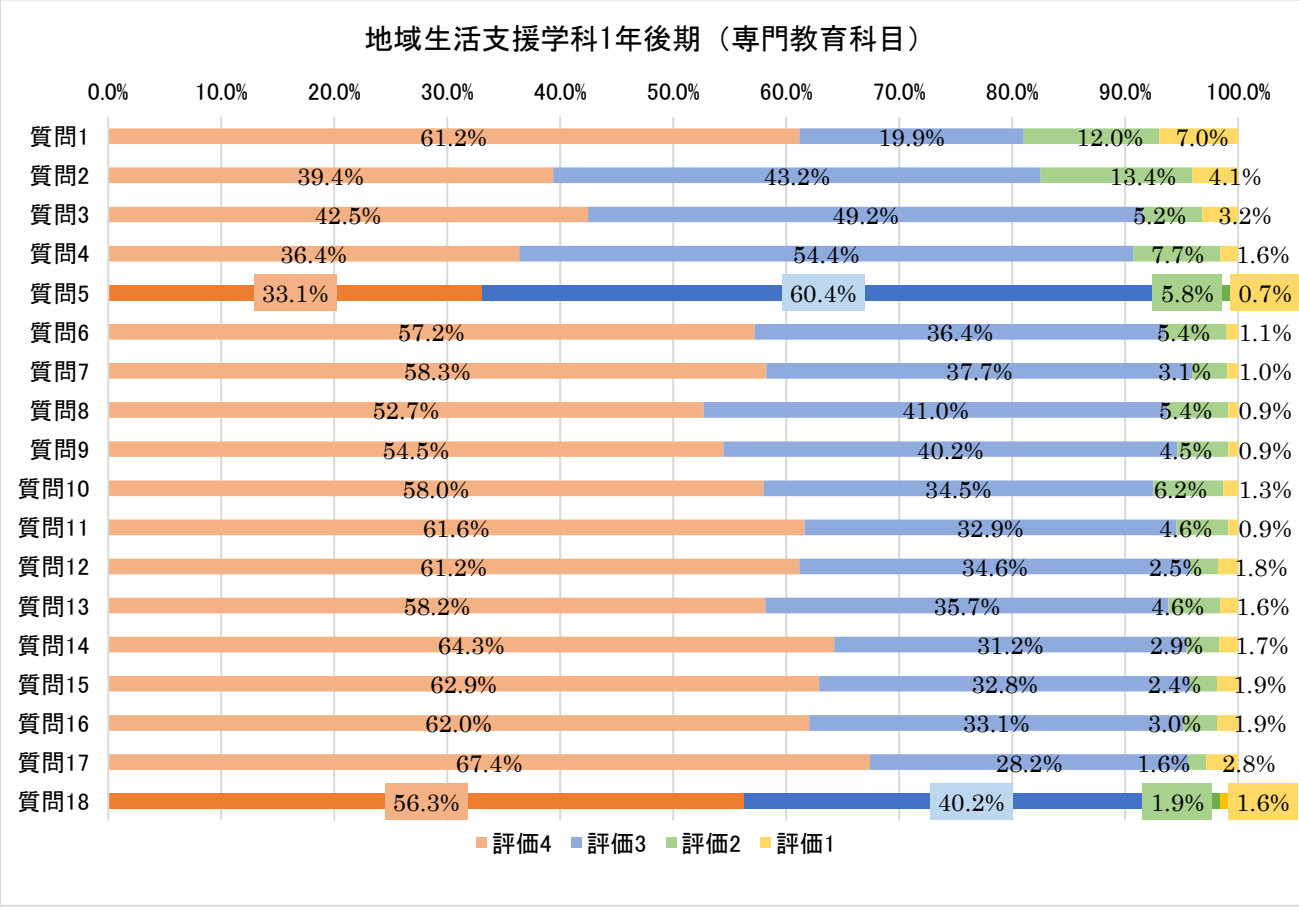


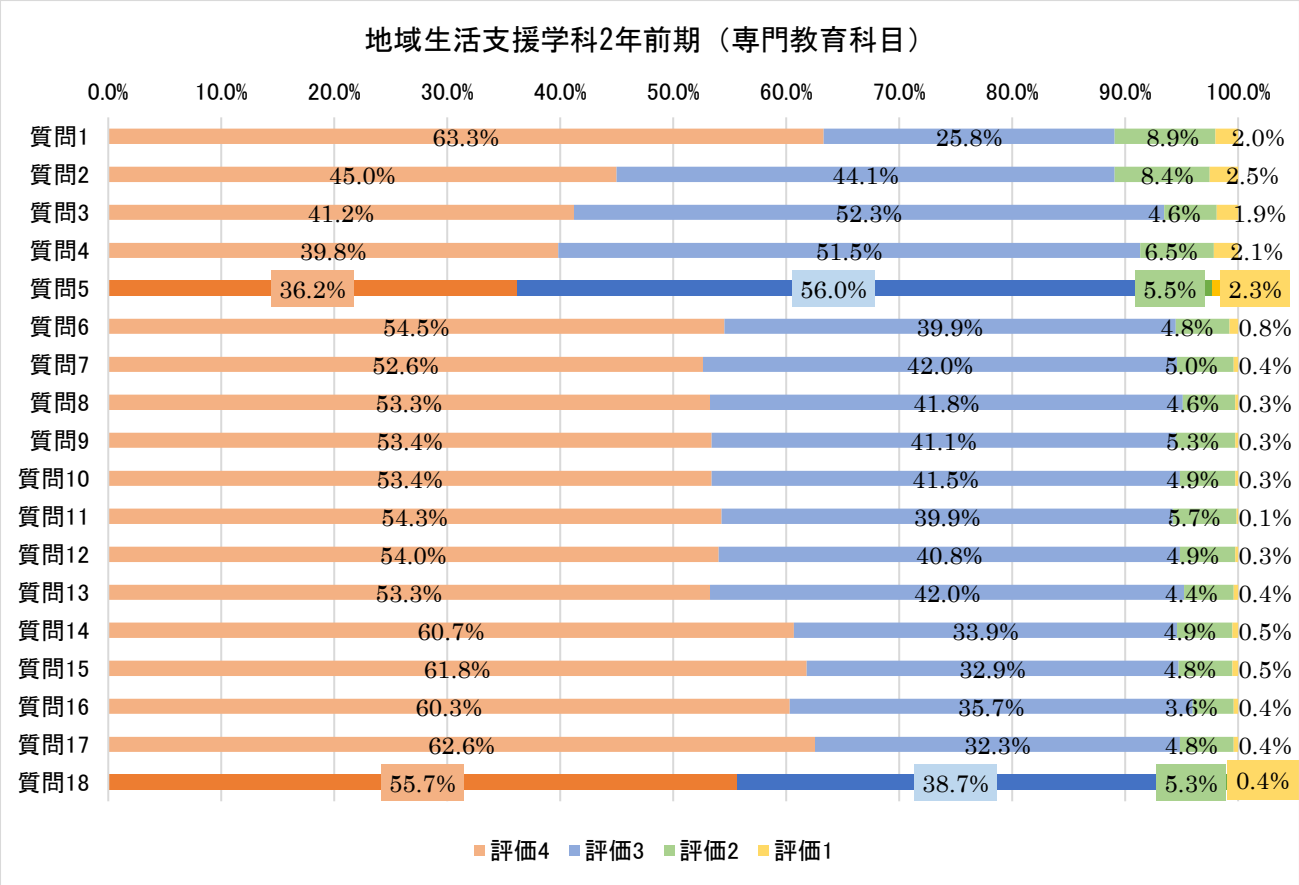
地域生活支援学科 2 年前期（共通教育科目）

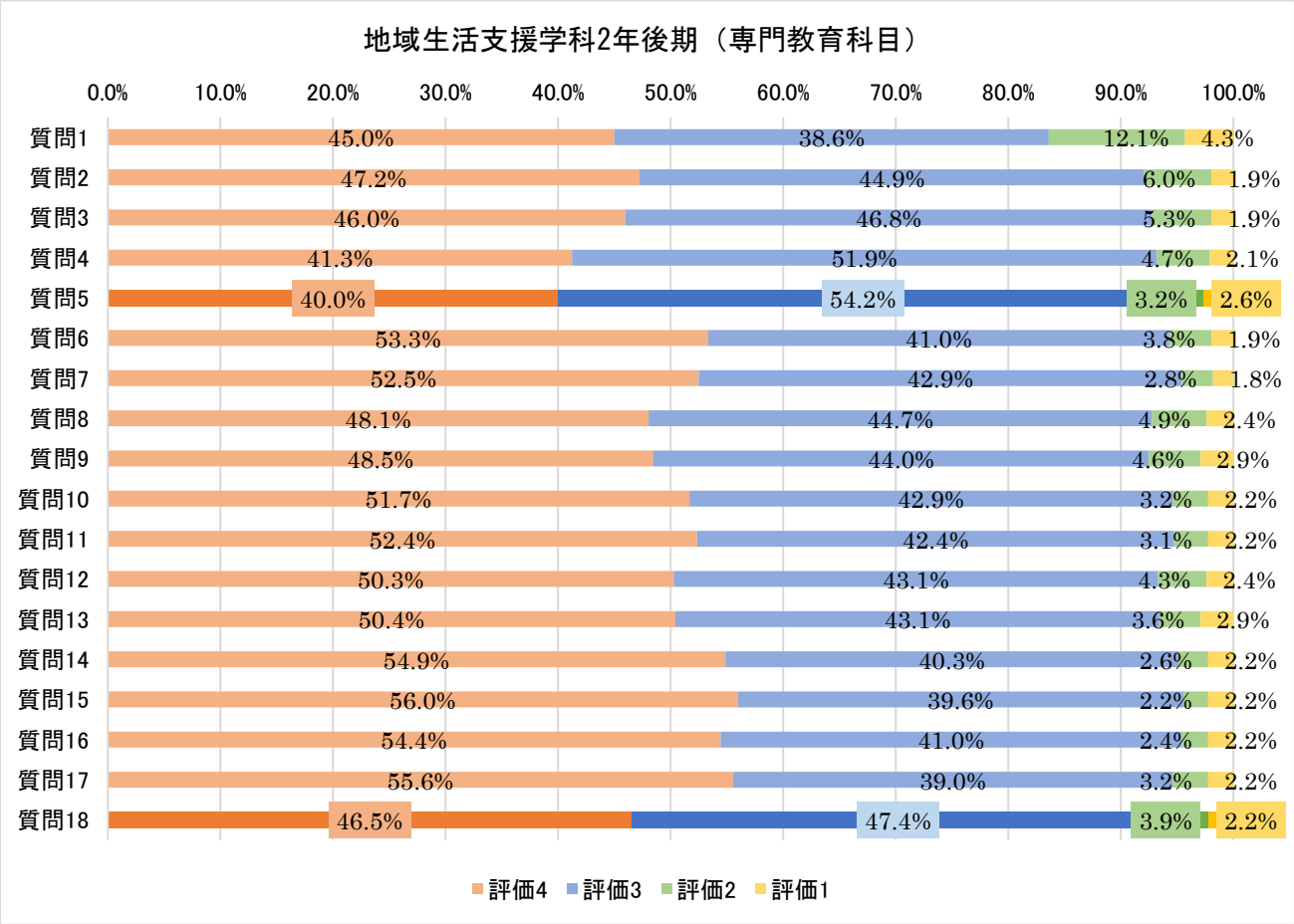
実績なし

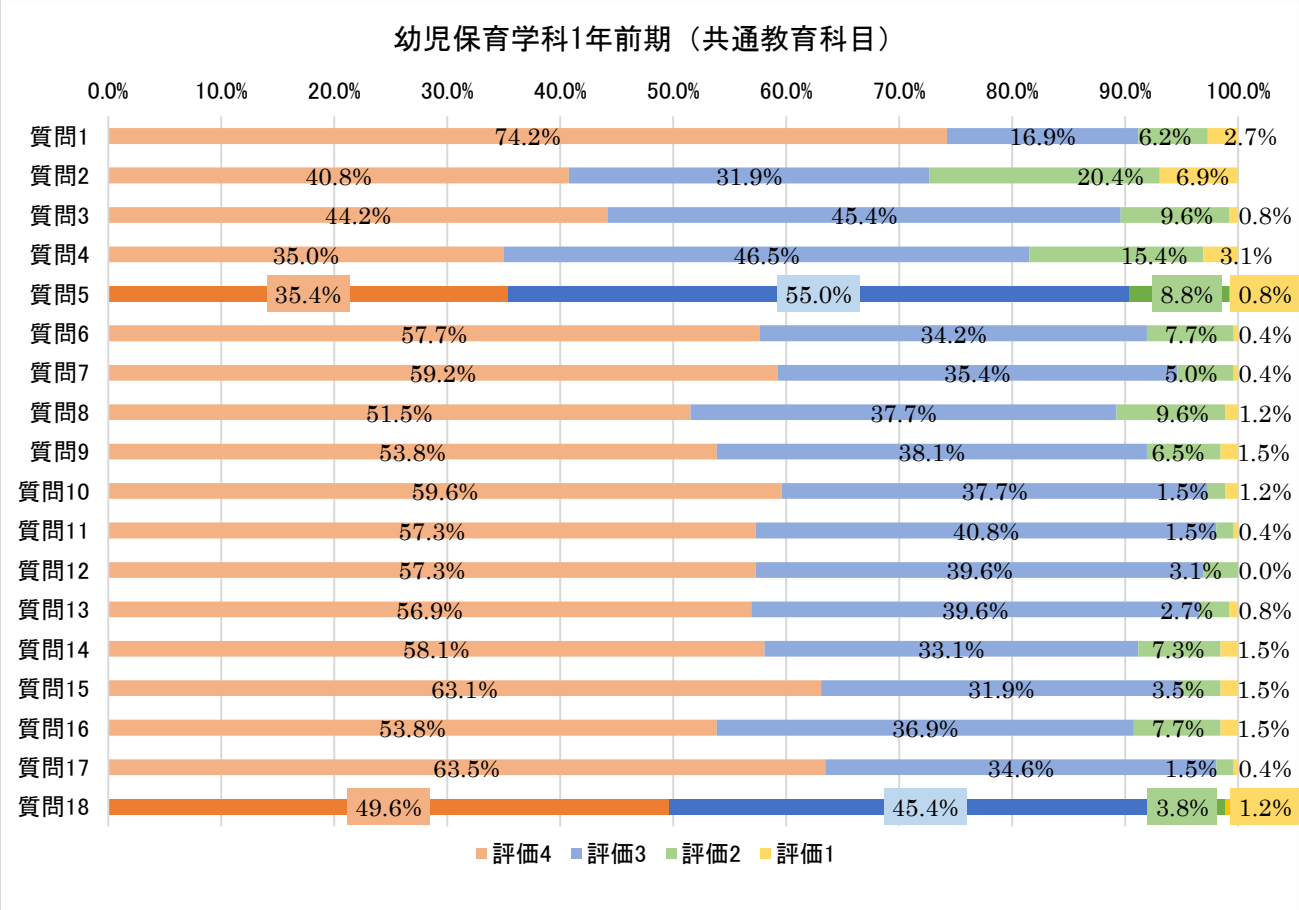


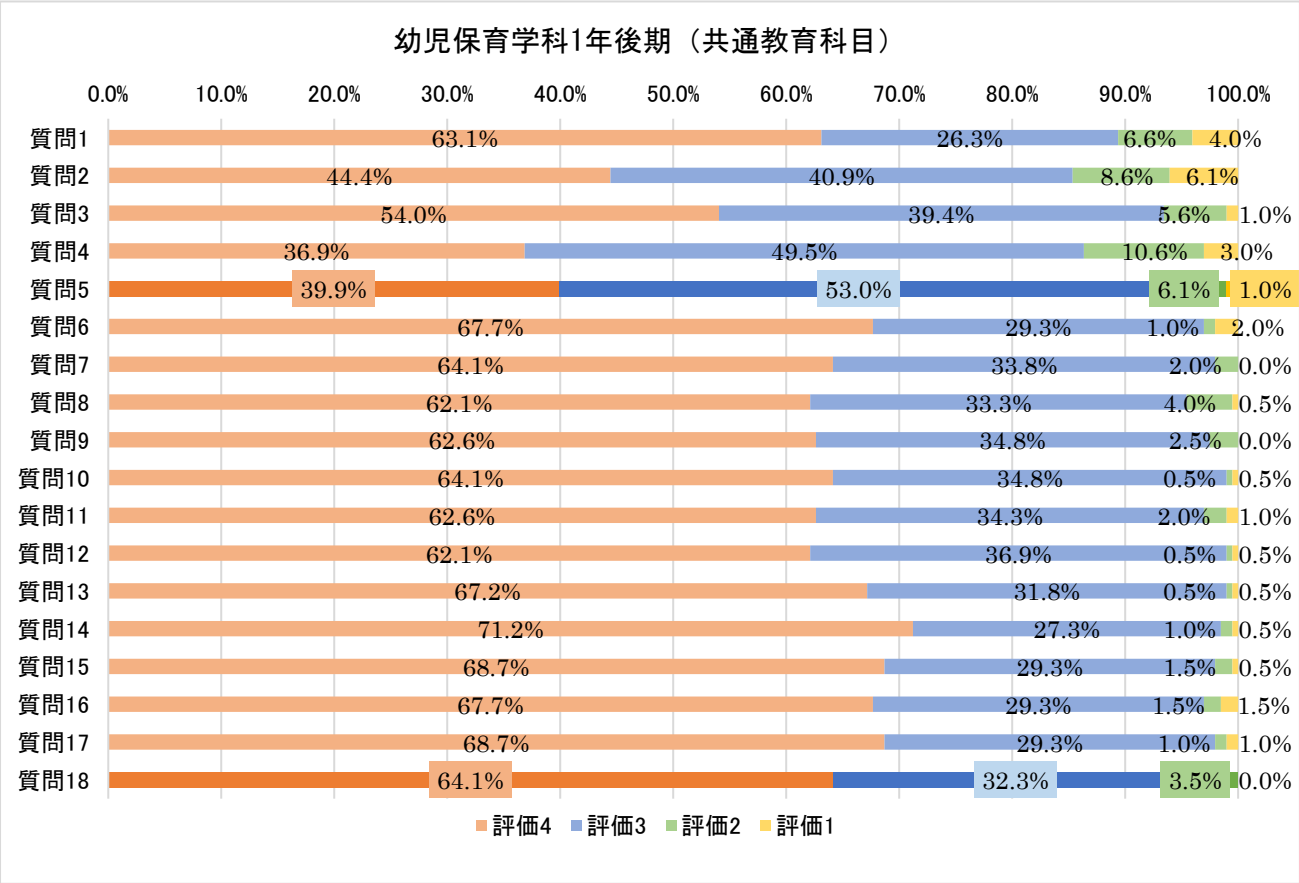

地域生活支援学科1年前期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 65.1% 18.4% 7.3% 9.2%
質問2 42.7% 36.9% 13.3% 7.2%
質問3 49.0% 43.2% 5.6% 2.2%
質問4 49.3% 42.6% 5.6% 2.5%
質問5 41.0% 52.3% 5.1% 1.6%
質問6 70.2% 23.7% 4.1% 2.0%
質問7 68.6% 27.9% 1.9% 1.6%
質問8 65.8% 29.9% 2.5% 1.8%
質問9 67.9% 27.4% 3.0% 1.7%
質問10 71.9% 24.2% 2.4% 1.4%
質問11 73.0% 23.9% 1.4% 1.6%
質問12 73.4% 23.3% 1.9% 1.4%
質問13 70.7% 25.4% 2.6% 1.2%
質問14 74.6% 22.7% 1.1% 1.6%
質問15 75.6% 21.3% 1.7% 1.4%
質問16 72.9% 23.2% 1.5% 2.3%
質問17 83.6% 13.9% 0.8% 1.7%
質問18 69.8% 28.0% 0.8% 1.4%
評価4
評価3
評価2
評価1


地域生活支援学科1年後期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 61.2% 19.9% 12.0% 7.0%
質問2 39.4% 43.2% 13.4% 4.1%
質問3 42.5% 49.2% 5.2% 3.2%
質問4 36.4% 54.4% 7.7% 1.6%
質問5 33.1% 60.4% 5.8% 0.7%
質問6 57.2% 36.4% 5.4% 1.1%
質問7 58.3% 37.7% 3.1% 1.0%
質問8 52.7% 41.0% 5.4% 0.9%
質問9 54.5% 40.2% 4.5% 0.9%
質問10 58.0% 34.5% 6.2% 1.3%
質問11 61.6% 32.9% 4.6% 0.9%
質問12 61.2% 34.6% 2.5% 1.8%
質問13 58.2% 35.7% 4.6% 1.6%
質問14 64.3% 31.2% 2.9% 1.7%
質問15 62.9% 32.8% 2.4% 1.9%
質問16 62.0% 33.1% 3.0% 1.9%
質問17 67.4% 28.2% 1.6% 2.8%
質問18 56.3% 40.2% 1.9% 1.6%
評価4
評価3
評価2
評価1


地域生活支援学科2年前期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 63.3% 25.8% 8.9% 2.0%
質問2 45.0% 44.1% 8.4% 2.5%
質問3 41.2% 52.3% 4.6% 1.9%
質問4 39.8% 51.5% 6.5% 2.1%
質問5 36.2% 56.0% 5.5% 2.3%
質問6 54.5% 39.9% 4.8% 0.8%
質問7 52.6% 42.0% 5.0% 0.4%
質問8 53.3% 41.8% 4.6% 0.3%
質問9 53.4% 41.1% 5.3% 0.3%
質問10 53.4% 41.5% 4.9% 0.3%
質問11 54.3% 39.9% 5.7% 0.1%
質問12 54.0% 40.8% 4.9% 0.3%
質問13 53.3% 42.0% 4.4% 0.4%
質問14 60.7% 33.9% 4.9% 0.5%
質問15 61.8% 32.9% 4.8% 0.5%
質問16 60.3% 35.7% 3.6% 0.4%
質問17 62.6% 32.3% 4.8% 0.4%
質問18 55.7% 38.7% 5.3% 0.4%
評価4
評価3
評価2
評価1

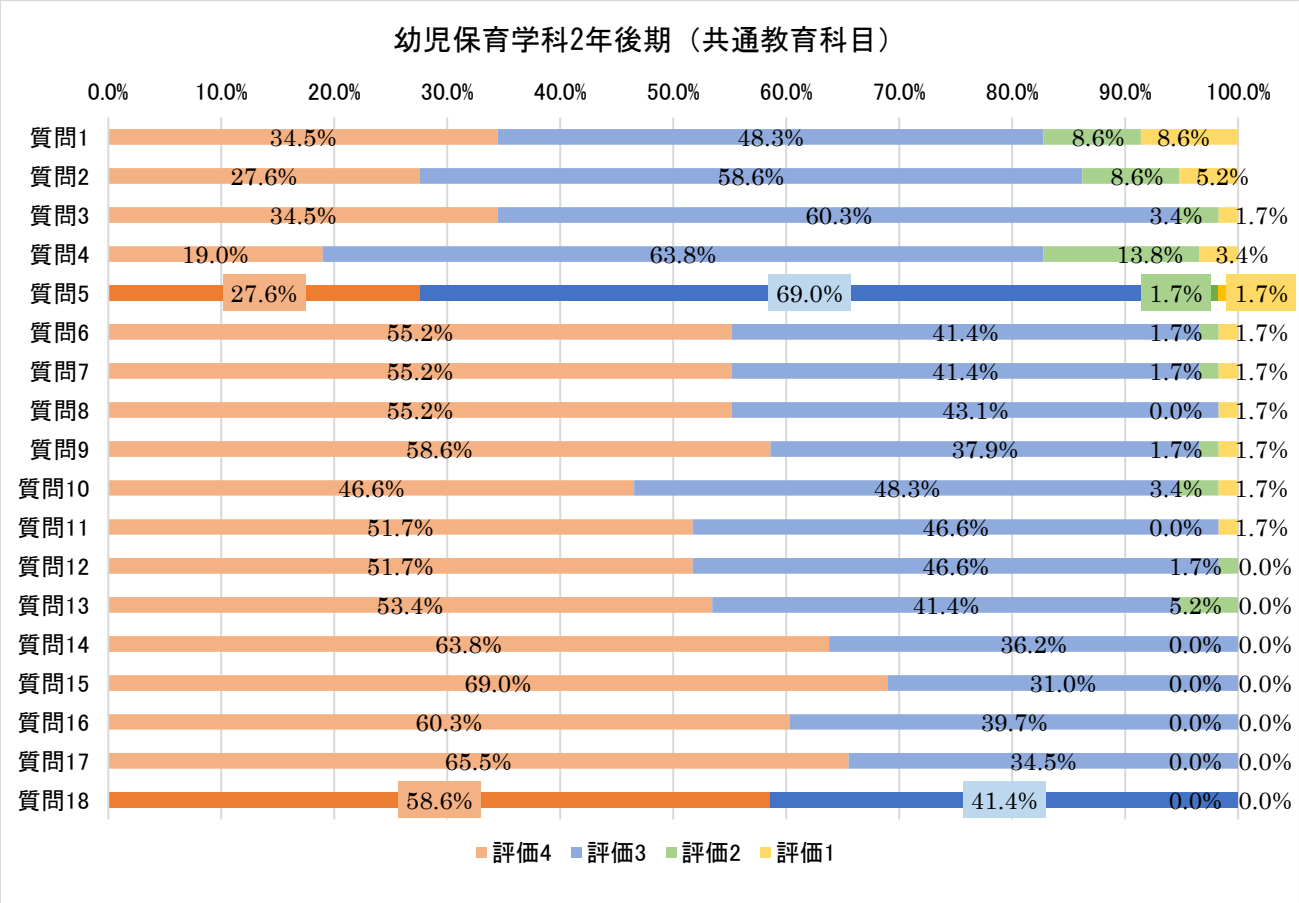

地域生活支援学科2年後期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 45.0% 38.6% 12.1% 4.3%
質問2 47.2% 44.9% 6.0% 1.9%
質問3 46.0% 46.8% 5.3% 1.9%
質問4 41.3% 51.9% 4.7% 2.1%
質問5 40.0% 54.2% 3.2% 2.6%
質問6 53.3% 41.0% 3.8% 1.9%
質問7 52.5% 42.9% 2.8% 1.8%
質問8 48.1% 44.7% 4.9% 2.4%
質問9 48.5% 44.0% 4.6% 2.9%
質問10 51.7% 42.9% 3.2% 2.2%
質問11 52.4% 42.4% 3.1% 2.2%
質問12 50.3% 43.1% 4.3% 2.4%
質問13 50.4% 43.1% 3.6% 2.9%
質問14 54.9% 40.3% 2.6% 2.2%
質問15 56.0% 39.6% 2.2% 2.2%
質問16 54.4% 41.0% 2.4% 2.2%
質問17 55.6% 39.0% 3.2% 2.2%
質問18 46.5% 47.4% 3.9% 2.2%
評価4
評価3
評価2
評価1

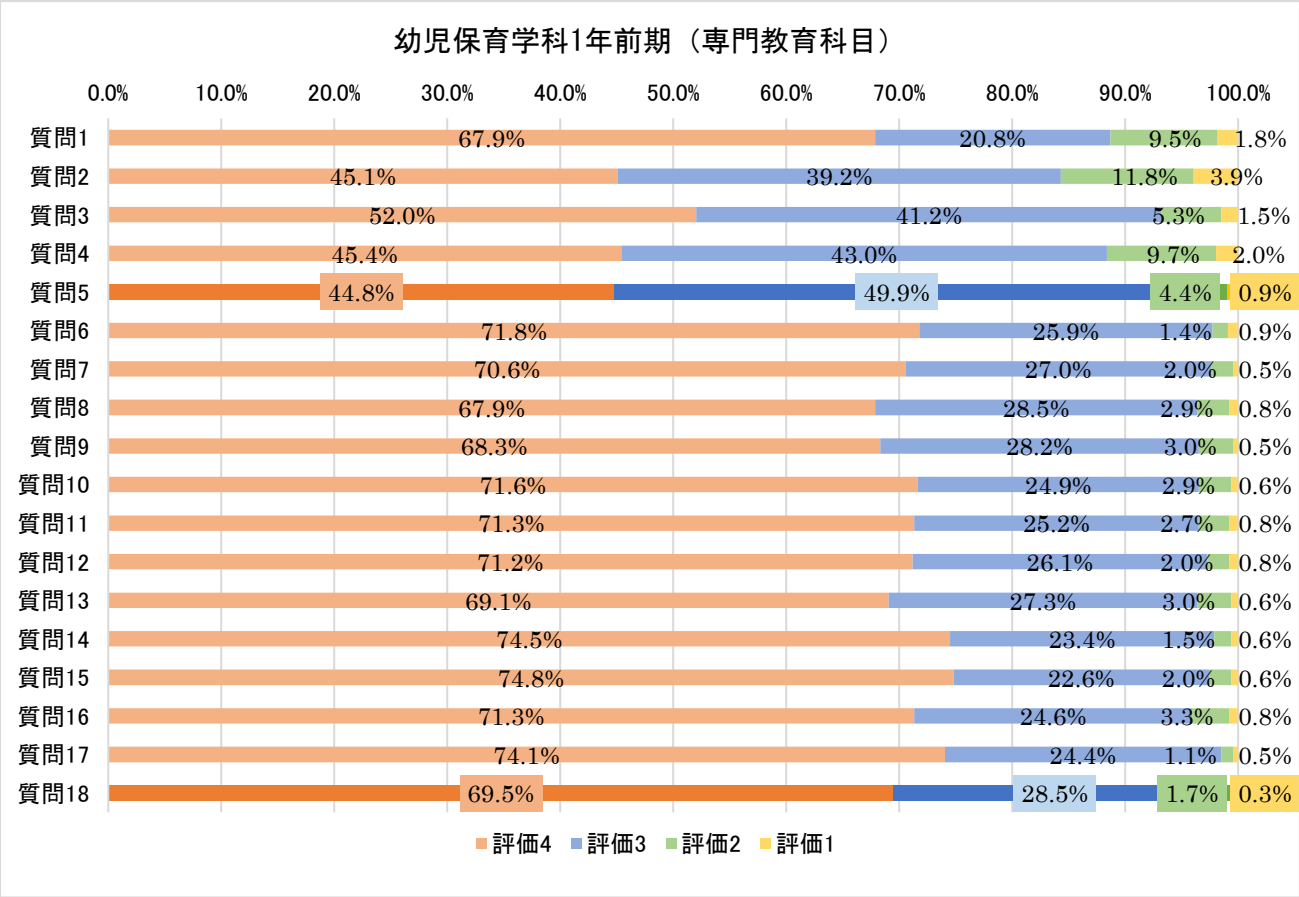

幼児保育学科1年前期（共通教育科目）
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%
質問1 74.2% 16.9% 6.2% 2.7%
質問2 40.8% 31.9% 20.4% 6.9%
質問3 44.2% 45.4% 9.6% 0.8%
質問4 35.0% 46.5% 15.4% 3.1%
質問5 35.4% 55.0% 8.8% 0.8%
質問6 57.7% 34.2% 7.7% 0.4%
質問7 59.2% 35.4% 5.0% 0.4%
質問8 51.5% 37.7% 9.6% 1.2%
質問9 53.8% 38.1% 6.5% 1.5%
質問10 59.6% 37.7% 1.5% 1.2%
質問11 57.3% 40.8% 1.5% 0.4%
質問12 57.3% 39.6% 3.1% 0.0%
質問13 56.9% 39.6% 2.7% 0.8%
質問14 58.1% 33.1% 7.3% 1.5%
質問15 63.1% 31.9% 3.5% 1.5%
質問16 53.8% 36.9% 7.7% 1.5%
質問17 63.5% 34.6% 1.5% 0.4%
質問18 49.6% 45.4% 3.8% 1.2%
評価4 評価3 評価2 評価1

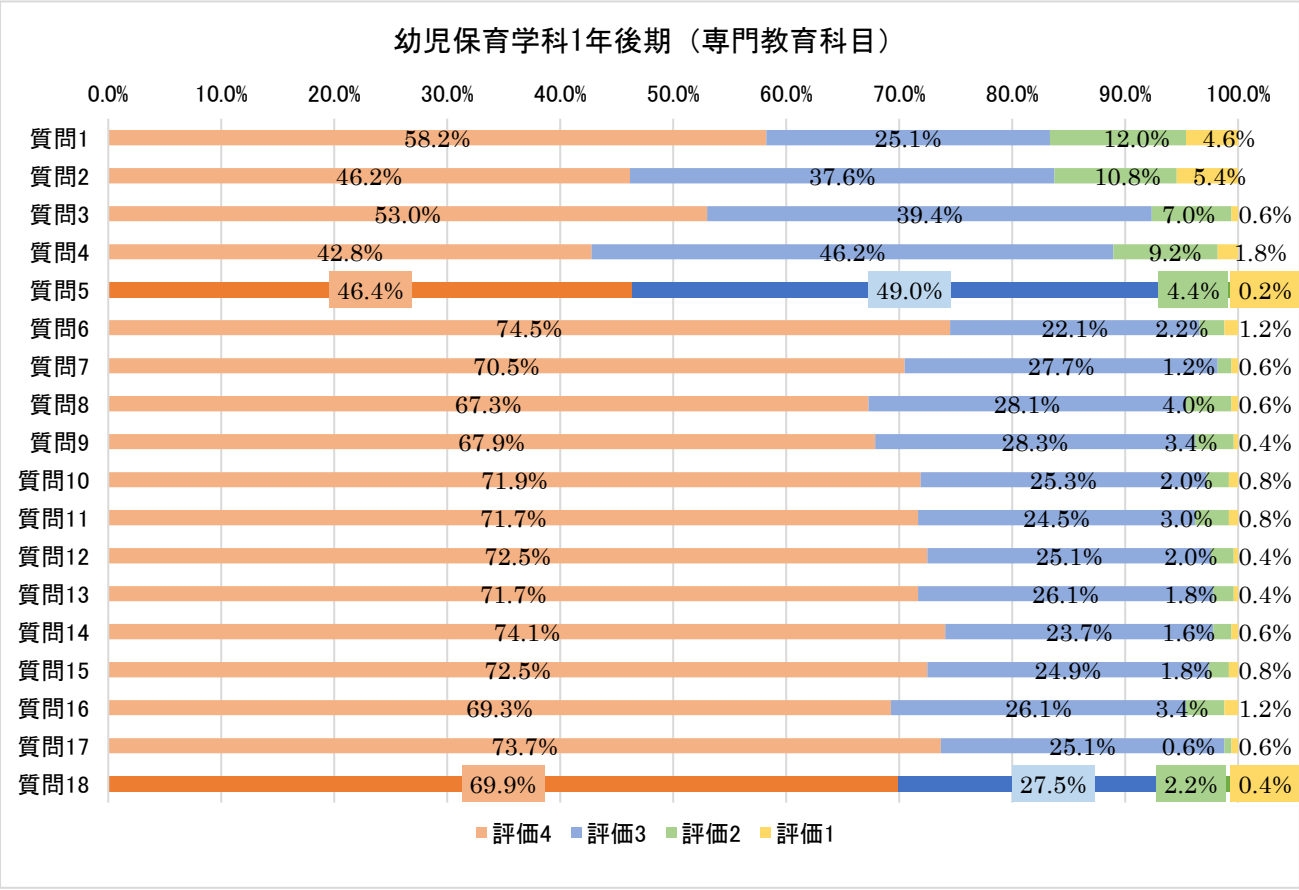

幼児保育学科1年後期（共通教育科目）
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%
質問1 63.1% 26.3% 6.6% 4.0%
質問2 44.4% 40.9% 8.6% 6.1%
質問3 54.0% 39.4% 5.6% 1.0%
質問4 36.9% 49.5% 10.6% 3.0%
質問5 39.9% 53.0% 6.1% 1.0%
質問6 67.7% 29.3% 1.0% 2.0%
質問7 64.1% 33.8% 2.0% 0.0%
質問8 62.1% 33.3% 4.0% 0.5%
質問9 62.6% 34.8% 2.5% 0.0%
質問10 64.1% 34.8% 0.5% 0.5%
質問11 62.6% 34.3% 2.0% 1.0%
質問12 62.1% 36.9% 0.5% 0.5%
質問13 67.2% 31.8% 0.5% 0.5%
質問14 71.2% 27.3% 1.0% 0.5%
質問15 68.7% 29.3% 1.5% 0.5%
質問16 67.7% 29.3% 1.5% 1.5%
質問17 68.7% 29.3% 1.0% 1.0%
質問18 64.1% 32.3% 3.5% 0.0%
評価4 評価3 評価2 評価1

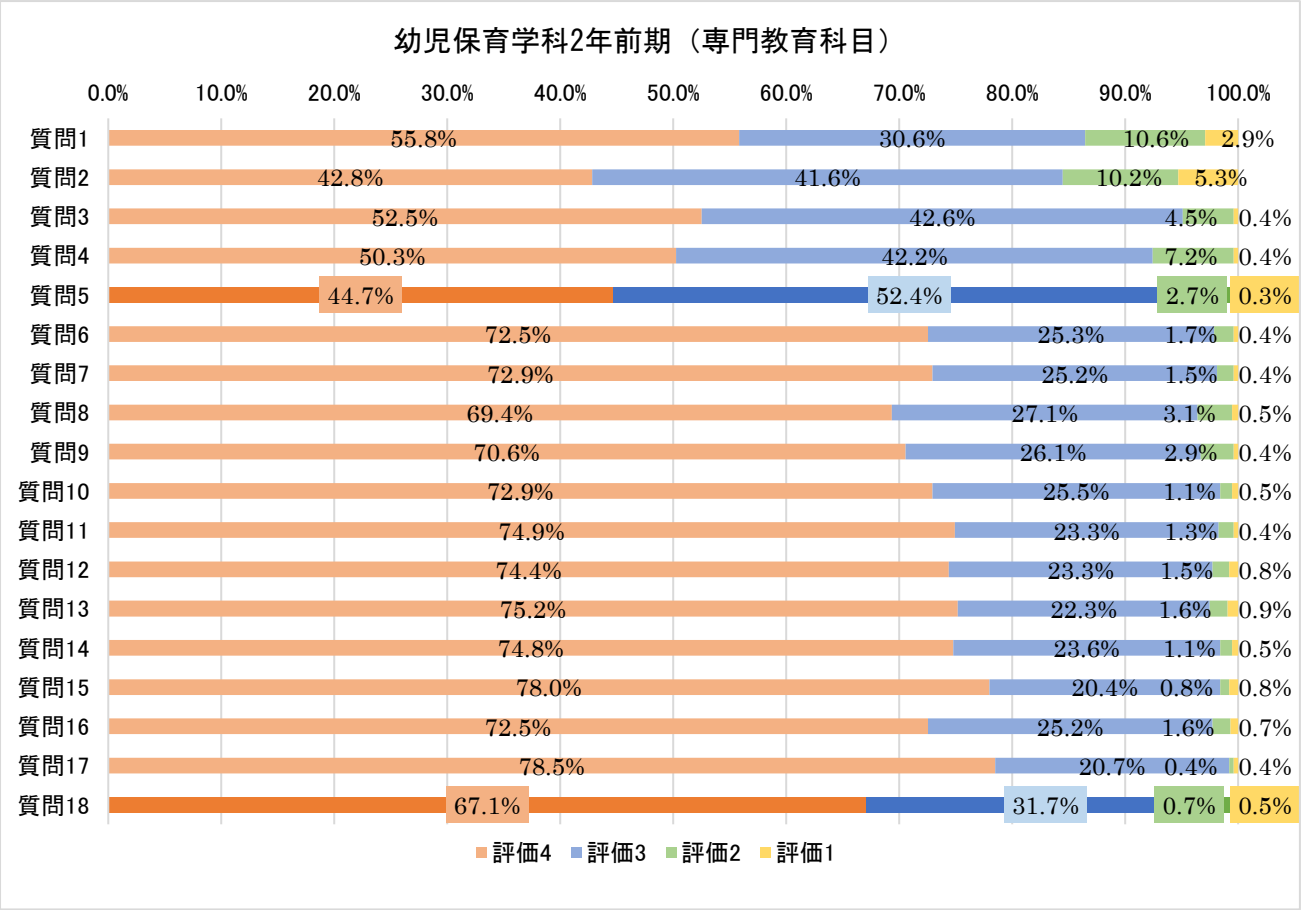
地域生活支援学科 2 年前期（共通教育科目）

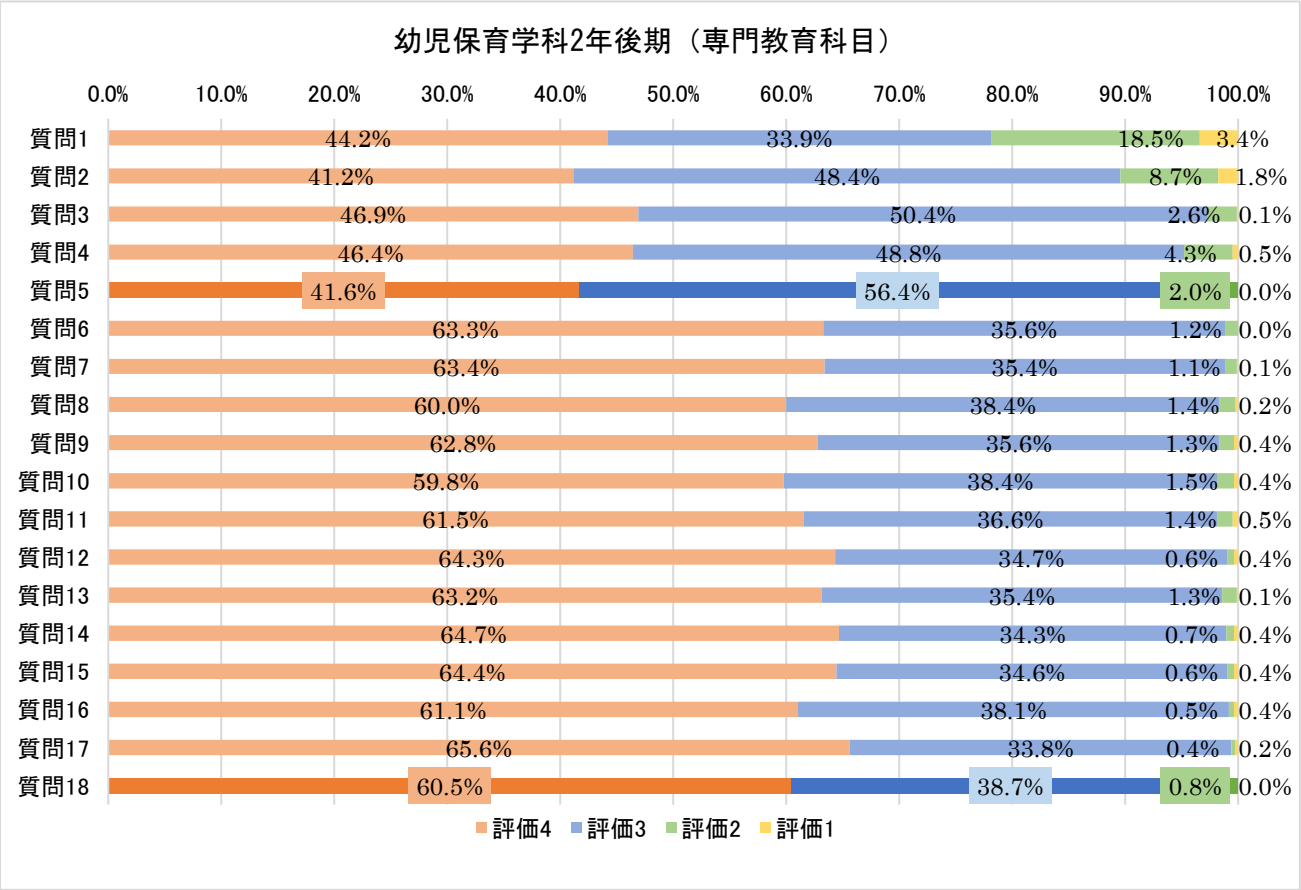
実績なし




幼児保育学科1年前期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 67.9% 20.8% 9.5% 1.8%
質問2 45.1% 39.2% 11.8% 3.9%
質問3 52.0% 41.2% 5.3% 1.5%
質問4 45.4% 43.0% 9.7% 2.0%
質問5 44.8% 49.9% 4.4% 0.9%
質問6 71.8% 25.9% 1.4% 0.9%
質問7 70.6% 27.0% 2.0% 0.5%
質問8 67.9% 28.5% 2.9% 0.8%
質問9 68.3% 28.2% 3.0% 0.5%
質問10 71.6% 24.9% 2.9% 0.6%
質問11 71.3% 25.2% 2.7% 0.8%
質問12 71.2% 26.1% 2.0% 0.8%
質問13 69.1% 27.3% 3.0% 0.6%
質問14 74.5% 23.4% 1.5% 0.6%
質問15 74.8% 22.6% 2.0% 0.6%
質問16 71.3% 24.6% 3.3% 0.8%
質問17 74.1% 24.4% 1.1% 0.5%
質問18 69.5% 28.5% 1.7% 0.3%
評価4
評価3
評価2
評価1


幼児保育学科1年後期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 58.2% 25.1% 12.0% 4.6%
質問2 46.2% 37.6% 10.8% 5.4%
質問3 53.0% 39.4% 7.0% 0.6%
質問4 42.8% 46.2% 9.2% 1.8%
質問5 46.4% 49.0% 4.4% 0.2%
質問6 74.5% 22.1% 2.2% 1.2%
質問7 70.5% 27.7% 1.2% 0.6%
質問8 67.3% 28.1% 4.0% 0.6%
質問9 67.9% 28.3% 3.4% 0.4%
質問10 71.9% 25.3% 2.0% 0.8%
質問11 71.7% 24.5% 3.0% 0.8%
質問12 72.5% 25.1% 2.0% 0.4%
質問13 71.7% 26.1% 1.8% 0.4%
質問14 74.1% 23.7% 1.6% 0.6%
質問15 72.5% 24.9% 1.8% 0.8%
質問16 69.3% 26.1% 3.4% 1.2%
質問17 73.7% 25.1% 0.6% 0.6%
質問18 69.9% 27.5% 2.2% 0.4%
評価4
評価3
評価2
評価1


幼児保育学科2年前期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 55.8% 30.6% 10.6% 2.9%
質問2 42.8% 41.6% 10.2% 5.3%
質問3 52.5% 42.6% 4.5% 0.4%
質問4 50.3% 42.2% 7.2% 0.4%
質問5 44.7% 52.4% 2.7% 0.3%
質問6 72.5% 25.3% 1.7% 0.4%
質問7 72.9% 25.2% 1.5% 0.4%
質問8 69.4% 27.1% 3.1% 0.5%
質問9 70.6% 26.1% 2.9% 0.4%
質問10 72.9% 25.5% 1.1% 0.5%
質問11 74.9% 23.3% 1.3% 0.4%
質問12 74.4% 23.3% 1.5% 0.8%
質問13 75.2% 22.3% 1.6% 0.9%
質問14 74.8% 23.6% 1.1% 0.5%
質問15 78.0% 20.4% 0.8% 0.8%
質問16 72.5% 25.2% 1.6% 0.7%
質問17 78.5% 20.7% 0.4% 0.4%
質問18 67.1% 31.7% 0.7% 0.5%
評価4
評価3
評価2
評価1


幼児保育学科2年後期（専門教育科目）
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%
80.0%
90.0%
100.0%
質問1 44.2% 33.9% 18.5% 3.4%
質問2 41.2% 48.4% 8.7% 1.8%
質問3 46.9% 50.4% 2.6% 0.1%
質問4 46.4% 48.8% 4.3% 0.5%
質問5 41.6% 56.4% 2.0% 0.0%
質問6 63.3% 35.6% 1.2% 0.0%
質問7 63.4% 35.4% 1.1% 0.1%
質問8 60.0% 38.4% 1.4% 0.2%
質問9 62.8% 35.6% 1.3% 0.4%
質問10 59.8% 38.4% 1.5% 0.4%
質問11 61.5% 36.6% 1.4% 0.5%
質問12 64.3% 34.7% 0.6% 0.4%
質問13 63.2% 35.4% 1.3% 0.1%
質問14 64.7% 34.3% 0.7% 0.4%
質問15 64.4% 34.6% 0.6% 0.4%
質問16 61.1% 38.1% 0.5% 0.4%
質問17 65.6% 33.8% 0.4% 0.2%
質問18 60.5% 38.7% 0.8% 0.0%
評価4
評価3
評価2
評価1

令和５年度 授業評価アンケートに関する
自己評価報告書

令和６(2024)年１月

西九州大学短期大学部

（学校法人永原学園 IR 室）

◆授業評価アンケートの活用

視点①　学生による授業評価アンケートの実施

視点②　IR 業務を担当する者による分析

視点③　授業評価アンケート分析結果のフィードバック

１．事実の説明及び自己評価

視点①　学生による授業評価アンケートの実施

西九州大学短期大学部では、各授業に対する受講学生の意見や要望、自己評価等の情報を収集することで、集約したデータを各々の教員が分析を行い、指導方法の工夫・改善に具体的に生かすということを目的に、毎年 15 回目の授業前後に学生に対して授業評価アンケートを行っている。令和 4 年度の授業評価実施期間は、令和 4 年 7 月 11 日から令和 4 年 7 月 28 日（前期）、令和 5 年 1 月 12 日から令和 5 年 1 月 25 日（後期）に設定した。

アンケートは Web 上（学生ポータルサイト）で実施しており、「あなた（学生）自身の授業参加態度」について 5 項目、「授業内容・方法」について 8 項目、「教員の対応」について 4 項目、「総合評価」1 項目の計 18 の評価項目で構成されており、項目 19 以降は教員による自由項目となっている。

学生への実施依頼では、アンケート実施の目的を明示し、アンケート結果については学内外へ公表し学生へのフィードバックも行っている。

視点②　IR 業務を担当する者による分析

回答率について、表 1 のとおり令和 3(2021)年度授業評価アンケートと比較して、専門教育科目の後期回答率が若干低下したものの、上昇傾向にある。

（表 1．回答率）

	令和 3(2021)年度		令和 4(2022)年度	
	前期	後期(通年含)	前期	後期(通年含)
共通教育科目	87.9%	86.7%	88.2%	90.8%
専門教育科目	62.1%	85.0%	77.9%	79.8%

学科別回答率では、表 2 のとおり幼児保育学科の後期科目について回答率が低いため、改善に期待したい。

（表 2．回答率）

	令和 3(2021)年度		令和 4(2022)年度	
	前期	後期(通年含)	前期	後期(通年含)
共通（地域）	88.5%	46.6%	86.4%	91.8%
共通（幼保）	87.5%	73.8%	89.3%	**64.3%**
専門（地域）	80.7%	71.9%	92.5%	93.9%
専門（幼保）	91.8%	95.2%	88.8%	**66.5%**

「共通教育科目・専門科目別」の結果では、前後期ともほとんどの質問項目において専門教育科目の平均値が共通教育科目の平均値を上回っており、資格に関連し実習や実践活

動を含む専門教育科目の方が短大生の興味関心が高いことが考えられる。短期大学における一般教養を育む授業の在り方の再考が求められる一方で、専門分野への学習意欲の高さが確認できた。

視点③　授業評価アンケート分析結果のフィードバック

担当科目ごとの授業評価結果は、ポータルサイトにレーダーチャートで示されるようになっている。教員は、「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」を必ず入力することになっており、評価が低かった項目の改善や反省点に対する取組み方法等を明確にし、次年度以降の授業改善へ繋げる仕組み（PDCA サイクル）が構築されている。また、学科ごとに「分析結果に基づく検証評価・改善について」をまとめ、ホームページ上にて公開している。学生による「授業評価結果」、教員による「結果の分析と評価」及び「次年度に向けての取り組み」は、本学ホームページへ掲載されるほか、冊子化し図書館へ設置され、学内外へ公表するとともに学生へのフィードバックを行っている。

２．改善・向上方策（将来計画）

本調査は本学の教育の質を向上させるために毎年実施しているものであるが、以下の点において、改善・向上が望まれる。

・多様化する授業形態への対応

本調査は平成 13 年度より毎年継続して実施しているため、経年比較や学習者の傾向などを読み取ることが可能である。しかし、オンライン授業やアクティブラーニング等の授業形態、開講日時といった背景を含めた分析が必要となる。授業形態が多様化していく中で教育の質の改善を図るために、授業評価と受講者の学習方法を踏まえた改善活動が求められる。

・回答率を高めるための調査方法

両学科とも良好な評価を得ており、今後も継続してより一層高い評価を得られるよう教育改善に期待したい。一方、幼児保育学科の後期科目における回答率の低さが目立つため、回答率を高める改善策を検討する必要がある。より多くの学生に評価をしてもらうことで、質の高い授業が展開されるものと考える。

３．関連資料

（１）「令和４年度学生による授業改善のための授業評価アンケート結果に関する報告書」
（２）「西九州大学短期大学部　令和４年度学生による授業評価アンケート調査結果報告」

学校法人永原学園 IR 室

分析に基づく検証評価・改善について

地域生活支援学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
それぞれの科目について、各担当者は昨年度のデータに基づいて課題と改善策を立てて試行錯誤しながら改善充実に努めている。基幹科目では、外部との日程調整があるなかで、ほぼ計画通りにコース間での協同学習を進めることができた。	学習内容によっては、単に学生の座学や演習などの好き嫌いから授業を評価する傾向もある。各コースの資格につながる科目の改善充実はもとより、高等教育としての付加価値の充足改善（コース間協同学習）の特色づくりは対外的に弱い。	学生本位の教育が、学生からの単なる人気取りにならないよう、シラバスなどを活用した学習への理解、成果の獲得・質の向上を目指して各科目担当での対応に努める。学科としての学びの充実改善を図っていく。

幼児保育学科

評価・成果等	課題・問題点等	今後実行可能な改善事項等
・学生の授業への取り組み、教員の授業方法およびパフォーマンスの大部分において、共通教育科目・地域生活支援学科の専門教育科目にくらべて高い値となっており、おおむね良好な評価となっている。 ・専門教育科目について、学生の回答を期別に比較すると、学生の授業への取り組み、教員の授業方法およびパフォーマンスのすべてにおいて、1年前・後期および2年前期は高い評価となっている。一方で、2年後期になると、その評価がやや下がる傾向がある。 ・こうした傾向は、毎年みられるものであるが、地域生活支援学科と比較すると、依然として高い評価となっている。	2年後期は、短大での学修のまとめの時期である。しかし、例年の傾向であるが、この時期は学生の授業に対する取り組みが低下する傾向にある。	学習成果の評価システムや教職履修カルテなどを用いて、1年次からの学びをしっかりと振り返り、2年後期での自己課題を明確にしたうえで、学修に取り組めるよう、学科および各授業担当者が授業方法の改善を図っていく。

編集者一覧

令和５年度　ＦＤ委員会

FD 委員会委員長	武富　和美	准教授
副学長・地域生活支援学科長	平田　孝治	教授
幼児保育学科長	野口　美乃里	教授
地域生活支援学科	西岡　征子	教授
幼児保育学科	春原　淑雄	准教授
事務局・次長	大石　妙子	

令和５年度　ＦＤ専門委員会

地域生活支援学科	西岡　征子	教授
地域生活支援学科	吉村　浩美	准教授
幼児保育学科	川邊　浩史	教授
幼児保育学科	春原　淑雄	准教授

西九州大学短期大学部
令和４年度　学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

編　集　日　　令和５年９月27日（水）
編集・発行　　西九州大学短期大学部 教務課
〒840-0806　佐賀県佐賀市神園三丁目 18-15
電　　話　　0952-37-9614（教務課直通）
U　R　L https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/
メ　ー　ル　　kyomu_info@nisikyu-u.ac.jp